

平成30年度子育てに関する
アンケート調査

報 告 書

(就学前児童世帯・ひとり親家庭)

平成31年 3 月

八 王 子 市

I 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査方法	3
3 回収状況	3
4 調査項目	4
5 報告書の見方	4
II 就学前児童世帯調査の結果	7
1 調査結果の概要	9
2 就学前児童世帯調査回答者の属性・家族状況	12
（1）地域	12
（2）子どもの年齢	12
（3）この調査の回答者	13
（4）回答者の年代	13
（5）配偶者の有無	13
3 子育て家庭を取り巻く環境	14
（1）日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人	14
（2）みてもらえる親族・知人がいない理由	16
（3）世帯年収	16
（4）家計の状況	17
（5）母親の現在の就労状況	18
（6）母親の今後の就労希望	20
（7）現在就労していない母親の今後就労を希望する時期	22
（8）父親の現在の就労状況	24
（9）父親の今後の就労希望	26
4 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	28
（1）定期的な教育・保育事業の利用状況	28
（2）定期的な教育・保育事業を利用している理由	29
（3）利用している定期的な教育・保育事業	30
（4）定期的な教育・保育事業の今後の利用希望	31
（5）今後利用したい定期的な教育・保育事業	32
（6）今後最も利用したい定期的な教育・保育事業	33
（7）今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間	34
（8）夜間の定期的な教育・保育事業の利用希望	35
（9）夜間に定期的な教育・保育事業を利用したい理由	36
（10）無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業	37
（11）無料であれば最も利用したい定期的な教育・保育事業	38
（12）無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間	39

目次

5 土曜・日曜・祝日や長期休暇中における定期的な教育・保育事業の利用希望	40
(1) 土曜日・日曜日・祝日の利用希望	40
(2) 土曜日・日曜日・祝日の利用希望時間帯	42
(3) 長期休暇期間中の利用希望	43
(4) 長期休暇期間中の利用希望時間帯	44
6 子どもが病気やけがの時の対応	46
(1) 子どもが病気やけがの時の対処方法	46
(2) 子どもが病気やけがの時に対処した日数	48
(3) 病児・病後児保育の今後の利用希望	50
(4) 病児・病後児保育の利用希望日数	54
(5) 病児・病後児保育の望ましい事業形態	55
(6) 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由	56
7 不定期の教育・保育事業の利用状況	58
(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況	58
(2) 不定期の教育・保育事業を利用した日数	59
(3) 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由	60
(4) 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望	63
(5) 不定期の教育・保育事業の利用希望日数	66
(6) 子どもを泊りがけでみてもらった際の対処方法	67
(7) 子どもを泊りがけでみてもらった日数	68
8 地域の子育て支援事業（子育てひろば）の利用状況	70
(1) 子育てひろばの利用状況	70
(2) 子育てひろばの利用回数	72
(3) 子育てひろばを利用しなかった理由	76
(4) 子育てひろばの今後の利用希望	78
(5) 子育てひろばの今後の利用希望回数	81
9 小学校就学後の放課後の過ごし方	82
(1) 放課後の過ごし方の希望	82
(2) ファミリー・サポート・センターの利用希望日数	84
10 保護者の職場における仕事と子育ての両立支援制度	85
(1) 育児休業の取得状況	85
(2) 育児休業の希望取得期間と実際の取得期間の差異の状況	86
(3) 育児休業を希望より短く取得した理由	87
(4) 育児休業を希望より長く取得した理由	88
(5) 「子どもが1歳になれば必ず教育・保育事業を利用できる」とした場合の 育児休業の取得希望	89
(6) 育児休業を取得しなかった理由	90

11	日ごろの子育ての状況	91
(1)	安心して子育てができていると感じるか	91
(2)	地域の人が子育てを支えてくれていると感じるか	97
(3)	子育てに自信が持てなくなることがあるか	100
(4)	子育てに関して悩んでいること、気になること	102
(5)	子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関	106
(6)	子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関	108
(7)	子育てにかかる経済的な不安の内容	110
(8)	子育て支援事業の利用状況	111
(9)	子育てに関する情報の入手方法	116
(10)	市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策	120
Ⅲ	ひとり親家庭調査の結果	123
1	調査結果の概要	125
2	ひとり親家庭調査回答者の属性・家族状況	127
(1)	地域	127
(2)	子どもの年齢	128
(3)	この調査の回答者	129
(4)	回答者の年代	129
(5)	同居している子ども	130
(6)	子ども以外に同居している方	131
(7)	ひとり親家庭となった理由	132
(8)	ひとり親になってからの期間	132
3	ひとり親家庭を取り巻く環境	133
(1)	日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人	133
(2)	みてもらえる親族・知人がいない理由	134
(3)	世帯年収	135
(4)	家計の状況	136
(5)	母親・父親の現在の就労状況	137
4	ひとり親家庭の日ごろの子育ての状況	138
(1)	安心して子育てができていると感じるか	138
(2)	地域の人が子育てを支えてくれていると感じるか	141
(3)	子育てに自信が持てなくなることがあるか	142
(4)	子育てに関して悩んでいること、気になること	143
(5)	子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関	144
(6)	子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関	147
(7)	子育てにかかる経済的な不安の内容	148

目次

(8) 子育て支援事業の利用状況	150
(9) 子育てに関する情報の入手方法	152
(10) 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策	153
5 ひとり親家庭の就労の状況	154
(1) 就職・転職希望	154
(2) 転職したい理由	155
(3) 今の仕事を続けたい理由	157
(4) 収入の種類	158
(5) 年間総収入額（手当・養育費などを含む金額）	159
(6) 年間就労収入額	160
6 ひとり親家庭の養育費や子どもとの面会交流の状況	161
(1) 養育費の取り決めの有無	161
(2) 養育費の取り決め方法	161
(3) 養育費の受け取り状況	162
(4) 養育費の金額	162
(5) 面会交流の取り決めの有無	163
(6) 面会交流の取り決め方法	163
(7) 面会交流の状況	164
(8) 面会交流の頻度	165
7 ひとり親家庭の就学児童・生徒の学習支援	166
(1) 学習について必要な支援	166
(2) 塾の利用状況	167
(3) 塾の月謝と塾へ通う頻度	168
(4) 塾へ通わせていない理由	169
(5) 塾や家庭教師、通信教育などの学習支援が必要になると思う時期	170
(6) 子どもの進学についての考え	171
8 ひとり親家庭に対して必要な支援	172
(1) この1年間で子どもといっしょにした体験	172
(2) 現在困っていること・ひとり親になったとき困ったこと	173
(3) 市のひとり親家庭のための支援制度の認知度・利用状況・満足度	174
(4) 市のひとり親家庭のための支援制度に不満を感じた理由	176
(5) ひとり親家庭に求める支援	178
(6) 参加したいと思う講座・講習会	180
9 自由意見	182
IV 使用した調査票	185

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

子ども・子育て支援法に基づく事業計画及び次世代育成支援法に基づく行動計画を策定するため、市内での子ども・子育てに係るニーズや意識を把握し、調査結果を子ども・子育て施策の資料として有効に活用することを目的とする。

2 調査方法

	就学前児童世帯調査	ひとり親家庭調査
(1) 調査対象	平成30年9月1日時点で八王子市に居住する、平成25年4月2日～平成30年4月1日生まれの就学前児童がいる世帯の保護者	平成30年9月1日時点で八王子市に居住する、18歳未満の子ども（就学前児童を除く）がいるひとり親家庭の保護者
(2) 標本数	4,800世帯	800世帯
(3) 抽出方法	市内を6地域に層化した上で、住民基本台帳に基づき、各地域の標本数が母集団世帯数に対し比例配分となるように、0歳の子どもがいる世帯800世帯を無作為抽出した。以下同様に、1歳から5歳までの各年齢の子どもがいる世帯を800世帯ずつ無作為抽出し、合計4,800世帯を抽出した。	市内を6地域に層化した上で、児童育成手当を受給しているひとり親家庭から、各地域の標本数が母集団世帯数に対し比例配分となるように無作為抽出した。
(4) 調査方法	郵送法（郵送配布－郵送回収）	
(5) 調査期間	平成30年10月30日（火）～平成30年11月15日（木）	

なお、標本の抽出にあたり市内を6地域に層化した際の地域区分は、八王子市基本構想・基本計画『八王子ビジョン2022』に定める6つの地域区分に従った。

3 回収状況

	標本数	有効回収数	有効回収率
就学前児童世帯調査	4,800	2,083 (注)うち「ひとり親家庭」と回答した回収数 67	43.4%
ひとり親家庭調査	800	209	26.1%

4 調査項目

- (1) 回答者の属性・家族状況
- (2) 家庭を取り巻く環境
- (3) 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況
- (4) 土曜・日曜・祝日や長期休暇中における定期的な教育・保育事業の利用希望
- (5) 子どもが病気やけがの時の対応
- (6) 不定期の教育・保育事業の利用状況
- (7) 地域の子育て支援事業（子育てひろば）の利用状況
- (8) 小学校就学後の放課後の過ごし方
- (9) 保護者の職場における仕事と子育ての両立支援制度
- (10) 日ごろの子育ての状況
- (11) ひとり親家庭の就労の状況
- (12) ひとり親家庭の養育費や子どもとの面会交流の状況
- (13) ひとり親家庭の就学児童・生徒の学習支援
- (14) ひとり親家庭に対して必要な支援

(注) (3)～(9)は就学前児童世帯のみを対象とした質問、(11)～(14)はひとり親家庭のみを対象とした質問

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は、各質問の回答者数を表す。
- (2) 選択肢の回答の比率はnを100.0%として算出し、小数点第2位を四捨五入して示した。
したがって、すべての選択肢の比率を合計しても、必ずしも100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 複数回答の質問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常100.0%を超える。
- (4) 「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせて『感じる（計）』とする場合など、2つ以上の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- (5) クロス集計による分析では、全体の比率と比べて統計的に有意差のある項目を中心にふれている。
- (6) クロス集計による分析項目や、質問の流れの指示により該当の方のみが回答する質問で、回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (7) ひとり親家庭調査の分析においては、就学前児童世帯調査の回答者（2,083標本）のうち、ひとり親家庭に該当すると回答した67標本について、ひとり親家庭調査と共通の質問では母数に加えて集計を行い、その結果を示した。
- (8) ひとり親家庭調査の分析中、就学前児童世帯の調査結果との対比を行う上では、①ひとり親家庭の単純集計結果（小学生～18歳未満の子どもがいるひとり親家庭の回答も含む）と、②就学前児童世帯調査で配偶者がいると答えた人（両親家庭）の結果を対比した結果を示し

た。

- (9) 子どもの年齢別の集計では、子どもの生年月を聞く質問（問2）への回答をもとに、以下の表のように分類した。

子どもの年齢	子どもの生年月を聞く質問（問2）への回答
0歳	平成29年4月～平成30年3月生まれ及び平成30年4月1日生まれ
1歳	平成28年4月～平成29年3月生まれ
2歳	平成27年4月～平成28年3月生まれ
3歳	平成26年4月～平成27年3月生まれ
4歳	平成25年4月～平成26年3月生まれ
5歳	平成24年4月～平成25年3月生まれ
6歳	平成23年4月～平成24年3月生まれ（小学1年生）
7歳	平成22年4月～平成23年3月生まれ（小学2年生）
8歳	平成21年4月～平成22年3月生まれ（小学3年生）
9歳	平成20年4月～平成21年3月生まれ（小学4年生）
10歳	平成19年4月～平成20年3月生まれ（小学5年生）
11歳	平成18年4月～平成19年3月生まれ（小学6年生）
12歳	平成17年4月～平成18年3月生まれ（中学1年生）
13歳	平成16年4月～平成17年3月生まれ（中学2年生）
14歳	平成15年4月～平成16年3月生まれ（中学3年生）
15歳	平成14年4月～平成15年3月生まれ
16歳	平成13年4月～平成14年3月生まれ
17歳	平成12年4月～平成13年3月生まれ

- (10) 時間および時刻（時間帯）を聞く質問では、調査票の注釈として、30分未満を切り下げ、30分以上を切り上げて記入するように求めている。実際の回答で分単位以下の記入があった場合は、この基準に沿って切り下げ・切り上げを行ったのち集計した。
- (11) 図表中の未就学児とは、0歳から5歳までの就学前児童を指す。
- (12) 本調査は母集団の一部を抽出した標本調査であり、母集団の比率を推測するにあたっては誤差が生じる。誤差の大きさは、下表に示す「標本誤差」のとおりである。

就学前 児童世帯	回収数（票）	2,083	1,500	1,000	500	250	100
	標本誤差（%）	2.1	2.5	3.1	4.4	6.3	10.0
ひとり親家庭	回収数（票）	209	150	100	50	25	10
	標本誤差（%）	6.8	8.0	9.9	14.1	20.0	31.6

※就学前児童世帯の母集団数は、平成30年9月1日現在の0歳から5歳までの住民登録数23,919を用いた。ひとり親家庭の母集団数は、平成30年9月26日現在の児童育成手当受給者数4,961を用いた。信頼率はいずれも95%に設定。

Ⅱ 就学前児童世帯調査の結果

Ⅱ 就学前児童世帯調査の結果

1 調査結果の概要

(1) 子育て家庭を取り巻く環境 (13～26ページ)

- 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人については、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」が22.1%、「緊急時もしくは用事の際にみてもらえる親族・知人がいる」が50.4%となっている。一方、「みてもらえる親族・知人はいない」は16.2%となっている。
- 日ごろ子どもを「みてもらえる親族・知人はいない」理由は、「みてもらえる親族・知人が近くに住んでいないから」が89.9%で最も高く、次いで「親族・知人に負担をかけることが心苦しいから」(15.4%)、「親族・知人にみてもらうことに不安があるから」(11.9%)の順となっている。

(2) 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況 (27～38ページ)

- 現在、定期的な教育・保育事業を「利用している」人は75.4%、「利用していない」人は23.8%となっている。
- 現在「利用している」定期的な教育・保育事業は、「認可保育所」が56.0%で最も高く、次いで「幼稚園」(31.8%)、「認定こども園」(8.4%)の順となっている。
- 子どもの平日の教育・保育として定期的に利用したい事業があると答えた人が、今後最も利用したい事業は、「認可保育所」が46.0%で最も高く、次いで「幼稚園」(42.1%)、「認定こども園」(8.8%)の順となっている。

(3) 不定期の教育・保育事業の利用状況 (55～65ページ)

- 不定期の教育・保育事業で利用したことがある事業は、「幼稚園の預かり保育（定期的な利用は除く）」が12.1%で最も高く、次いで「認可保育所の一時保育」が6.9%となっている。一方、「利用しなかった」は78.0%となっている。
不定期の教育・保育事業を「利用しなかった」理由は、「特に利用する必要がなかった」が81.2%で最も高く、次いで「利用方法がわからなかった」(14.3%)、「事業を知らなかった」(9.5%)、「利用料が高かった」(7.8%)の順となっている。
「特に利用する必要がなかった」と回答した人はは東南部地域で87.0%と高くなっている。
- 今後、不定期の教育・保育事業のいずれかを「利用したい」人は37.3%、「利用したいと思わない」人は58.4%となっている。
「利用したい」と回答した人は子どもをみてもらえる親族・知人はいない人で44.8%と高くなっている。

(4) 地域の子育て支援事業（子育てひろば）の利用状況 (66～76ページ)

- 利用したことがある子育てひろばは、「親子ふれあい広場」が25.3%で最も高く、次いで「親子つどいの広場」(23.3%)、「保育園の子育てひろば」(18.4%)、「児童館の子育てひろば」(15.2%)の順となっている。一方、「利用しなかった」は52.0%となっている。
「親子ふれあい広場」を利用したことがある人は東南部地域で39.0%と高くなっており、「親子つどいの広場」を利用したことがある人は中央地域で33.9%と高くなっている。

- 子育てひろばを「利用しなかった」理由は、「特に利用する必要がなかった」が74.4%で最も高く、次いで「子育てひろばを知らなかった」(9.4%)、「利用方法がわからなかった」(9.1%)、「利用できる施設が近くになかった」(6.8%)の順となっている。
「利用できる施設が近くになかった」と回答した人は北部地域で14.4%と高くなっている。

(5) 小学校就学後の放課後の過ごし方 (77~79ページ)

- 5歳の子どもの保護者が、子どもの就学後放課後をどこで過ごしてほしいかについては、①小学1~3年生のころでは、「学童保育所」が50.9%で最も高く、次いで「放課後子ども教室」(45.7%)、「自宅」(44.5%)の順となっている。②小学4~6年生のころでは、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等)」が55.8%で最も高く、次いで「自宅」(53.8%)、「放課後子ども教室」(48.8%)の順となっている。

(6) 日ごろの子育ての状況 (87~118ページ)

- 安心して子育てができていていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる(計)』が85.5%、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた『感じない(計)』が13.9%となっている。
『感じる(計)』と回答した人は日常的に子どもをみてもらえる親族・知人がいる人で91.7%と高くなっている。一方、『感じない(計)』と回答した人は子どもをみてもらえる親族・知人はいない人で27.9%、子どもを親族・知人にみってもらうことに不安がある人で45.0%と高くなっている。
また、『感じない(計)』と回答した人は《子育てに関して悩んでいること、気になること》として話し相手や相談相手がいない人で40.9%、職場で子育てへの理解が得られない、得にくい人で39.1%、配偶者や祖父母の協力が得られない、得にくい人で37.5%、子育てを手伝ってくれる人がいない人で36.6%と高くなっている。
- 地域の人が子育てを支えてくれていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる(計)』が60.3%、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた『感じない(計)』が38.7%となっている。
『感じない(計)』と回答した人は中央地域で44.5%と高くなっている。
- 子育てに関して悩んでいること、気になることは、「子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること」が61.1%で最も高く、次いで「子どもの病気や発育・発達・性格行動等、子ども本人に関すること」(57.5%)、「子育てにかかる経済的負担に関すること」(56.0%)の順となっている。
「子どもに与える食事や栄養に関すること」と回答した人は0歳の子どもの52.7%、1歳の子どもの49.1%と高くなっている。
- 市の子育て支援環境充実のための施策のうち、特に重要だと思う施策は、「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」が54.1%で最も高く、次いで「子育てに関する手当、医療費助成の充実」(49.5%)、「幼児教育や保育を充実する」(37.7%)の順となっている。

2 就学前児童世帯調査回答者の属性・家族状況

(1) 地域

問1 お住まいの町の番号1つに○をつけてください。

住んでいる町丁名を質問し、回答内容を市内の6つの地域に分類したところ、地域別の調査票回収率は以下のとおりとなった。(図表Ⅱ-2-1)

図表Ⅱ-2-1 地域別の調査票回収率

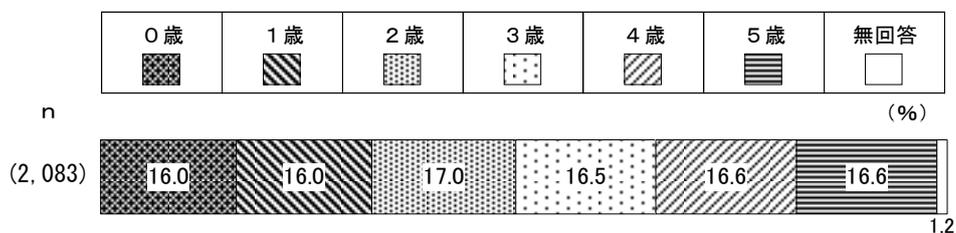
地域	調査対象者数	有効回収数	有効回収率
中央地域	1,001	330	33.0%
西部地域	751	222	29.6%
西南部地域	760	250	32.9%
北部地域	566	194	34.3%
東南部地域	753	277	36.8%
東部地域	969	318	32.8%
地域別計	4,800	1,591	33.1%
地域無回答		492	
合計	4,800	2,083	43.4%

(2) 子どもの年齢

問2 宛て名のお子さんの生年月を、□内に数字でご記入ください。

宛て名の子どもの生年月を質問し、平成30年4月1日現在の年齢に分類したところ、「0歳」から「5歳」までの6つの年齢層がそれぞれ16.0%から17.0%までの割合を占めており、年齢層のかたよりはみられない。(図表Ⅱ-2-2)

図表Ⅱ-2-2 子どもの年齢



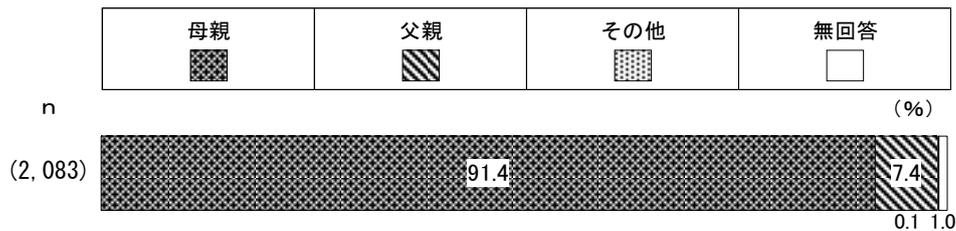
(3) この調査の回答者

問3 宛て名のお子さんからみて、この調査票に回答している方はどなたですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

この調査の回答者を聞いたところ、「母親」が91.4%、「父親」が7.4%となっている。

(図表Ⅱ-2-3)

図表Ⅱ-2-3 この調査の回答者

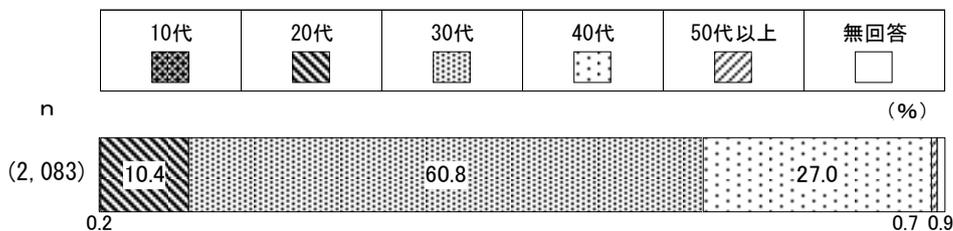


(4) 回答者の年代

問4 回答している方の年代について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

回答者の年代を聞いたところ、「30代」が60.8%で最も高く、次いで「40代」(27.0%)、「20代」(10.4%)の順となっている。(図表Ⅱ-2-4)

図表Ⅱ-2-4 回答者の年代

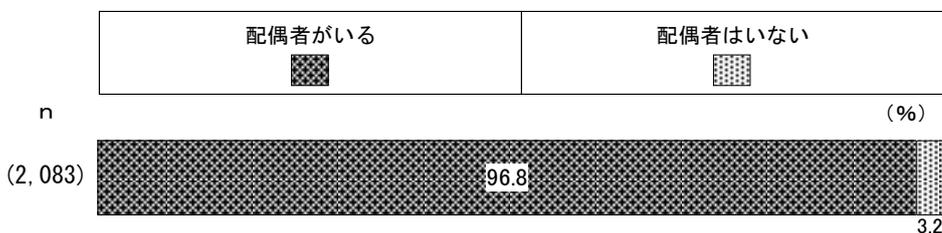


(5) 配偶者の有無

問5 回答している方の現在の配偶関係について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

配偶者の有無を聞いたところ、「配偶者がいる」が96.8%、「配偶者はいない」が3.2%となっている。(図表Ⅱ-2-5)

図表Ⅱ-2-5 配偶者の有無



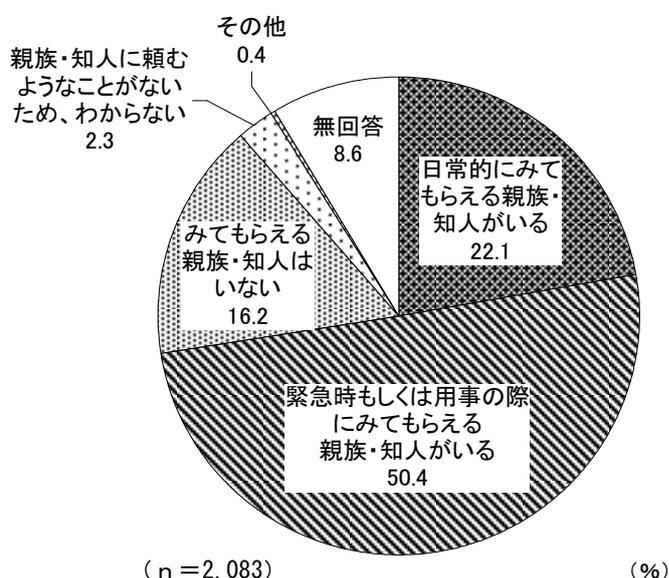
3 子育て家庭を取り巻く環境

(1) 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人

問6 日ごろ、お子さんをみてもらえる親族・知人について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

日ごろ、子どもをみてもらえる親族・知人について聞いたところ、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」が22.1%、「緊急時もしくは用事の際にみてもらえる親族・知人がいる」が50.4%となっている。一方、「みてもらえる親族・知人はいない」は16.2%となっている。(図表Ⅱ-3-1)

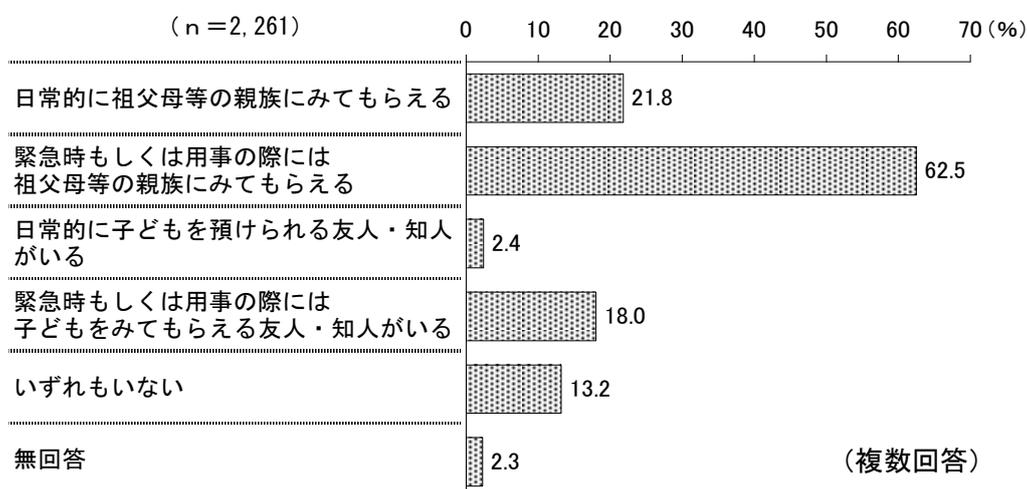
図表Ⅱ-3-1 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人



平成25年調査との比較は、一部の選択肢および回答可能個数が異なるため参考に掲載する。

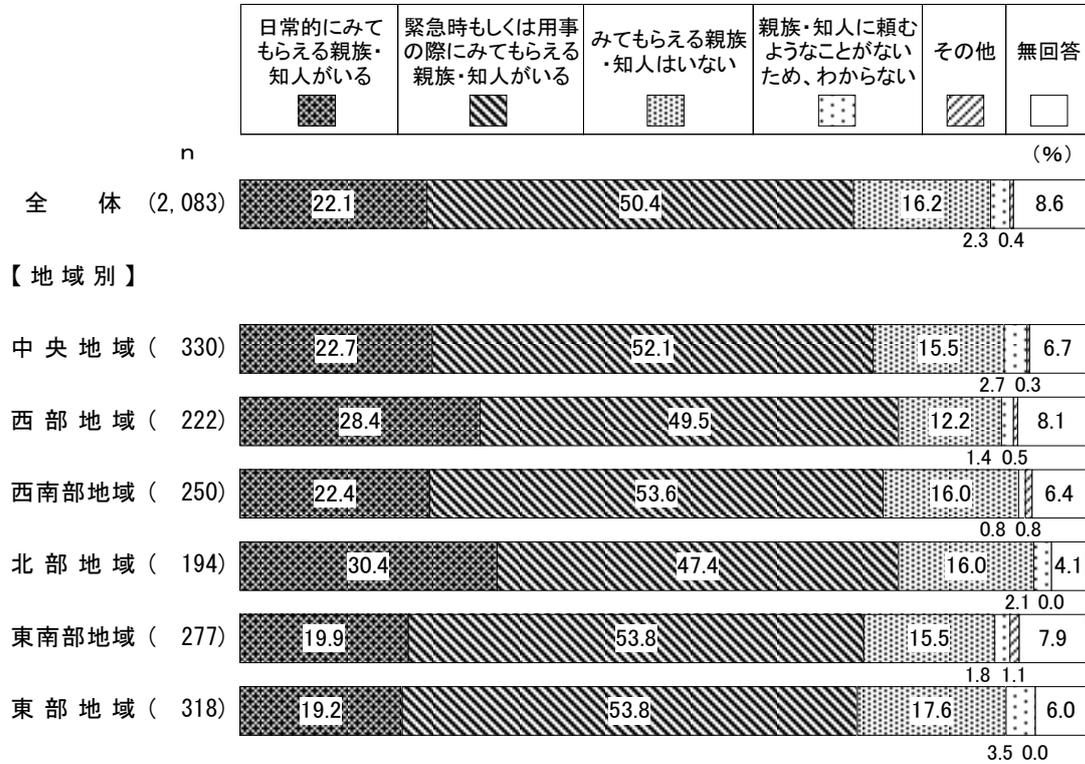
(図表Ⅱ-3-2)

図表Ⅱ-3-2 (参考) 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人 (平成25年調査)



地域別にみると、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」は北部地域で30.4%、「西部地域」で28.4%と高くなっている。(図表Ⅱ-3-3)

図表Ⅱ-3-3 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人—地域別



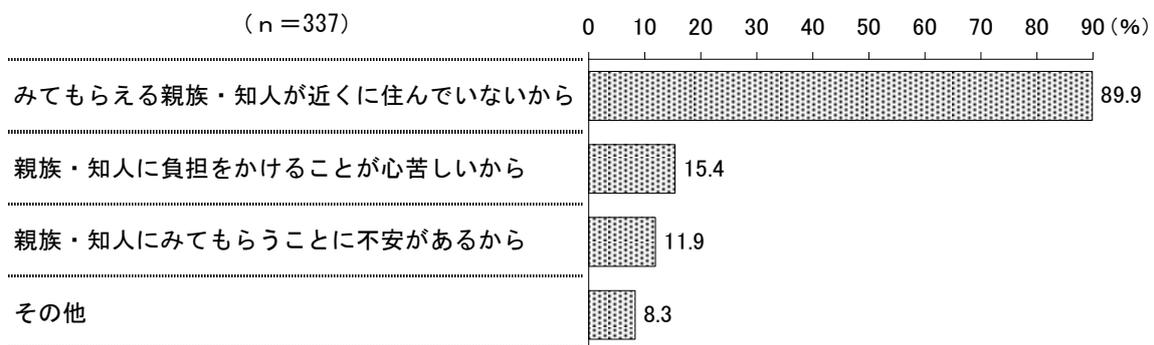
(2) みてもらえる親族・知人がいない理由

【問6で「みてもらえる親族・知人はいない」と回答した方のみ】

問7 みてもらえる親族・知人がいない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

日ごろ、子どもを「みてもらえる親族・知人はいない」と答えた人（337人）に、その理由を聞いたところ、「みてもらえる親族・知人が近くに住んでいないから」が89.9%で最も高く、次いで「親族・知人に負担をかけることが心苦しいから」（15.4%）、「親族・知人にみてもらうことに不安があるから」（11.9%）の順となっている。（図表Ⅱ－3－4）

図表Ⅱ－3－4 みてもらえる親族・知人がいない理由



(3) 世帯年収

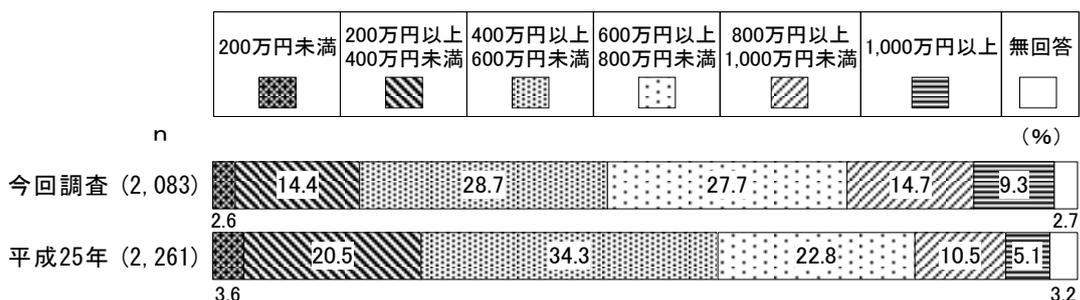
問8 世帯の年収について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

世帯年収を聞いたところ、「400万円以上600万円未満」が28.7%で最も高く、次いで「600万円以上800万円未満」が27.7%となっている。

平成25年調査と比較すると、「600万円以上800万円未満」は4.9ポイント、「800万円以上1,000万円未満」と「1,000万円以上」はともに4.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「200万円以上400万円未満」は6.1ポイント、「400万円以上600万円未満」は5.6ポイント、それぞれ減少している。

(図表Ⅱ－3－5)

図表Ⅱ－3－5 世帯年収（経年変化）

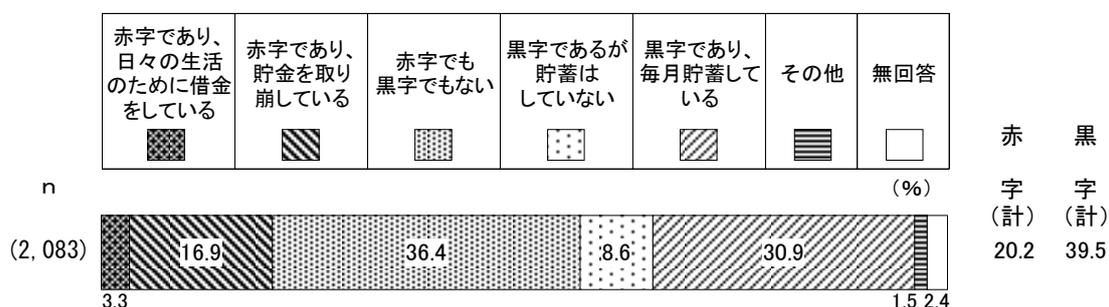


(4) 家計の状況

問9 世帯の家計について、最も当てはまる番号1つに○をつけてください。

世帯の家計について聞いたところ、「赤字であり、日々の生活のために借金をしている」(3.3%)と「赤字であり、貯金を取り崩している」(16.9%)を合わせた『赤字(計)』が20.2%となっている。一方、「黒字であるが貯蓄はしていない」(8.6%)と「黒字であり、毎月貯蓄している」(30.9%)を合わせた『黒字(計)』は39.5%となっている。また、「赤字でも黒字でもない」は36.4%となっている。(図表Ⅱ-3-6)

図表Ⅱ-3-6 家計の状況



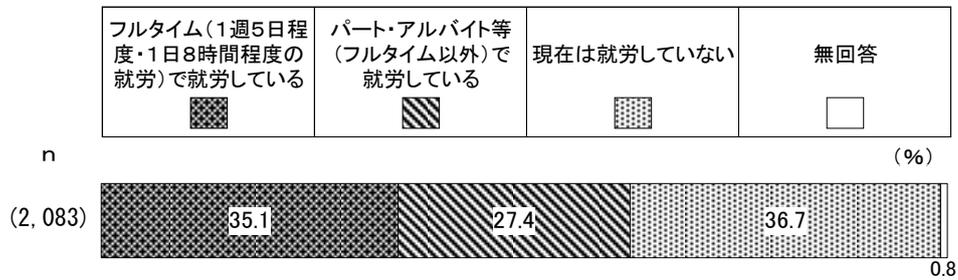
(5) 母親の現在の就労状況

問10 母親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。
産育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも
多いパターンでお答えください。 ※父子家庭の場合は記入不要

- (1) 就労状況 (当てはまる番号1つに○)
- (2) 週当たりの就労日数
- (3) 1日当たりの就労時間

母親の現在の就労状況を聞いたところ、「フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している」が35.1%、「パート・アルバイト等 (フルタイム以外) で就労している」が27.4%、「現在は就労していない」が36.7%となっている。(図表Ⅱ-3-7)

図表Ⅱ-3-7 母親の現在の就労状況



母親の現在の就労状況の平成25年調査との比較は、選択肢が異なるため参考に掲載する。

(図表Ⅱ-3-8)

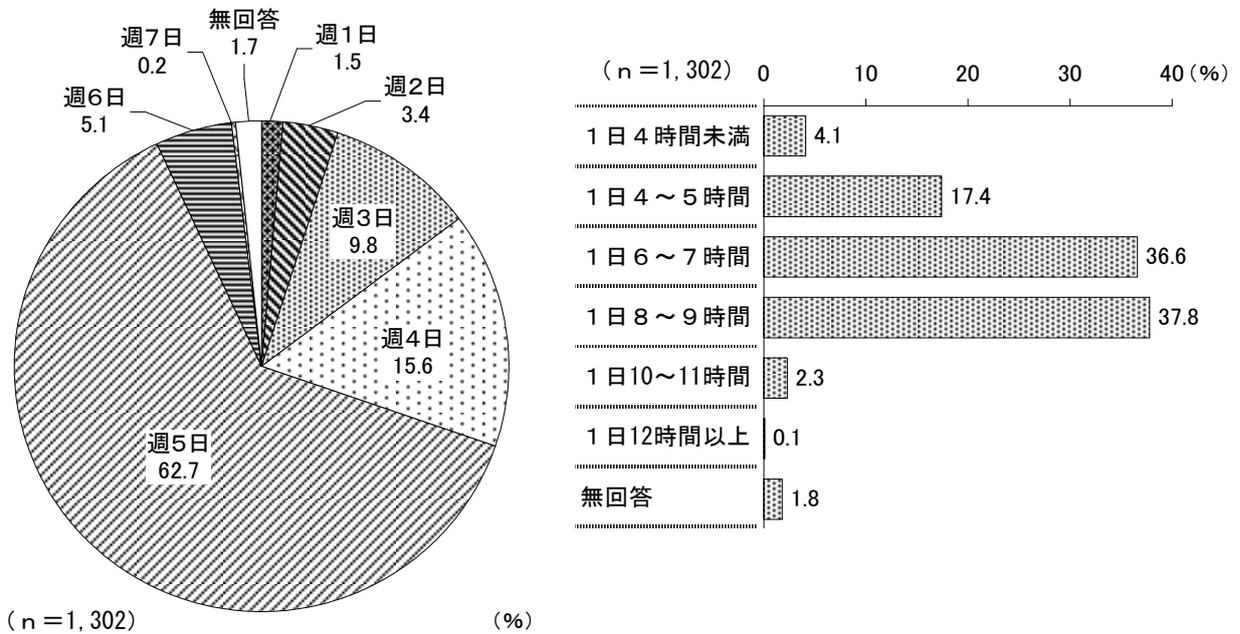
図表Ⅱ-3-8 (参考) 母親の現在の就労状況 (平成25年調査)



「フルタイムで就労している」または「パート・アルバイト等で就労している」と答えた母親(1,302人)に、現在の週当たりの就労日数と現在の1日当たりの就労時間を聞いた。

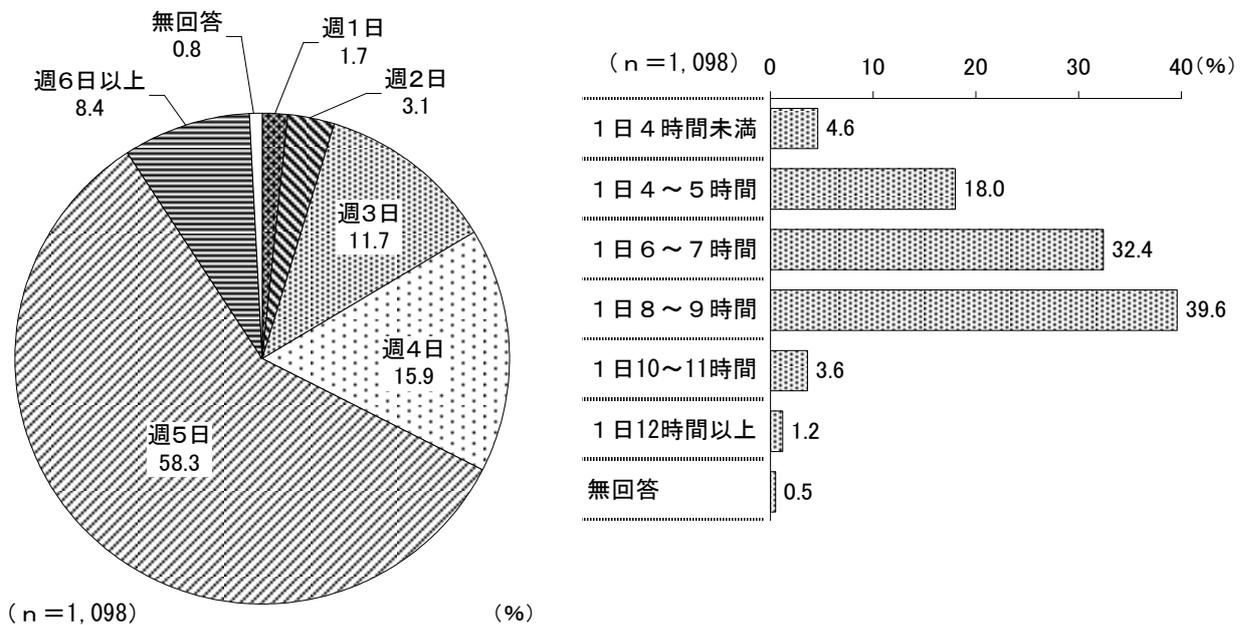
(図表Ⅱ-3-9)

図表Ⅱ-3-9 母親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間



母親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間の平成25年調査との比較は、母数を絞り込む質問の選択肢が今回調査と異なるため参考に掲載する。(図表Ⅱ-3-10)

図表Ⅱ-3-10 (参考) 母親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間(平成25年調査)



(6) 母親の今後の就労希望

問10 母親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。

産育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※父子家庭の場合は記入不要

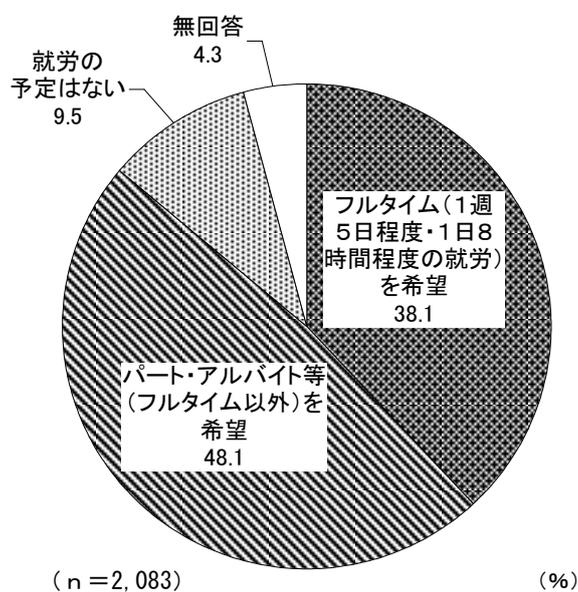
(4) 就労希望 (当てはまる番号1つに○)

(5) 週当たりの就労希望日数

(6) 1日当たりの就労希望時間

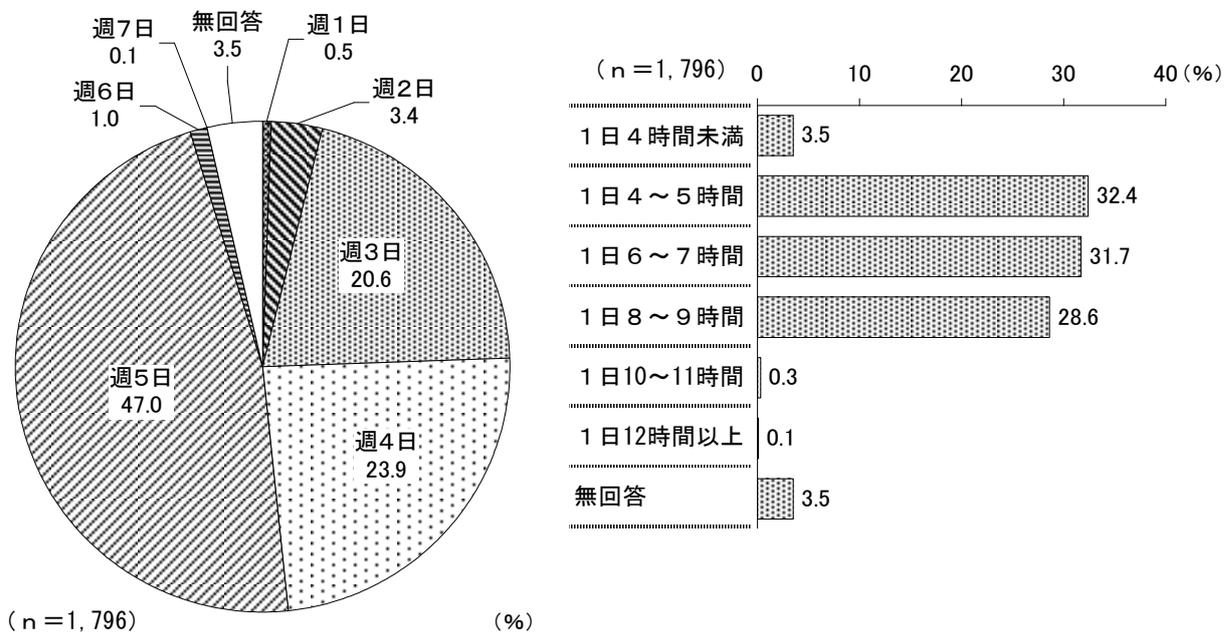
母親の今後の就労希望を聞いたところ、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)を希望」が38.1%、「パート・アルバイト等(フルタイム以外)を希望」が48.1%、「就労の予定はない」が9.5%となっている。(図表Ⅱ-3-11)

図表Ⅱ-3-11 母親の今後の就労希望



「フルタイムを希望」または「パート・アルバイト等を希望」と答えた母親（1,796人）に、今後の週当たりの就労希望日数と今後の1日当たりの就労希望時間を聞いた。（図表Ⅱ－3－12）

図表Ⅱ－3－12 母親の今後の週当たりの就労希望日数・1日当たりの就労希望時間



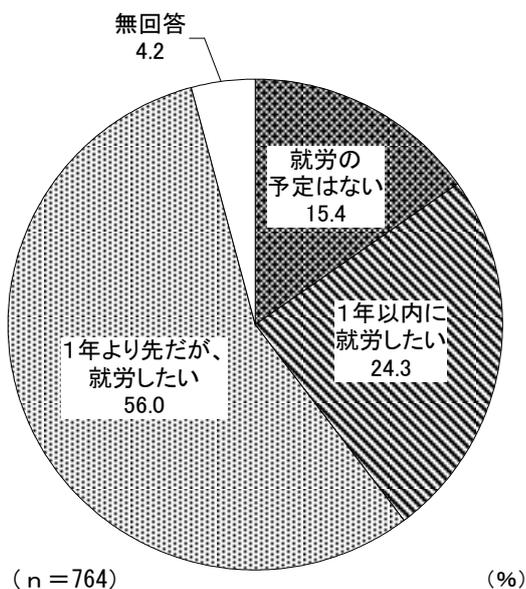
(7) 現在就労していない母親の今後就労を希望する時期

【問10(1)で「現在は就労していない」と回答した方のみ】

問11 今後の就労時期について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

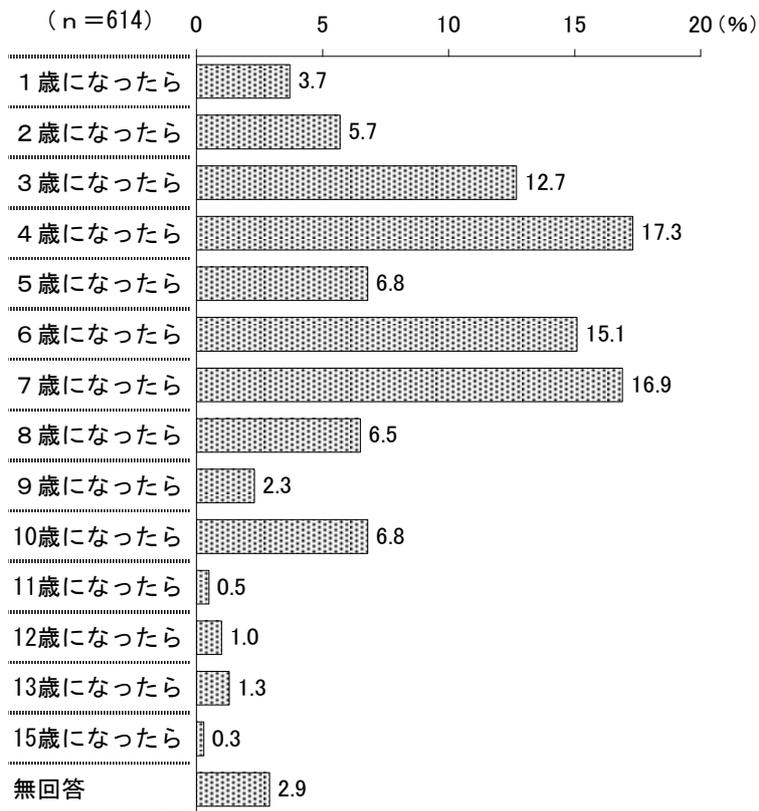
「現在は就労していない」と答えた母親(764人)に、今後就労を希望する時期を聞いたところ、「1年より先だが、就労したい」が56.0%で最も高く、次いで「1年以内に就労したい」(24.3%)、「就労の予定はない」(15.4%)の順となっている。(図表Ⅱ-3-13)

図表Ⅱ-3-13 現在就労していない母親の今後就労を希望する時期



「1年以内に就労したい」または「1年より先だが、就労したい」と答えた母親（614人）に、今後就労を希望する具体的な時期を、子どもの年齢に沿って聞いたところ、宛て名の子どもが「4歳になったら」が17.3%で最も高く、次いで「7歳になったら」（16.9%）、「6歳になったら」（15.1%）、「3歳になったら」（12.7%）の順となっている。（図表Ⅱ－3－14）

図表Ⅱ－3－14 現在就労していない母親の今後就労を希望する具体的な時期



(8) 父親の現在の就労状況

問12 父親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。

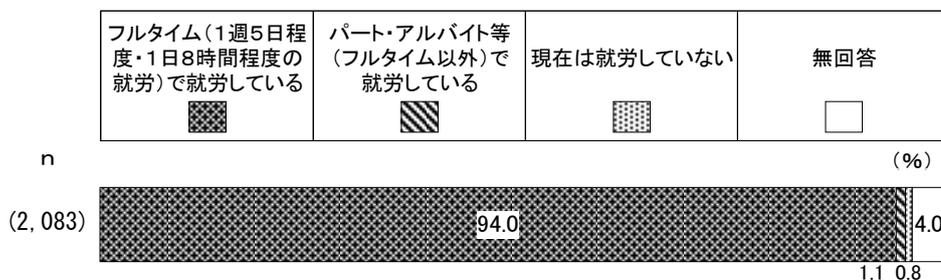
育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※母子家庭の場合は記入不要

- (1) 就労状況 (当てはまる番号1つに○)
- (2) 週当たりの就労日数
- (3) 1日当たりの就労時間

父親の現在の就労状況を聞いたところ、「フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している」が94.0%で最も高くなっている。「パート・アルバイト等 (フルタイム以外) で就労している」(1.1%)と「現在は就労していない」(0.8%)はともにわずかである。

(図表Ⅱ-3-15)

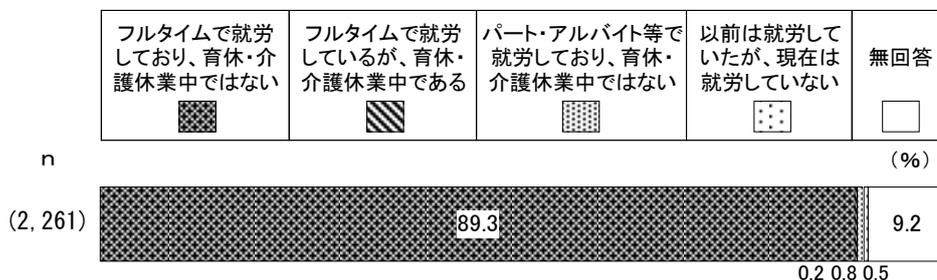
図表Ⅱ-3-15 父親の現在の就労状況



父親の現在の就労状況の平成25年調査との比較は、選択肢が異なるため参考に掲載する。

(図表Ⅱ-3-16)

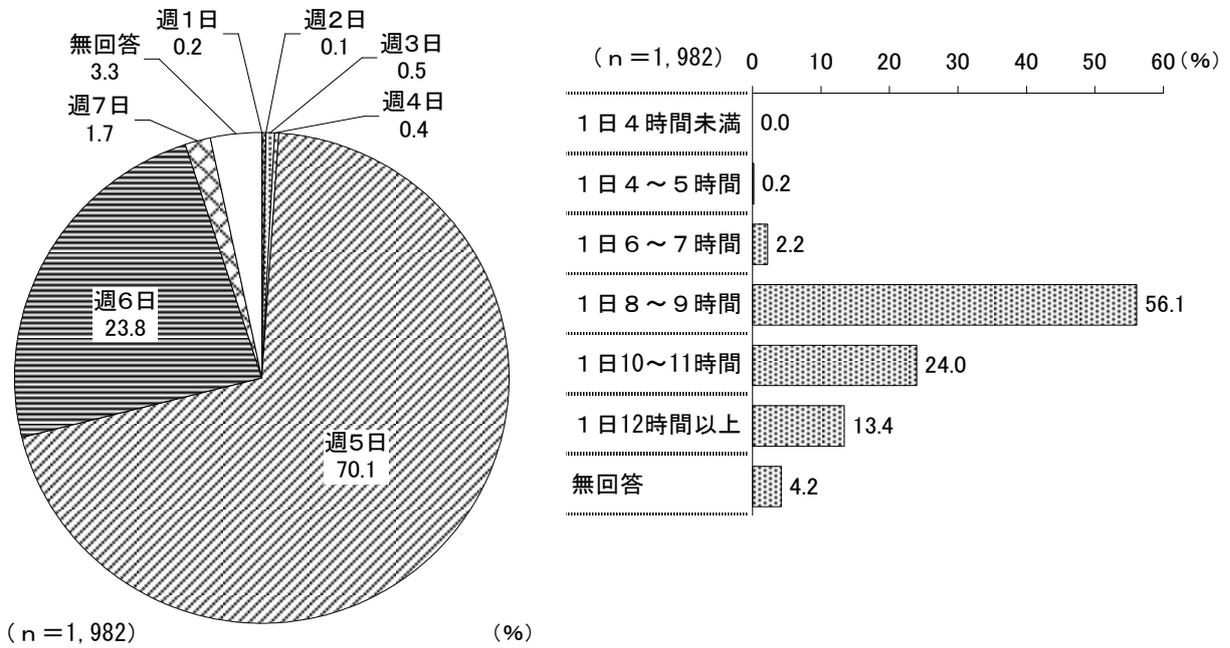
図表Ⅱ-3-16 (参考) 父親の現在の就労状況 (平成25年調査)



「フルタイムで就労している」または「パート・アルバイト等で就労している」と答えた父親(1,982人)に、現在の週当たりの就労日数と現在の1日当たりの就労時間を聞いた。

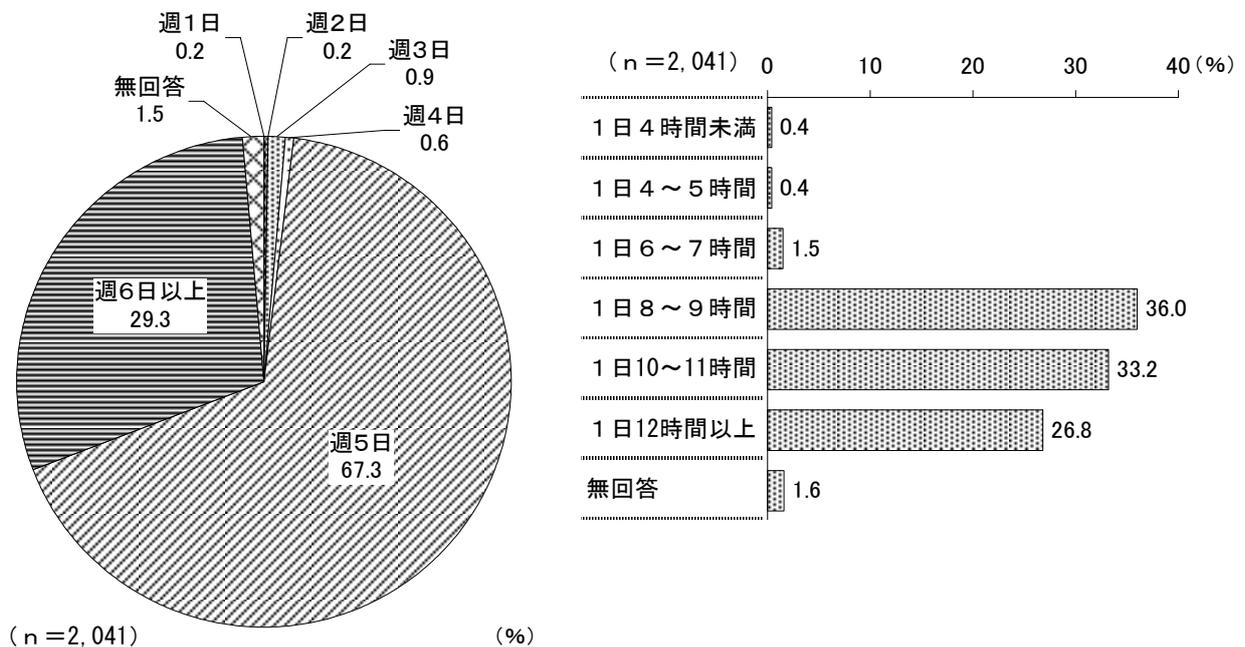
(図表Ⅱ-3-17)

図表Ⅱ-3-17 父親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間



父親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間の平成25年調査との比較は、母数を絞り込む質問の選択肢が今回調査と異なるため参考に掲載する。(図表Ⅱ-3-18)

図表Ⅱ-3-18 (参考) 父親の現在の週当たりの就労日数・1日当たりの就労時間(平成25年調査)



(9) 父親の今後の就労希望

問12 父親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。

育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※母子家庭の場合は記入不要

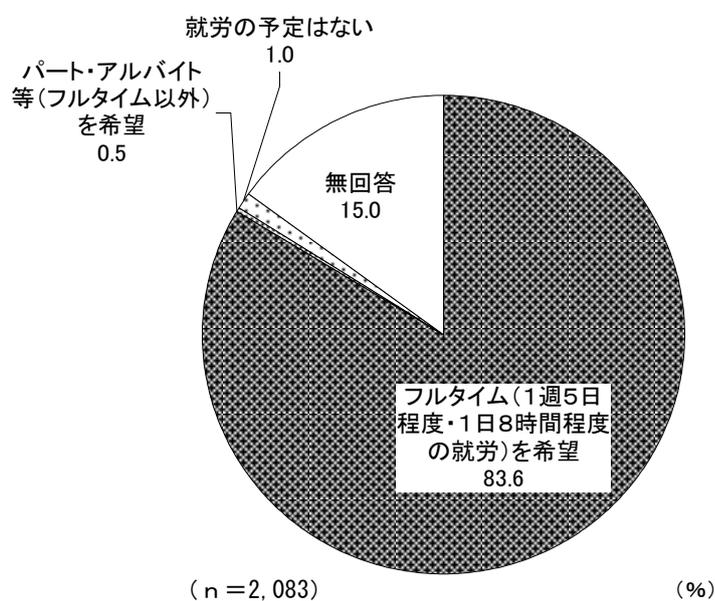
(4) 就労希望 (当てはまる番号1つに○)

(5) 週当たりの就労希望日数

(6) 1日当たりの就労希望時間

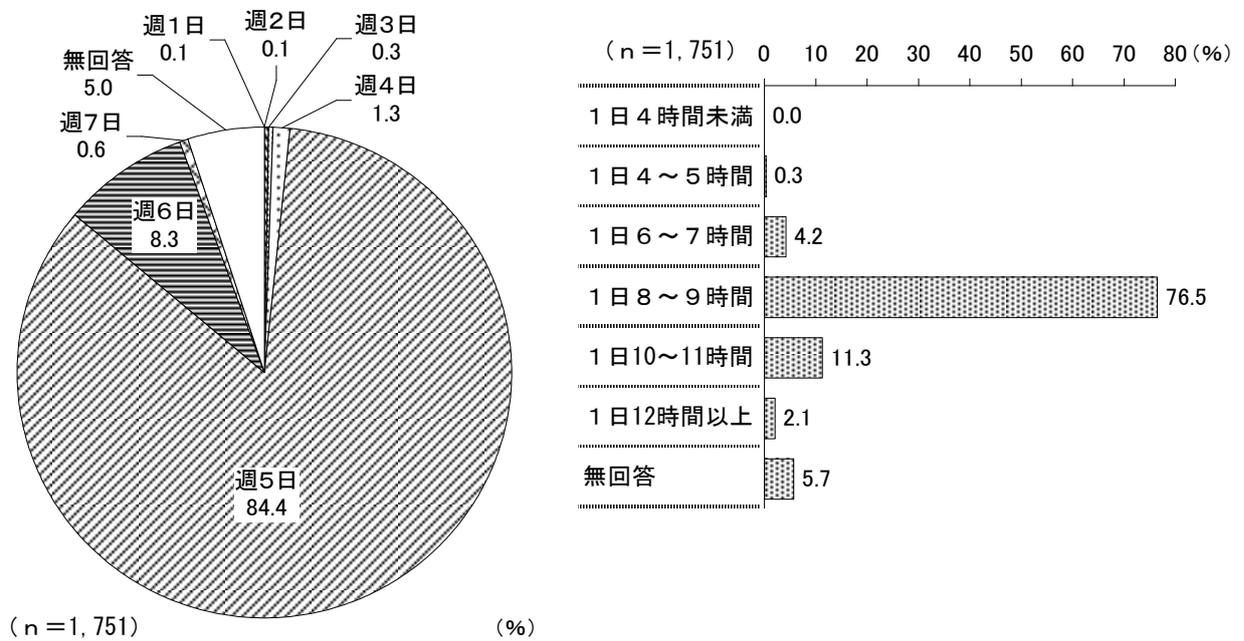
父親の今後の就労希望を聞いたところ、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)を希望」が83.6%で最も高くなっている。「パート・アルバイト等(フルタイム以外)を希望」(0.5%)と「就労の予定はない」(1.0%)はともにわずかである。(図表Ⅱ-3-19)

図表Ⅱ-3-19 父親の今後の就労希望



「フルタイムを希望」または「パート・アルバイト等を希望」と答えた父親（1,751人）に、今後の週当たりの就労希望日数と今後の1日当たりの就労希望時間を聞いた。（図表Ⅱ－3－20）

図表Ⅱ－3－20 父親の今後の週当たりの就労希望日数・1日当たりの就労希望時間



4 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

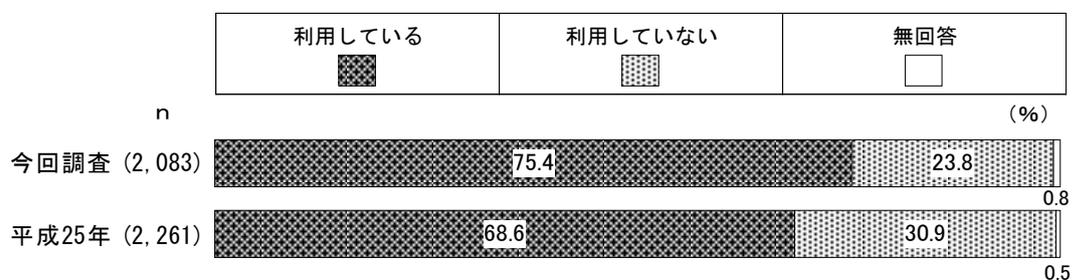
(1) 定期的な教育・保育事業の利用状況

問13 現在、定期的な教育・保育事業を利用していますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

現在、定期的な教育・保育事業を利用しているか聞いたところ、「利用している」が75.4%で高くなっている。「利用していない」は23.8%である。

平成25年調査と比較すると、「利用している」は6.8ポイント増加している。(図表Ⅱ-4-1)

図表Ⅱ-4-1 定期的な教育・保育事業の利用状況(経年変化)



(2) 定期的な教育・保育事業を利用している理由

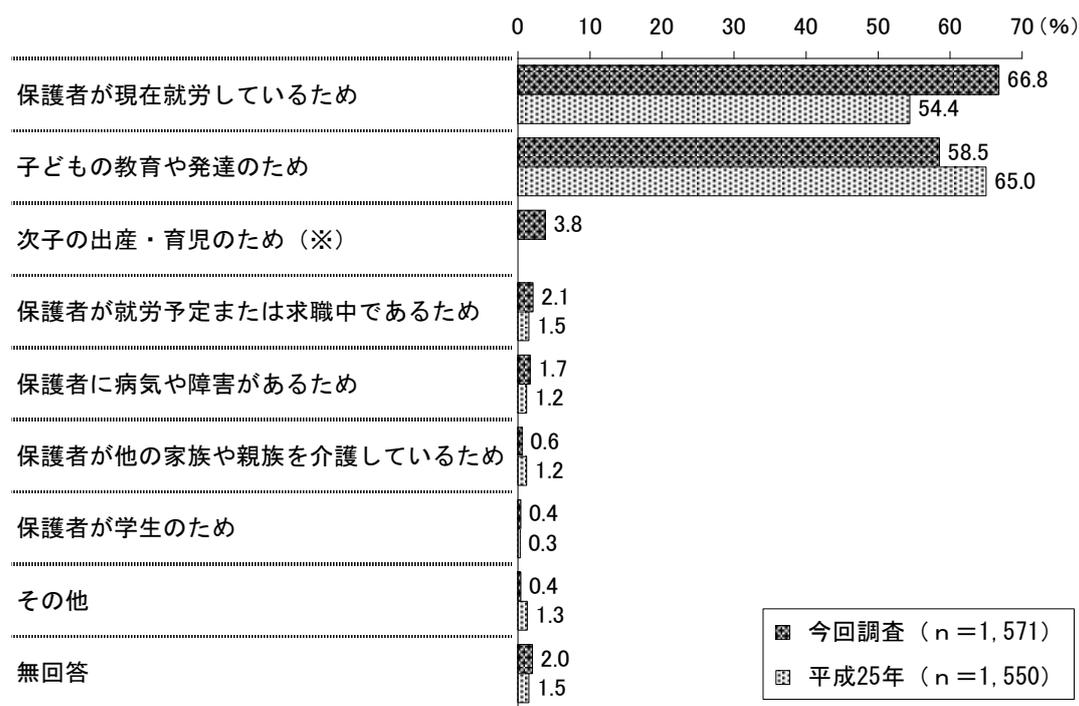
【問13で「利用している」と回答した方のみ】

問14 定期的な教育・保育事業を利用している主な理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

現在、定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた人（1,571人）に、その理由を聞いたところ、「保護者が現在就労しているため」が66.8%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が58.5%となっている。

平成25年調査と比較すると、「保護者が現在就労しているため」は12.4ポイント増加している。一方、「子どもの教育や発達のため」は6.5ポイント減少している。（図表Ⅱ－4－2）

図表Ⅱ－4－2 定期的な教育・保育事業を利用している理由（経年変化）



（※）「次子の出産・育児のため」は今回調査で追加した選択肢である。

(3) 利用している定期的な教育・保育事業

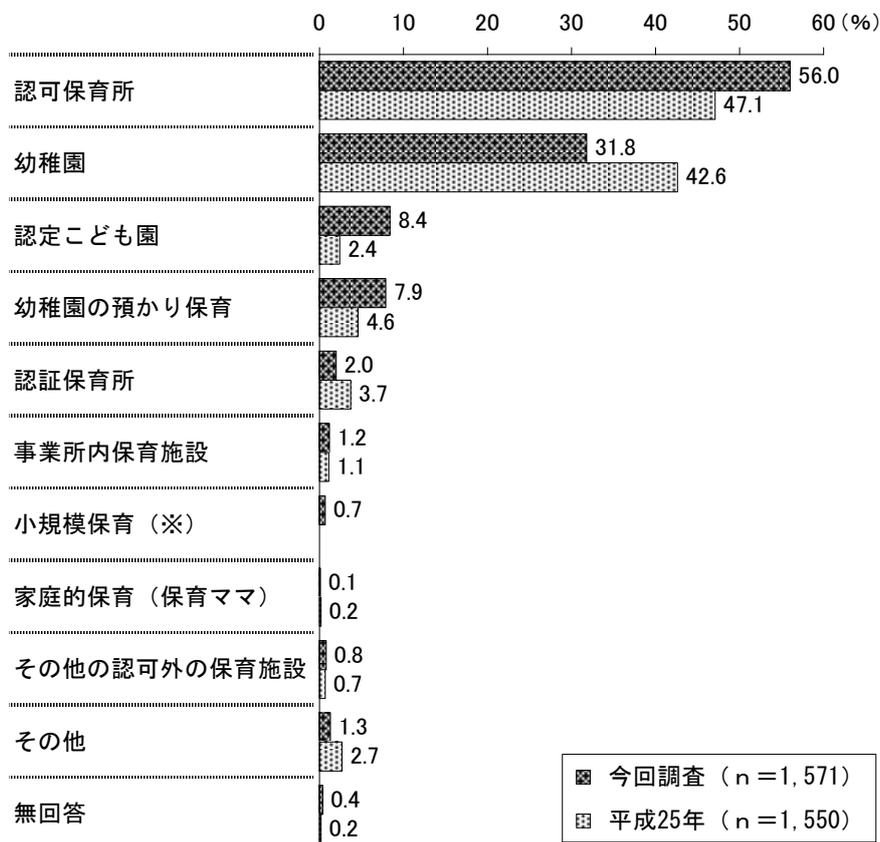
【問13で「利用している」と回答した方のみ】

問15 利用している教育・保育事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

現在、定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた人（1,571人）に、利用している定期的な教育・保育事業を聞いたところ、「認可保育所」が56.0%で最も高く、次いで「幼稚園」（31.8%）、「認定こども園」（8.4%）の順となっている。

平成25年調査と比較すると、「認可保育所」は8.9ポイント、「認定こども園」は6.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「幼稚園」は10.8ポイント減少している。（図表Ⅱ－4－3）

図表Ⅱ－4－3 利用している定期的な教育・保育事業（経年変化）



(※) 「小規模保育」は今回調査で追加した選択肢である。

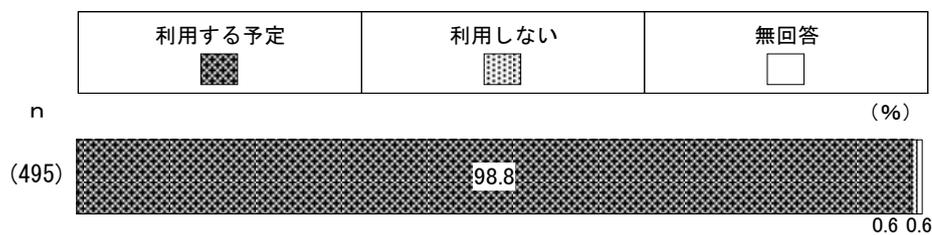
(4) 定期的な教育・保育事業の今後の利用希望

【問13で「利用していない」と回答した方のみ】

問16 宛て名のお子さんが小学校入学までに定期的な教育・保育事業のいずれかを利用する予定はありますか。当てはまる番号1つに○を記入してください。

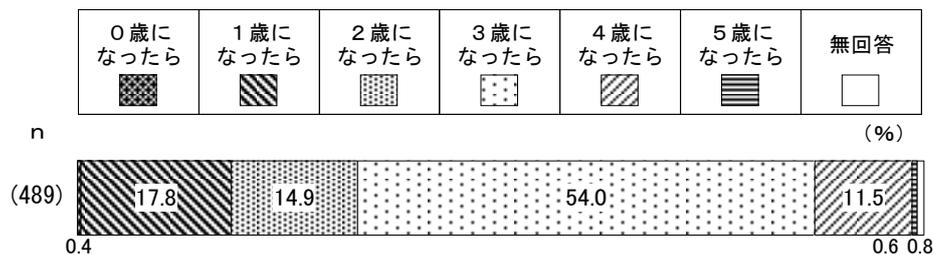
現在、定期的な教育・保育事業を「利用していない」と答えた人（495人）に、宛て名の子どもが小学校入学までに定期的な教育・保育事業のいずれかを利用する予定はあるか聞いたところ、「利用する予定」が98.8%で高くなっている。（図表Ⅱ－4－4）

図表Ⅱ－4－4 定期的な教育・保育事業の今後の利用希望



「利用する予定」と答えた人（489人）に、宛て名の子どもが何歳になったら利用したいか聞いたところ、「3歳になったら」が54.0%で最も高く、次いで「0～1歳になったら」（18.2%）、「2歳になったら」（14.9%）、「4～5歳になったら」（12.1%）の順となっている。（図表Ⅱ－4－5）

図表Ⅱ－4－5 定期的な教育・保育事業を今後利用希望する人の利用開始希望時期



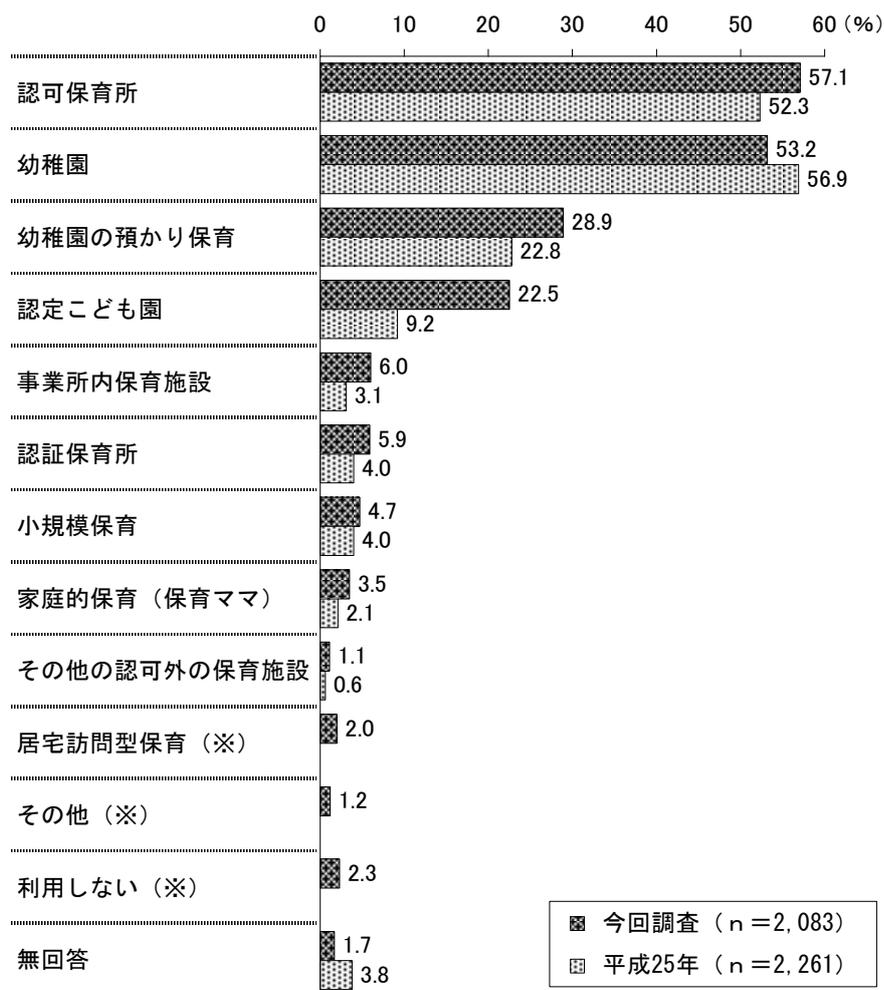
(5) 今後利用したい定期的な教育・保育事業

問17 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、定期的にご利用したい事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。
なお、利用には利用者負担（利用料）がかかります。

現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名の子どもの平日の教育・保育として定期的にご利用したい事業は何か聞いたところ、「認可保育所」が57.1%で最も高く、次いで「幼稚園」(53.2%)、「幼稚園の預かり保育」(28.9%)、「認定こども園」(22.5%)の順となっている。

平成25年調査と比較すると、「認定こども園」は13.3ポイント、「幼稚園の預かり保育」は6.1ポイント、「認可保育所」は4.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「幼稚園」は3.7ポイント減少している。(図表Ⅱ-4-6)

図表Ⅱ-4-6 今後利用したい定期的な教育・保育事業（経年変化）



(※)「居宅訪問型保育」、「その他」、「利用しない」は今回調査で追加した選択肢である。

(6) 今後最も利用したい定期的な教育・保育事業

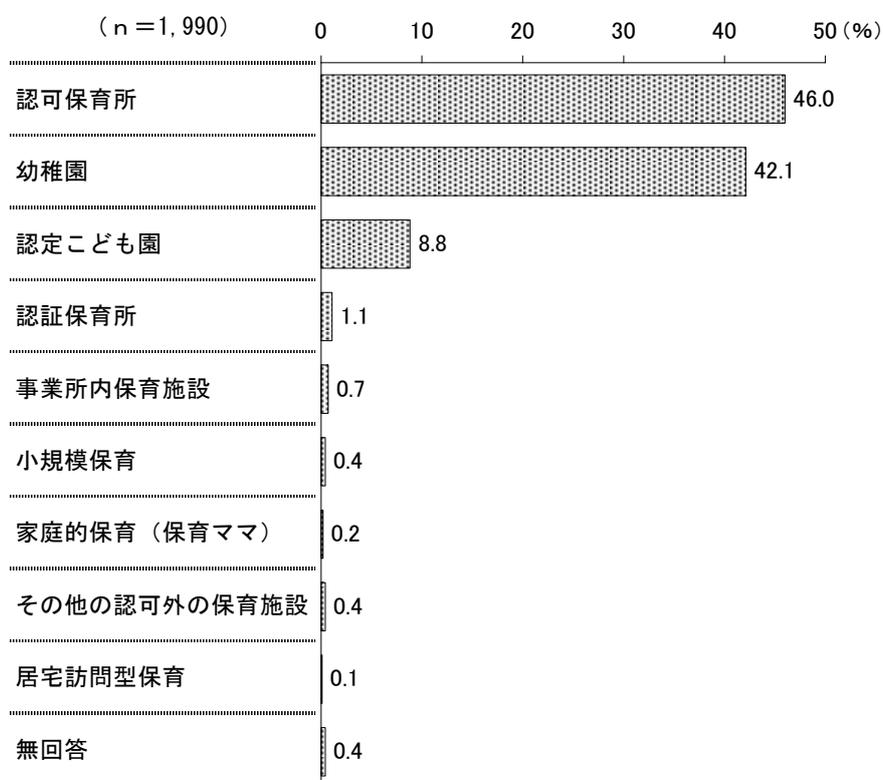
【問17で「その他」「利用しない」以外のいずれかを回答した方のみ】

問18 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、最も利用したい事業の番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもの平日の教育・保育として定期的に利用したい事業があると答えた人(1,990人)に、今後最も利用したい定期的な教育・保育事業は何か聞いたところ、「認可保育所」が46.0%で最も高く、次いで「幼稚園」(42.1%)、「認定こども園」(8.8%)の順となっている。

(図表Ⅱ-4-7)

図表Ⅱ-4-7 今後最も利用したい定期的な教育・保育事業



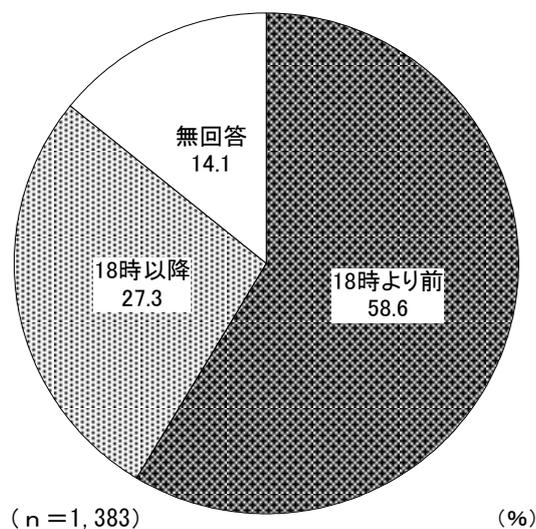
(7) 今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間

【問17で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「その他」「利用しない」以外のいずれかを回答した方のみ】
 問19 希望するお迎えの時間について、該当する番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもの平日の教育・保育として「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「その他」、「利用しない」以外を答えた人(1,383人)に、今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間の希望を聞いたところ、「18時より前」が58.6%、「18時以降」が27.3%となっている。

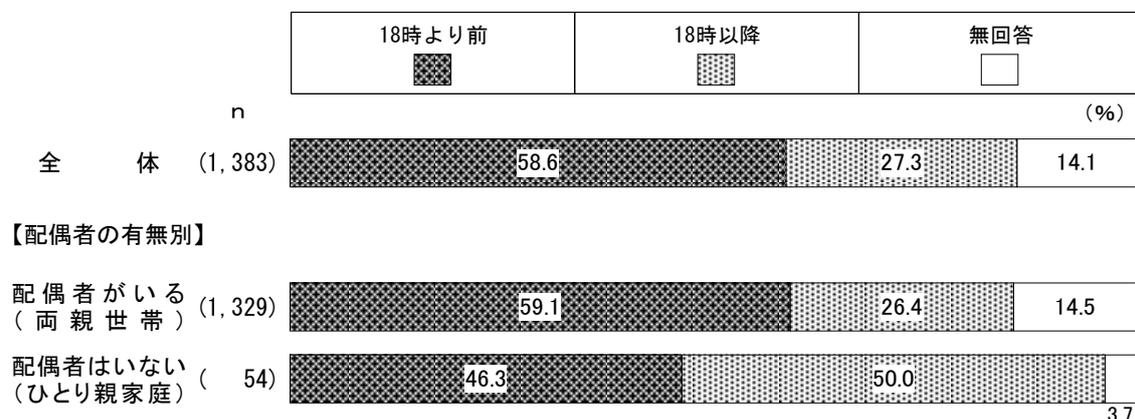
(図表Ⅱ-4-8)

図表Ⅱ-4-8 今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間



配偶者の有無別にみると、「18時より前」は配偶者がいる人(両親世帯)の方が12.8ポイント高くなっている。一方、「18時以降」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が23.6ポイント高くなっている。(図表Ⅱ-4-9)

図表Ⅱ-4-9 今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間—配偶者の有無別



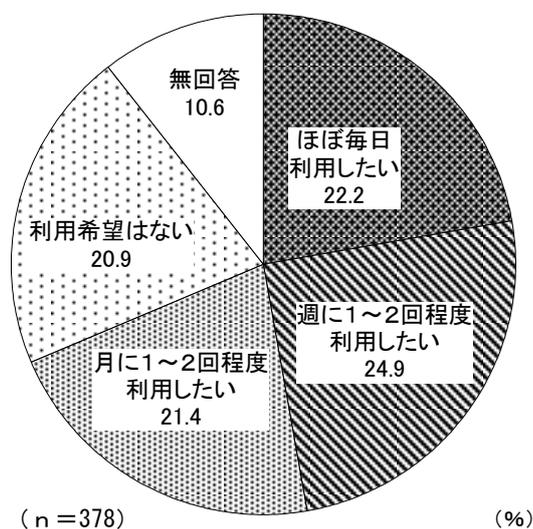
(8) 夜間の定期的な教育・保育事業の利用希望

【問19で「18時以降」と回答した方のみ】

問20 保育園等の延長保育以降も、夜間に定期的な教育・保育事業があった場合、利用したいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、利用には利用者負担（利用料）がかかります。

今後利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間について「18時以降」を希望すると答えた人（378人）に、夜間の定期的な教育・保育事業の利用希望を聞いたところ、「ほぼ毎日利用したい」が22.2%、「週に1～2回程度利用したい」が24.9%、「月に1～2回程度利用したい」が21.4%、「利用希望はない」が20.9%となっている。（図表Ⅱ－4－10）

図表Ⅱ－4－10 夜間の定期的な教育・保育事業の利用希望



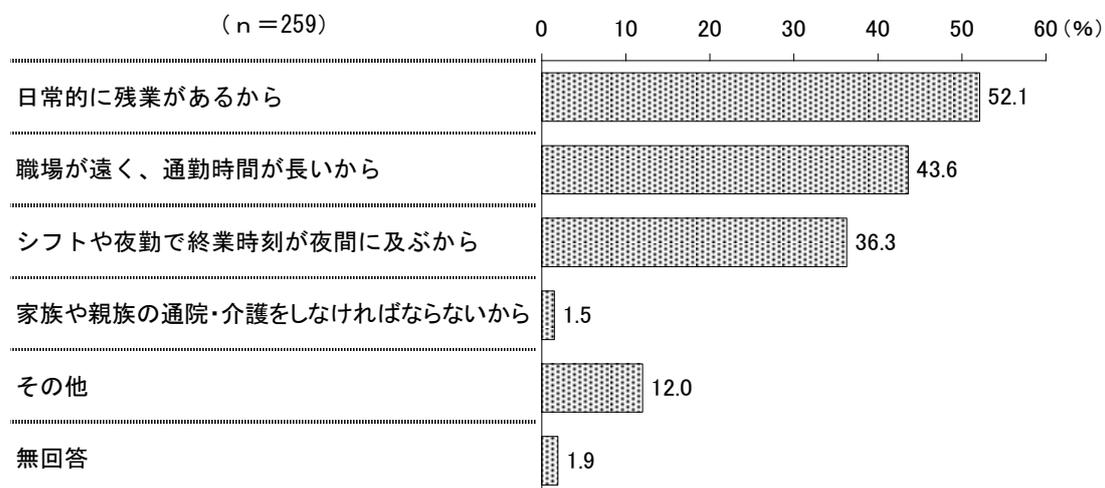
(9) 夜間に定期的な教育・保育事業を利用したい理由

【問20で「ほぼ毎日利用したい」「週に1～2回程度利用したい」「月に1～2回程度利用したい」のいずれかを回答した方のみ】

問21 利用したい理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

夜間の定期的な教育・保育事業の利用希望で「ほぼ毎日利用したい」、「週に1～2回程度利用したい」、「月に1～2回程度利用したい」と答えた人(259人)に、その理由を聞いたところ、「日常的に残業があるから」が52.1%で最も高く、次いで「職場が遠く、通勤時間が長いから」(43.6%)、「シフトや夜勤で終業時刻が夜間に及ぶから」(36.3%)の順となっている。(図表Ⅱ-4-11)

図表Ⅱ-4-11 夜間に定期的な教育・保育事業を利用したい理由

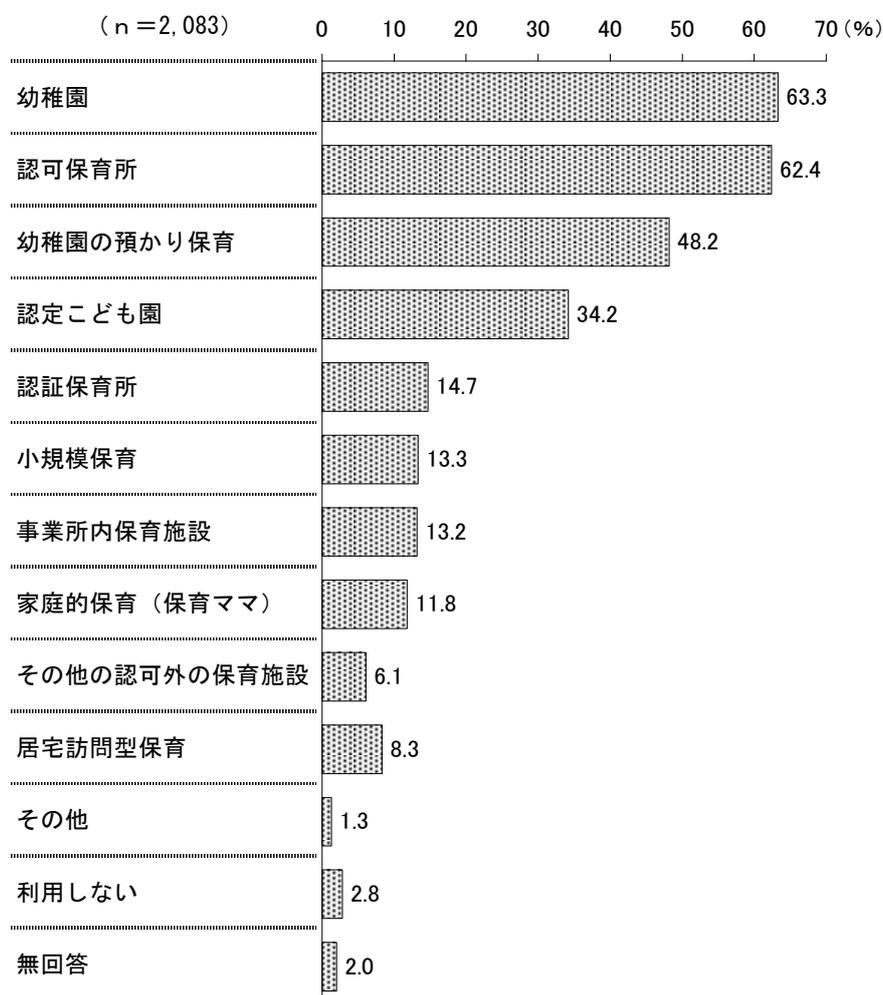


(10) 無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業

問22 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、無料であれば定期的に利用したい事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

宛て名の子どもの平日の教育・保育として、無料であれば定期的に利用したい事業を聞いたところ、「幼稚園」(63.3%)と「認可保育所」(62.4%)がともに6割を超えて高く、次いで「幼稚園の預かり保育」(48.2%)、「認定こども園」(34.2%)の順となっている。(図表Ⅱ-4-12)

図表Ⅱ-4-12 無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業



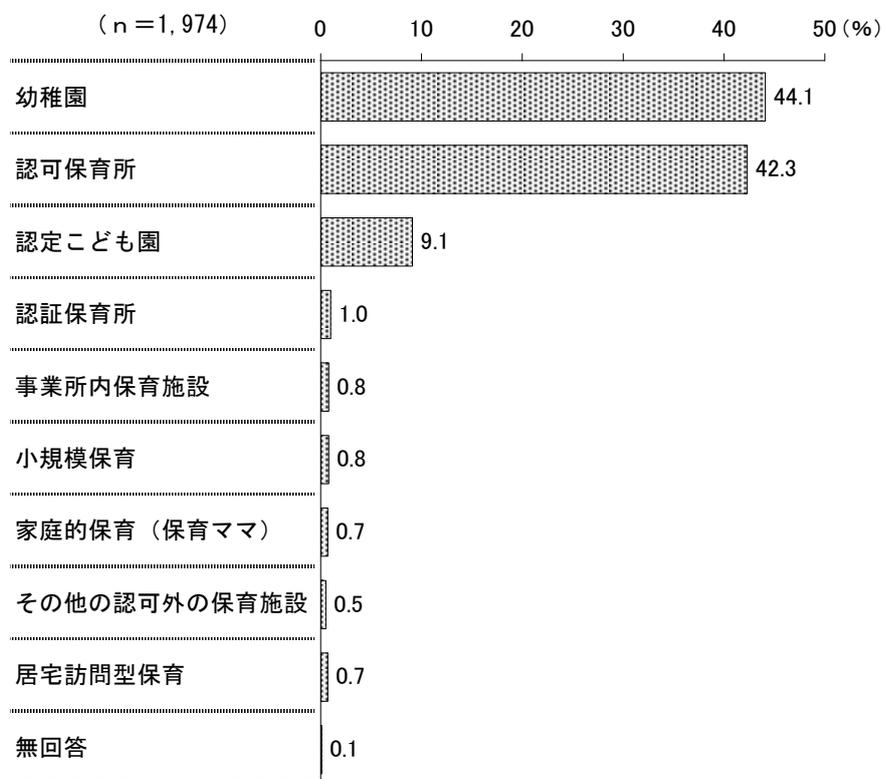
(11) 無料であれば最も利用したい定期的な教育・保育事業

【問22で「その他」「利用しない」以外のいずれかを回答した方のみ】

問23 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、最も利用したい事業の番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもの平日の教育・保育として、無料であれば定期的に利用したい事業について「その他」、「利用しない」以外と答えた人(1,974人)に、そのうち最も利用したい事業を聞いたところ、「幼稚園」(44.1%)と「認可保育所」(42.3%)がともに4割台で高く、次いで「認定こども園」が9.1%となっている。(図表Ⅱ-4-13)

図表Ⅱ-4-13 無料であれば最も利用したい定期的な教育・保育事業

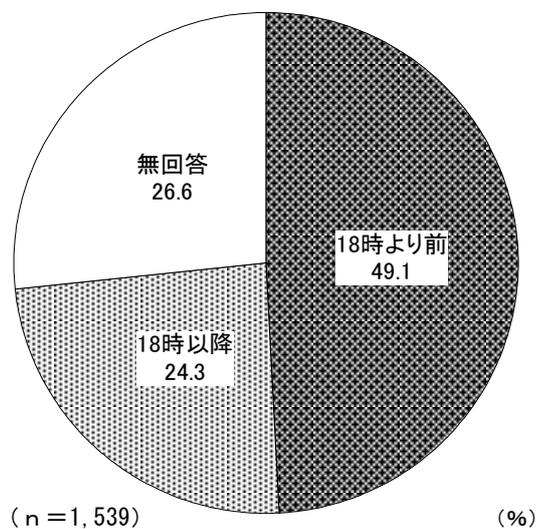


(12) 無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間

【問22で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「その他」「利用しない」以外のいずれかを回答した方のみ】
問24 希望するお迎えの時間について、該当する番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもの平日の教育・保育として、無料であれば定期的に利用したい事業について「その他」、「利用しない」以外と答えた人(1,974人)に、希望するお迎え時間を聞いたところ、「18時より前」が49.1%、「18時以降」が24.3%となっている。(図表Ⅱ-4-14)

図表Ⅱ-4-14 無料であれば利用したい定期的な教育・保育事業のお迎え時間



5 土曜・日曜・祝日や長期休暇中における定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日・日曜日・祝日の利用希望

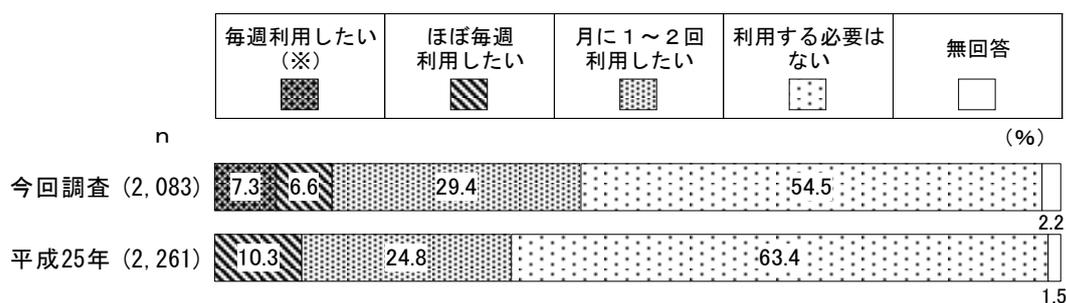
問25 宛て名のお子さんの土曜日、日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望についてうかがいます。

(1) 利用希望について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

土曜日における定期的な教育・保育事業の利用希望を聞いたところ、「毎週利用したい」が7.3%、「ほぼ毎週利用したい」が6.6%、「月に1～2回利用したい」が29.4%となっている。一方、「利用する必要はない」は54.5%となっている。(図表Ⅱ-5-1)

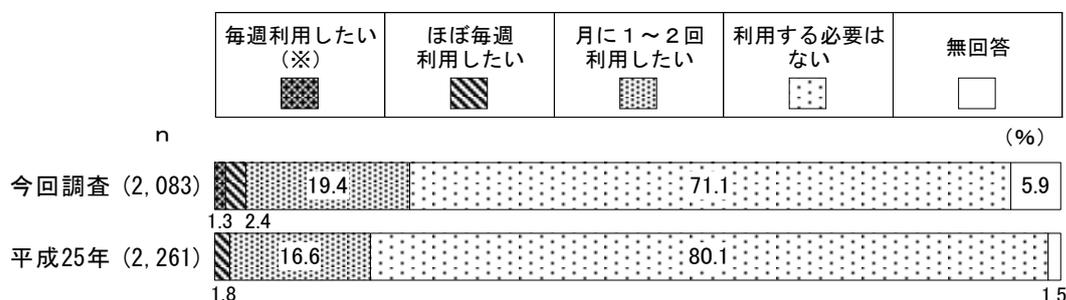
日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望を聞いたところ、「毎週利用したい」(1.3%)と「ほぼ毎週利用したい」(2.4%)はともにわずかとなっている。「月に1～2回利用したい」は19.4%、「利用する必要はない」は71.1%となっている。(図表Ⅱ-5-2)

図表Ⅱ-5-1 土曜日の利用希望（経年変化）



※「毎週利用したい」は今回調査で追加した選択肢である。

図表Ⅱ-5-2 日曜日・祝日の利用希望（経年変化）

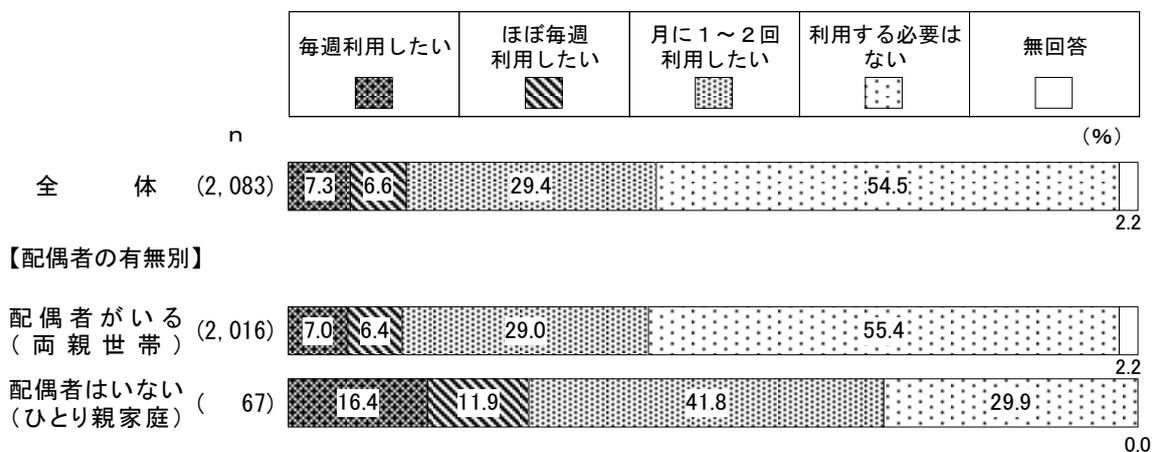


※「毎週利用したい」は今回調査で追加した選択肢である。

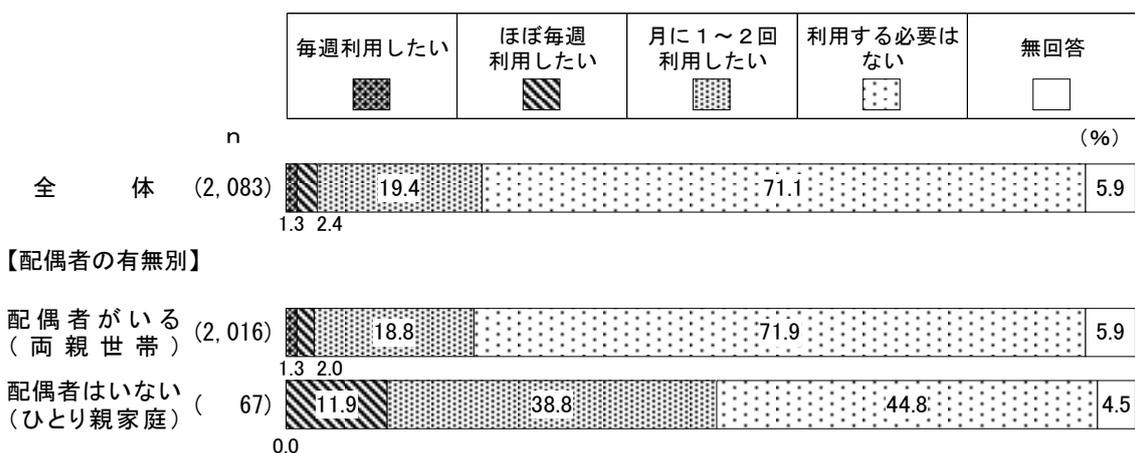
配偶者の有無別にみると、土曜日については、「利用する必要はない」は配偶者がいる人（両親世帯）の方が25.5ポイント高くなっている。一方、「毎週利用したい」は配偶者がいない人（ひとり親家庭）の方が9.4ポイント、「月に1～2回利用したい」は配偶者がいない人（ひとり親家庭）の方が12.8ポイント、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－5－3）

日曜日・祝日については、「利用する必要はない」は配偶者がいる人（両親世帯）の方が27.1ポイント高くなっている。一方、「ほぼ毎週利用したい」は配偶者がいない人（ひとり親家庭）の方が9.9ポイント、「月に1～2回利用したい」は配偶者がいない人（ひとり親家庭）の方が20.0ポイント、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－5－4）

図表Ⅱ－5－3 土曜日の利用希望－配偶者の有無別



図表Ⅱ－5－4 日曜日・祝日の利用希望－配偶者の有無別



(2) 土曜日・日曜日・祝日の利用希望時間帯

問25 宛て名のお子さんの土曜日、日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望についてうかがいます。

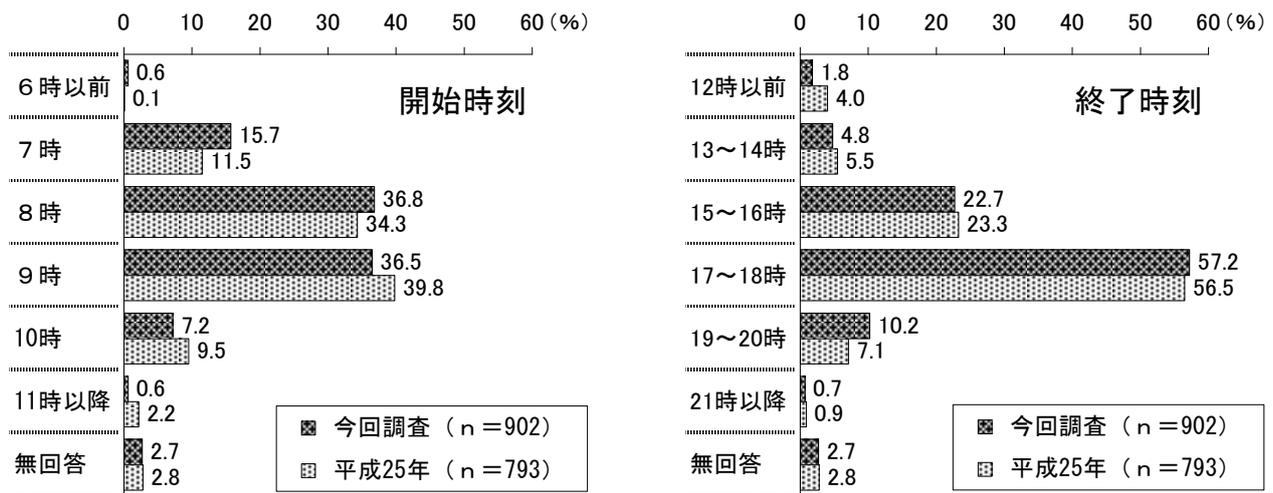
(2) 利用する場合、何時から何時まで利用したいですか。口内に24時間表記でご記入ください。

土曜日・日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望について「毎週利用したい」「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回利用したい」と答えた人（土曜日902人、日曜日・祝日481人）に、それぞれの利用希望時間帯を聞いたところ、開始時刻では、「8時」（土曜日36.8%、日曜日・祝日36.8%）と「9時」（土曜日36.5%、日曜日・祝日36.2%）がそれぞれ3割台で高くなっている。

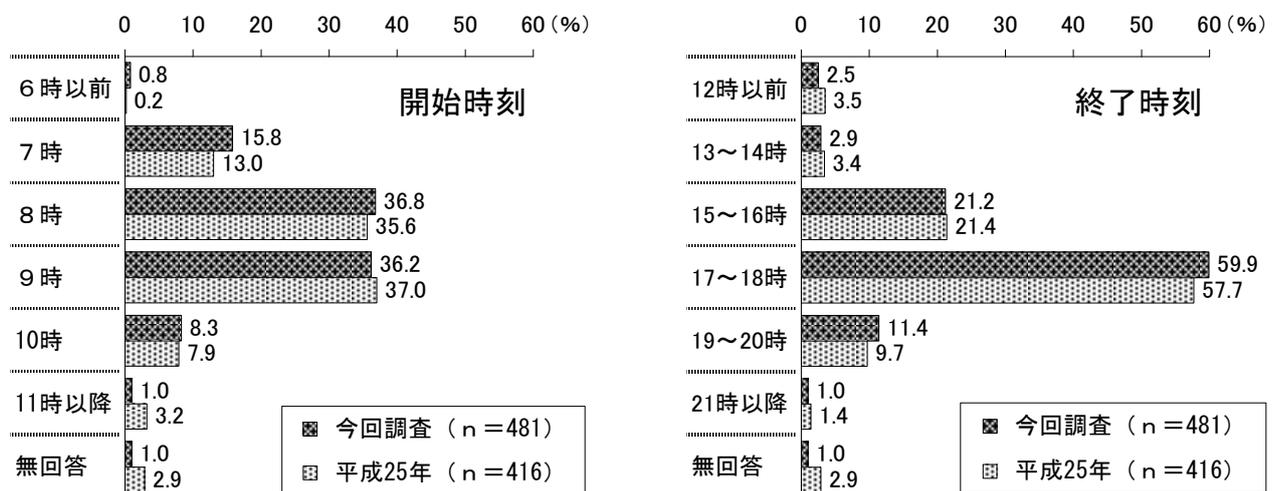
また、終了時刻では、「17～18時」（土曜日57.2%、日曜日・祝日59.9%）がそれぞれ6割近くで最も高く、次いで「15～16時」（土曜日22.7%、日曜日・祝日21.2%）がそれぞれ2割台となっている。

（図表Ⅱ－5－5、図表Ⅱ－5－6）

図表Ⅱ－5－5 土曜日の利用希望時間帯（経年変化）



図表Ⅱ－5－6 日曜日・祝日の利用希望時間帯（経年変化）



(3) 長期休暇期間中の利用希望

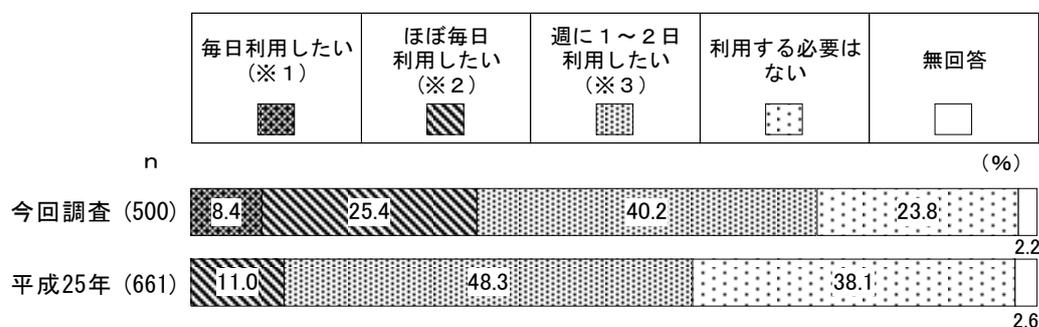
【問15で、定期的に「幼稚園」を利用していると回答した方のみ】

問26 宛て名のお子さんの長期休暇期間中（夏休みや冬休みなど）における定期的な教育・保育事業のいずれかの事業の利用希望についてうかがいます。

(1) 利用希望について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

定期的に「幼稚園」を利用していると答えた人（500人）に、長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望を聞いたところ、「毎日利用したい」が8.4%、「ほぼ毎日利用したい」が25.4%、「週に1～2日利用したい」が40.2%となっている。一方、「利用する必要はない」は23.8%となっている。（図表Ⅱ－5－7）

図表Ⅱ－5－7 長期休暇期間中の利用希望（経年変化）



(※1) 「毎日利用したい」は今回調査で追加した選択肢である。

(※2) 「ほぼ毎日利用したい」は、平成25年調査では「休みの期間、ほぼ毎日利用したい」としていた。

(※3) 「週に1～2日利用したい」は、平成25年調査では「休みの期間、週に数日利用したい」としていた。

(4) 長期休暇期間中の利用希望時間帯

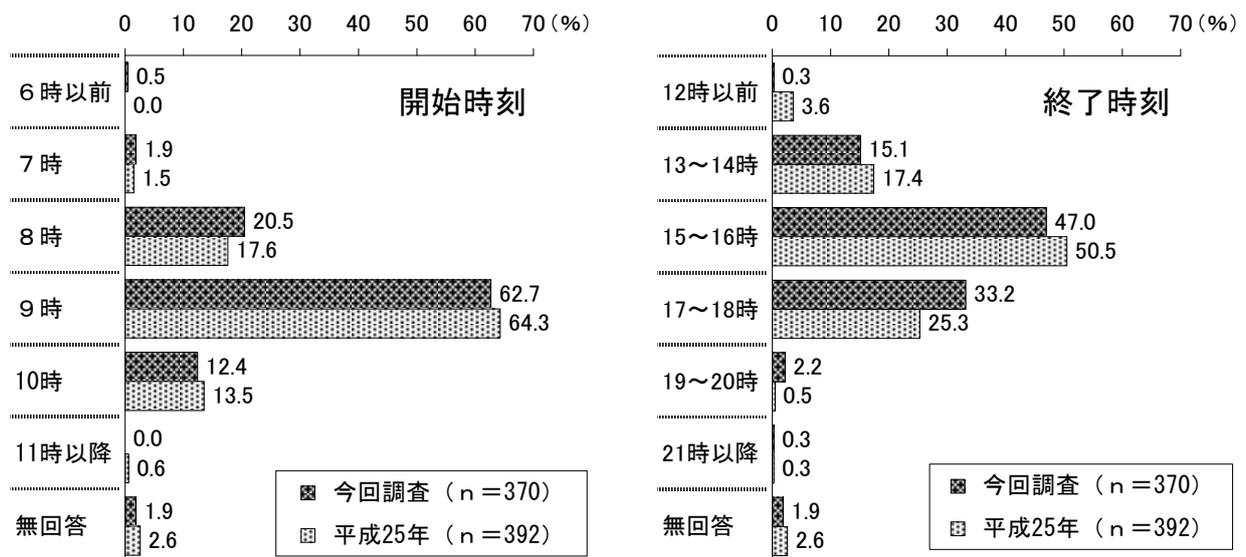
【問15で、定期的に「幼稚園」を利用していると回答した方のみ】

問26 宛て名のお子さんの長期休暇期間中（夏休みや冬休みなど）における定期的な教育・保育事業のいずれかの事業の利用希望についてうかがいます。

(2) 利用する場合、何時から何時まで利用したいですか。□内に24時間表記でご記入ください。

定期的に「幼稚園」を利用して、長期休暇期間中に定期的な教育・保育事業を「毎日利用したい」、「ほぼ毎日利用したい」、「週に1～2日利用したい」と答えた人（370人）に、利用希望時間帯を聞いたところ、開始時刻では、「9時」が62.7%で最も高く、次いで「8時」（20.5%）、「10時」（12.4%）の順となっている。また、終了時刻では、「15～16時」が47.0%で最も高く、次いで「17～18時」（33.2%）、「13～14時」（15.1%）の順となっている。（図表Ⅱ－5－8）

図表Ⅱ－5－8 長期休暇期間中の利用希望時間帯（経年変化）



6 子どもが病気やけがの時の対応

(1) 子どもが病気やけがの時の対処方法

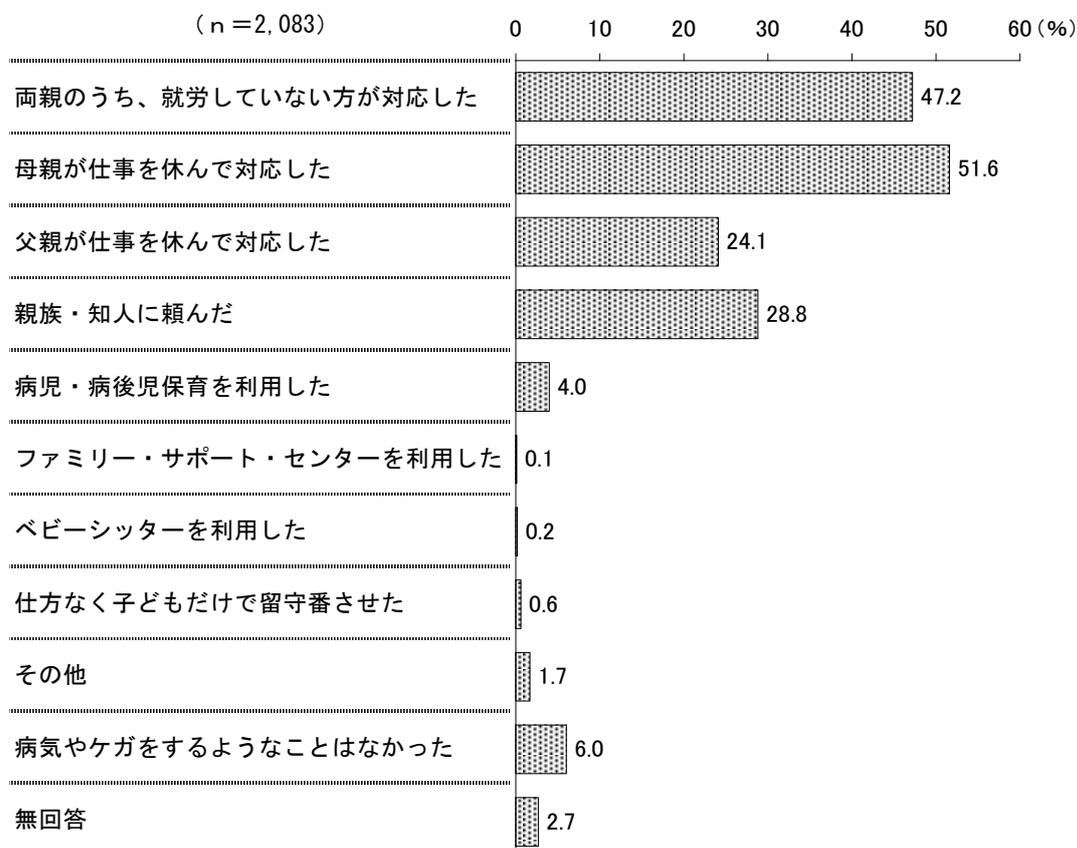
問27 宛て名のお子さんが病気になったり、けがをした時の対処方法についてうかがいます。

(1) 対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

宛て名の子どもが病気になったり、けがをした時の対処方法を聞いたところ、「母親が仕事を休んで対応した」が51.6%で最も高く、次いで「両親のうち、就労していない方が対応した」(47.2%)、「親族・知人に頼んだ」(28.8%)、「父親が仕事を休んで対応した」(24.1%)の順となっている。

(図表Ⅱ－6－1)

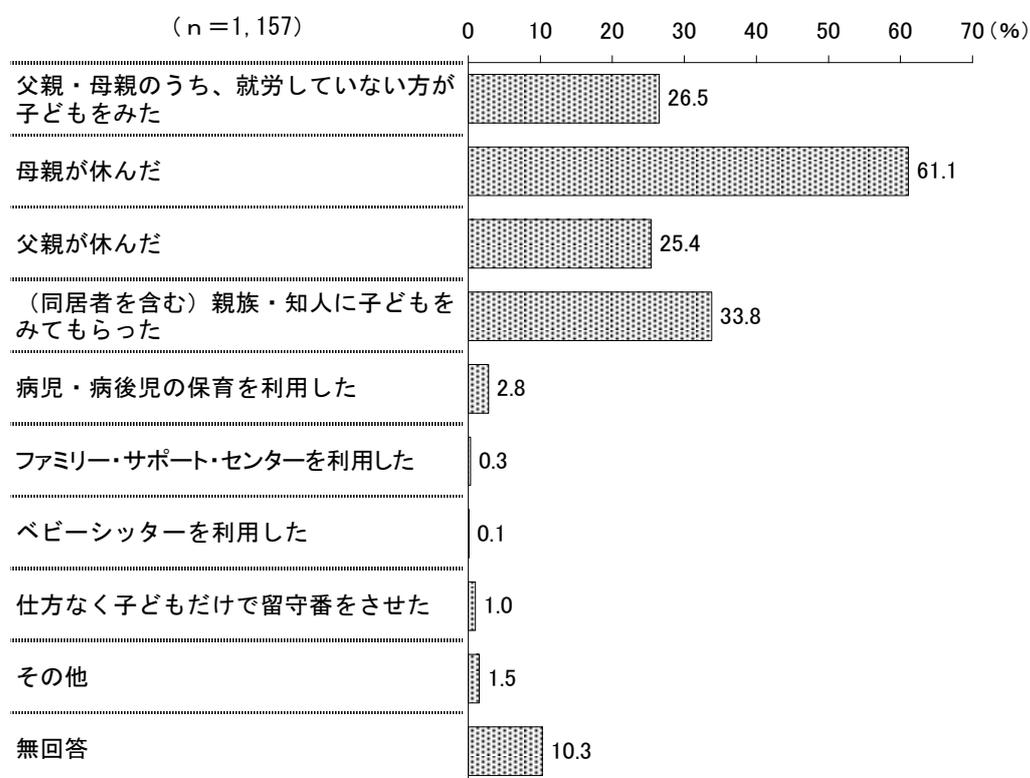
図表Ⅱ－6－1 子どもが病気やけがの時の対処方法



平成25年調査との比較は、母数を絞り込む質問の選択肢が異なるため参考に掲載する。

(図表Ⅱ－6－2)

図表Ⅱ－6－2 (参考) 子どもが病気やけがの時の対処方法 (平成25年調査)



(※) 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると回答した人のうち、宛て名のお子さんが病気になったり、けがをしたことが「あった」と回答した人のみに対する質問。

(2) 子どもが病気やけがの時に対処した日数

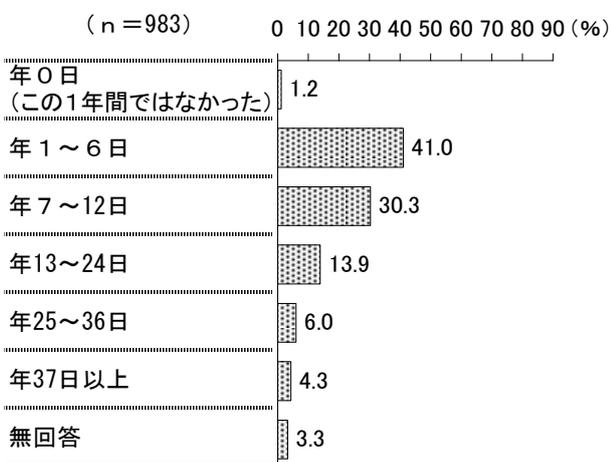
問27 宛て名のお子さんが病気になったり、けがをした時の対処方法についてうかがいます。

(2)(1)で○をつけた対処方法について、この1年間でおおよそ何日ありましたか。□内に数字でご記入ください。

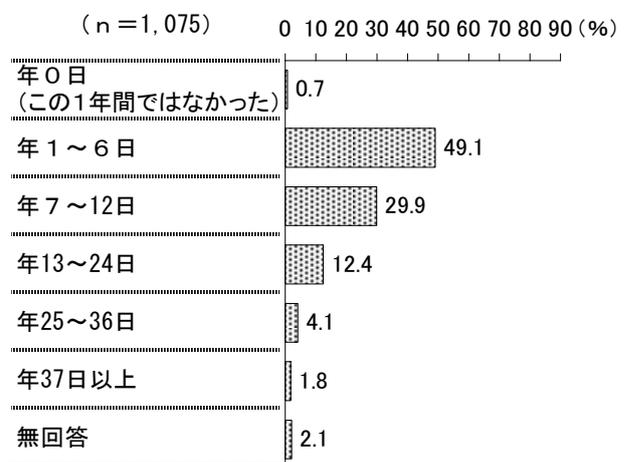
宛て名の子どもが病気になったり、けがをした時の対処方法を答えた人に、それぞれの対処方法はこの1年間でおおよそ何日あったか聞いたところ、9項目の対処方法すべてで「年1～6日」が最も高くなっている。(図表Ⅱ-6-3)

図表Ⅱ-6-3 子どもが病気やけがの時に対処した日数

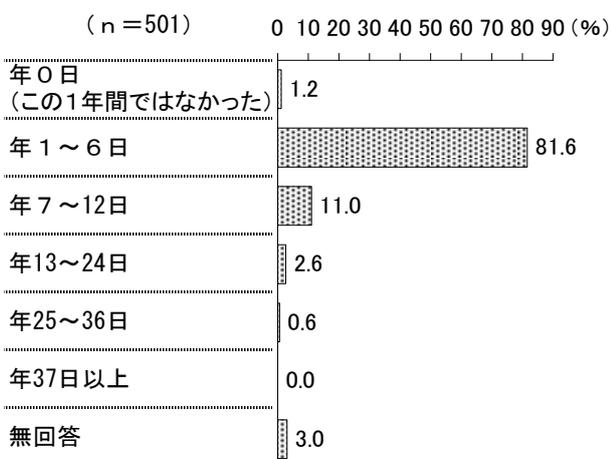
①両親のうち、就労していない方が対応した



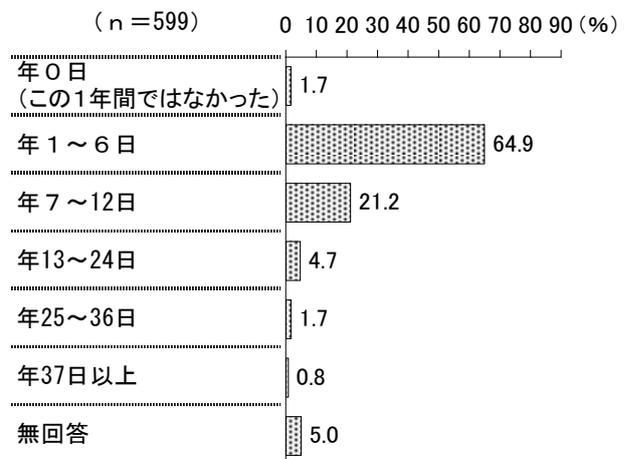
②母親が仕事を休んで対応した



③父親が仕事を休んで対応した

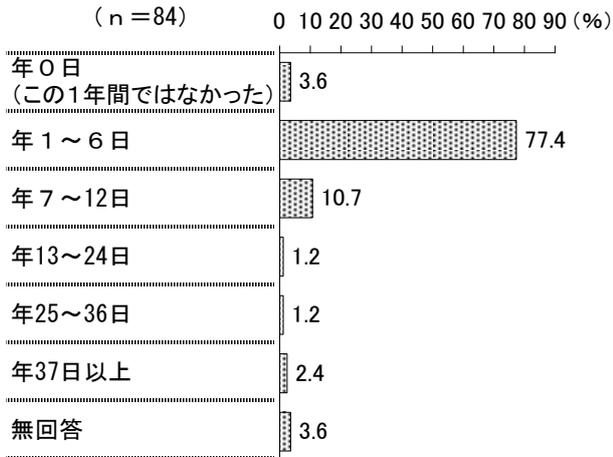


④親族・知人に頼んだ

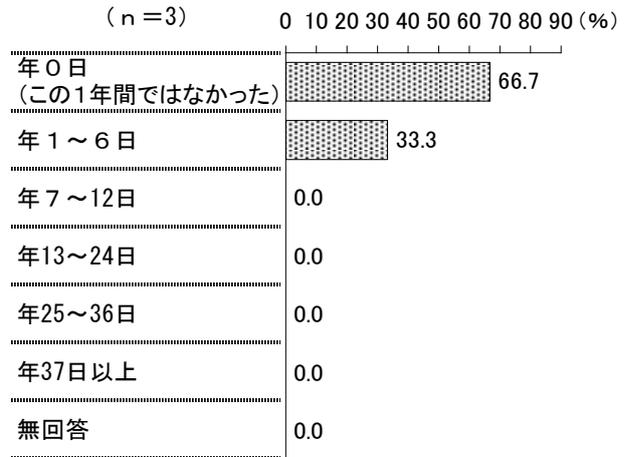


図表Ⅱ－６－３（つづき）子どもが病気やけがの時に対処した日数

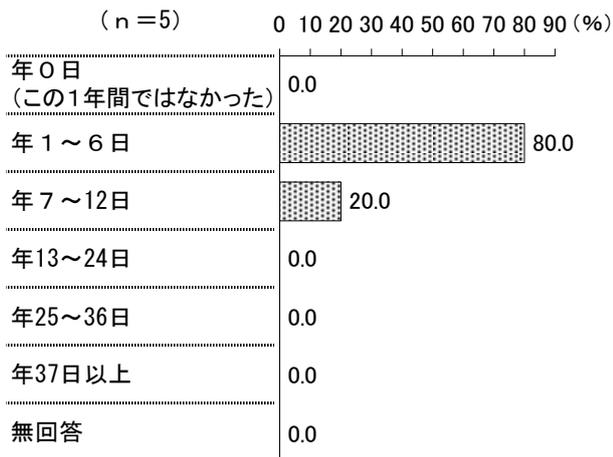
⑤病児・病後児保育を利用した



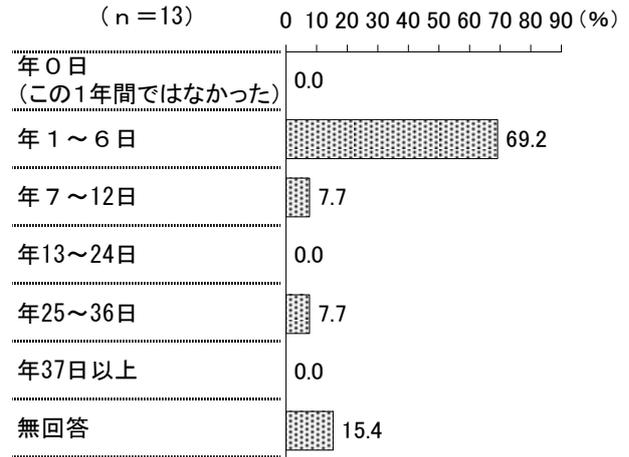
⑥ファミリー・サポート・センターを利用した



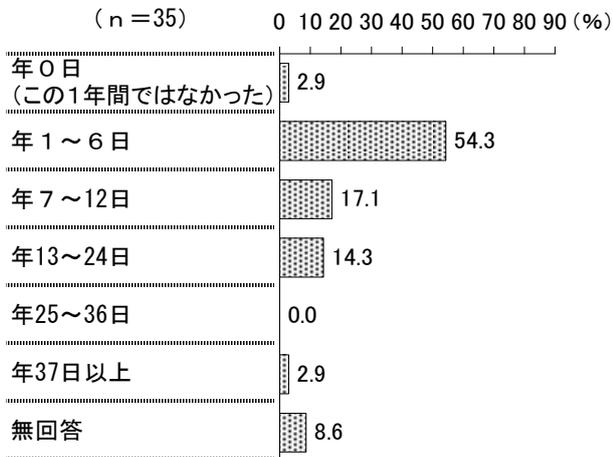
⑦ベビーシッターを利用した



⑧仕方なく子どもだけで留守番させた



⑨その他

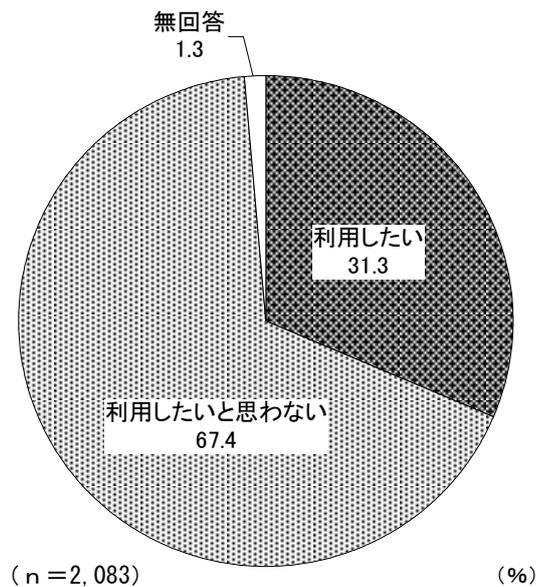


(3) 病児・病後児保育の今後の利用希望

問28 今後、宛て名のお子さんが病気やけがの時、病児・病後児保育を利用したいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、利用には利用料やかかりつけ医の受診が必要になります。

今後、宛て名の子どもが病気やけがの時、病児・病後児保育を利用したいか聞いたところ、「利用したい」が31.3%、「利用したいと思わない」が67.4%となっている。(図表Ⅱ-6-4)

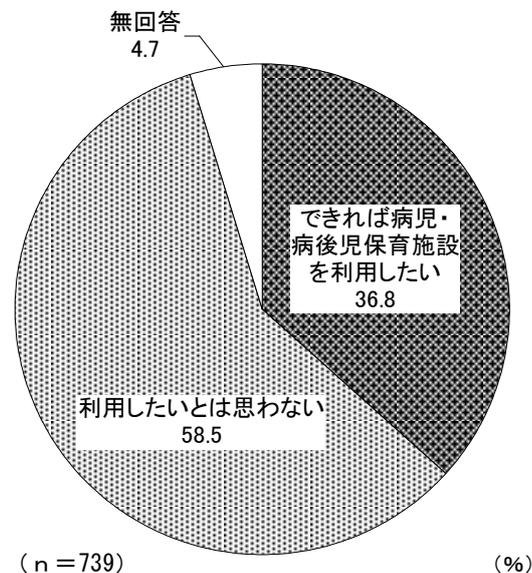
図表Ⅱ-6-4 病児・病後児保育の今後の利用希望



平成25年調査との比較は、母数を絞り込む質問の選択肢が異なるため参考に掲載する。

(図表Ⅱ-6-5)

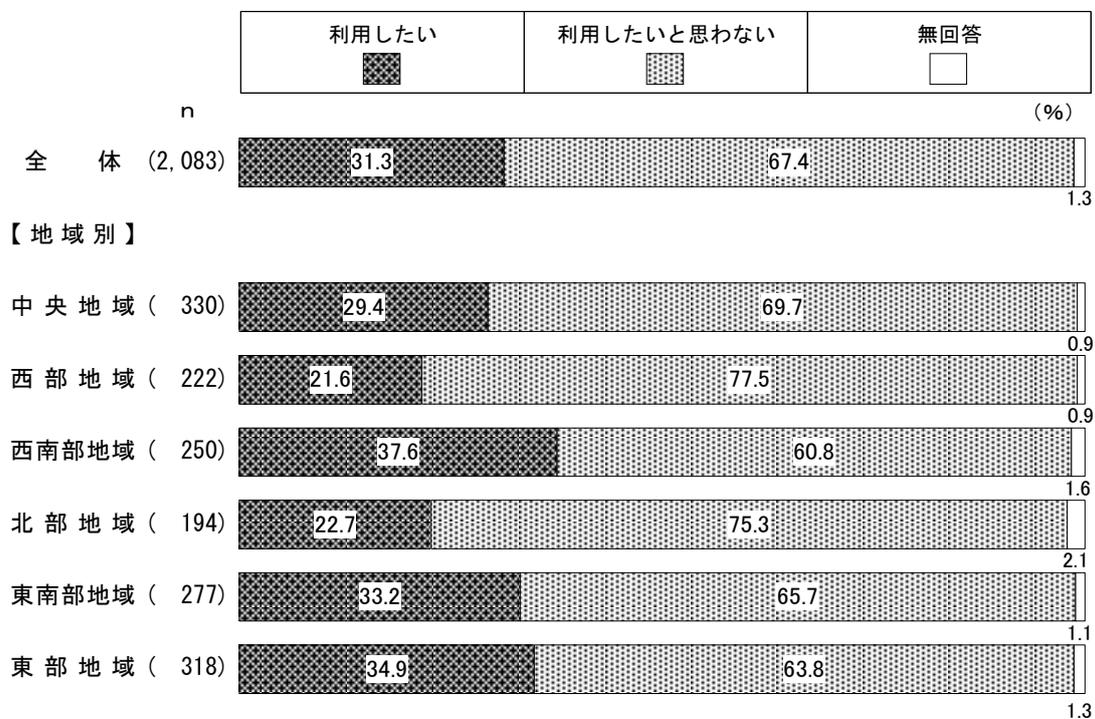
図表Ⅱ-6-5 (参考) 病児・病後児保育の今後の利用希望 (平成25年調査)



(※) 宛て名の子どもが病気になったり、けがをした時の対処方法で「母親が休んだ」または「父親が休んだ」と回答した人のみに対する質問。

地域別にみると、「利用したい」は西南部地域で37.6%と高くなっている。一方、「利用したいと思わない」は西部地域で77.5%、北部地域で75.3%と高くなっている。(図表Ⅱ-6-6)

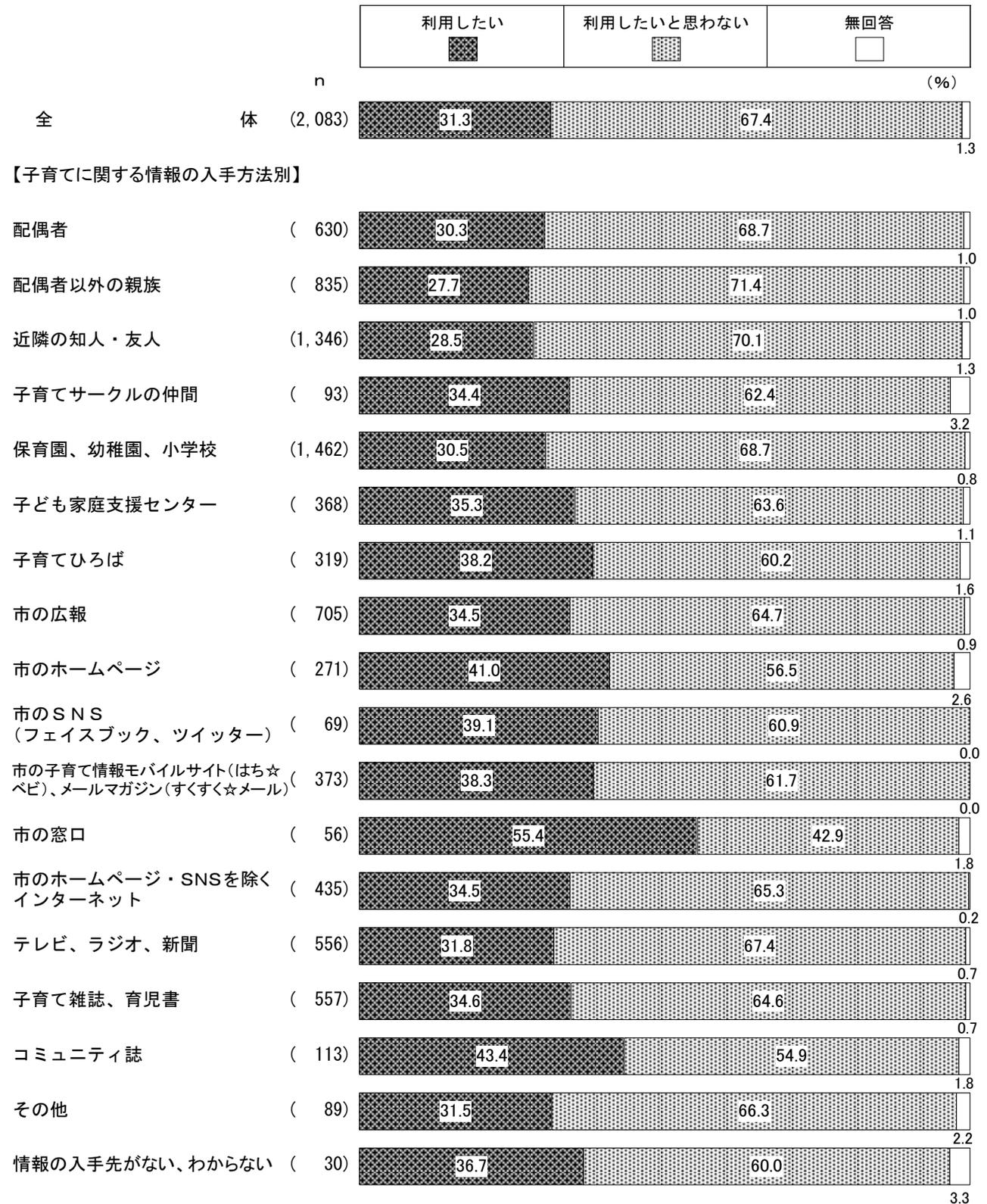
図表Ⅱ-6-6 病児・病後児保育の今後の利用希望—地域別



子育てに関する情報の入手方法（問56）別にみると、「利用したい」は市の窓口で55.4%、コミュニティ誌で43.4%、市のホームページで41.0%と高くなっている。

一方、「利用したいと思わない」は配偶者以外の親族で71.4%、近隣の知人・友人で70.1%と高くなっている。（図表Ⅱ－6－7）

図表Ⅱ－6－7 病児・病後児保育の今後の利用希望－子育てに関する情報の入手方法別



(4) 病児・病後児保育の利用希望日数

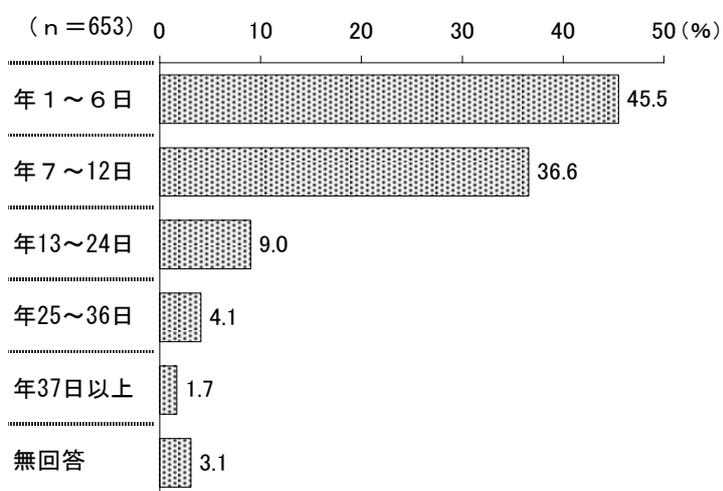
【問28で「利用したい」と回答した方のみ】

問29 病児・病後児保育を利用する場合、1年間の利用日数は何日程度になると思いますか。

□内に数字でご記入ください。

宛て名の子どもが病気やけがの時、病児・病後児保育を「利用したい」と答えた人(653人)に、1年間の利用日数は何日程度になると思うか聞いたところ、「年1～6日」が45.5%で最も高く、次いで「年7～12日」(36.6%)、「年13～24日」(9.0%)の順となっている。(図表Ⅱ-6-8)

図表Ⅱ-6-8 病児・病後児保育の利用希望日数



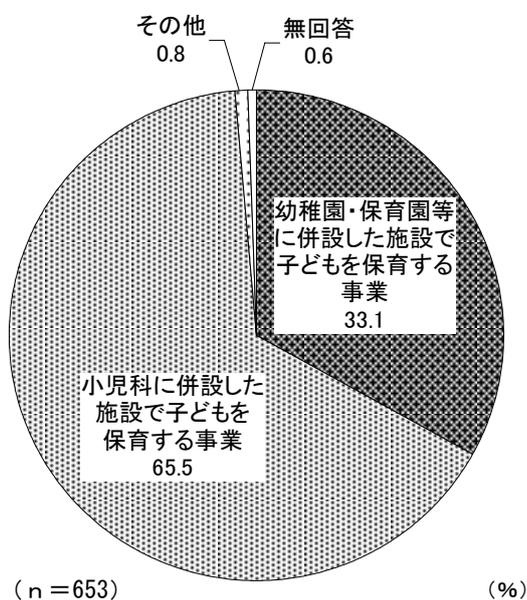
(5) 病児・病後児保育の望ましい事業形態

【問28で「利用したい」と回答した方のみ】

問30 病児・病後児保育に子どもを預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもが病気やけがの時、病児・病後児保育を「利用したい」と答えた人(653人)に、病児・病後児保育はどのような事業形態が望ましいか聞いたところ、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が65.5%、「幼稚園・保育園等に併設した施設で子どもを保育する事業」が33.1%となっている。(図表Ⅱ-6-9)

図表Ⅱ-6-9 病児・病後児保育の望ましい事業形態



(6) 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由

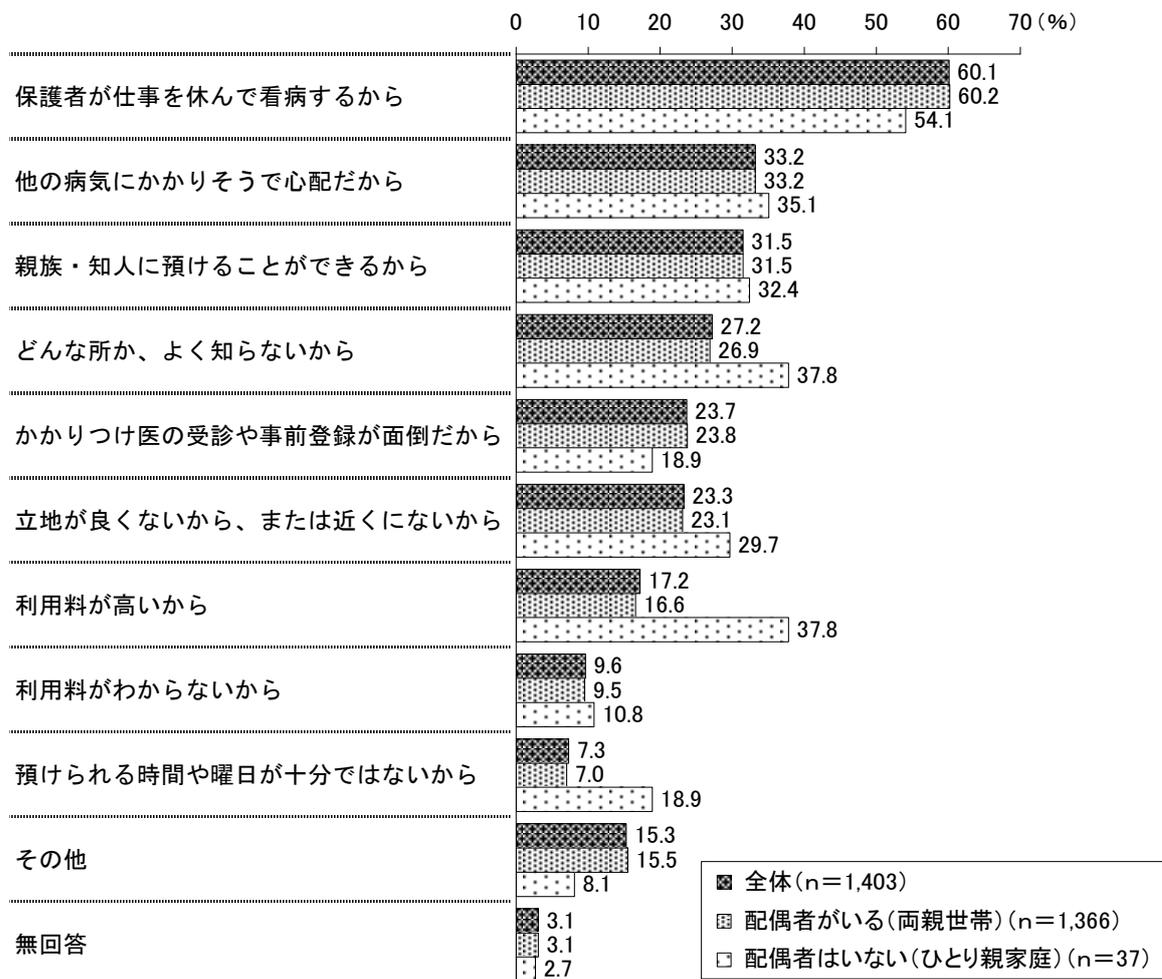
【問28で「利用したいと思わない」と回答した方のみ】

問31 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

宛て名の子どもが病気やけがの時、病児・病後児保育を「利用したいと思わない」と答えた人(1,403人)に、その理由を聞いたところ、「保護者が仕事を休んで看病するから」が60.1%で最も高く、次いで「他の病気にかかりそうで心配だから」(33.2%)、「親族・知人に預けることができるから」(31.5%)、「どんな所か、よく知らないから」(27.2%)の順となっている。

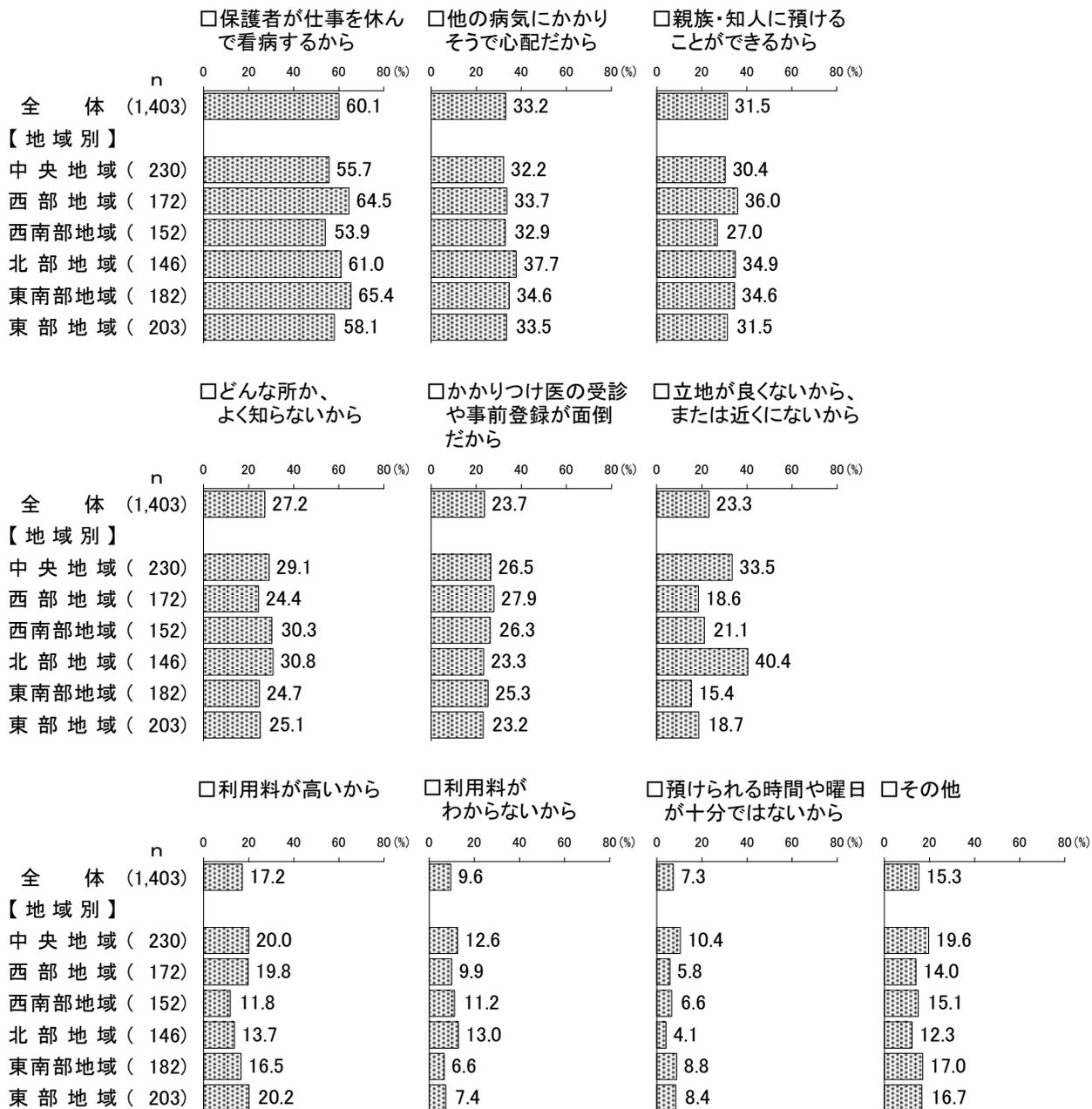
配偶者の有無別にみると、「保護者が仕事を休んで看病するから」は配偶者がいる人(両親世帯)の方が6.1ポイント高くなっている。一方、「利用料が高いから」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が21.2ポイント、「預けられる時間や曜日が十分ではないから」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が11.9ポイント、「どんな所か、よく知らないから」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が10.9ポイント、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ-6-10)

図表Ⅱ-6-10 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由—配偶者の有無別



地域別にみると、「立地が良くないから、または近くにないから」は北部地域で40.4%、中央地域で33.5%と高くなっている。(図表Ⅱ-6-11)

図表Ⅱ-6-11 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由—地域別



7 不定期の教育・保育事業の利用状況

(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況

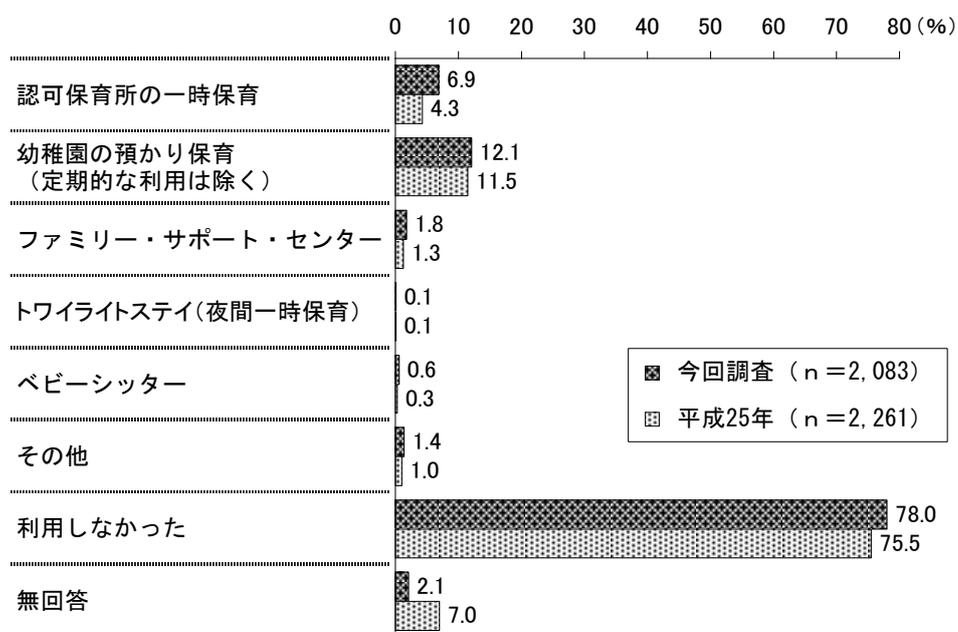
問32 不定期の教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

(1) 不定期の教育・保育事業について、利用したことがある番号すべてに○をつけてください。

不定期の教育・保育事業について、利用したことがあるものを聞いたところ、「幼稚園の預かり保育（定期的な利用は除く）」が12.1%で最も高く、次いで「認可保育所の一時保育」が6.9%となっている。一方、「利用しなかった」は78.0%となっている。

平成25年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅱ－7－1）

図表Ⅱ－7－1 不定期の教育・保育事業の利用状況（経年変化）



(2) 不特定の教育・保育事業を利用した日数

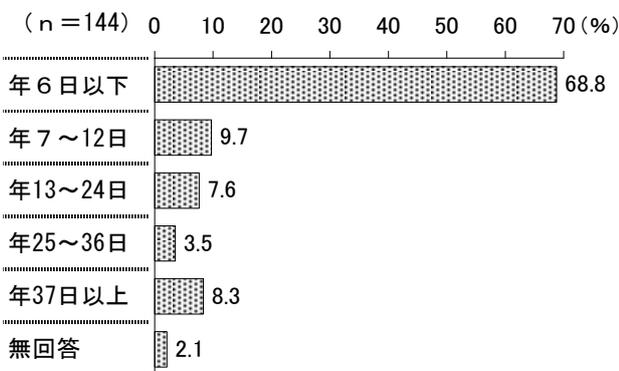
問32 不特定の教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

(2)(1)で○をつけた事業について、この1年間でおおよそ何日利用しましたか。口内に数字でご記入ください。

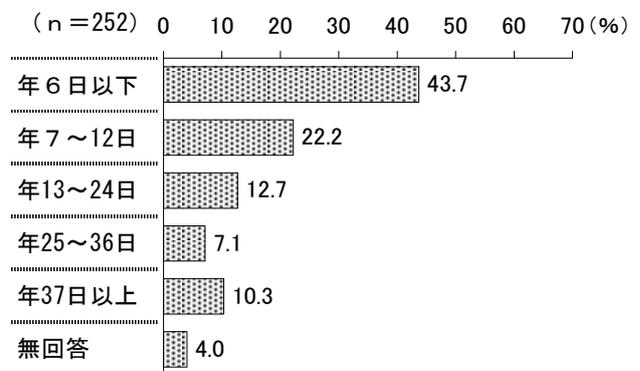
利用したことがある不特定の教育・保育事業について、この1年間でおおよそ何日利用したか聞いたところ、6項目すべてで「年6日以下」が最も高くなっている。(図表Ⅱ-7-2)

図表Ⅱ-7-2 不特定の教育・保育事業を利用した日数

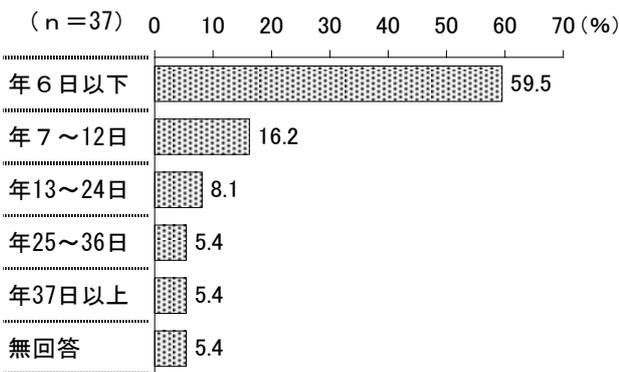
①認可保育所の一時保育



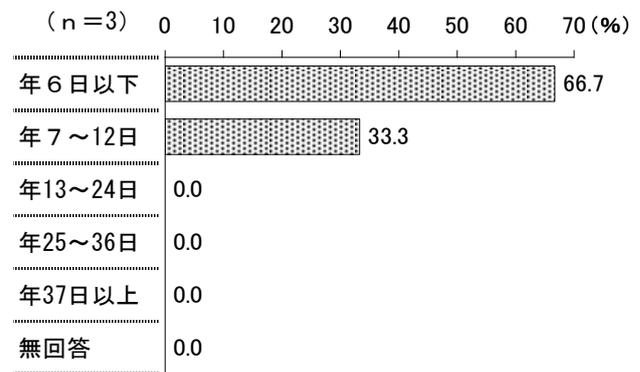
②幼稚園の預かり保育(定期的な利用は除く)



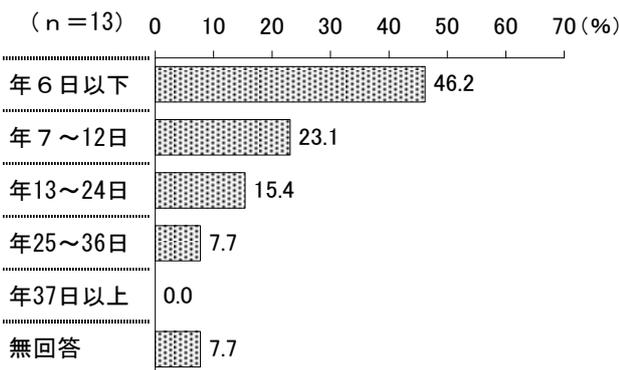
③ファミリー・サポート・センター



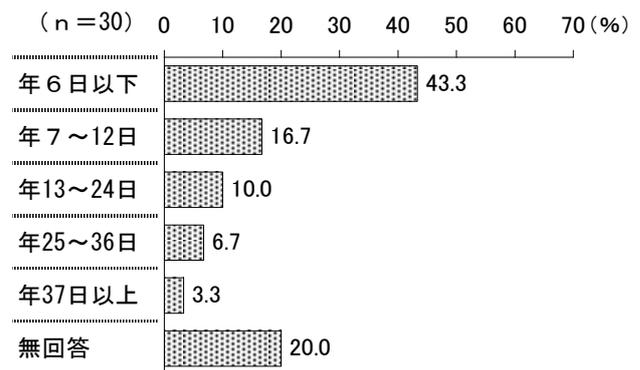
④トワイライトステイ(夜間一時保育)



⑤ベビーシッター



⑥その他



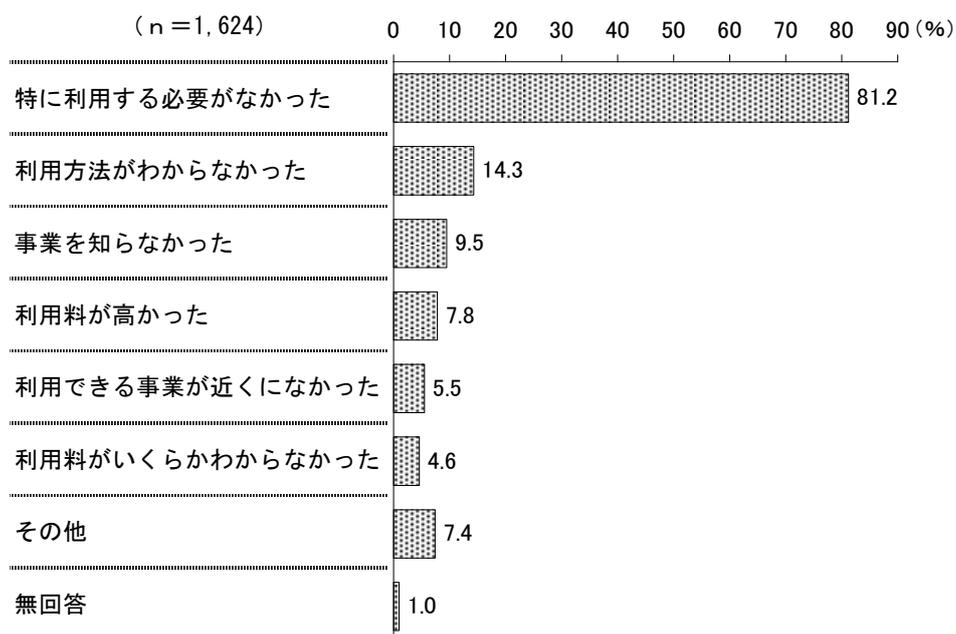
(3) 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由

【問32で「利用しなかった」と回答した方のみ】

問33 利用しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

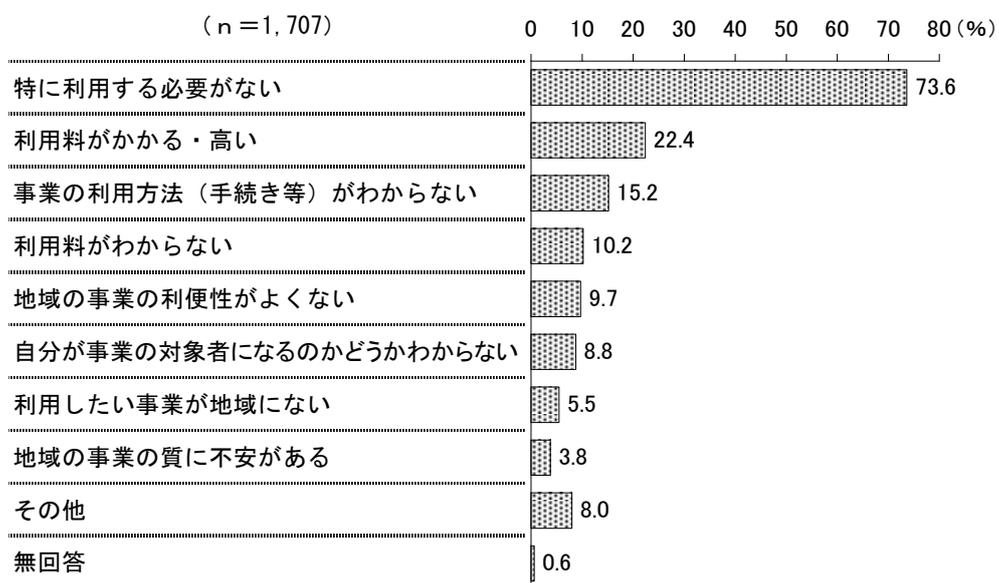
不定期の教育・保育事業を「利用しなかった」と答えた人（1,624人）に、その理由を聞いたところ、「特に利用する必要がなかった」が81.2%で最も高く、次いで「利用方法がわからなかった」（14.3%）、「事業を知らなかった」（9.5%）の順となっている。（図表Ⅱ－7－3）

図表Ⅱ－7－3 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由



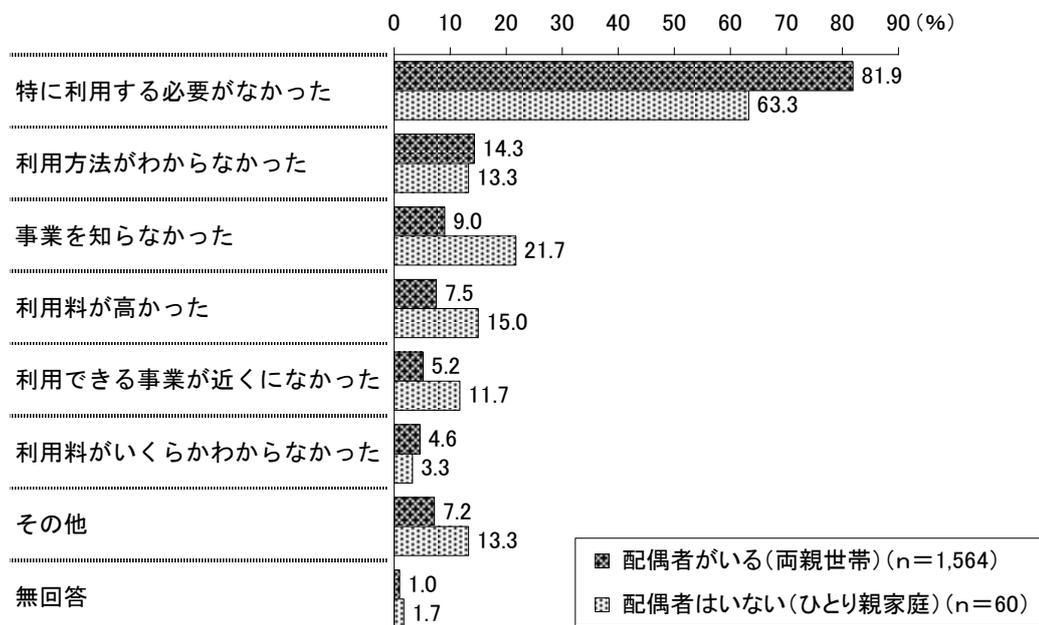
平成25年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。（図表Ⅱ－7－4）

図表Ⅱ－7－4（参考）不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由（平成25年調査）



配偶者の有無別にみると、「特に利用する必要がなかった」は配偶者がいる人（両親世帯）の方が18.6ポイント高くなっている。一方、「事業を知らなかった」は配偶者がいない人（ひとり親家庭）の方が12.7ポイント高くなっている。（図表Ⅱ－7－5）

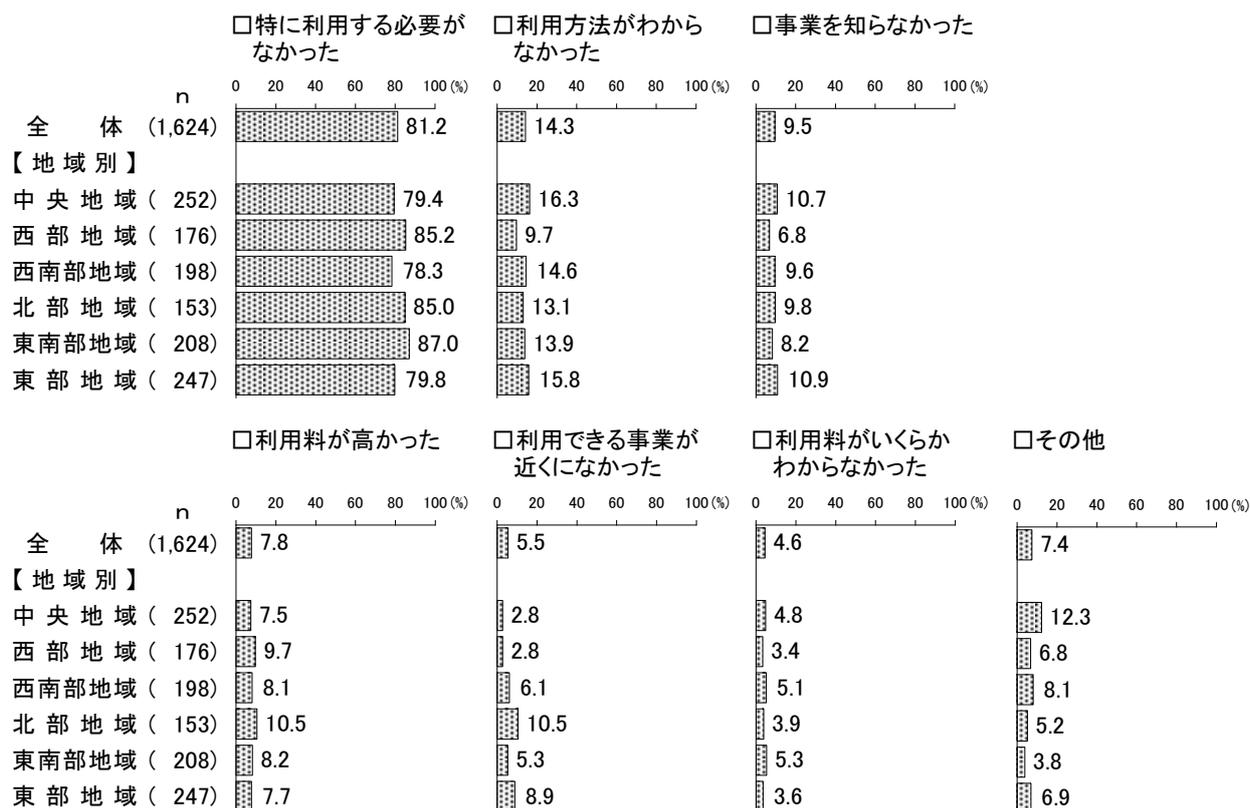
図表Ⅱ－7－5 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由－配偶者の有無別



地域別にみると、「特に利用する必要がなかった」は東南部地域で87.0%と高くなっている。

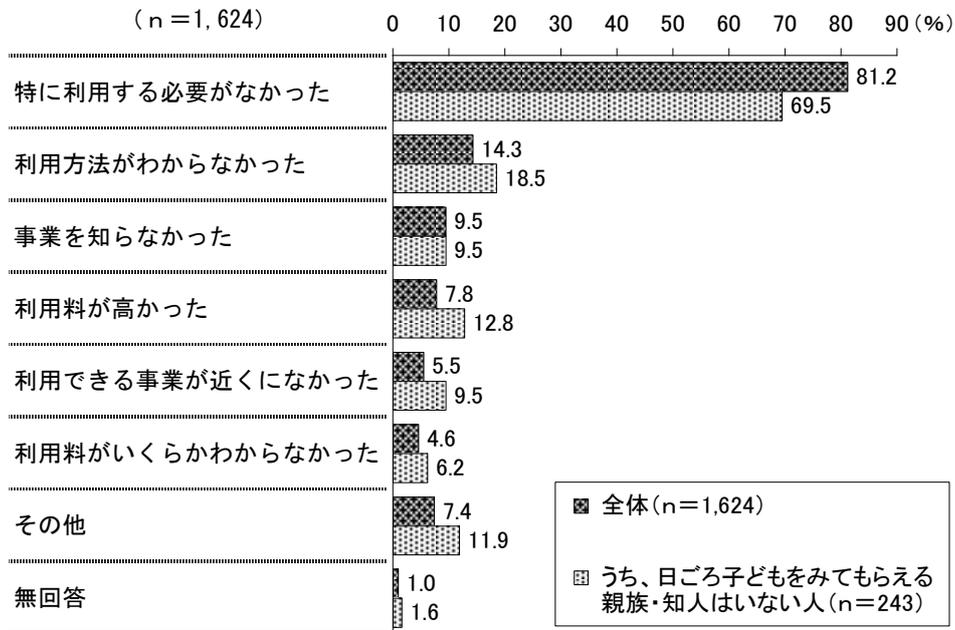
(図表Ⅱ－7－6)

図表Ⅱ－7－6 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由－地域別



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人（243人）の結果をみると、「利用料が高かった」が12.8%となっている。（図表Ⅱ-7-7）

図表Ⅱ-7-7 不定期の教育・保育事業を利用しなかった理由
 一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人との比較

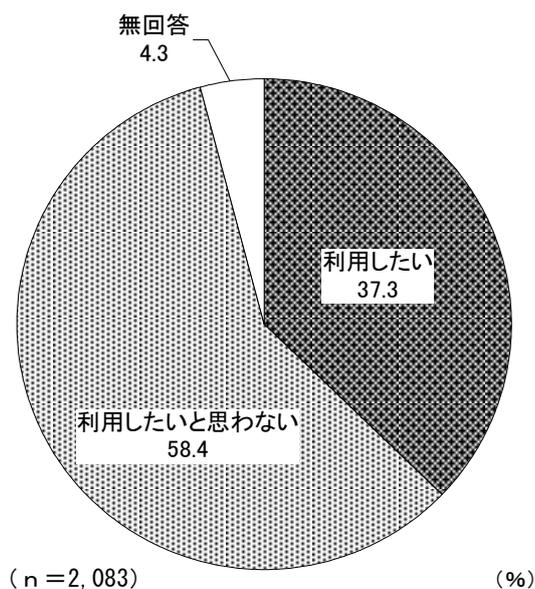


(4) 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望

問34 今後、不定期の教育・保育事業のいずれかを利用したいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

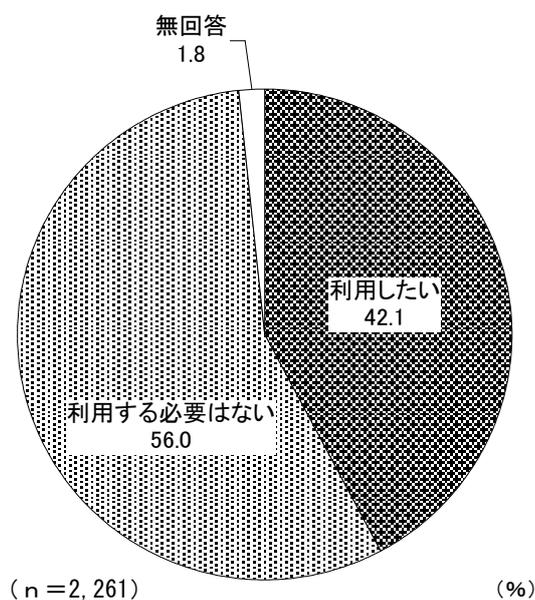
今後、不定期の教育・保育事業のいずれかを利用したいか聞いたところ、「利用したい」が37.3%、「利用したいと思わない」が58.4%となっている。(図表Ⅱ-7-8)

図表Ⅱ-7-8 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望



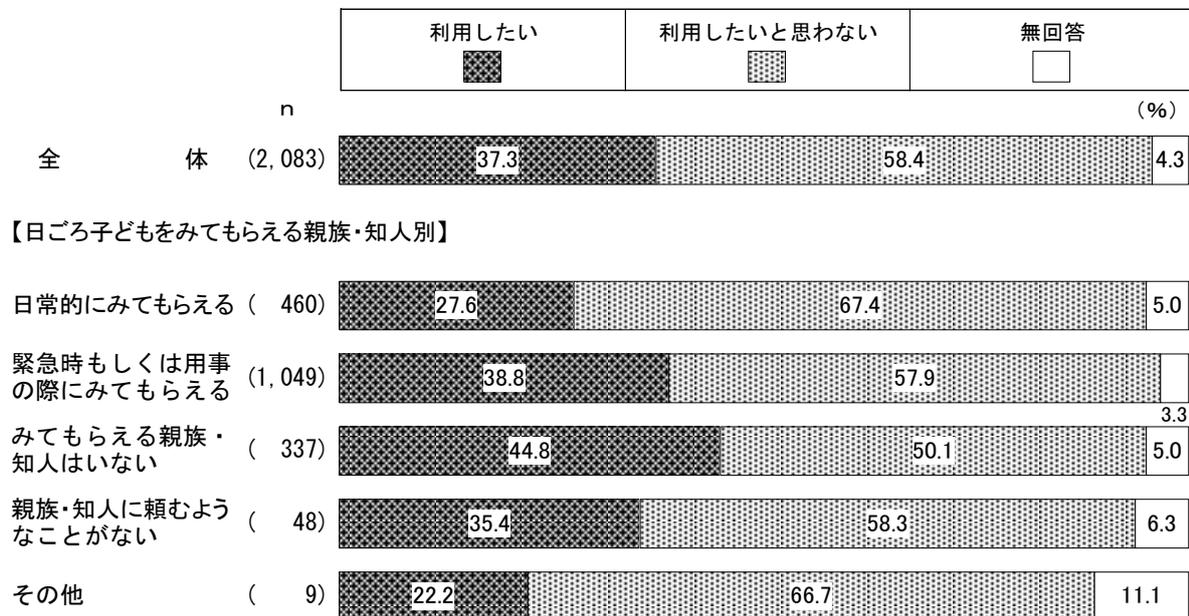
平成25年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅱ-7-9)

図表Ⅱ-7-9 (参考) 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望 (平成25年調査)



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、「利用したい」はみてもらえる親族・知人はいない人で44.8%と高くなっている。（図表Ⅱ－7－10）

図表Ⅱ－7－10 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望－日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別

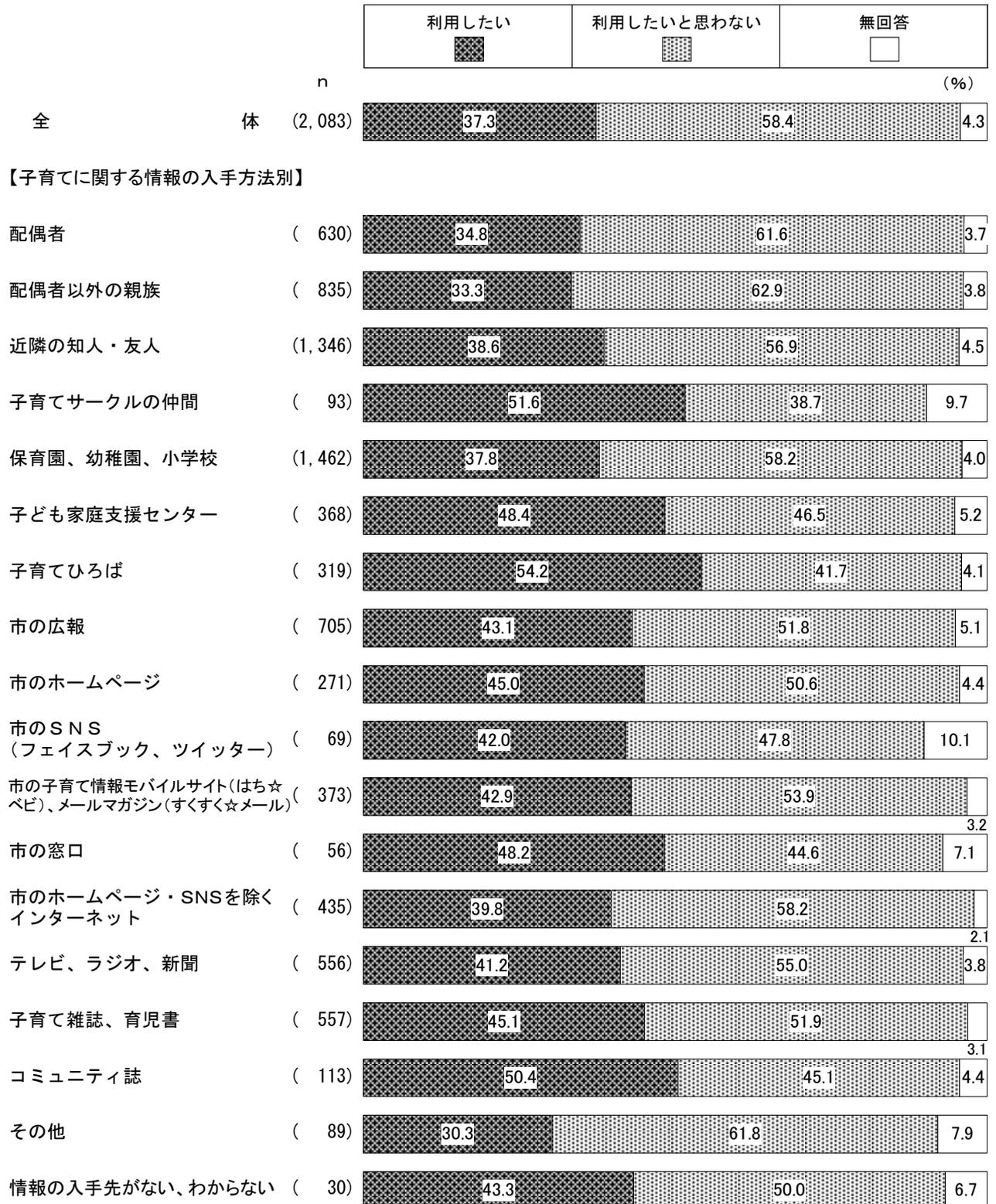


子育てに関する情報の入手方法（問56）別にみると、「利用したい」は子育てひろばで54.2%、子育てサークルの仲間で51.6%、コミュニティ誌で50.4%、子ども家庭支援センターで48.4%と高くなっている。

一方、「利用したいと思わない」は配偶者以外の親族で62.9%と高くなっている。

（図表Ⅱ－7－11）

図表Ⅱ－7－11 不定期の教育・保育事業の今後の利用希望－子育てに関する情報の入手方法別



(5) 不定期の教育・保育事業の利用希望日数

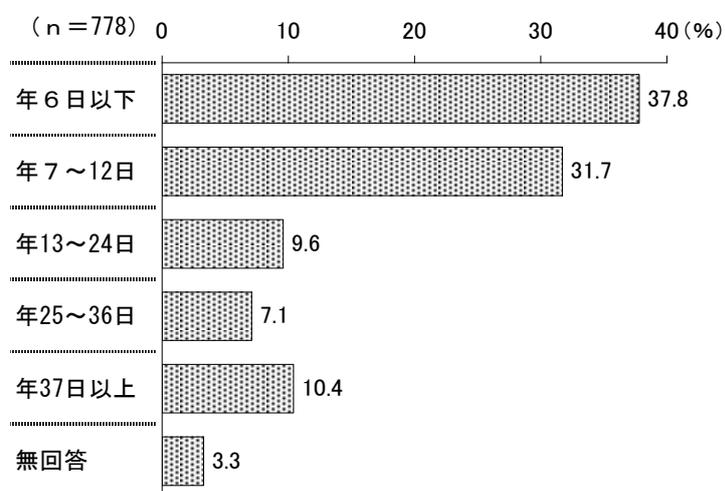
【問34で「利用したい」と回答した方のみ】

問35 利用する場合、1年間の利用日数は合計で何日程度になると思いますか。□内に数字でご記入ください。

今後、不定期の教育・保育事業のいずれかを「利用したい」と答えた人(778人)に、1年間の利用日数は合計で何日程度になると思うか聞いたところ、「年6日以下」が37.8%で最も高く、次いで「年7～12日」(31.7%)、「年37日以上」(10.4%)、「年13～24日」(9.6%)の順となっている。

(図表Ⅱ－7－12)

図表Ⅱ－7－12 不定期の教育・保育事業の利用希望日数



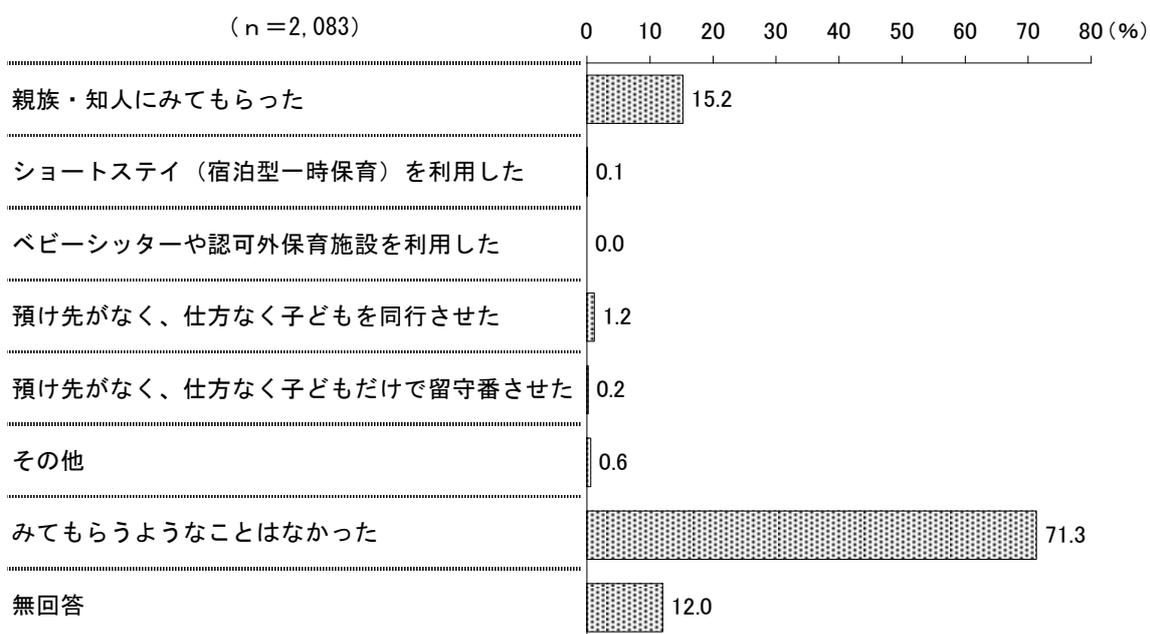
(6) 子どもを泊りがけでみてもらった際の対処方法

問36 宛て名のお子さんを泊りがけでみてもらわなければならないことはありましたか。

(1) 泊りがけでみてもらった際の対処方法として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子どもを泊りがけでみてもらった際の対処方法を聞いたところ、「親族・知人にみてもらった」が15.2%となっており、これ以外はいずれもわずかとなっている。一方、「みてもらうようなことはなかった」は71.3%となっている。(図表Ⅱ-7-13)

図表Ⅱ-7-13 子どもを泊りがけでみてもらった際の対処方法



(7) 子どもを泊りがけでみてもらった日数

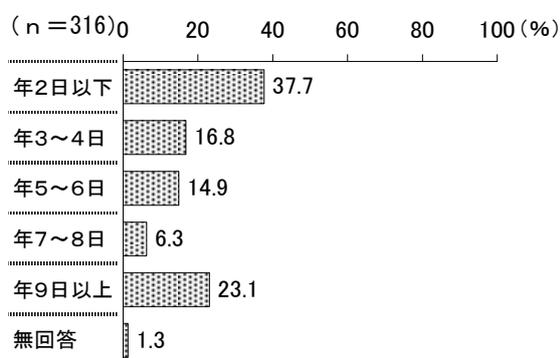
問36 宛て名のお子さんを泊りがけでみてもらわなければならないことはありましたか。

(2) (1) で○をつけた対処方法について、この1年間で何日程度ありましたか。□内に数字でご記入ください。

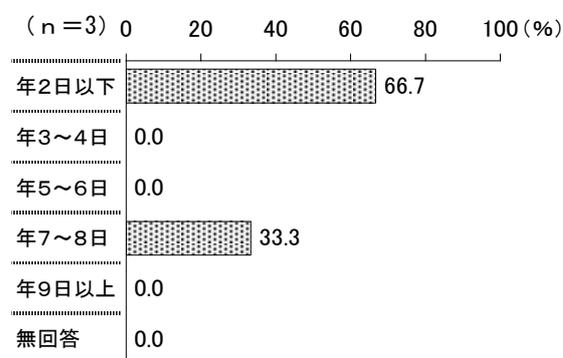
子どもを泊まりがけでみてもらったことがあったと答えた人に、それはこの1年間で何日程度あったか聞いた。(図表Ⅱ-7-14)

図表Ⅱ-7-14 子どもを泊りがけでみてもらった日数

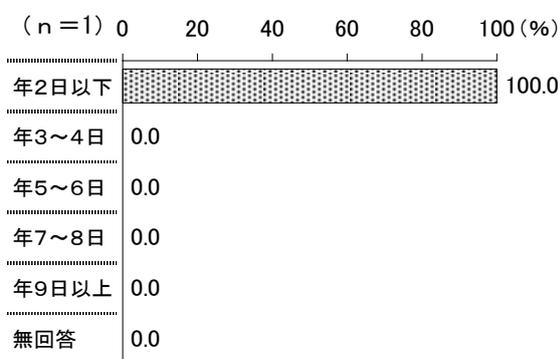
①親族・知人にみてもらった



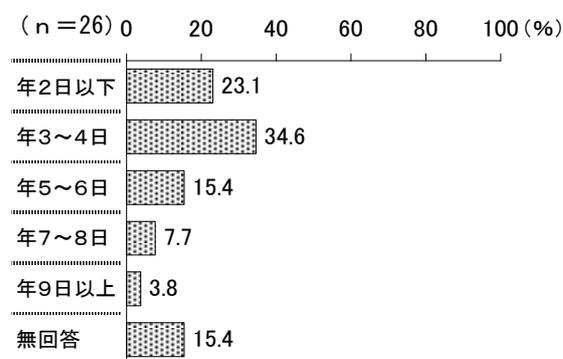
②ショートステイ(宿泊型一時保育)を利用した



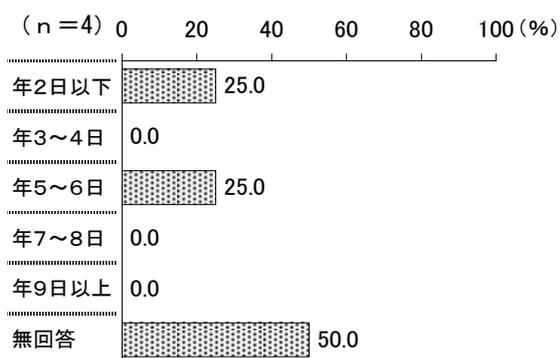
③ベビーシッターや認可外保育施設を利用した



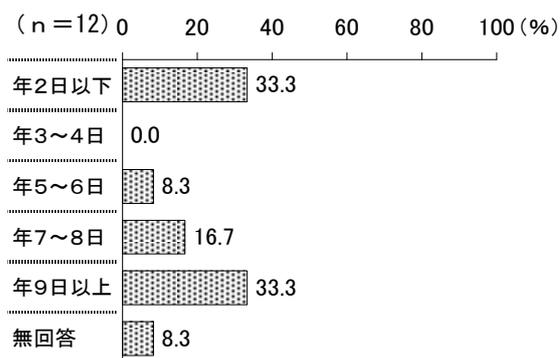
④預け先がなく、仕方なく子どもを同行させた



⑤預け先がなく、仕方なく子どもだけで留守番させた



⑥その他



8 地域の子育て支援事業（子育てひろば）の利用状況

(1) 子育てひろばの利用状況

問37 子育てひろばの利用状況についてうかがいます。

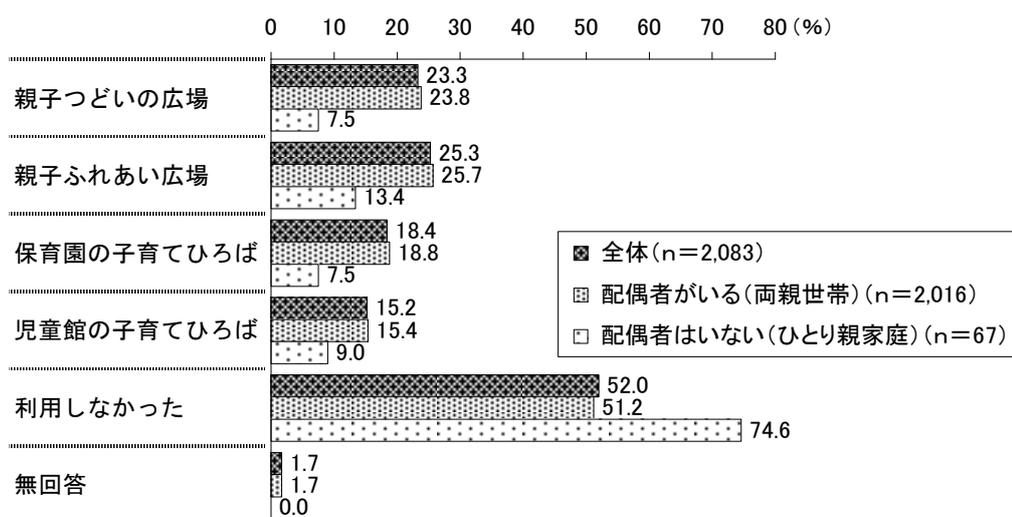
(1) 子育てひろばについて、利用したことがある番号すべてに○をつけてください。

子育てひろばについて、利用したことがあるものを聞いたところ、「親子ふれあい広場」が25.3%で最も高く、次いで「親子つどいの広場」(23.3%)、「保育園の子育てひろば」(18.4%)、「児童館の子育てひろば」(15.2%)の順となっている。一方、「利用しなかった」は52.0%となっている。

配偶者の有無別にみると、「親子つどいの広場」は配偶者がいる人(両親世帯)の方が16.3ポイント、「親子ふれあい広場」は配偶者がいる人(両親世帯)の方が12.3ポイント、「保育園の子育てひろば」は配偶者がいる人(両親世帯)の方が11.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「利用しなかった」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が23.4ポイント高くなっている。

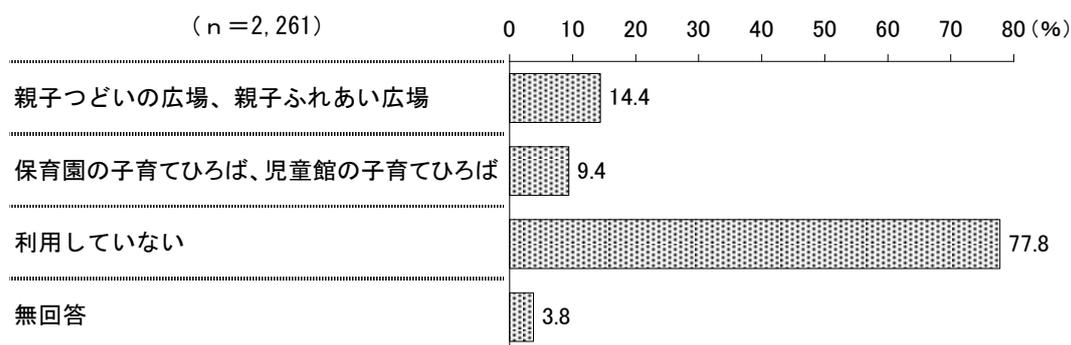
(図表Ⅱ-8-1)

図表Ⅱ-8-1 子育てひろばの利用状況-配偶者の有無別



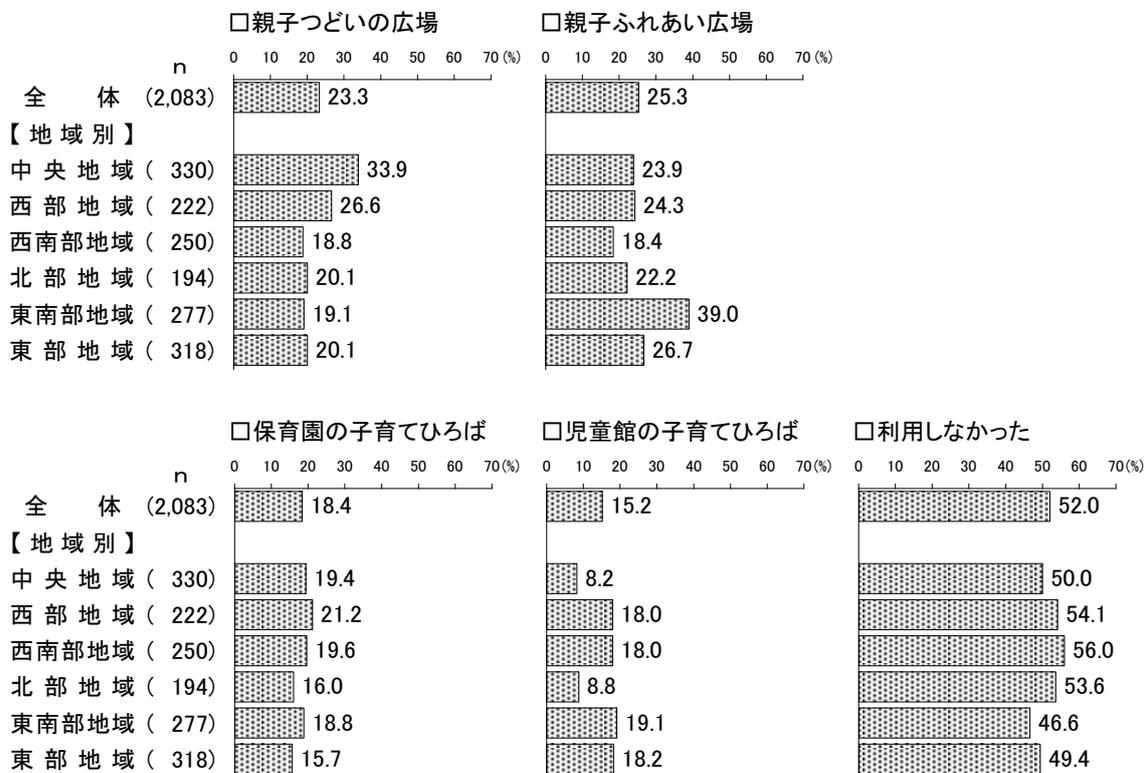
平成25年調査との比較は、選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅱ-8-2)

図表Ⅱ-8-2 (参考) 子育てひろばの利用状況(平成25年調査)



地域別にみると、「親子つどいの広場」は中央地域で33.9%と高くなっている。「親子ふれあい広場」は東南部地域で39.0%と高くなっている。(図表Ⅱ－8－3)

図表Ⅱ－8－3 子育てひろばの利用状況－地域別



(2) 子育てひろばの利用回数

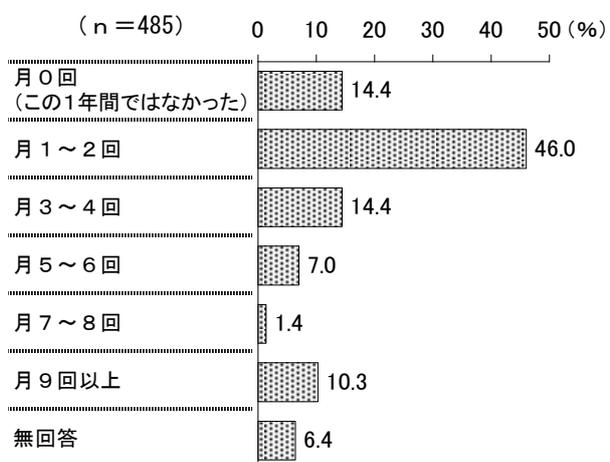
問37 子育てひろばの利用状況についてうかがいます。

(2)(1)で○をつけたひろばについて、この1年間で月におおよそ何回利用しましたか。□内に数字でご記入ください。

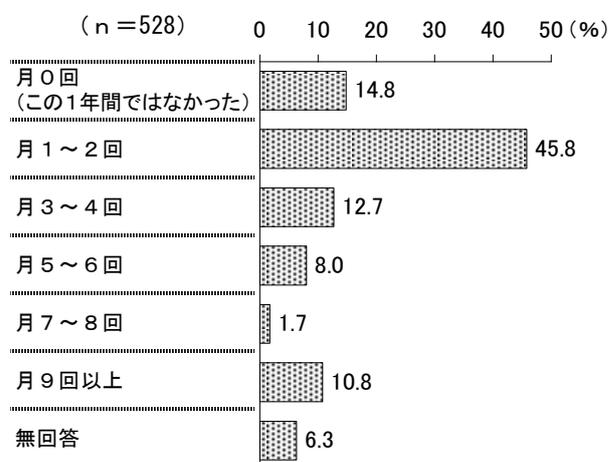
子育てひろばを利用したことがあると答えた人に、この1年間でおおよそ何回利用したか聞いたところ、「月1～2回」が4項目すべてで4割台と高くなっている。(図表Ⅱ-8-4)

図表Ⅱ-8-4 子育てひろばの利用回数

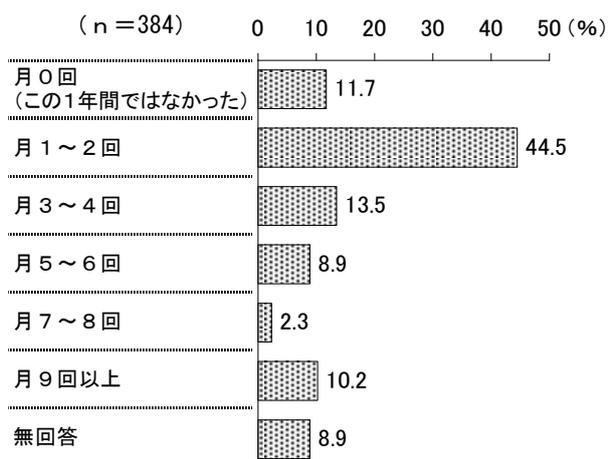
①親子つどいの広場



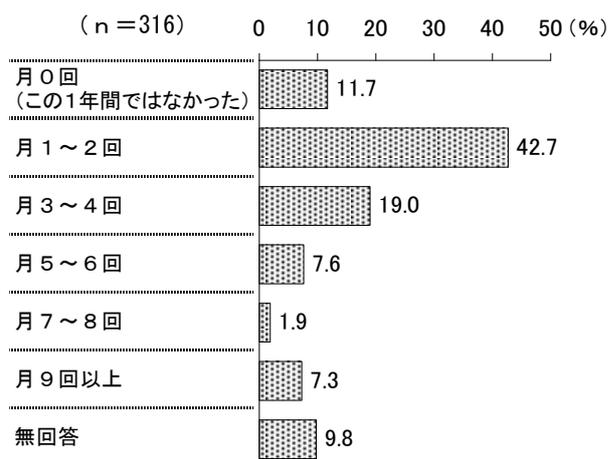
②親子ふれあい広場



③保育園の子育てひろば



④児童館の子育てひろば



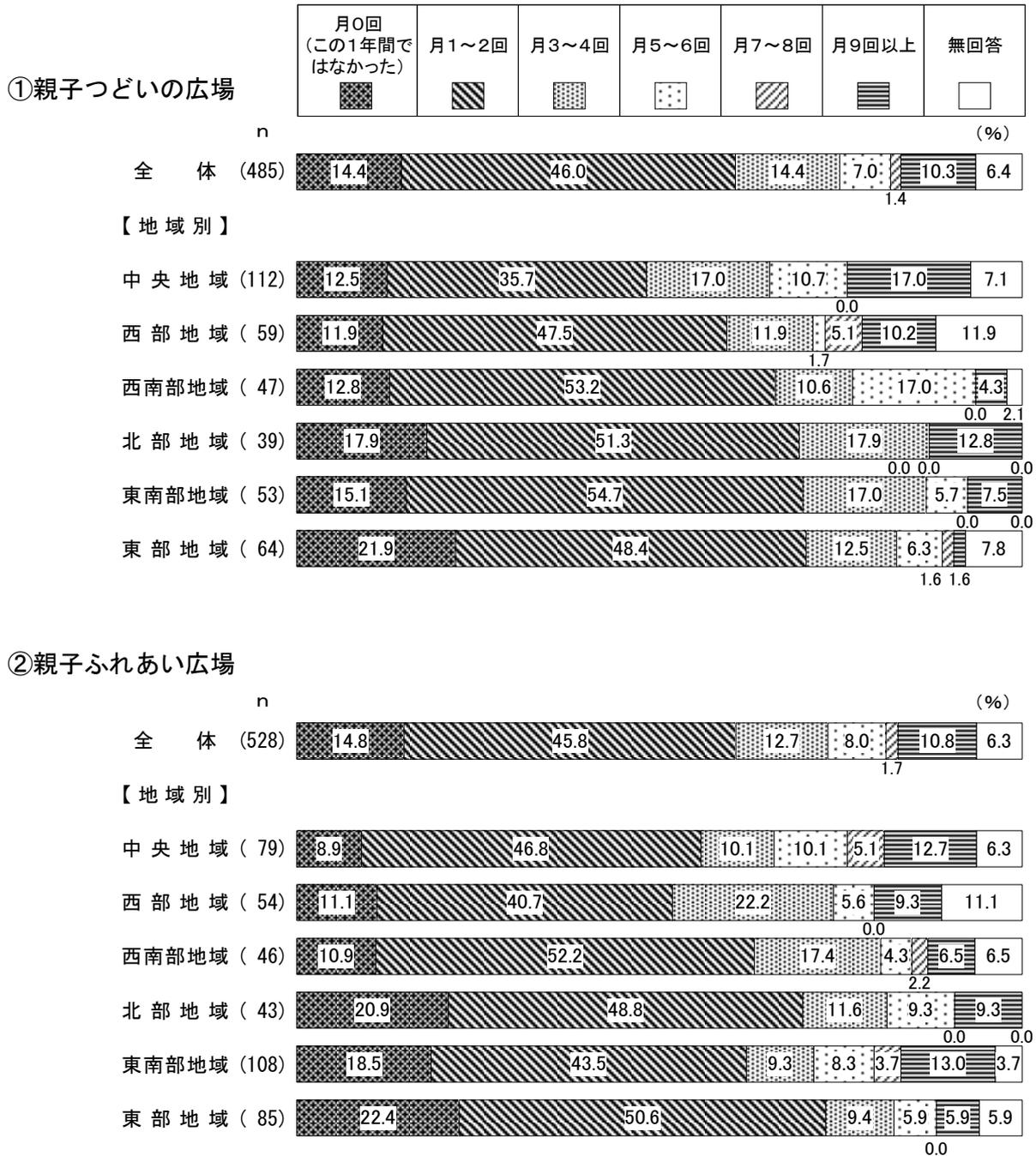
①親子つどいの広場について地域別にみると、「月5～6回」は西南部地域で17.0%となっている。「月9回以上」は中央地域で17.0%となっている。

②親子ふれあい広場について地域別にみると、「月0回（この1年間ではなかった）」は東部地域で22.4%と高くなっている。「月3～4回」は西部地域で22.2%と高くなっている。

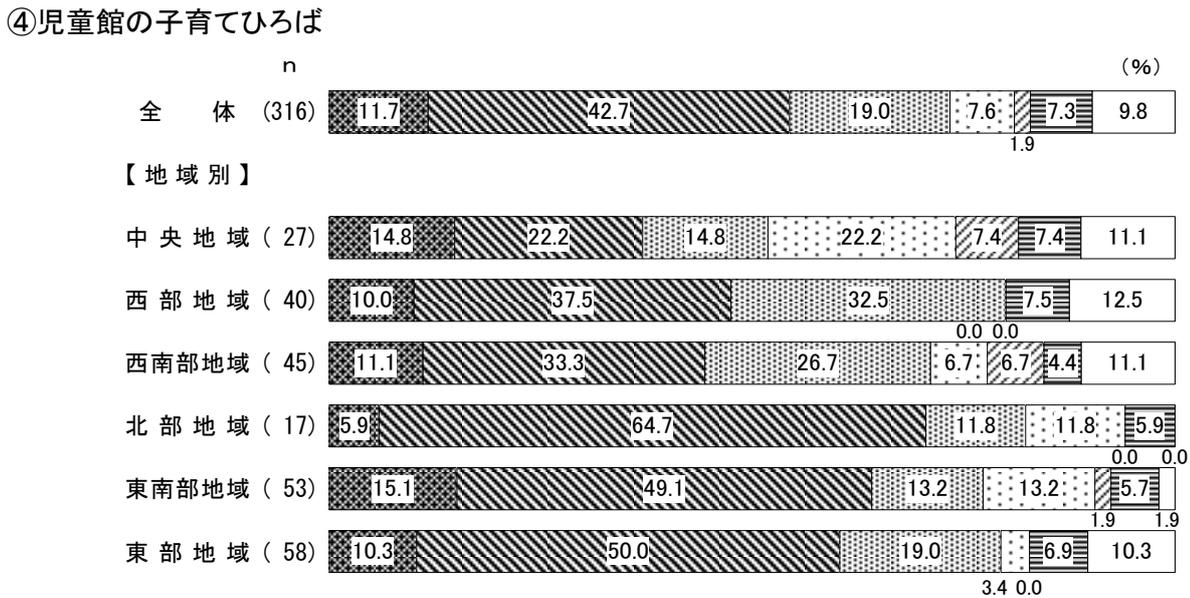
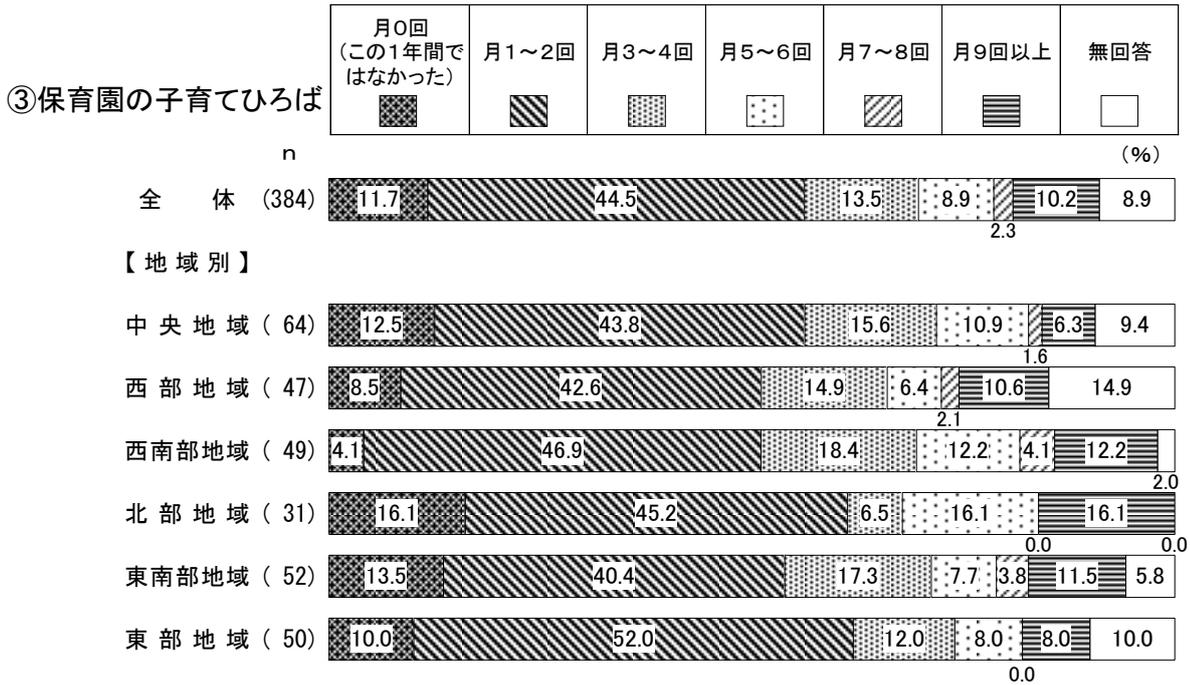
③保育園の子育てひろばについて地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

④児童館の子育てひろばについて地域別にみると、「月3～4回」は西部地域で32.5%と高くなっている。「月5～6回」は中央地域で22.2%と高くなっている。（図表Ⅱ－8－5）

図表Ⅱ－8－5 子育てひろばの利用回数－地域別



図表Ⅱ－８－５（つづき）子育てひろばの利用回数－地域別



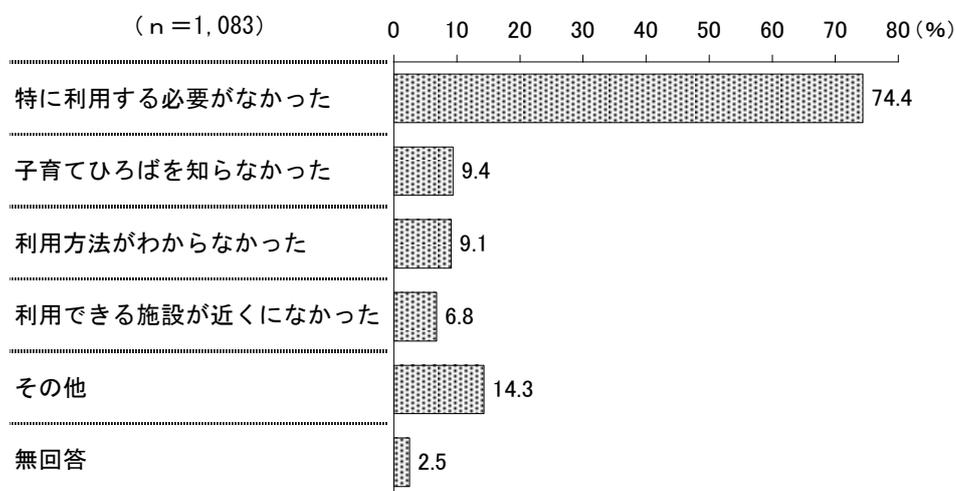
(3) 子育てひろばを利用しなかった理由

【問37で「利用しなかった」と回答した方のみ】

問38 利用しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

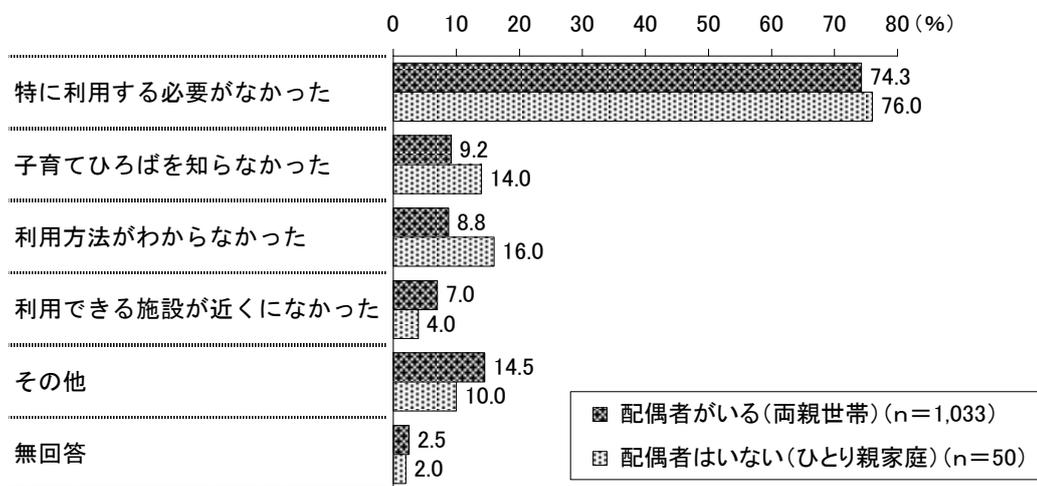
子育てひろばを「利用しなかった」と答えた人(1,083人)に、その理由を聞いたところ、「特に利用する必要がなかった」が74.4%で最も高く、次いで「子育てひろばを知らなかった」(9.4%)、「利用方法がわからなかった」(9.1%)、「利用できる施設が近くになかった」(6.8%)の順となっている。(図表Ⅱ-8-6)

図表Ⅱ-8-6 子育てひろばを利用しなかった理由



配偶者の有無別にみると、「利用方法がわからなかった」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が7.2ポイント高くなっている。(図表Ⅱ-8-7)

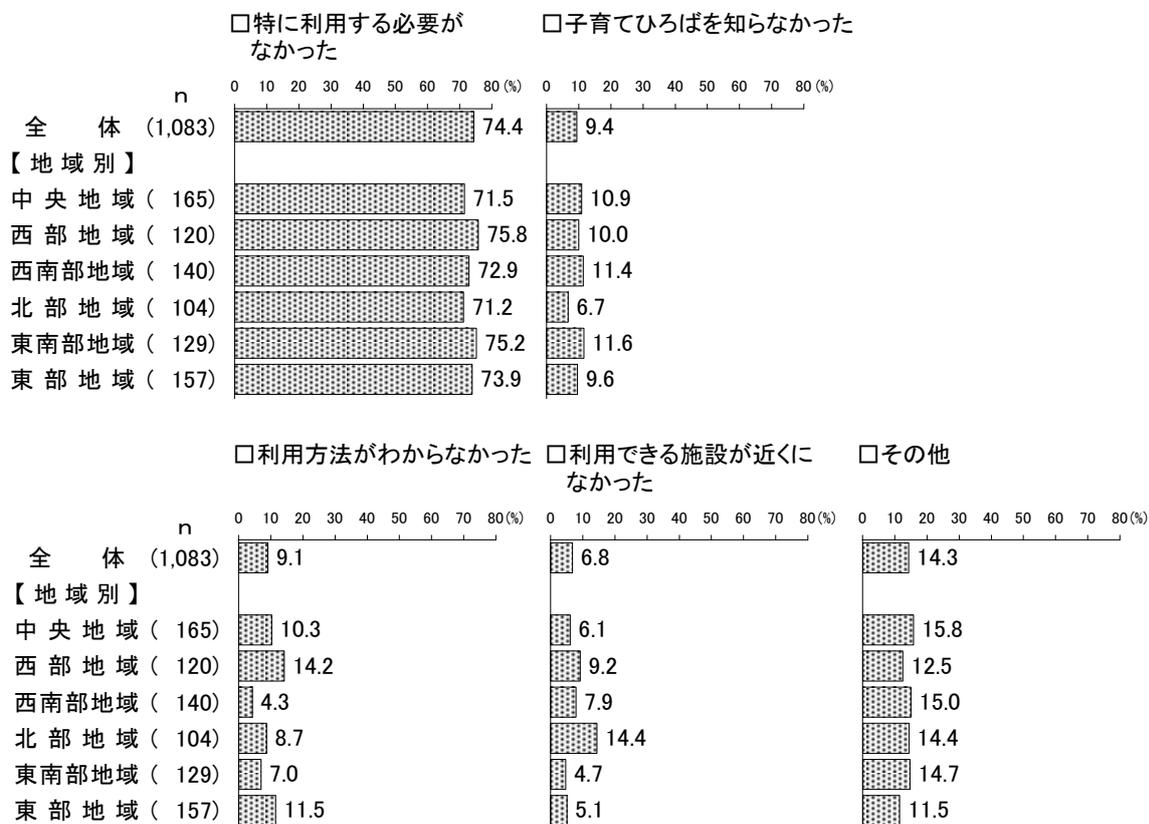
図表Ⅱ-8-7 子育てひろばを利用しなかった理由-配偶者の有無別



地域別にみると、「利用できる施設が近くになかった」は北部地域で14.4%となっている。

(図表Ⅱ－８－８)

図表Ⅱ－８－８ 子育てひろばを利用しなかった理由—地域別

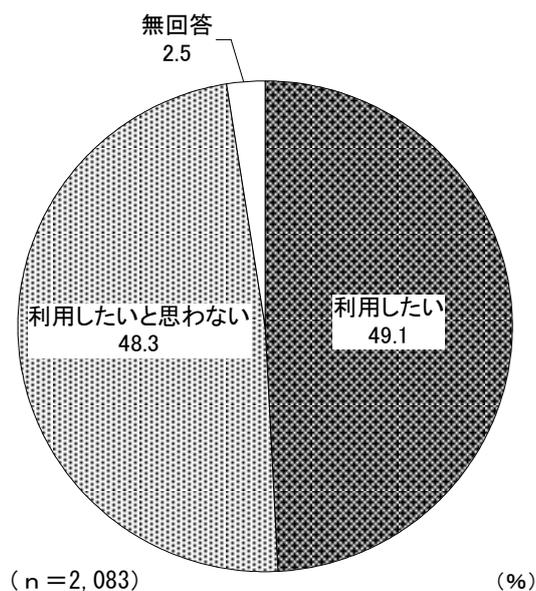


(4) 子育てひろばの今後の利用希望

問39 今後、子育てひろばのいずれかを利用したいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

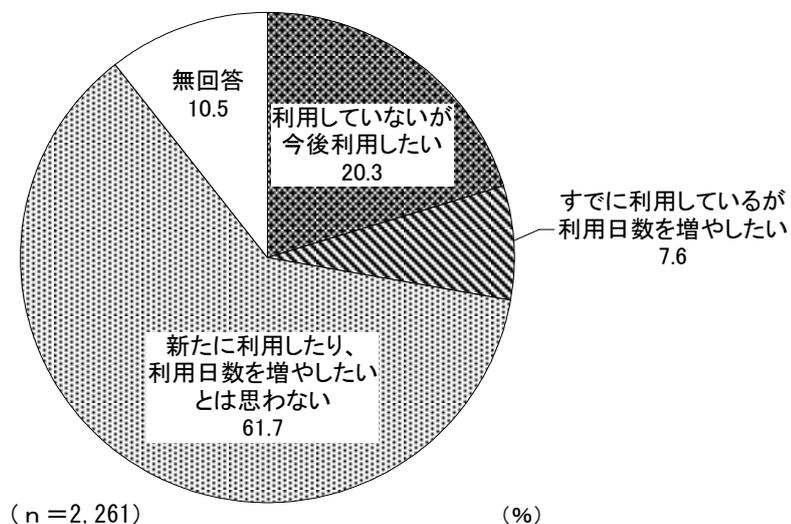
今後、いずれかの子育てひろばを利用したいか聞いたところ、「利用したい」が49.1%、「利用したいと思わない」が48.3%となっている。(図表Ⅱ-8-9)

図表Ⅱ-8-9 子育てひろばの今後の利用希望



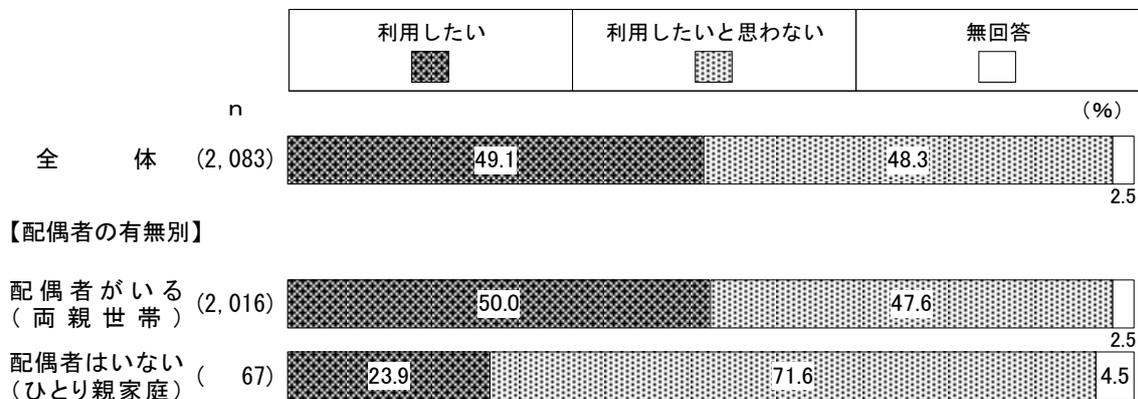
平成25年調査との比較は、選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅱ-8-10)

図表Ⅱ-8-10 (参考) 子育てひろばの今後の利用希望 (平成25年調査)



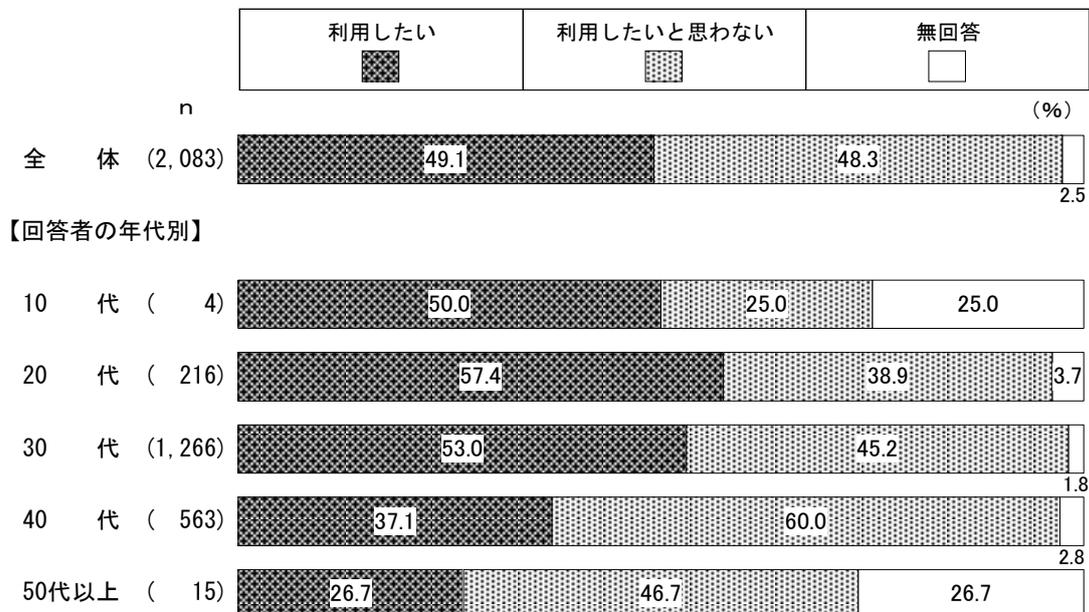
配偶者の有無別にみると、「利用したい」は配偶者がいる人（両親世帯）の方が26.1ポイント高くなっている。（図表Ⅱ－8－11）

図表Ⅱ－8－11 子育てひろばの今後の利用希望－配偶者の有無別



回答者の年代別にみると、「利用したい」は20代で57.4%、30代で53.0%と高くなっている。一方、「利用したいと思わない」は40代で60.0%と高くなっている。（図表Ⅱ－8－12）

図表Ⅱ－8－12 子育てひろばの今後の利用希望－回答者の年代別

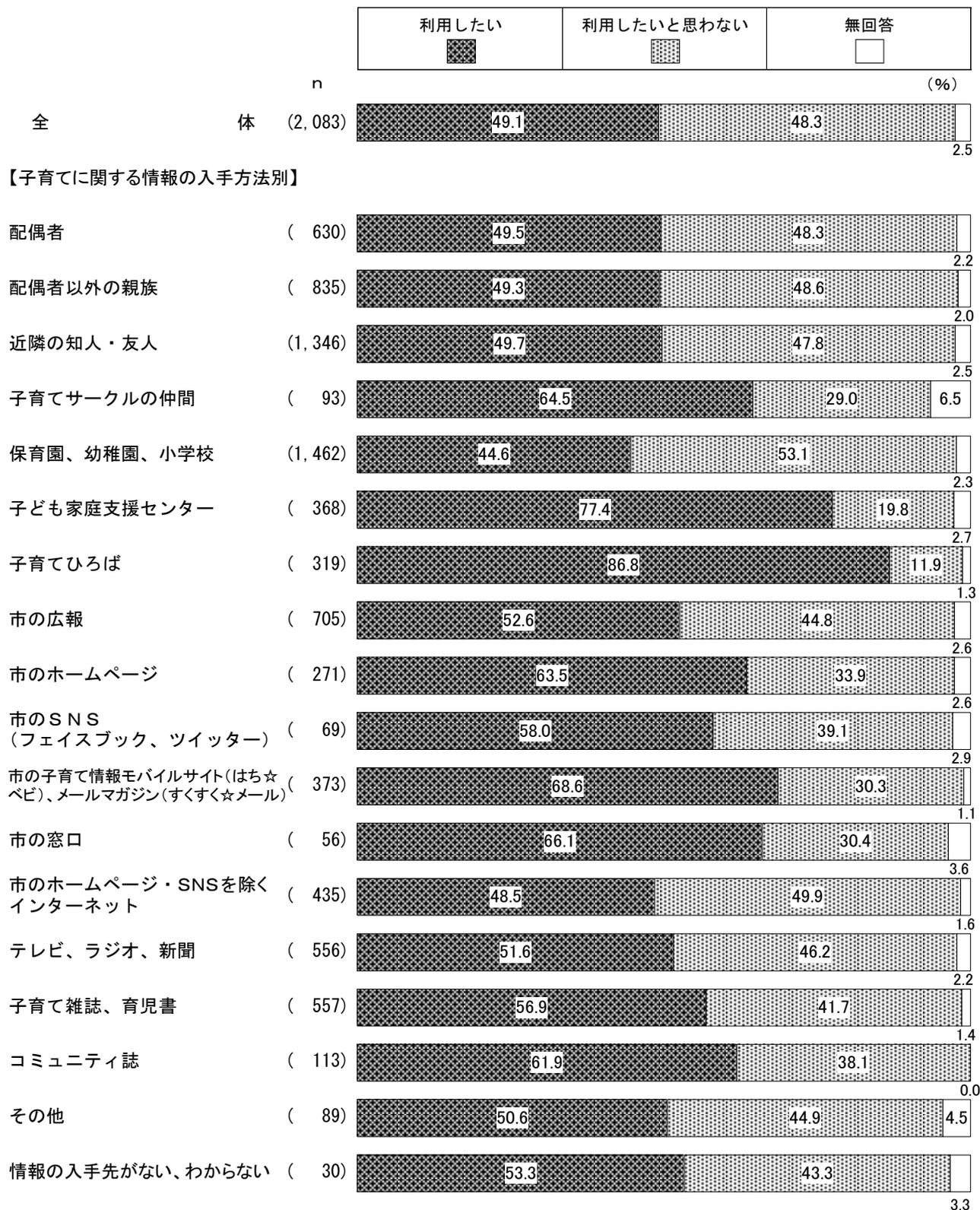


子育てに関する情報の入手方法（問56）別にみると、「利用したい」は子育てひろばで86.8%、子ども家庭支援センターで77.4%、市の子育て情報モバイルサイト（はち☆ベビ）、メールマガジン（すくすく☆メール）で68.6%と高くなっている。

一方、「利用したいと思わない」は保育園、幼稚園、小学校で53.1%と高くなっている。

（図表Ⅱ－8－13）

図表Ⅱ－8－13 子育てひろばの今後の利用希望－子育てに関する情報の入手方法別



(5) 子育てひろばの今後の利用希望回数

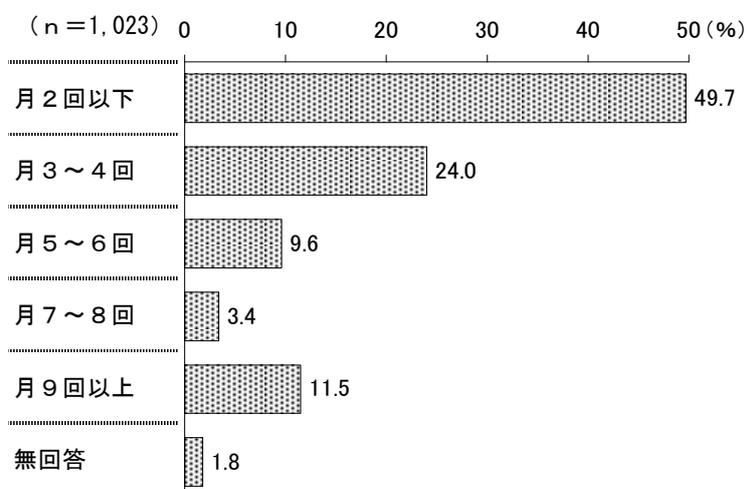
【問39で「利用したい」と回答した方のみ】

問40 月当たりの利用回数はおおよそ何回程度になると思いますか。口内に数字でご記入ください。

今後、いずれかの子育てひろばを「利用したい」と答えた人(1,023人)に、月当たりの利用回数はおおよそ何回程度になると思うか聞いたところ、「月2回以下」が49.7%で最も高く、次いで「月3～4回」(24.0%)、「月9回以上」(11.5%)、「月5～6回」(9.6%)の順となっている。

(図表Ⅱ-8-14)

図表Ⅱ-8-14 子育てひろばの今後の利用希望回数



9 小学校就学後の放課後の過ごし方

(1) 放課後の過ごし方の希望

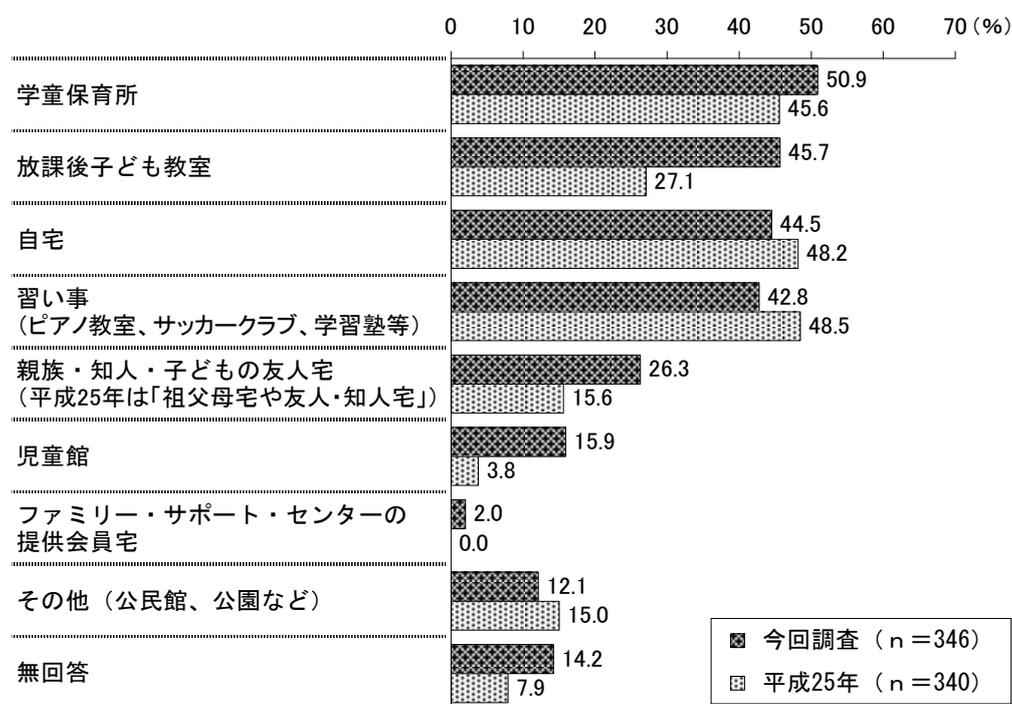
【宛て名のお子さんが平成25年4月1日以前生まれの方のみ】

問41 保護者の方は、宛て名のお子さんが就学後、放課後をどこで過ごしてほしいと考えていますか。

(1) 小学1～3年生 (2) 小学4～6年生それぞれで、過ごしてほしい居場所の番号すべてに○をつけてください。

宛て名の子どもが5歳の人(346人)に、子どもの就学後、放課後をどこで過ごしてほしいと考えているか聞いたところ、(1)小学1～3年生のころでは、「学童保育所」が50.9%で最も高く、次いで「放課後子ども教室」(45.7%)、「自宅」(44.5%)の順となっている。(図表Ⅱ-9-1)

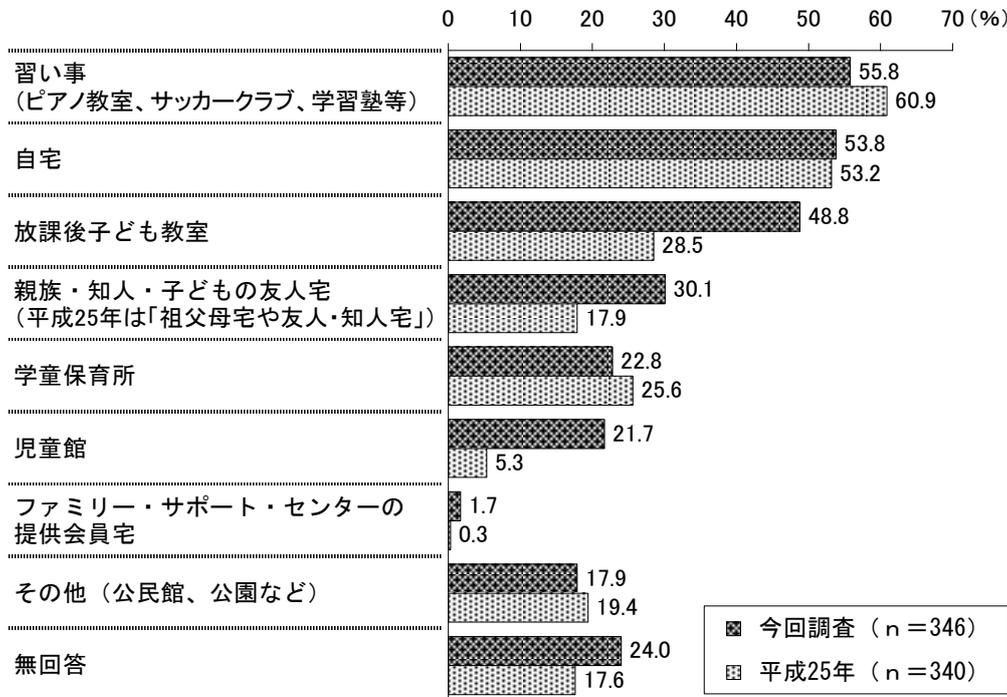
図表Ⅱ-9-1 小学1～3年生のころの放課後の過ごし方の希望(経年変化)



(2) 小学4～6年生のころでは、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が55.8%で最も高く、次いで「自宅」（53.8%）、「放課後子ども教室」（48.8%）の順となっている。

(図表Ⅱ－9－2)

図表Ⅱ－9－2 小学4～6年生のころの放課後の過ごし方の希望（経年変化）



(2) ファミリー・サポート・センターの利用希望日数

【問41 (1) (2) で「ファミリー・サポート・センターの提供会員宅」と回答した方のみ】

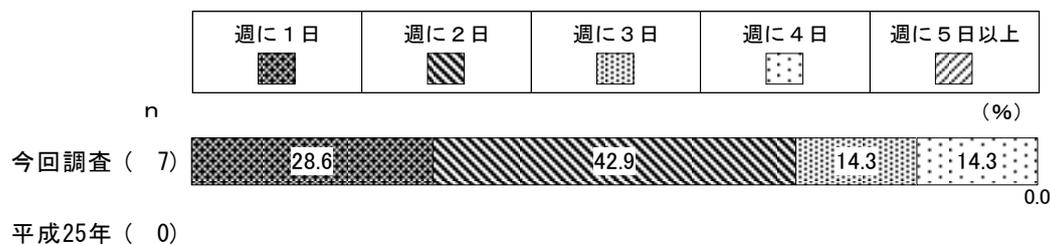
問42 ファミリー・サポート・センターを利用する場合、週に何日利用したいですか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

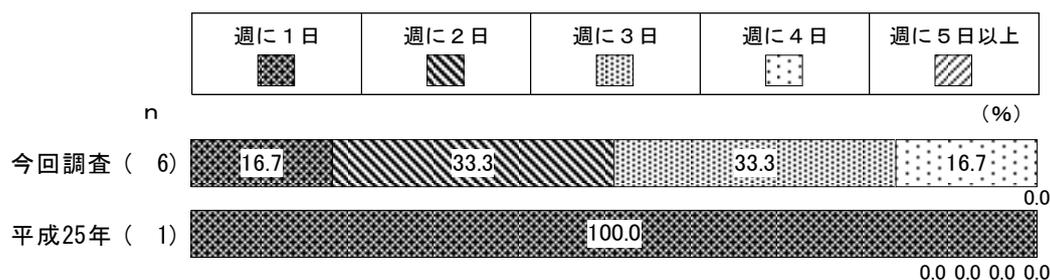
宛て名の子どもが5歳の人のうち、子どもの就学後、放課後を「ファミリー・サポート・センターの提供会員宅」で過ごしてほしいと答えた人に、ファミリー・サポート・センターを週に何日利用したいか聞いた。

希望者は、(1) 小学1～3年生のころで7人、(2) 小学4～6年生のころで6人と母数が少ないため、集計結果を参考に掲載する。(図表Ⅱ-9-3、図表Ⅱ-9-4)

図表Ⅱ-9-3 小学1～3年生のころのファミリー・サポート・センターの利用希望日数
(経年変化)



図表Ⅱ-9-4 小学4～6年生のころのファミリー・サポート・センターの利用希望日数
(経年変化)



10 保護者の職場における仕事と子育ての両立支援制度

(1) 育児休業の取得状況

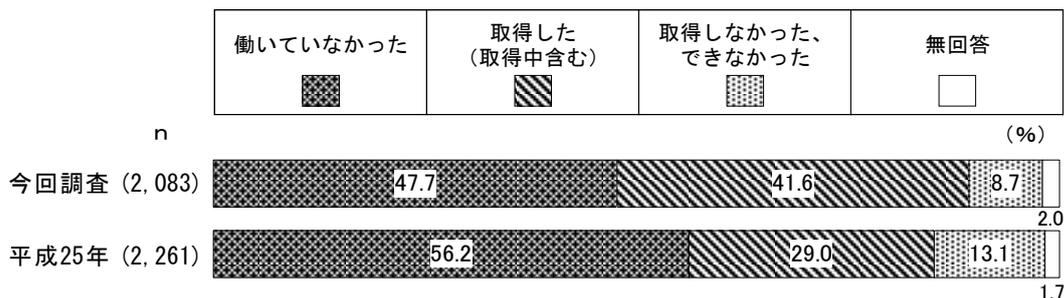
問43 宛て名のお子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。(1) 母親 (2) 父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

宛て名の子どもが生まれた時、育児休業を取得したか聞いたところ、母親では、「取得した（取得中含む）」が41.6%、「取得しなかった、できなかった」が8.7%、「働いていなかった」が47.7%となっている。（図表Ⅱ-10-1）

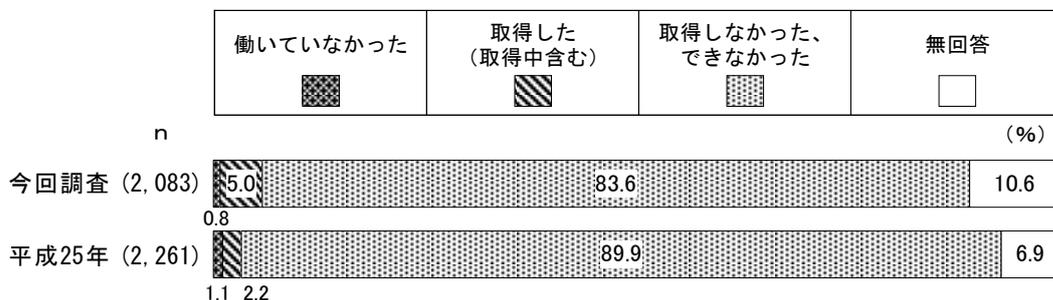
父親では、「取得した（取得中含む）」が5.0%、「取得しなかった、できなかった」が83.6%、「働いていなかった」が0.8%となっている。（図表Ⅱ-10-2）

平成25年調査と比較すると、「取得した（取得中含む）」は母親で12.6ポイント、父親で2.8ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅱ-10-1、図表Ⅱ-10-2）

図表Ⅱ-10-1 母親の育児休業の取得状況（経年変化）



図表Ⅱ-10-2 父親の育児休業の取得状況（経年変化）



(2) 育児休業の希望取得期間と実際の取得期間の差異の状況

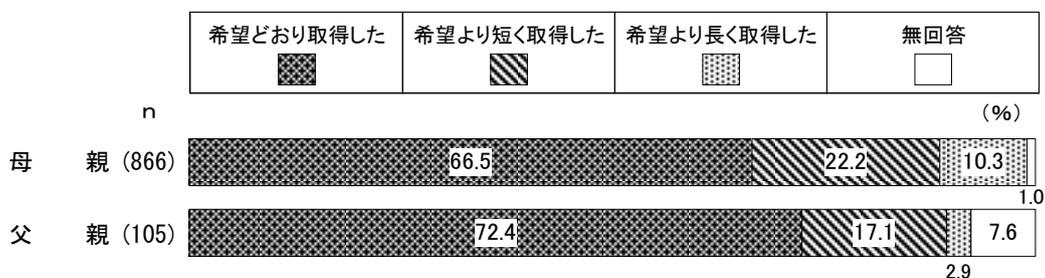
【問43で母親・父親のどちらか、または両方が「取得した（取得中含む）」と回答した方のみ】

問44 希望していた育児休業の取得期間と実際の取得期間について、当てはまる番号1つに○をつけてください。※取得中の方は予定でお答えください。

母親・父親のどちらか、または両方が育児休業を「取得した（取得中含む）」と答えた人（母親866人、父親105人）に、希望していた育児休業の取得期間と実際の取得期間に差異があったか聞いたところ、母親では、「希望どおり取得した」が66.5%で最も高く、次いで「希望より短く取得した」（22.2%）、「希望より長く取得した」（10.3%）の順となっている。

父親では、「希望どおり取得した」が72.4%で最も高く、次いで「希望より短く取得した」（17.1%）、「希望より長く取得した」（2.9%）の順となっている。（図表Ⅱ-10-3）

図表Ⅱ-10-3 育児休業の希望取得期間と実際の取得期間の差異の状況



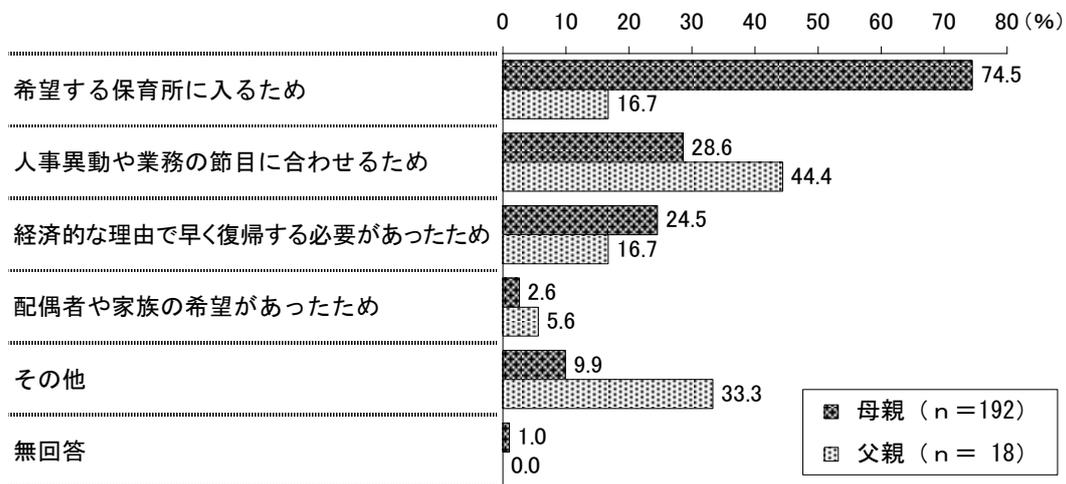
(3) 育児休業を希望より短く取得した理由

【問44で母親・父親のどちらか、または両方が「希望より短く取得した」と回答した方のみ】
 問45 希望より短く取得した理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

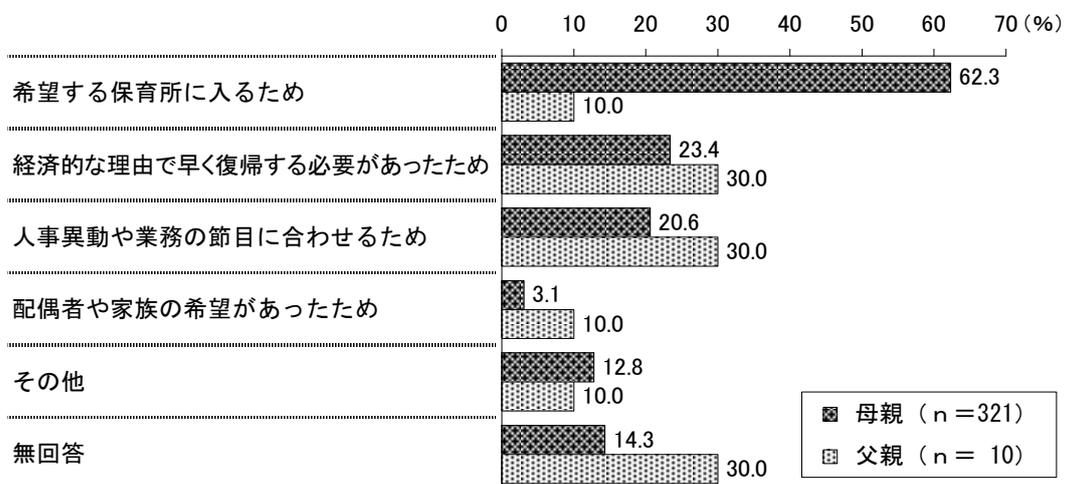
母親・父親のどちらか、または両方が育児休業を「希望より短く取得した」と答えた人（母親192人、父親18人）に、その理由を聞いたところ、母親では、「希望する保育所に入るため」が74.5%で最も高く、次いで「人事異動や業務の節目に合わせるため」（28.6%）、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」（24.5%）の順となっている。

父親では、「人事異動や業務の節目に合わせるため」が44.4%で最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」と「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」がともに16.7%となっている。（図表Ⅱ-10-4）

図表Ⅱ-10-4 育児休業を希望より短く取得した理由



図表Ⅱ-10-5 (参考) 育児休業を希望より短く取得した理由 (平成25年調査)



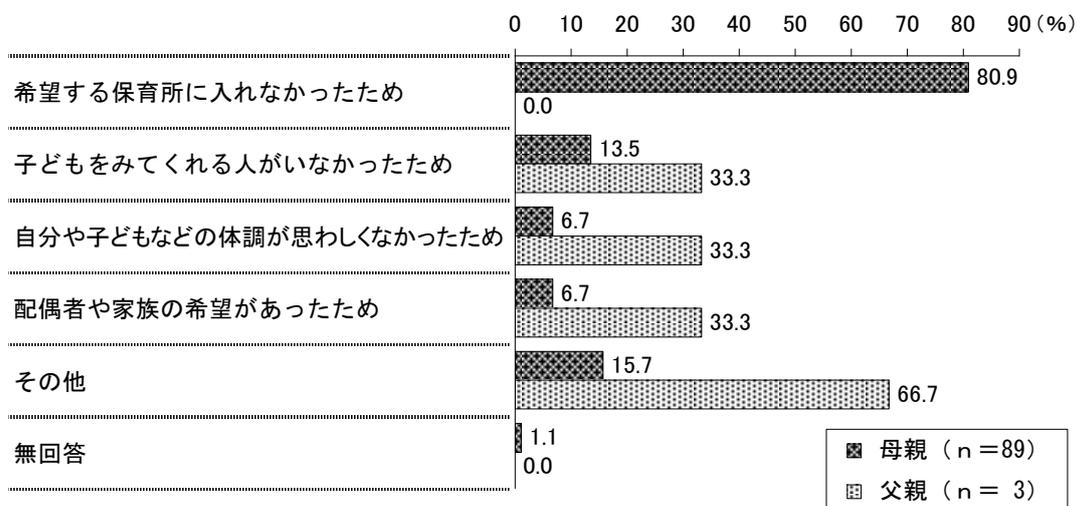
(4) 育児休業を希望より長く取得した理由

【問44で母親・父親のどちらか、または両方が「希望より長く取得した」と回答した方のみ】
 問46 希望より長く取得した理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

母親・父親のどちらか、または両方が育児休業を「希望より長く取得した」と答えた人（母親89人、父親3人）に、その理由を聞いたところ、母親では、「希望する保育所に入れなかったため」が80.9%で最も高くなっている。

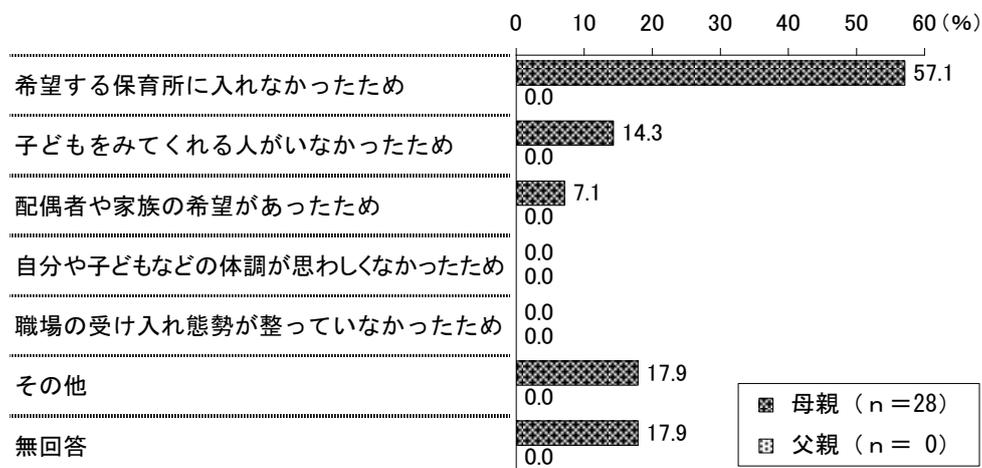
父親については、母数が3人と少ないため、集計結果を参考に掲載する。（図表Ⅱ-10-6）

図表Ⅱ-10-6 育児休業を希望より長く取得した理由



平成25年調査との比較は、母数が少ないため参考に掲載する。（図表Ⅱ-10-7）

図表Ⅱ-10-7（参考）育児休業を希望より長く取得した理由（平成25年調査）



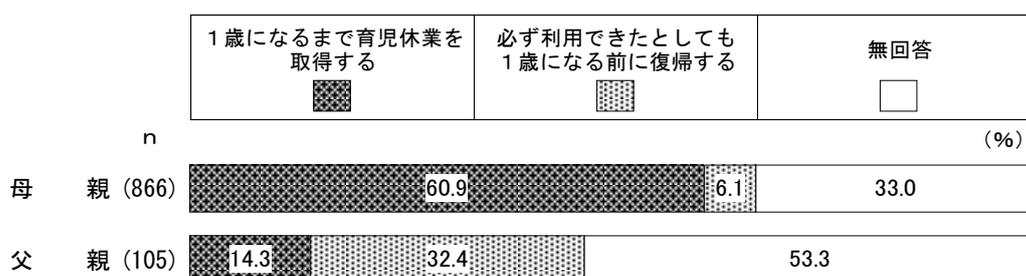
(5) 「子どもが1歳になれば必ず教育・保育事業を利用できる」とした場合の育児休業の取得希望

【問43で母親・父親のどちらか、または両方が「取得した（取得中含む）」と回答した方のみ】

問47 あなたに0歳のお子さんがいたとして、1歳になったときに必ず利用できる教育・保育事業があった場合、1歳になるまで育児休業を取得しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

母親・父親のどちらか、または両方が育児休業を「取得した（取得中含む）」と答えた人（母親866人、父親105人）に、0歳の子どもがいたとして、1歳になったときに必ず利用できる教育・保育事業があった場合、1歳になるまで育児休業を取得するか聞いたところ、「1歳になるまで育児休業を取得する」は母親で60.9%、父親で14.3%となっている。一方、「必ず利用できたとしても1歳になる前に復帰する」は母親で6.1%、父親で32.4%となっている。（図表Ⅱ-10-8）

図表Ⅱ-10-8 「子どもが1歳になれば必ず教育・保育事業を利用できる」とした場合の育児休業の取得希望



(6) 育児休業を取得しなかった理由

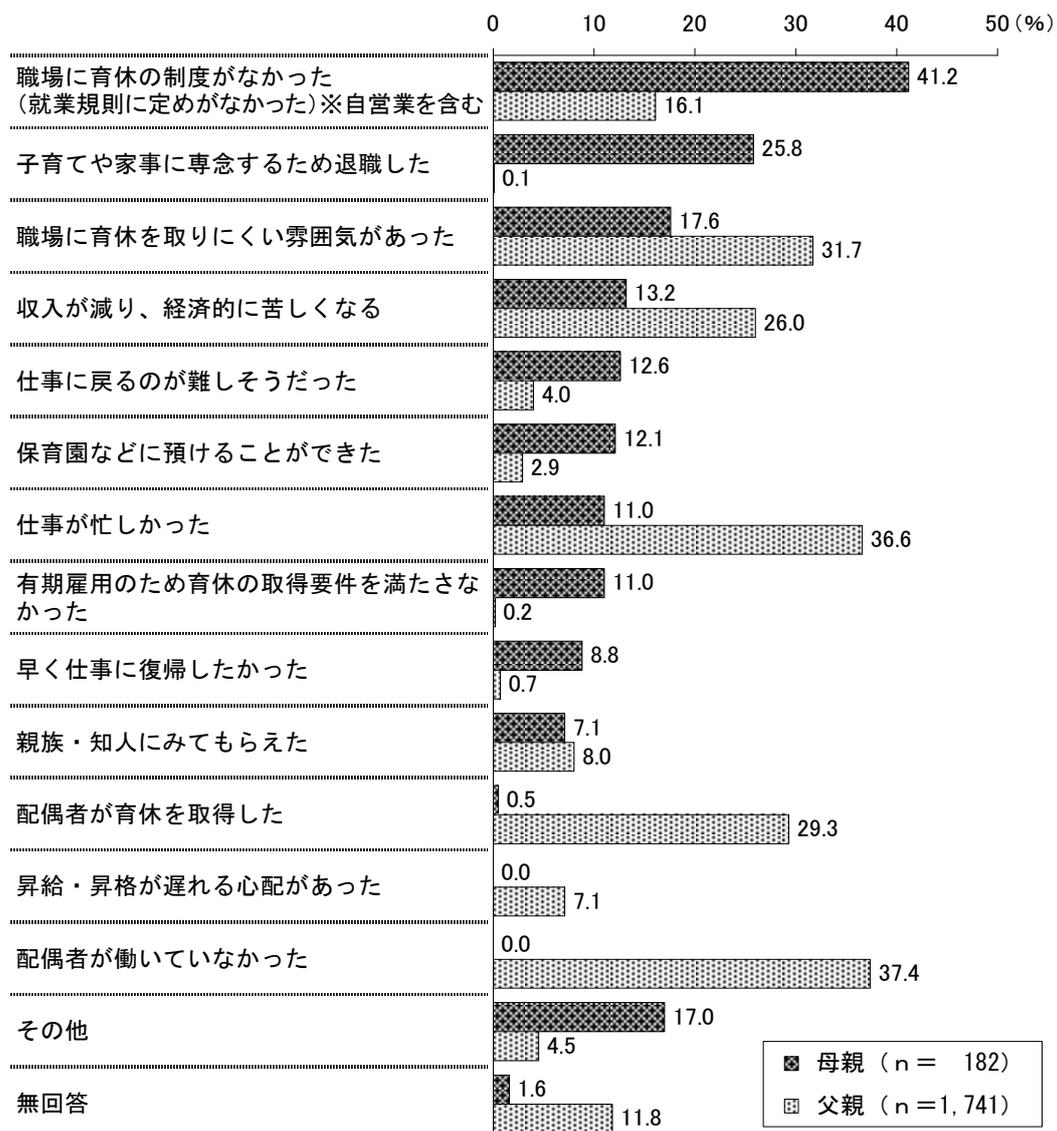
【問43で母親・父親のどちらか、または両方が「取得しなかった、できなかった」と回答した方のみ】

問48 取得しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

母親・父親のどちらか、または両方が育児休業を「取得しなかった、できなかった」と答えた人（母親182人、父親1,741人）に、その理由を聞いたところ、母親では、「職場に育休の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が41.2%で最も高く、次いで「子育てや家事に専念するため退職した」（25.8%）、「職場に育休を取りにくい雰囲気があった」（17.6%）、「収入が減り、経済的に苦しくなる」（13.2%）の順となっている。

父親では、「配偶者が働いていなかった」が37.4%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」（36.6%）、「職場に育休を取りにくい雰囲気があった」（31.7%）、「配偶者が育休を取得した」（29.3%）、「収入が減り、経済的に苦しくなる」（26.0%）の順となっている。（図表Ⅱ-10-9）

図表Ⅱ-10-9 育児休業を取得しなかった理由



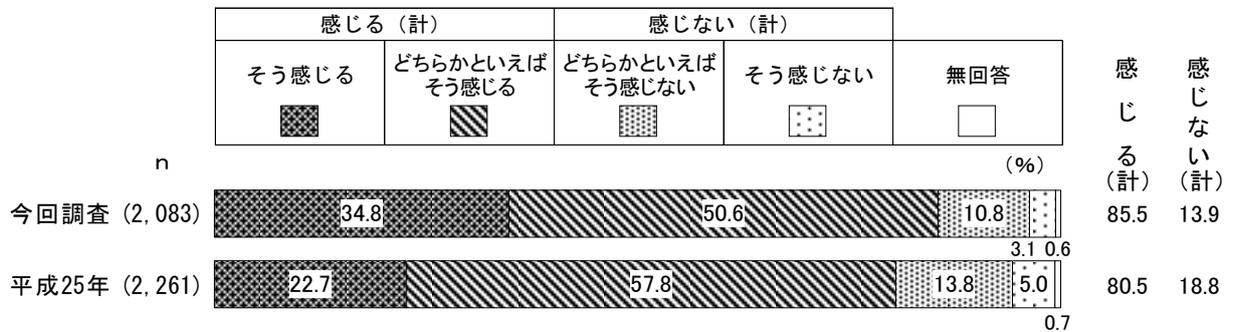
11 日ごろの子育ての状況

(1) 安心して子育てができていると感じるか

問49 あなたは安心して子育てができていると感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

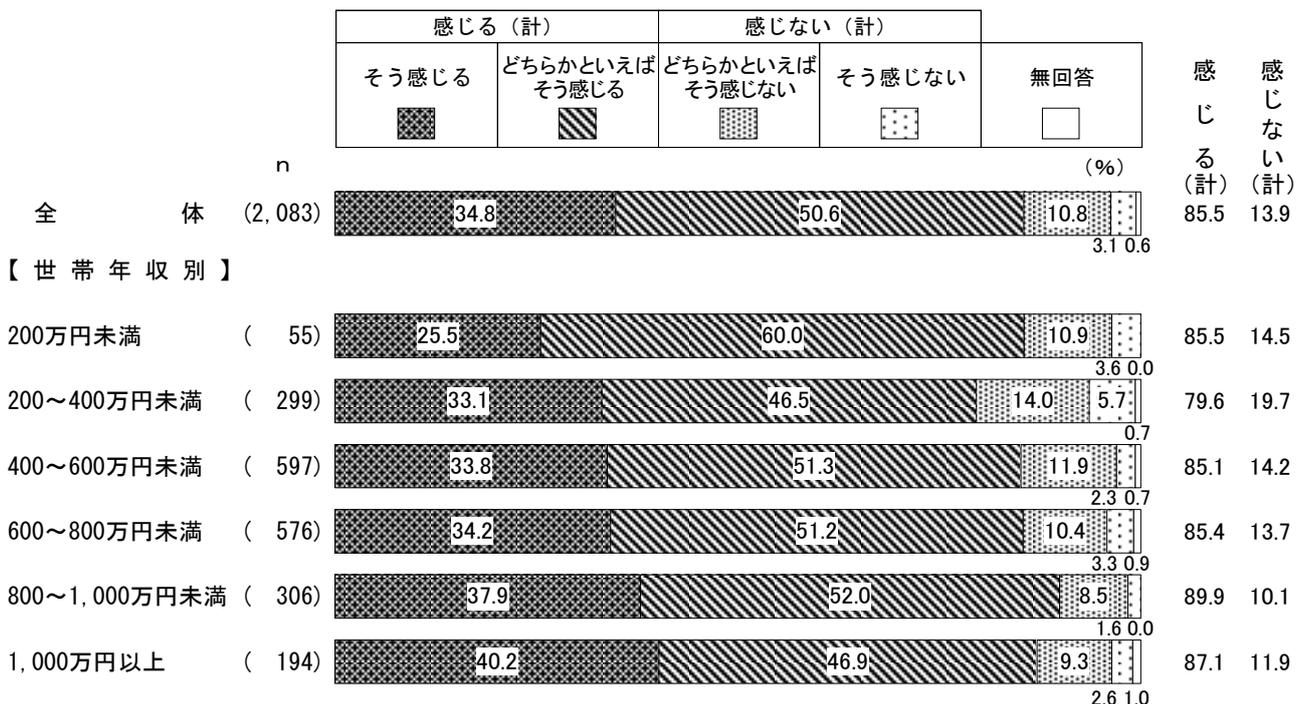
安心して子育てができていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」(34.8%)と「どちらかといえばそう感じる」(50.6%)を合わせた『感じる(計)』が85.5%と高くなっている。一方、「どちらかといえばそう感じない」(10.8%)と「そう感じない」(3.1%)を合わせた『感じない(計)』は13.9%となっている。(図表Ⅱ-11-1)

図表Ⅱ-11-1 安心して子育てができていると感じるか(経年変化)



世帯年収(問8)別にみると、『感じる(計)』は800~1,000万円未満で89.9%と高くなっている。一方、『感じない(計)』は200~400万円未満で19.7%となっている。(図表Ⅱ-11-2)

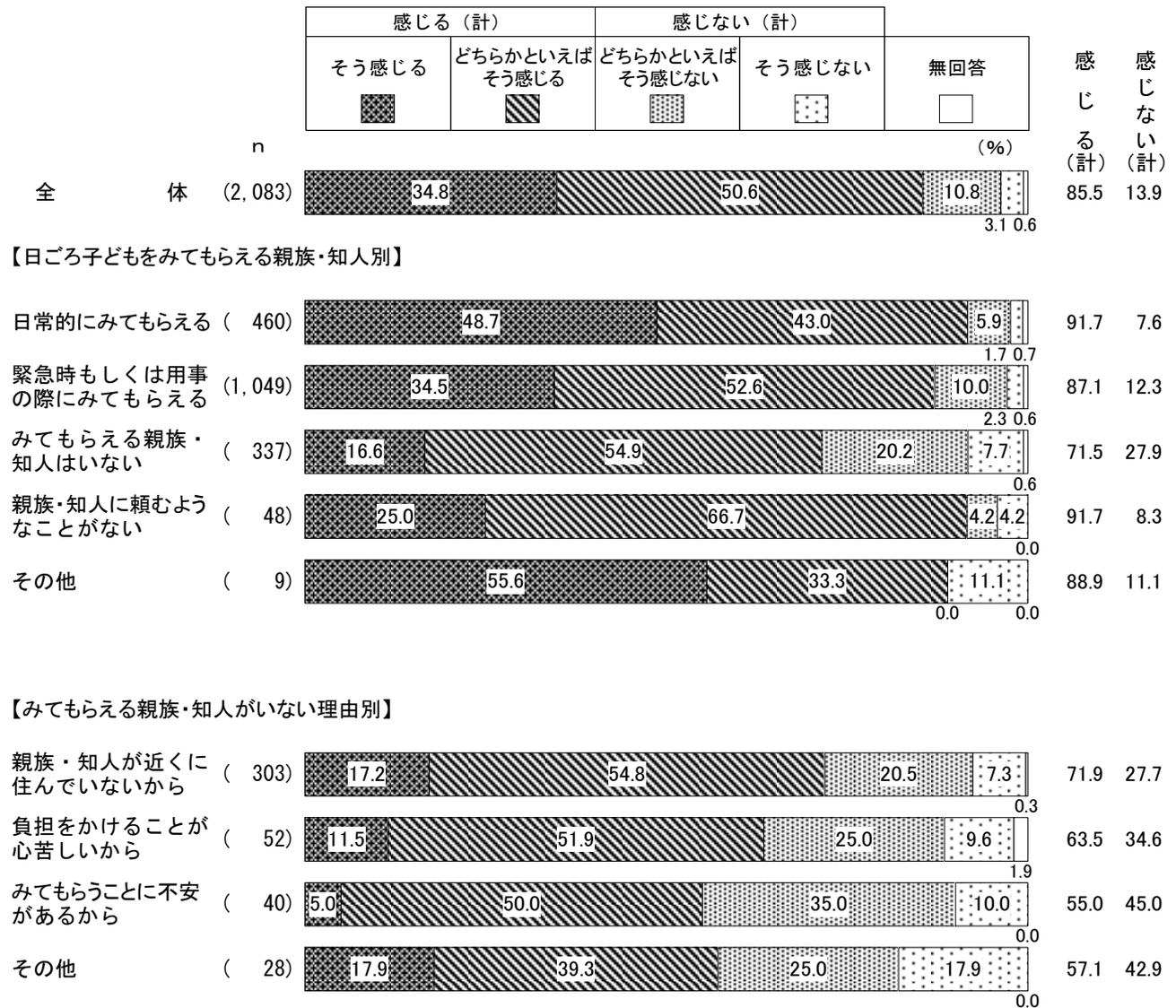
図表Ⅱ-11-2 安心して子育てができていると感じるか-世帯年収別



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、『感じる（計）』は日常的にみてもらえる人で91.7%と高くなっている。一方、『感じない（計）』はみてもらえる親族・知人はいない人で27.9%と高くなっている。

みてもらえる親族・知人がいない理由（問7）別にみると、『感じない（計）』はみてもらうことに不安がある人で45.0%と高くなっている。（図表Ⅱ-11-3）

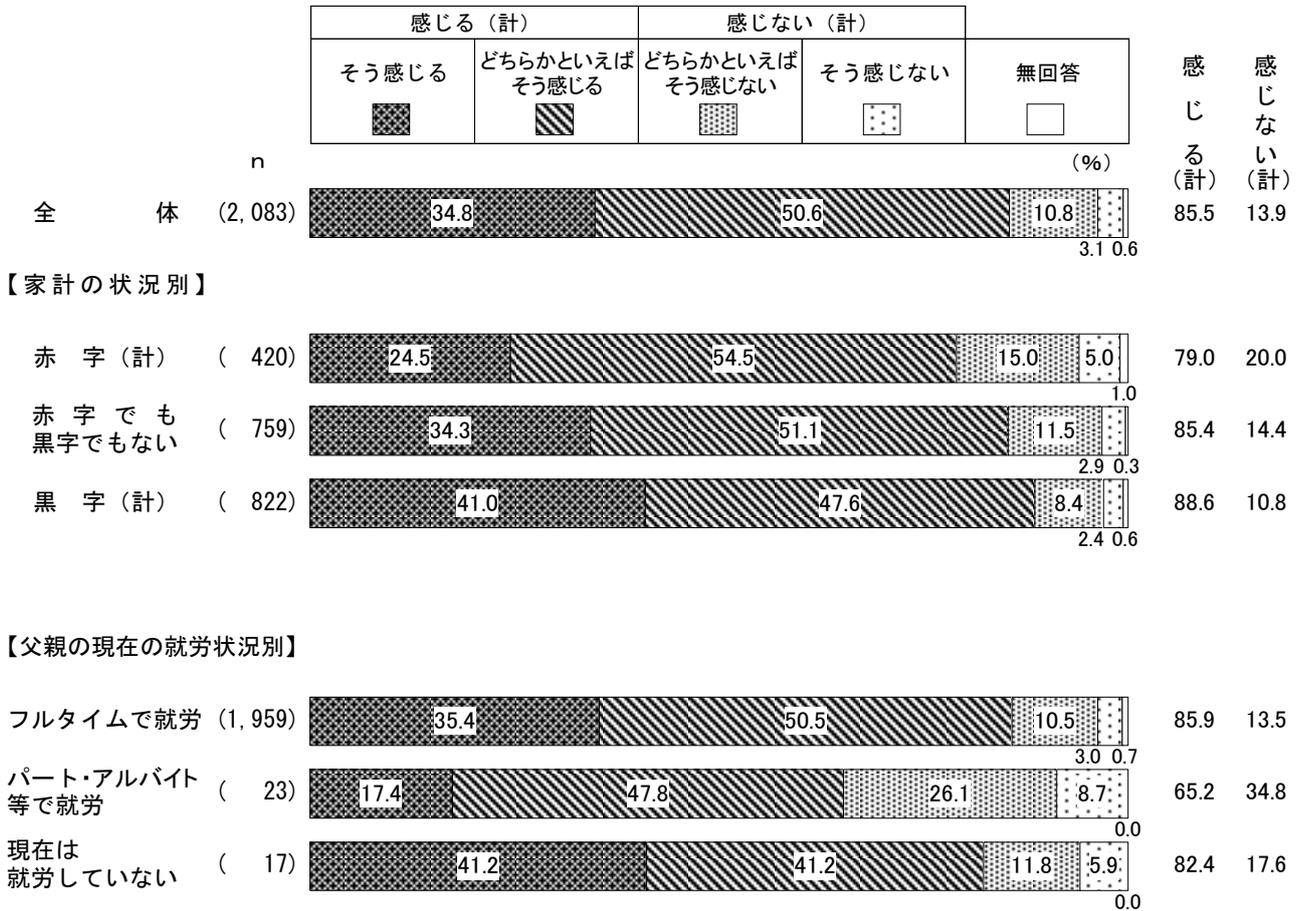
図表Ⅱ-11-3 安心して子育てができていると感じるか
日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別、みてもらえる親族・知人がいない理由別



家計の状況（問9）別にみると、『感じる（計）』は黒字の人で88.6%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は赤字の人で20.0%と高くなっている。

父親の現在の就労状況（問12（1））別にみると、『感じる（計）』はパート・アルバイト等で就労している人で34.8%と高くなっている。（図表Ⅱ-11-4）

図表Ⅱ-11-4 安心して子育てができていると感じるか—家計の状況別、父親の現在の就労状況別



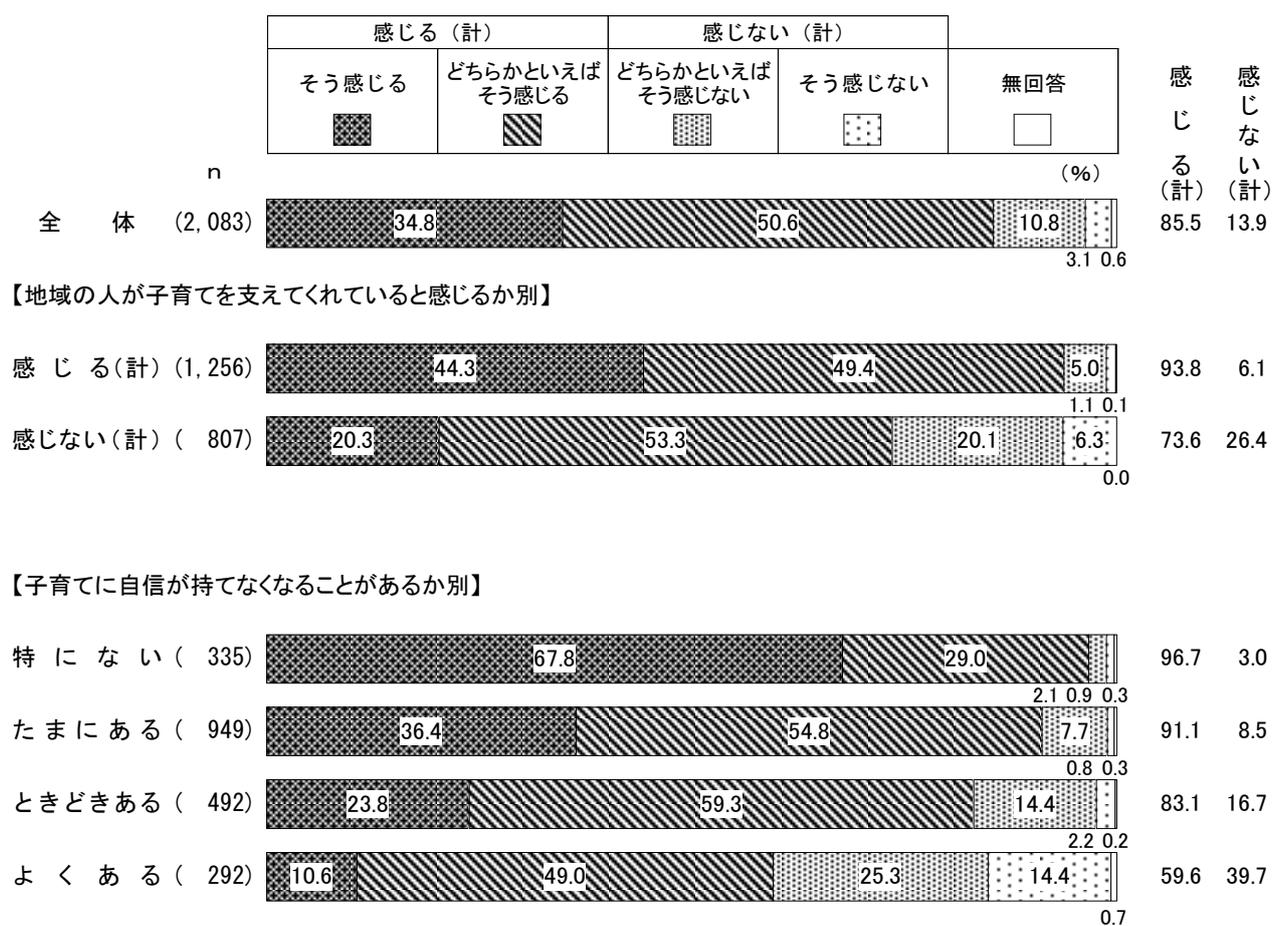
地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか（問50）別にみると、『感じる（計）』は地域の方が子育てを支えてくれていると感じる人で93.8%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は地域の方が子育てを支えてくれていると感じない人で26.4%と高くなっている。

子育てに自信が持てなくなることがあるか（問51）別にみると、『感じる（計）』は子育てに自信が持てなくなることが特にない人で96.7%、たまにある人で91.1%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は子育てに自信が持てなくなることがよくある人で39.7%と高くなっている。

（図表Ⅱ－11－5）

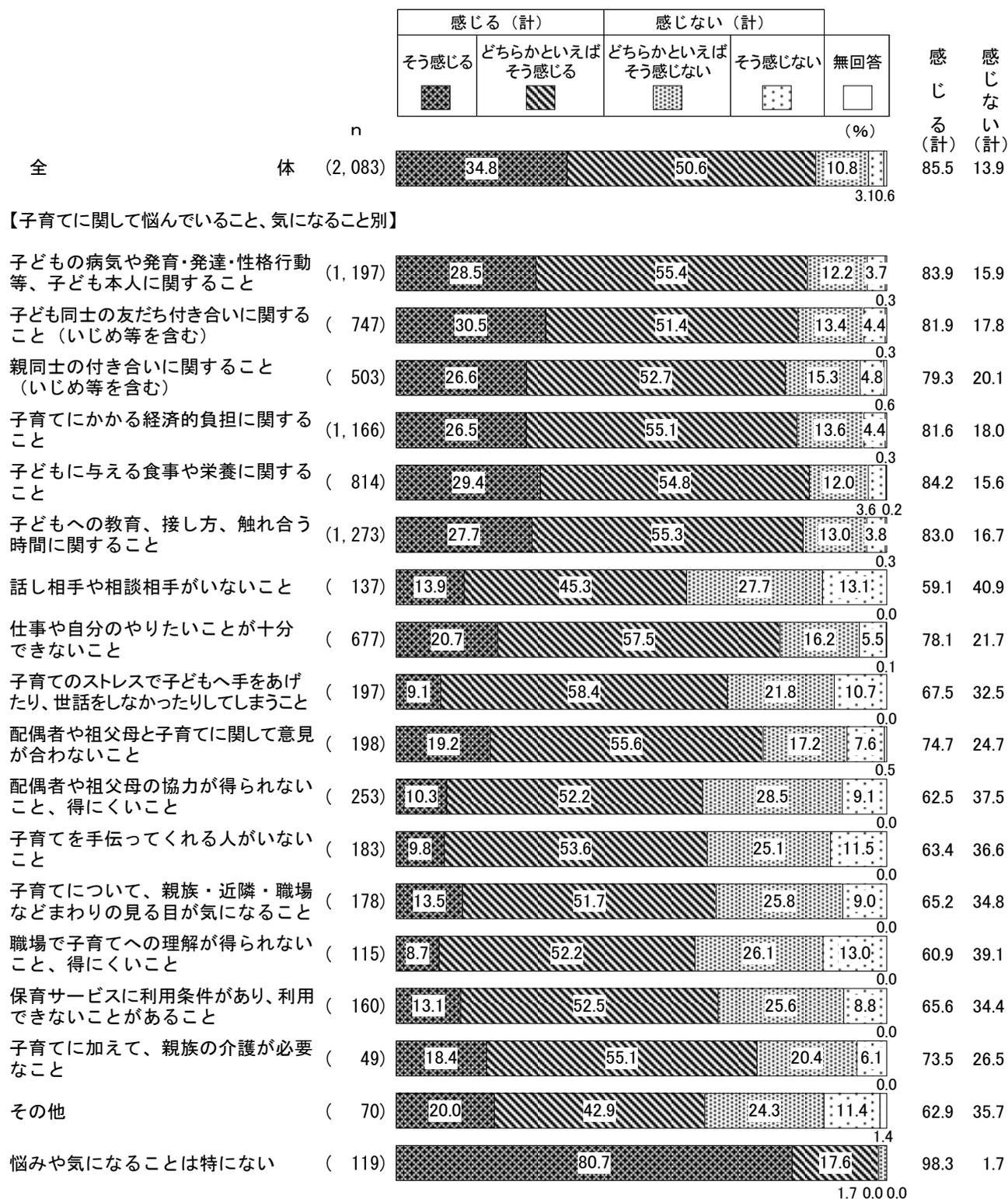
図表Ⅱ－11－5 安心して子育てができていると感じるか

－地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか別、子育てに自信が持てなくなることがあるか別



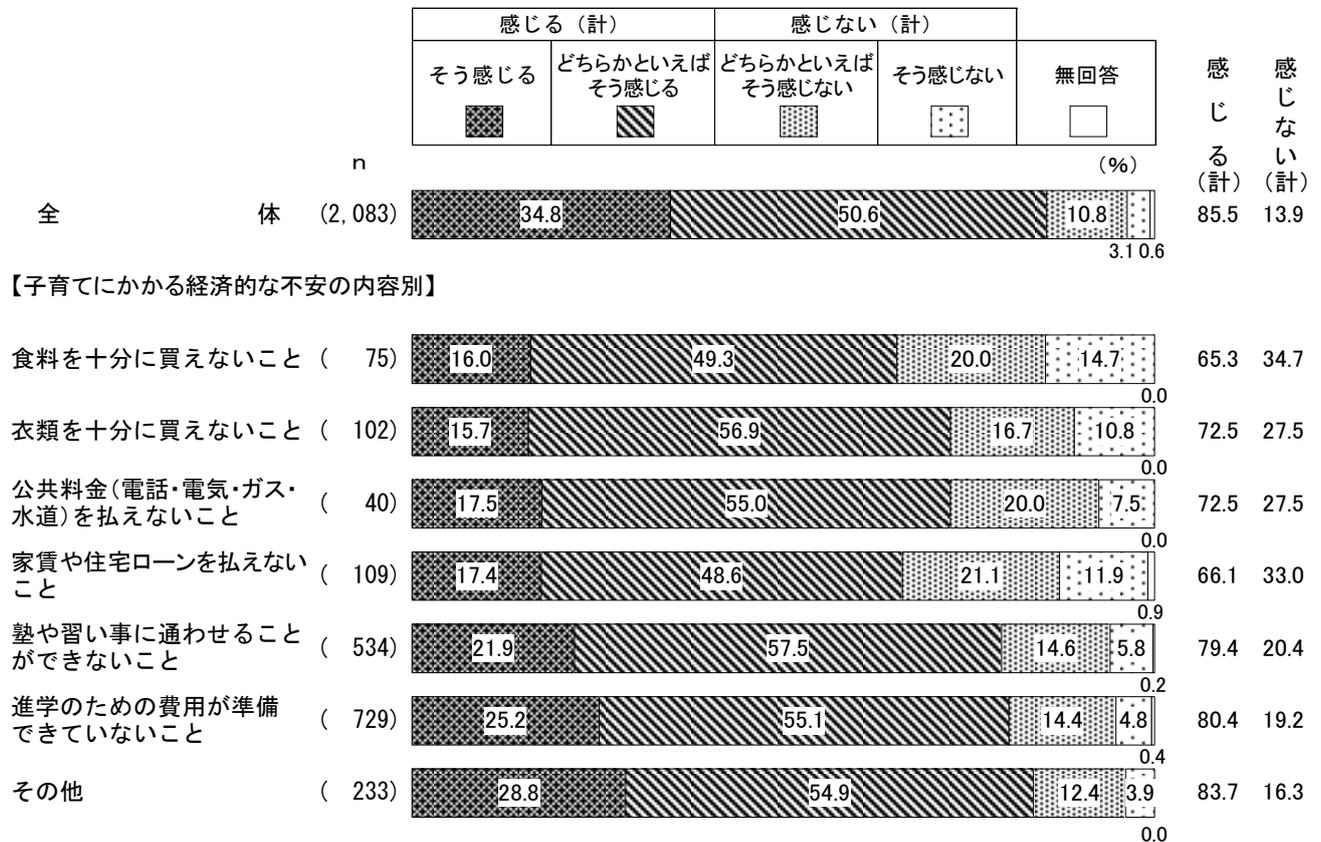
子育てに関して悩んでいること、気になること（問52）別にみると、『感じない（計）』は話し相手や相談相手がない人で40.9%、職場で子育てへの理解が得られない、得にくい人で39.1%、配偶者や祖父母の協力が得られない、得にくい人で37.5%、子育てを手伝ってくれる人がいない人で36.6%と高くなっている。（図表Ⅱ－11－6）

図表Ⅱ－11－6 安心して子育てができていると感じるか－子育てに関して悩んでいること、気になること別



子育てにかかる経済的な不安の内容（問54）別にみると、『感じない（計）』は食料を十分に買えない人で34.7%、家賃や住宅ローンを払えない人で33.0%と高くなっている。（図表Ⅱ－11－7）

図表Ⅱ－11－7 安心して子育てができていると感じるか－子育てにかかる経済的な不安の内容別



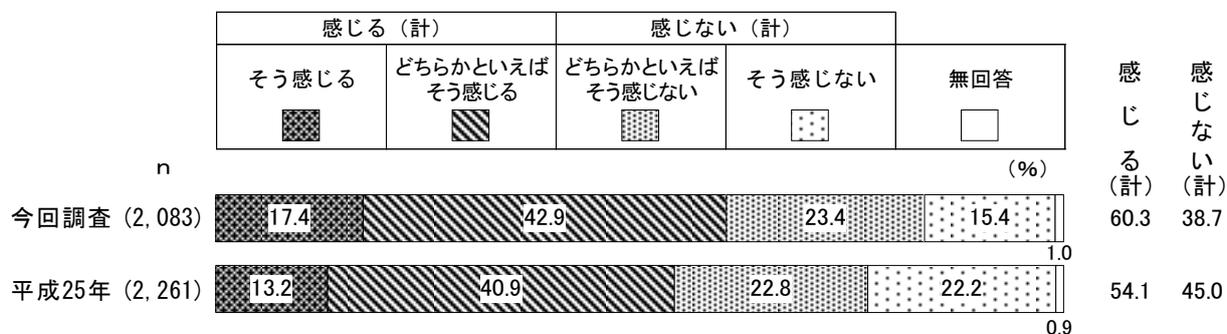
(2) 地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか

問50 あなたは地域の方が子育てを支えてくれていると感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

地域の方が子育てを支えてくれていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」(17.4%)と「どちらかといえばそう感じる」(42.9%)を合わせた『感じる(計)』が60.3%と高くなっている。一方、「どちらかといえばそう感じない」(23.4%)と「そう感じない」(15.4%)を合わせた『感じない(計)』は38.7%となっている。

平成25年調査と比較すると、『感じる(計)』は6.2ポイント増加している。(図表Ⅱ-11-8)

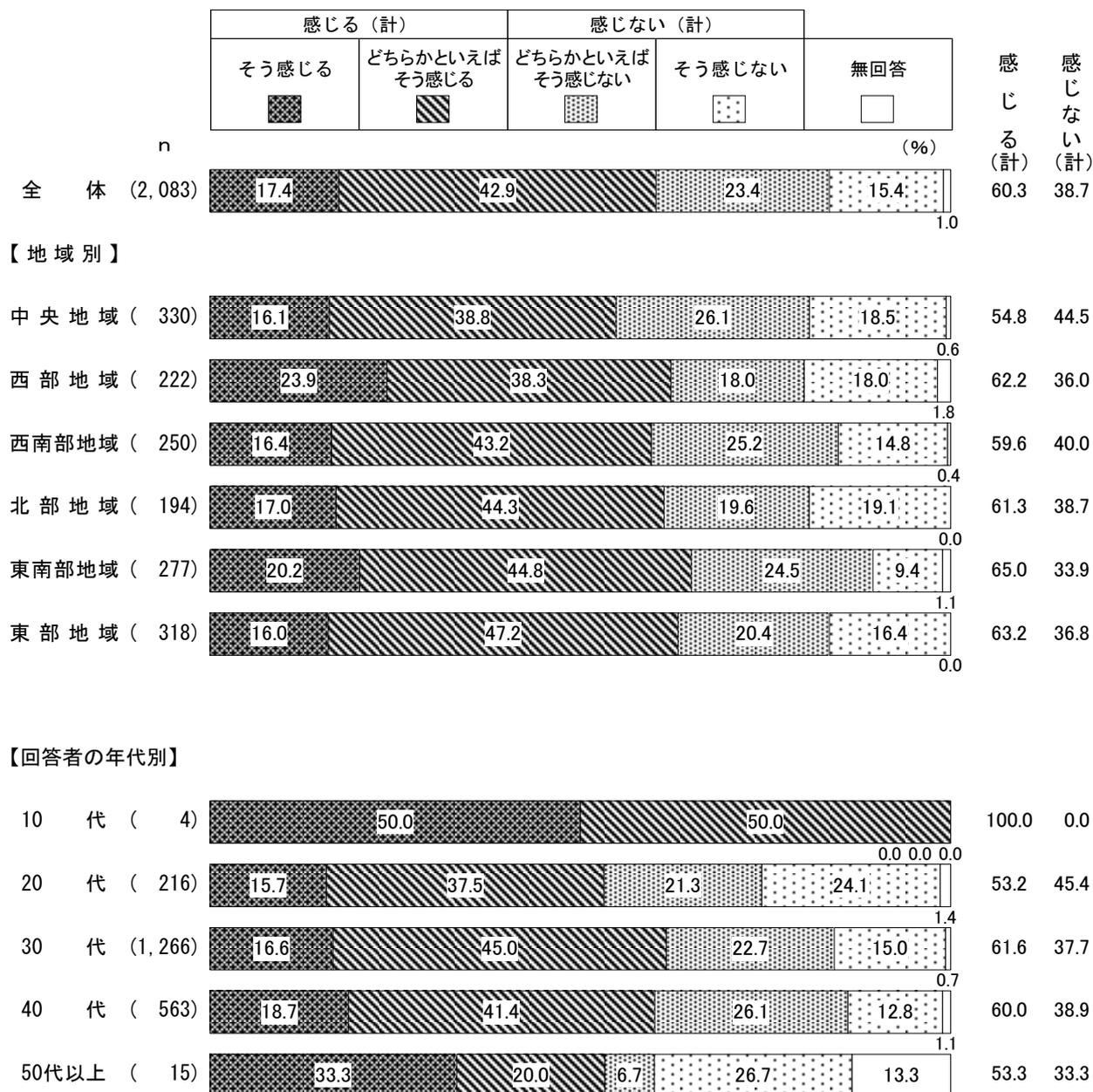
図表Ⅱ-11-8 地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか(経年変化)



地域別にみると、『感じない（計）』は中央地域で44.5%と高くなっている。
 回答者の年代別にみると、『感じない（計）』は20代で45.4%と高くなっている。

(図表Ⅱ-11-9)

図表Ⅱ-11-9 地域の人が子育てを支えてくれていると感じるか—地域別、回答者の年代別



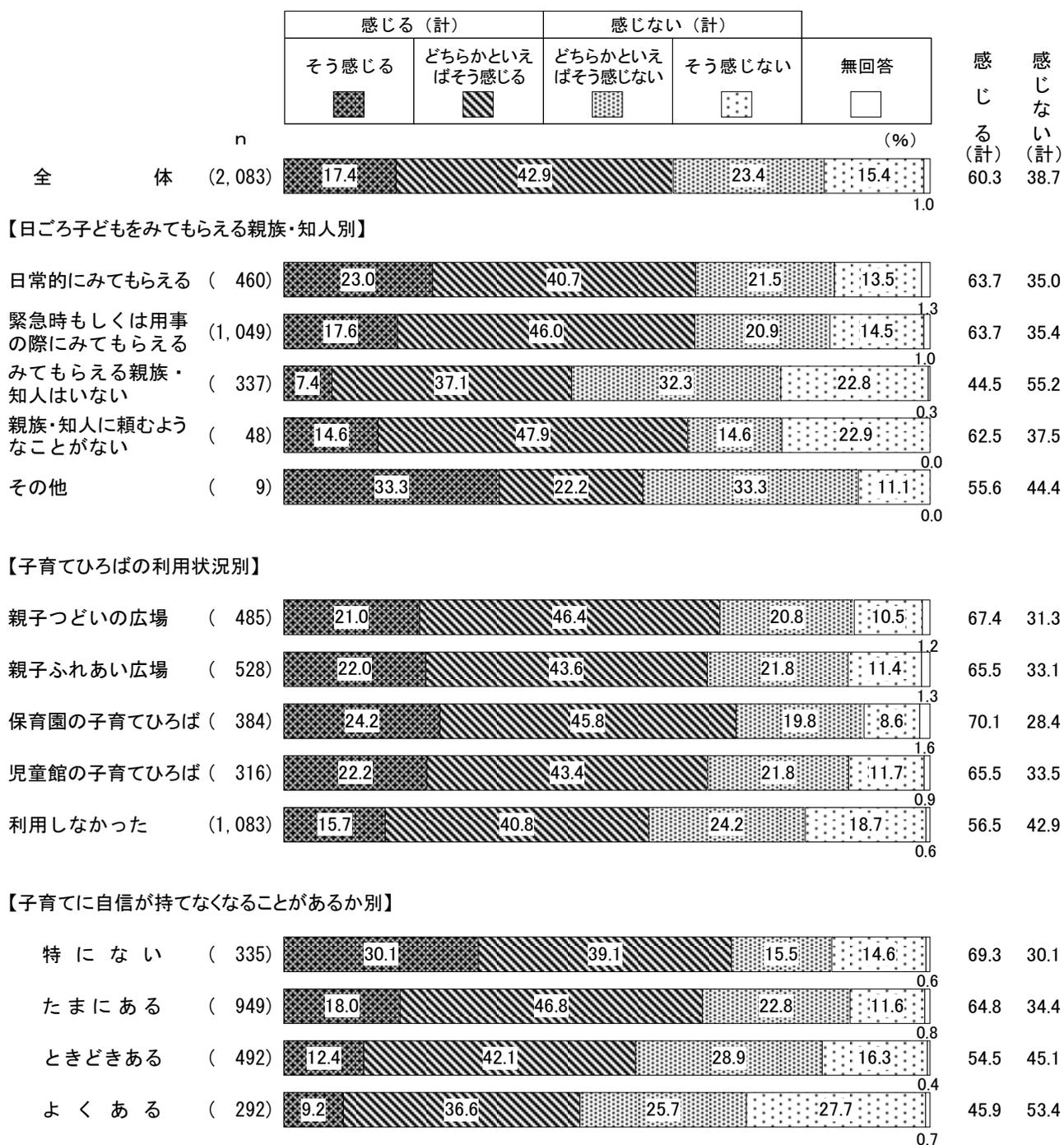
日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、『感じる（計）』は緊急時もしくは用事の際にみてもらえる人で63.7%と高くなっている。一方、『感じない（計）』はみてもらえる親族・知人はいない人で55.2%と高くなっている。

子育てひろばの利用状況（問37）別にみると、『感じない（計）』は子育てひろばを利用しなかった人で42.9%と高くなっている。

子育てに自信が持てなくなることがあるか（問51）別にみると、『感じない（計）』は子育てに自信が持てなくなることがよくある人で53.4%、ときどきある人で45.1%と高くなっている。

（図表Ⅱ－11－10）

図表Ⅱ－11－10 地域の人が子育てを支えてくれていると感じるか一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別、子育てひろばの利用状況別、子育てに自信が持てなくなることがあるか別



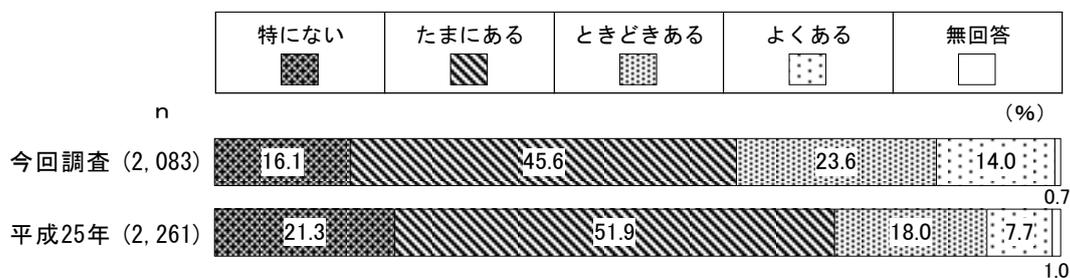
(3) 子育てに自信が持てなくなることがあるか

問51 日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持てなくなることがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持てなくなることがあるか聞いたところ、「たまにある」が45.6%で最も高くなっている。「ときどきある」は23.6%、「よくある」は14.0%となっている。一方、「特にない」は16.1%となっている。

平成25年調査と比較すると、「よくある」は6.3ポイント、「ときどきある」は5.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「たまにある」は6.3ポイント、「特にない」は5.2ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅱ-11-11)

図表Ⅱ-11-11 子育てに自信が持てなくなることがあるか（経年変化）



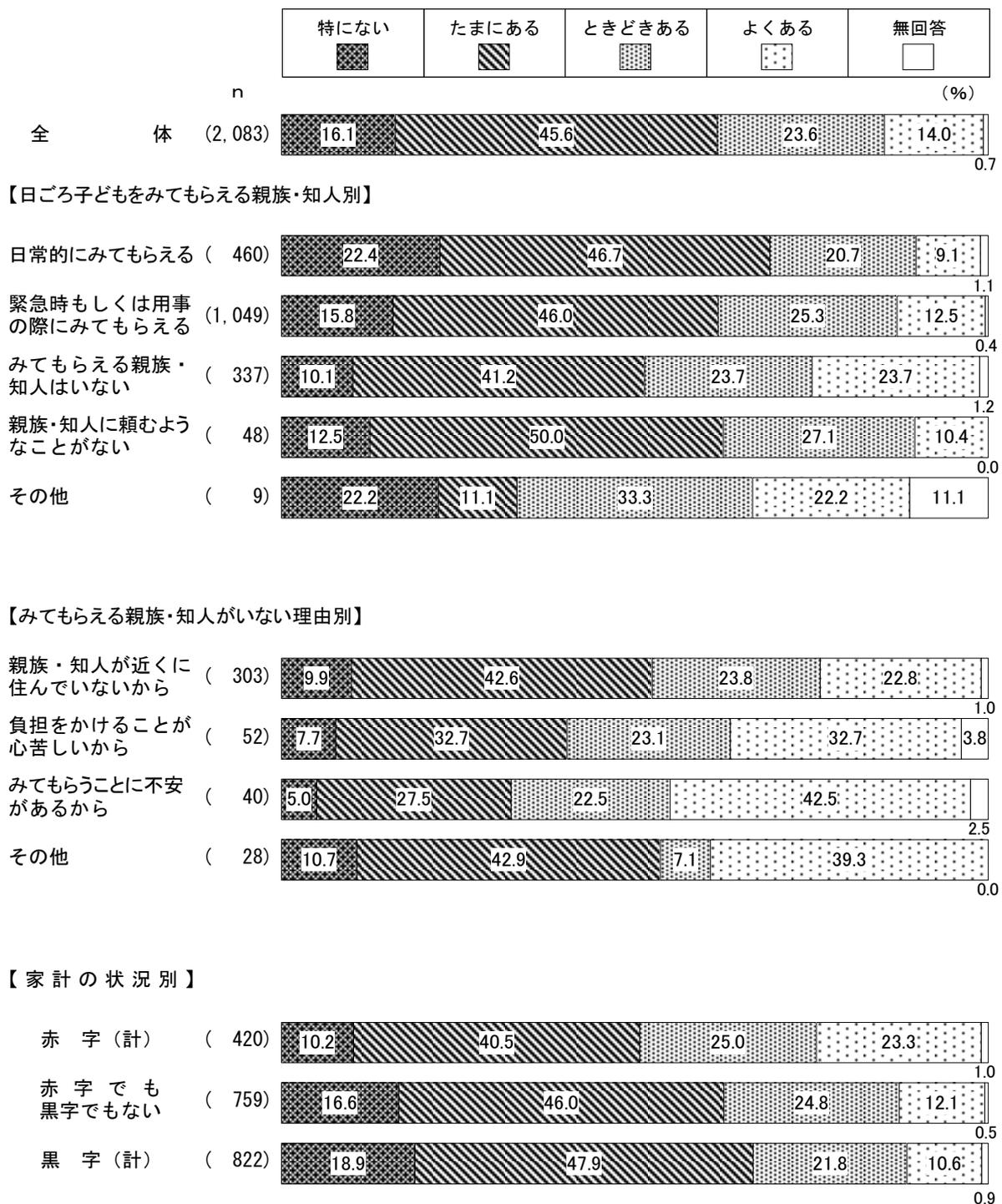
日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、「特にない」は日常的にみてもらえる人で22.4%と高くなっている。「よくある」はみてもらえる親族・知人はいない人で23.7%と高くなっている。

みてもらえる親族・知人がいない理由（問7）別にみると、「よくある」はみてもらうことに不安がある人で42.5%、負担をかけることが心苦しい人で32.7%と高くなっている。

家計の状況（問9）別にみると、「よくある」は赤字の人で23.3%と高くなっている。

(図表Ⅱ-11-12)

図表Ⅱ-11-12 子育てに自信が持てなくなることがあるか
日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別、みてもらえる親族・知人がいない理由別、家計の状況別

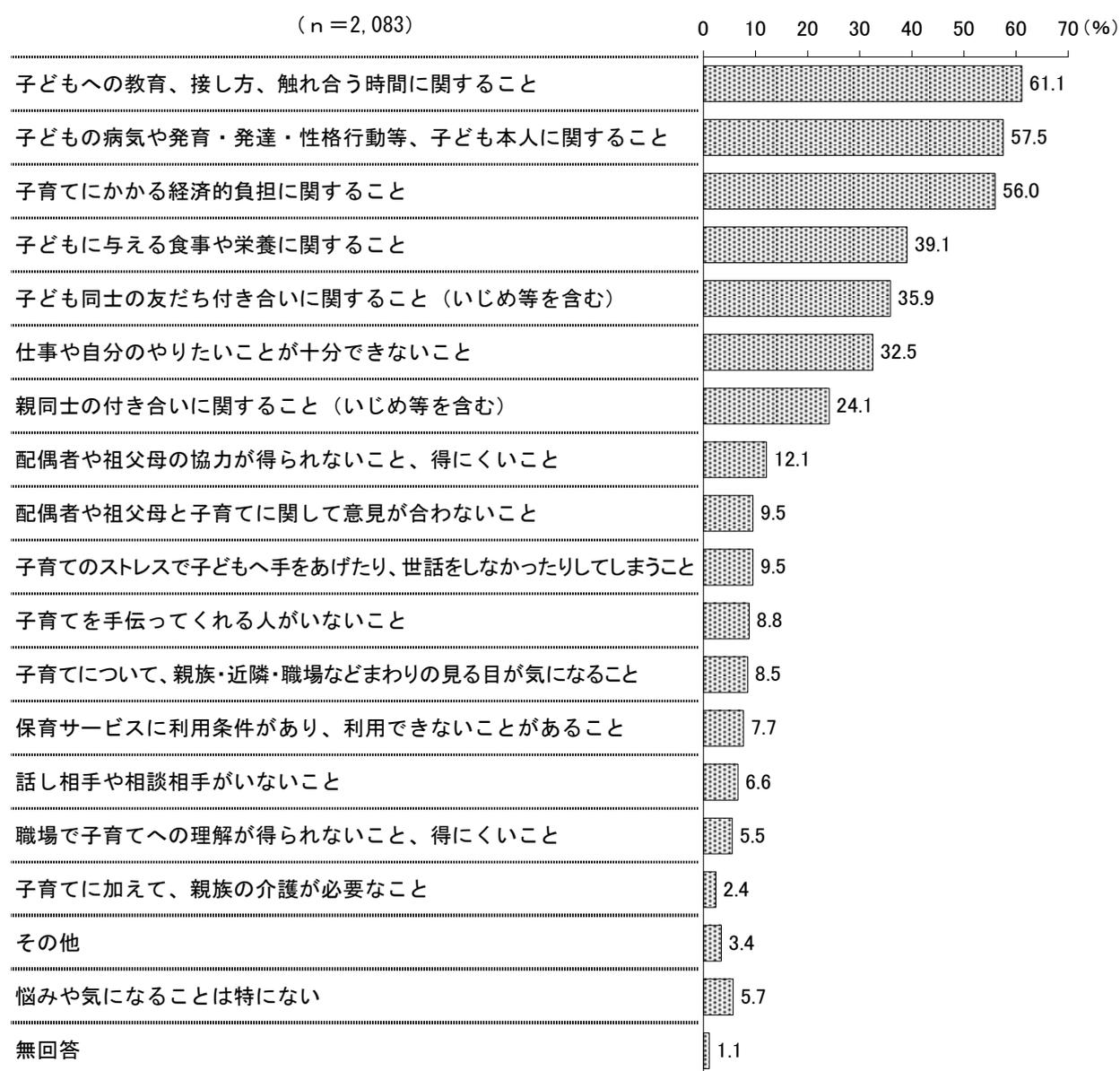


(4) 子育てに関して悩んでいること、気になること

問52 子育てに関して悩んでいること、気になることについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることを聞いたところ、「子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること」が61.1%で最も高く、次いで「子どもの病気や発育・発達・性格行動等、子ども本人に関すること」(57.5%)、「子育てにかかる経済的負担に関すること」(56.0%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-13)

図表Ⅱ-11-13 子育てに関して悩んでいること、気になること

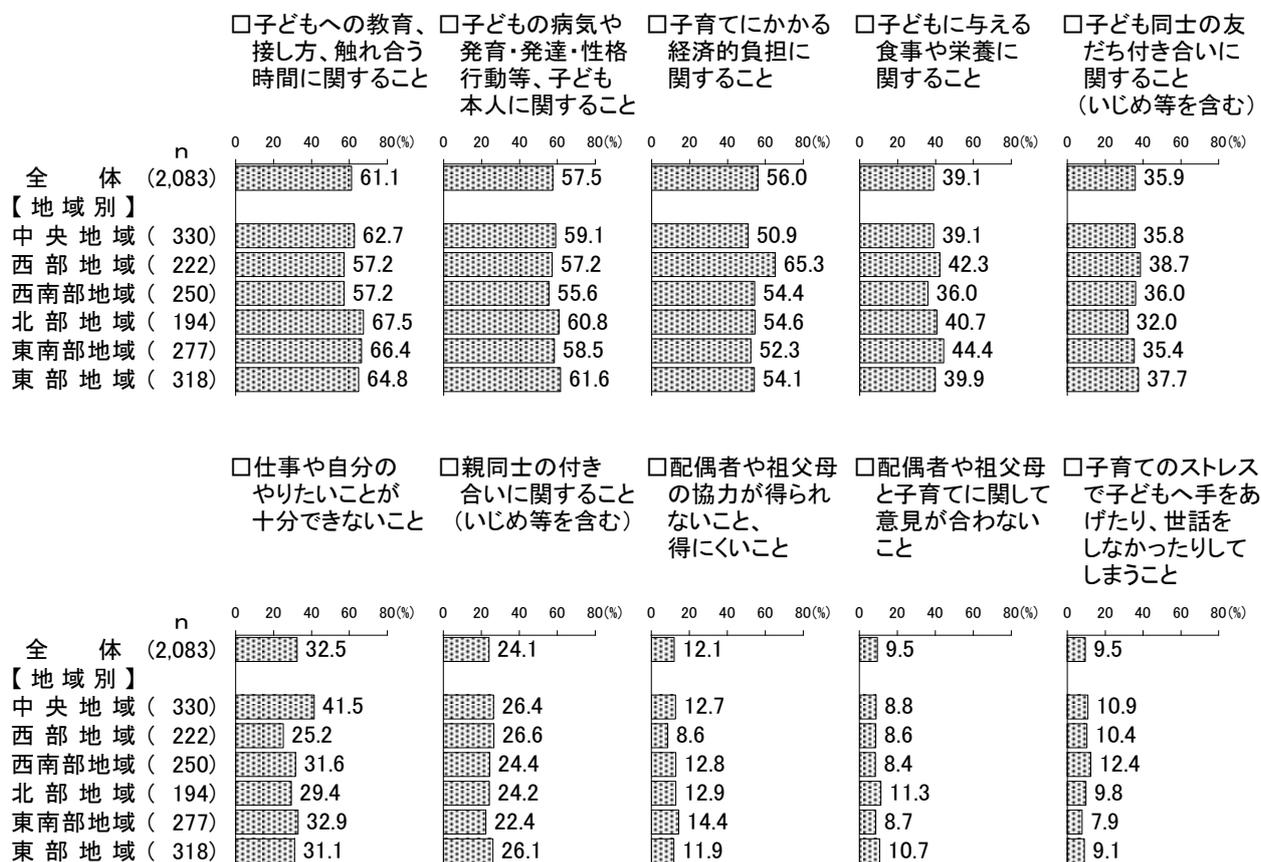


平成25年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考にとどまるが、上位6項目は今回調査と同じ順位となっている。

地域別にみると、「子育てにかかる経済的負担に関すること」は西部地域で65.3%と高くなっている。「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」は中央地域で41.5%と高くなっている。

(図表Ⅱ-11-14)

図表Ⅱ-11-14 子育てに関して悩んでいること、気になることー地域別（上位10項目）

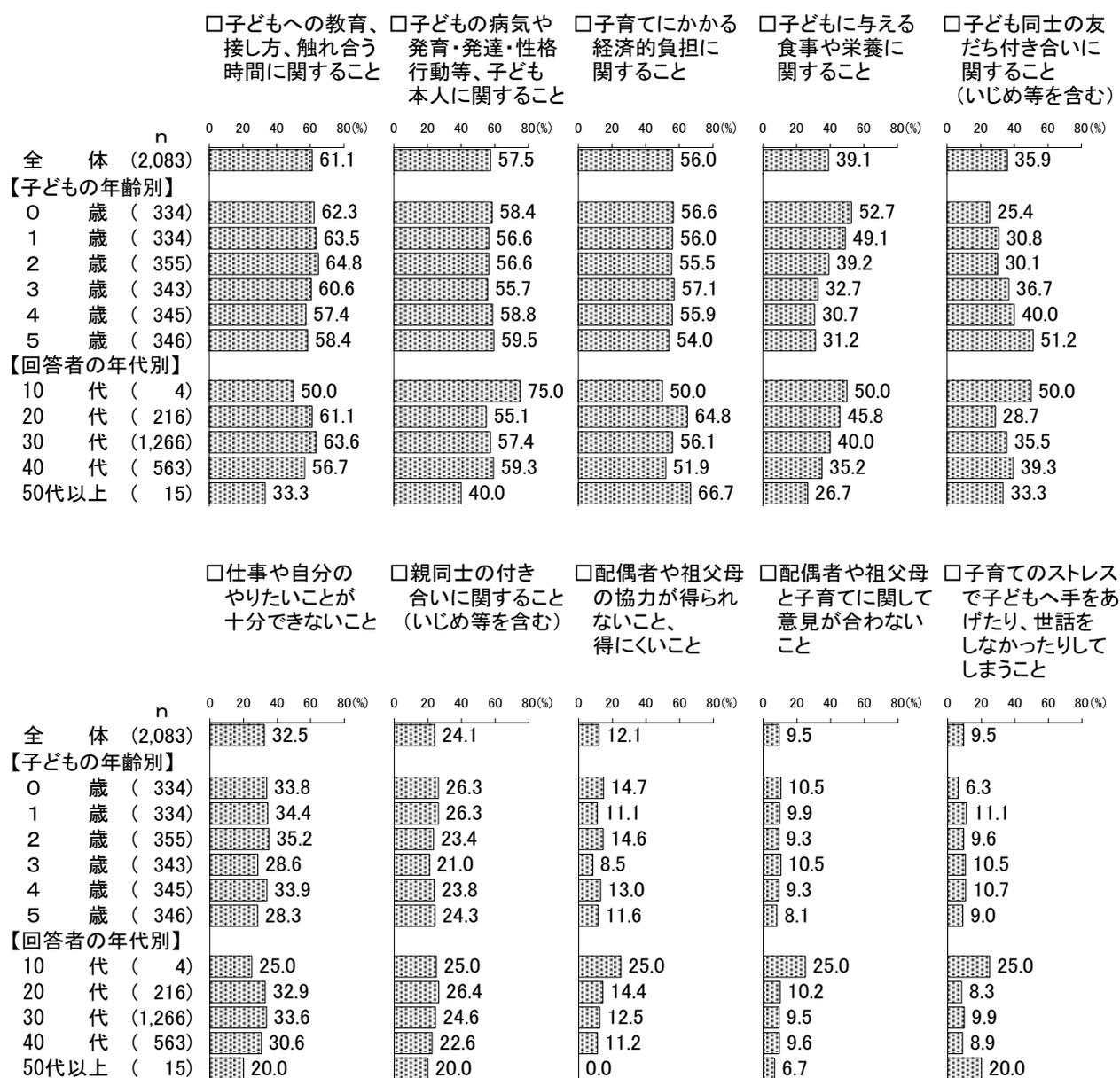


子どもの年齢別にみると、「子どもに与える食事や栄養に関すること」は0歳で52.7%、1歳で49.1%と高くなっている。「子ども同士の友だち付き合いに関すること（いじめ等を含む）」は5歳で51.2%と高くなっている。

回答者の年代別にみると、「子育てにかかる経済的負担に関すること」は20代で64.8%と高くなっている。「子どもに与える食事や栄養に関すること」は20代で45.8%と高くなっている。

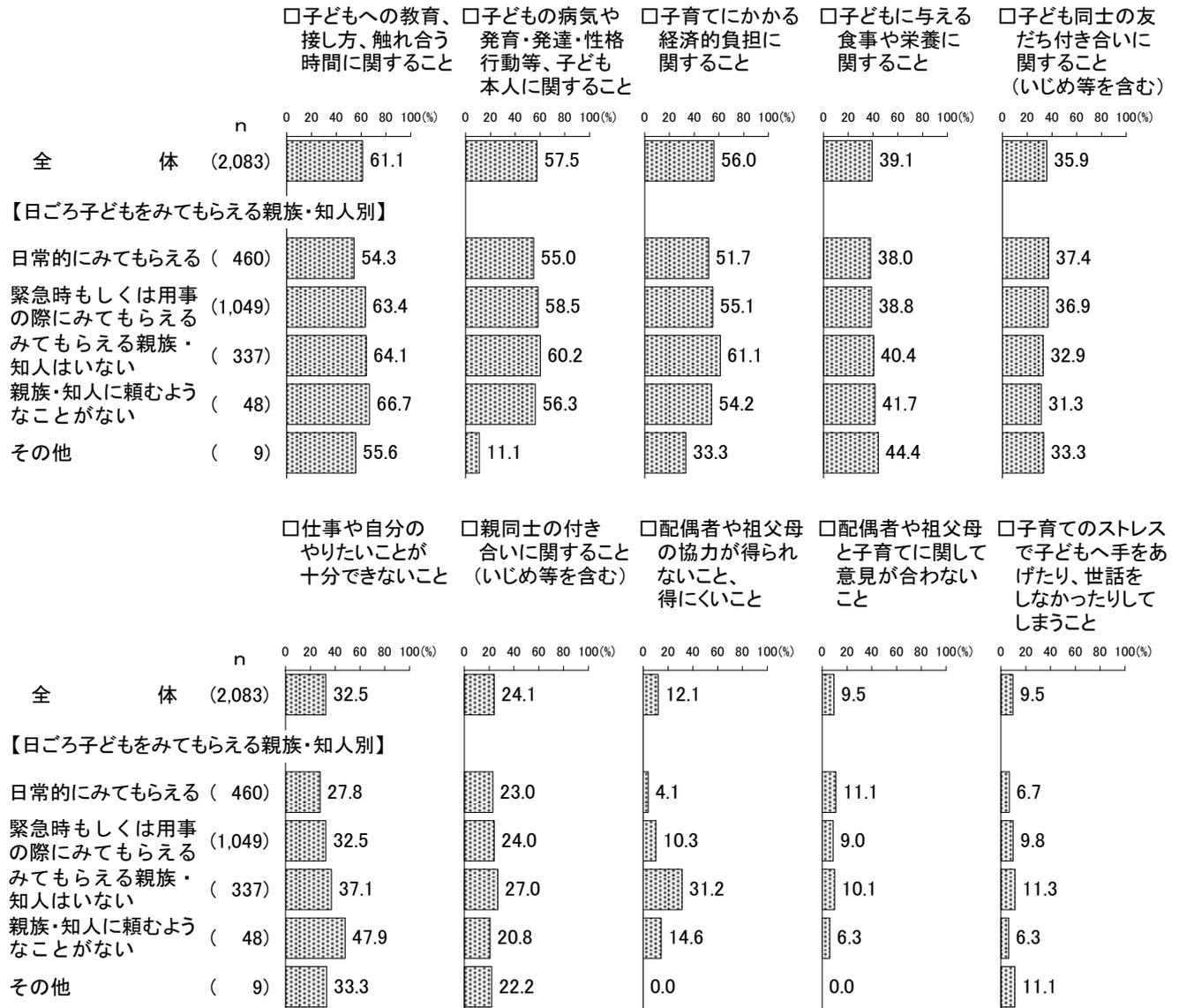
(図表Ⅱ-11-15)

図表Ⅱ-11-15 子育てに関して悩んでいること、気になること
- 子どもの年齢別、回答者の年代別 (上位10項目)



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」は親族・知人に頼むようなことがない人で47.9%と高くなっている。「配偶者や祖父母の協力が得られないこと、得にくいこと」はみてもらえる親族・知人はいない人で31.2%と高くなっている。（図表Ⅱ-11-16）

図表Ⅱ-11-16 子育てに関して悩んでいること、気になること
—日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別（上位10項目）



(5) 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関

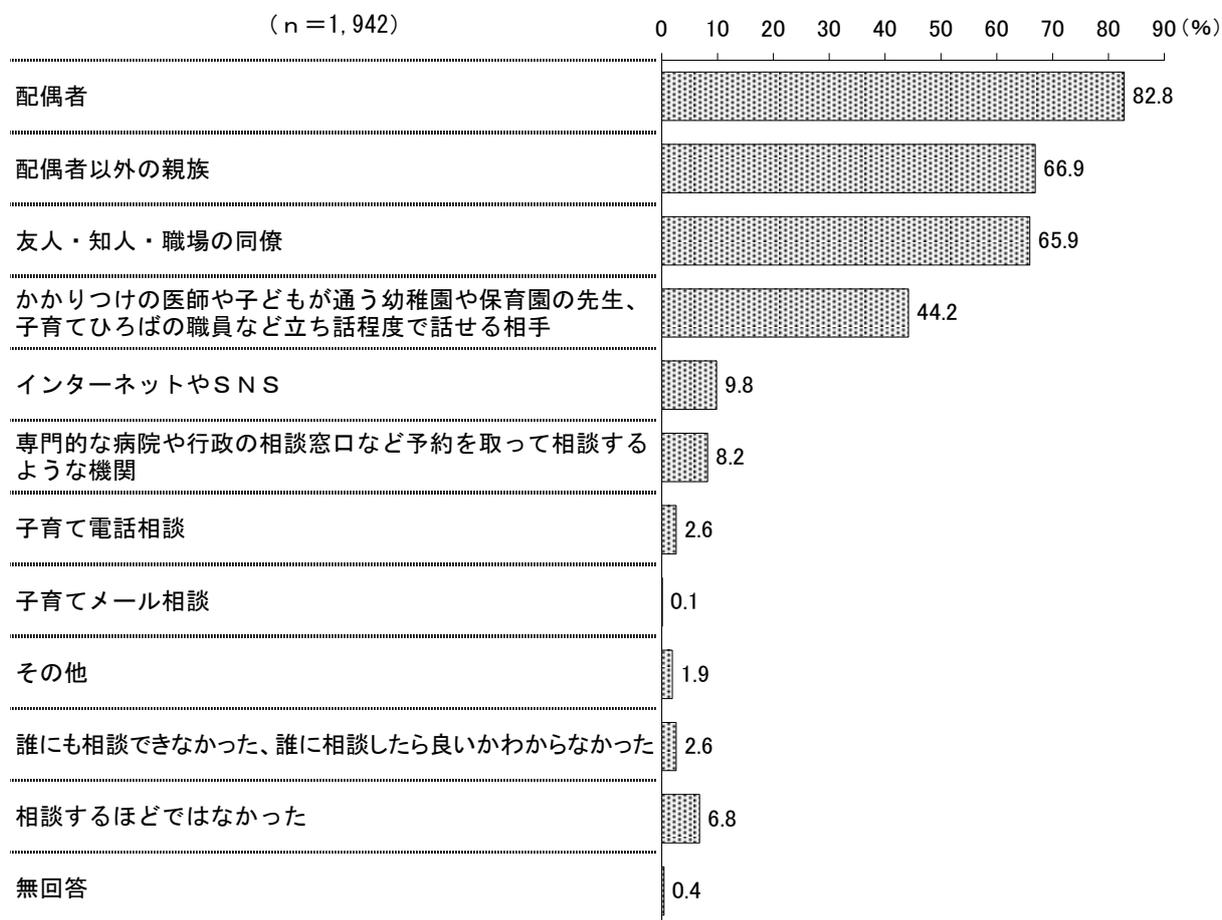
【問52で「悩みや気になることは特にない」以外のいずれかを回答した方のみ】

問53 悩んでいること、気になることの相談状況についてうかがいます。

(1) 実際に相談した相手・機関について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることがあると答えた人(1,942人)に、悩んでいることや気になることを実際に相談した相手・機関を聞いたところ、「配偶者」が82.8%で最も高く、次いで「配偶者以外の親族」(66.9%)、「友人・知人・職場の同僚」(65.9%)、「かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろばの職員など立ち話程度で話せる相手」(44.2%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-17)

図表Ⅱ-11-17 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関



(6) 子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関

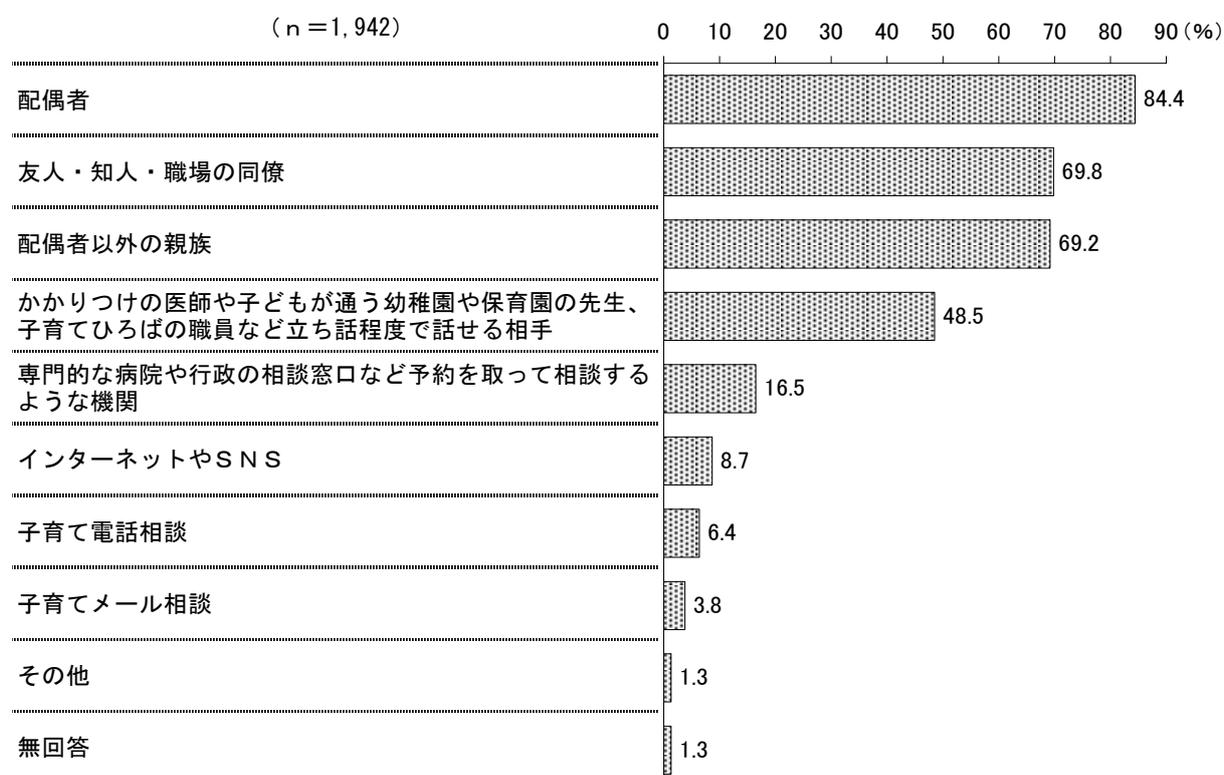
【問52で「悩みや気になることは特にない」以外のいずれかを回答した方のみ】

問53 悩んでいること、気になることの相談状況についてうかがいます。

(2) 相談したいと考える相手・機関について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

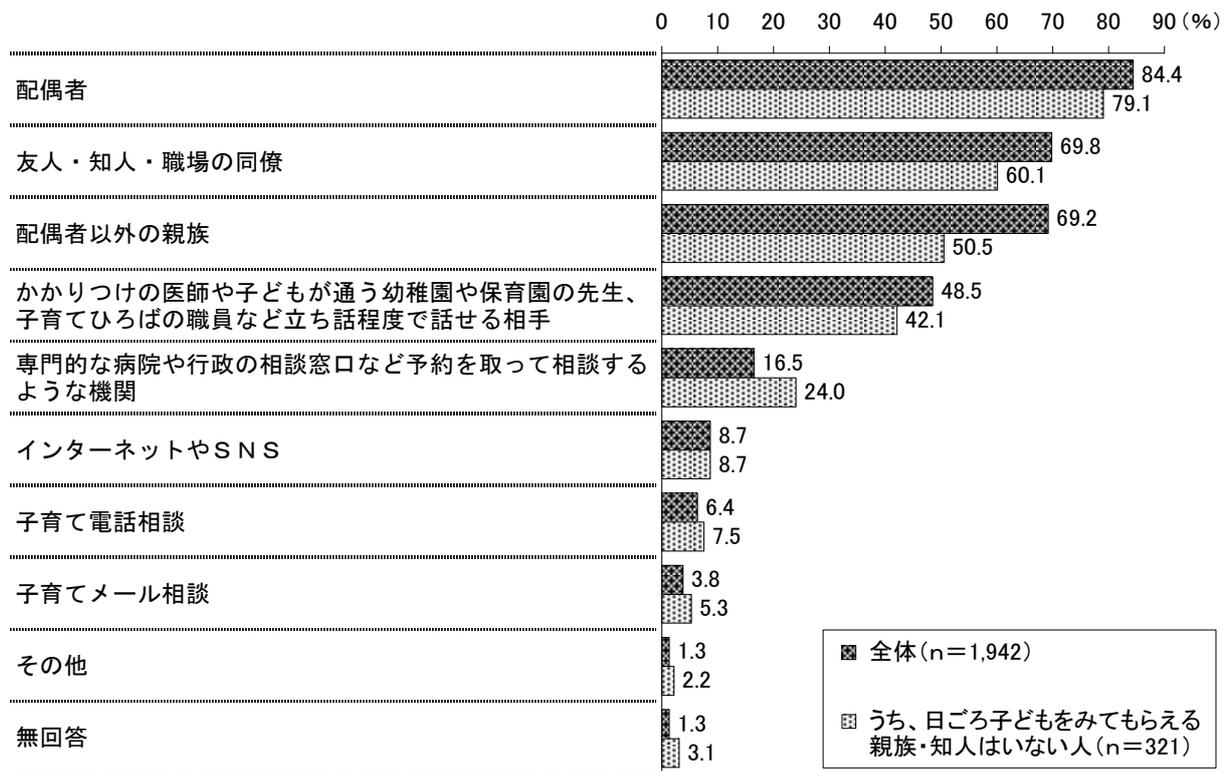
子育てに関して悩んでいること、気になることがあると答えた人(1,942人)に、悩んでいることや気になることを相談したいと考える相手・機関を聞いたところ、「配偶者」が84.4%で最も高く、次いで「友人・知人・職場の同僚」(69.8%)、「配偶者以外の親族」(69.2%)、「かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろばの職員など立ち話程度で話せる相手」(48.5%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-18)

図表Ⅱ-11-18 子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人（321人）の結果をみると、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」が24.0%と高くなっている。（図表Ⅱ-11-19）

図表Ⅱ-11-19 子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関
 一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人との比較



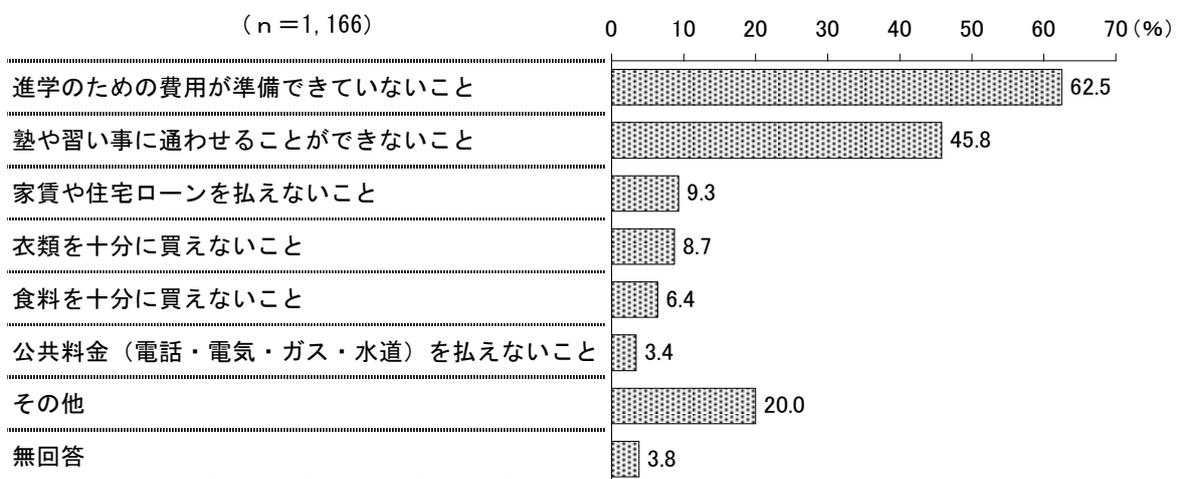
(7) 子育てにかかる経済的な不安の内容

【問52で「子育てにかかる経済的負担に関すること」と回答した方のみ】

問54 子育てにかかる経済的な不安の具体的な内容について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

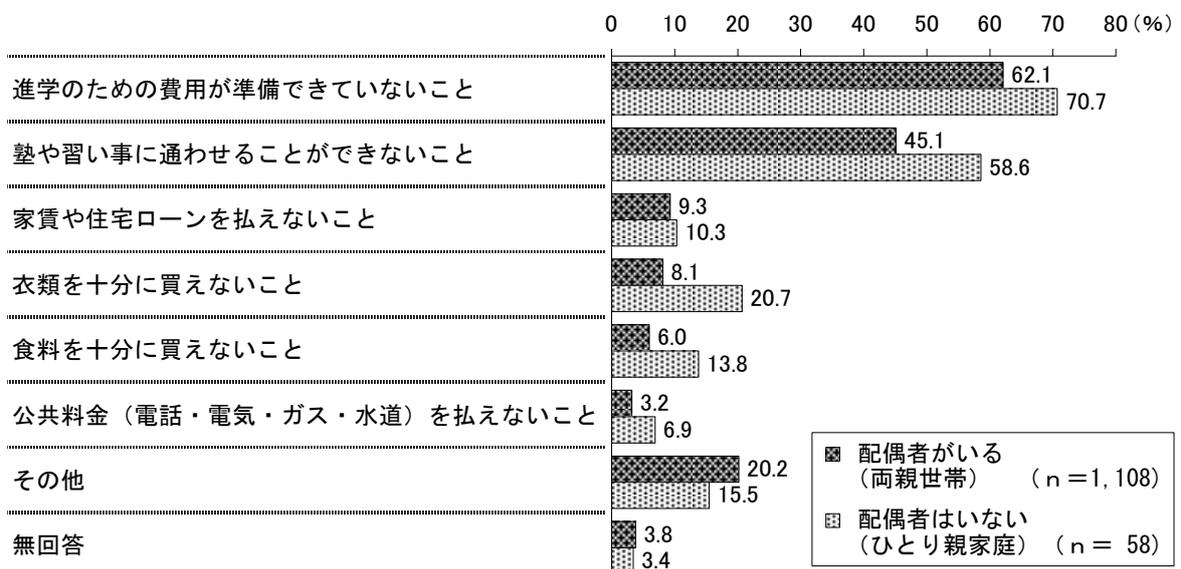
子育てに関して悩んでいること、気になることとして「子育てにかかる経済的負担に関すること」と答えた人(1,166人)に、その具体的な内容を聞いたところ、「進学のための費用が準備できていないこと」が62.5%で最も高く、次いで「塾や習い事に通わせることができないこと」(45.8%)、「家賃や住宅ローンを払えないこと」(9.3%)、「衣類を十分を買えないこと」(8.7%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-20)

図表Ⅱ-11-20 子育てにかかる経済的な不安の内容



配偶者の有無別にみると、「塾や習い事に通わせることができないこと」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が13.5ポイント、「衣類を十分を買えないこと」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が12.6ポイント、「進学のための費用が準備できていないこと」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が8.6ポイント、「食料を十分を買えないこと」は配偶者がいない人(ひとり親家庭)の方が7.8ポイント、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ-11-21)

図表Ⅱ-11-21 子育てにかかる経済的な不安の内容-配偶者の有無別



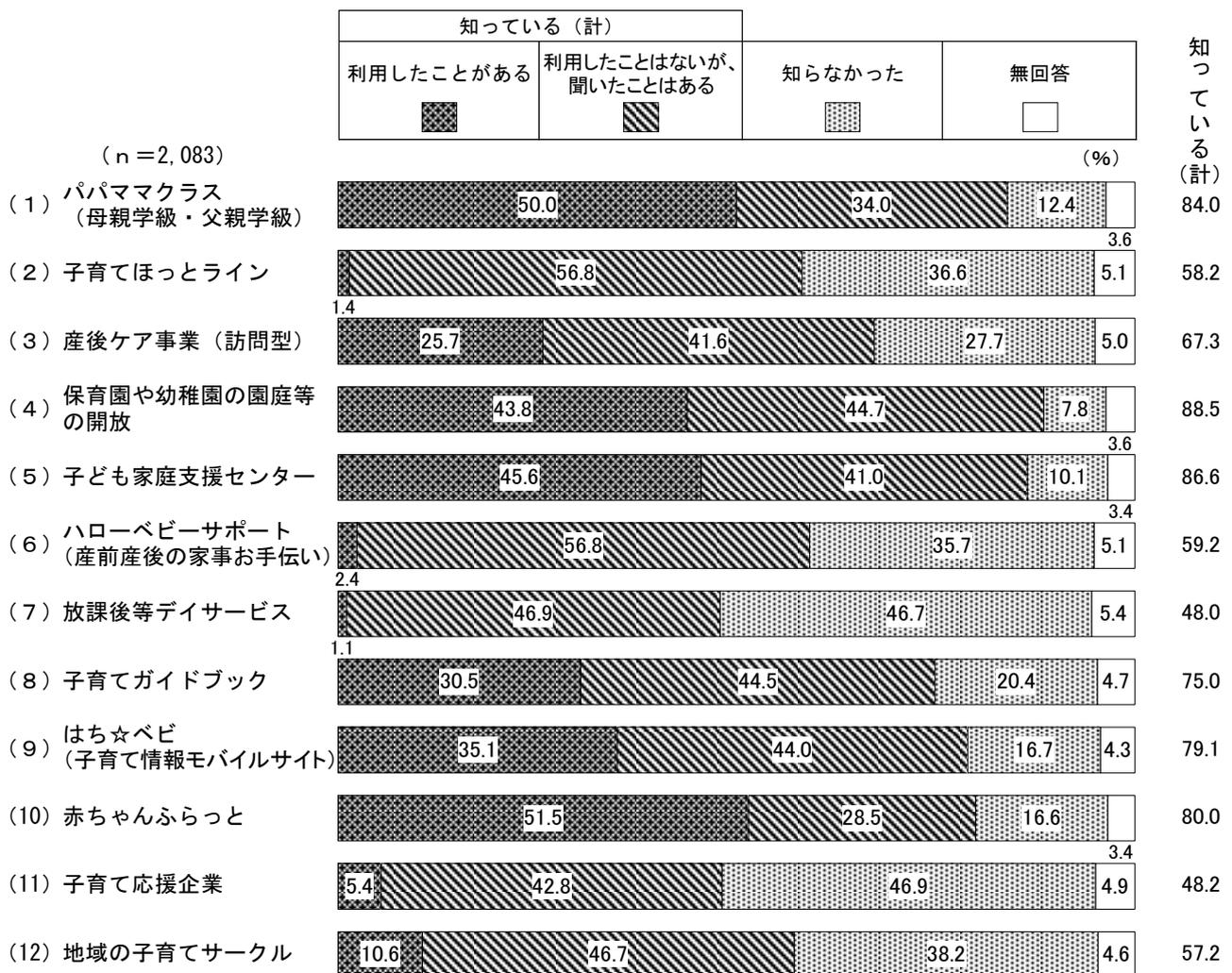
(8) 子育て支援事業の利用状況

問55 次の(1)～(12)の事業について、これまでに利用したことがありますか。当てはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

12項目の市の子育て支援事業の利用状況を聞いたところ、「利用したことがある」が最も高いのは(10)赤ちゃんふらっと(51.5%)で5割を超えており、次いで(1)パパママクラス(母親学級・父親学級)(50.0%)、(5)子ども家庭支援センター(45.6%)、(4)保育園や幼稚園の園庭等の開放(43.8%)の順となっている。

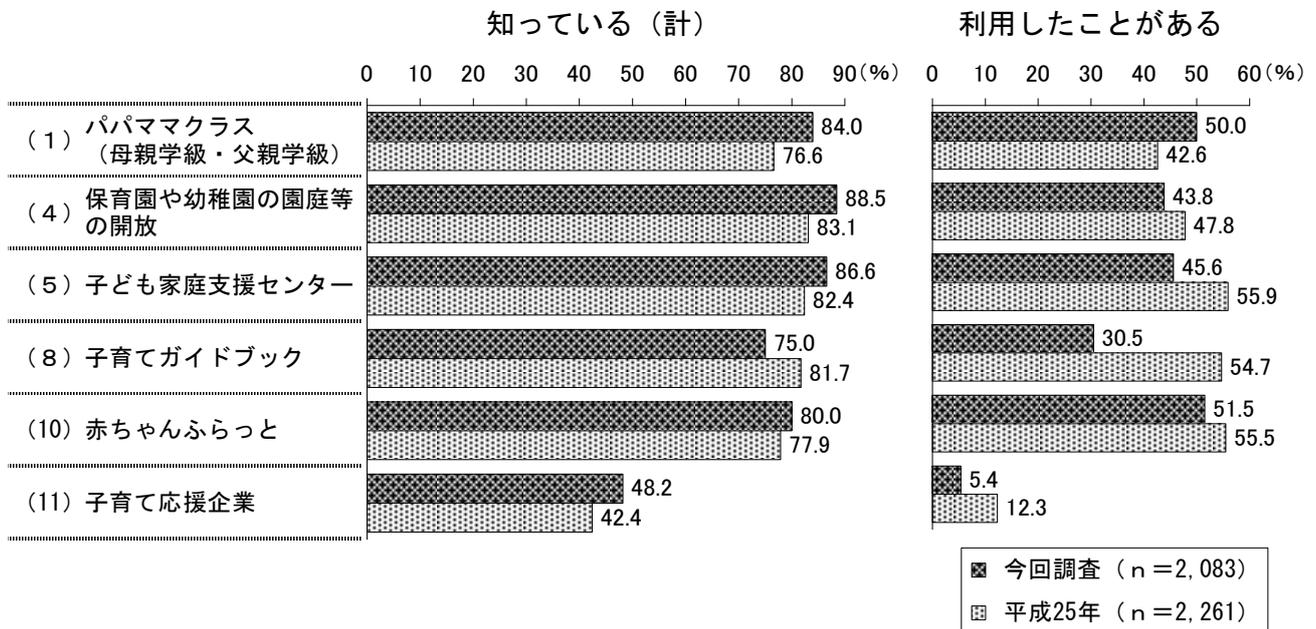
一方、「知らなかった」は(11)子育て応援企業(46.9%)と(7)放課後等デイサービス(46.7%)で5割近くと高くなっており、次いで(12)地域の子育てサークル(38.2%)、(2)子育てほっとライン(36.6%)、(6)ハローベビーサポート(産前産後の家事お手伝い)(35.7%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-22)

図表Ⅱ-11-22 子育て支援事業の利用状況



平成25年調査では、6項目の市の子育て支援事業の認知度と利用経験を質問していた。これを今回調査と比較した。(図表Ⅱ-11-23)

図表Ⅱ-11-23 子育て支援事業の利用状況(経年変化)



(1) パパママクラス(母親学級・父親学級)について地域別にみると、「利用したことがある」は東南部地域で58.8%と高くなっている。

(2) 子育てほっとラインについて地域別にみると、「利用したことはないが、聞いたことはある」は北部地域で65.5%と高くなっている。

(3) 産後ケア事業(訪問型)について地域別にみると、「利用したことがある」は東南部地域で31.4%と高くなっている。一方、「知らなかった」は西部地域で34.7%と高くなっている。

(4) 保育園や幼稚園の園庭等の開放について地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

(5) 子ども家庭支援センターについて地域別にみると、「利用したことがある」は東南部地域で63.2%と高くなっている。

(7) 放課後等デイサービスについて地域別にみると、「知らなかった」は東部地域で52.5%と高くなっている。

(9) はち☆ベビ(子育て情報モバイルサイト)について地域別にみると、『知っている(計)』は中央地域で85.2%と高くなっている。一方、「知らなかった」は東部地域で21.1%と高くなっている。

(10) 赤ちゃんふらっとについて地域別にみると、「利用したことがある」は東南部地域で61.7%、中央地域で61.2%、西南部地域で58.8%と高くなっている。一方、「知らなかった」は東部地域で24.8%と高くなっている。

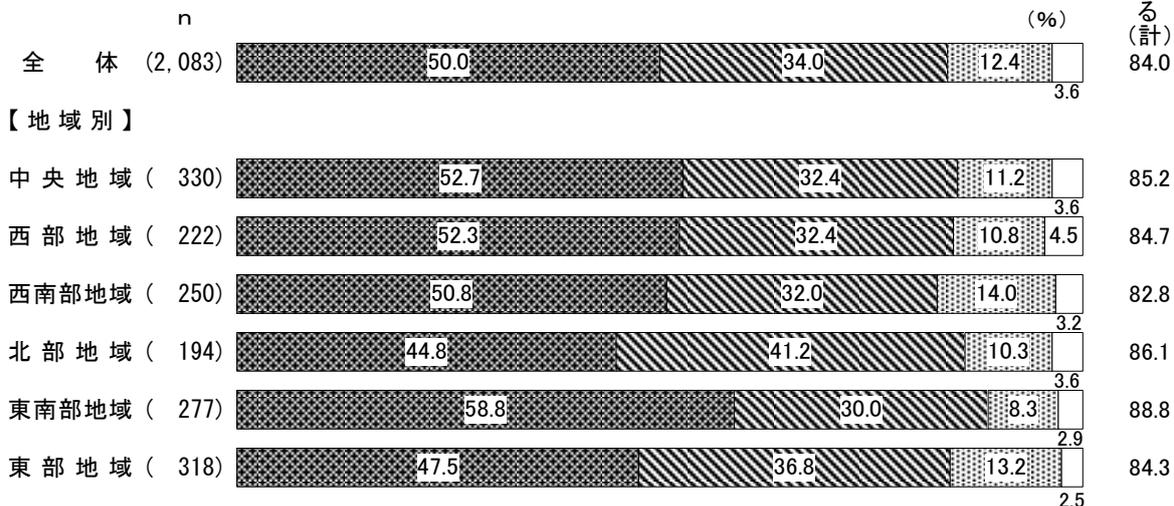
(11) 子育て応援企業について地域別にみると、「利用したことがある」は東南部地域で9.0%となっている。

また、(6) ハローベビーサポート(産前産後の家事お手伝い)、(8) 子育てガイドブック、(12) 地域の子育てサークルの3項目については、地域間で大きな傾向の違いはみられないため、図表を割愛する。(図表Ⅱ-11-24)

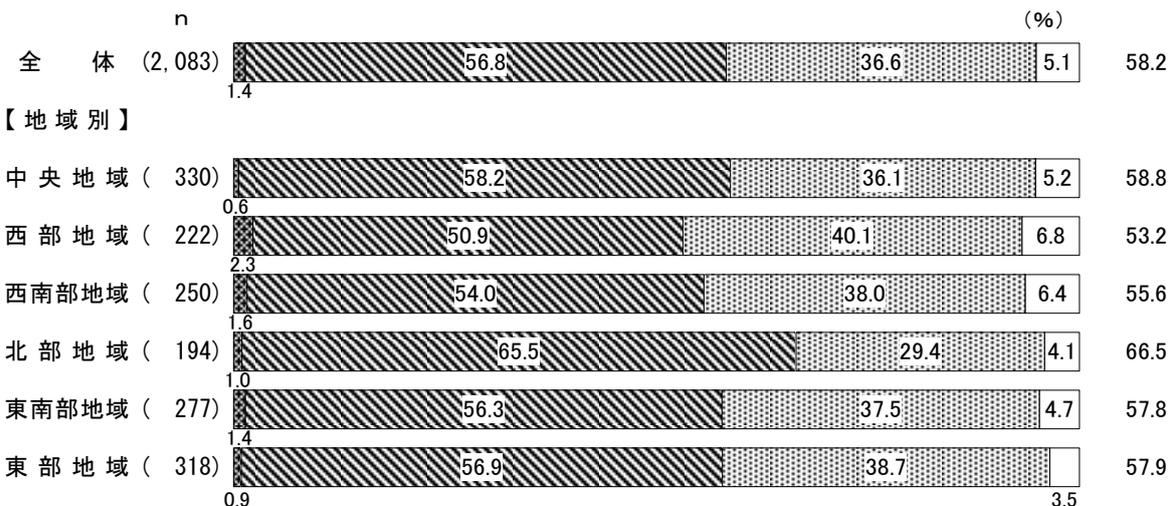
図表Ⅱ-11-24 子育て支援事業の利用状況—地域別

知っている (計)			
利用したことがある	利用したことはないが、聞いたことはある	知らなかった	無回答

(1) パパママクラス (母親学級・父親学級)



(2) 子育てほっとライン



(3) 産後ケア事業 (訪問型)

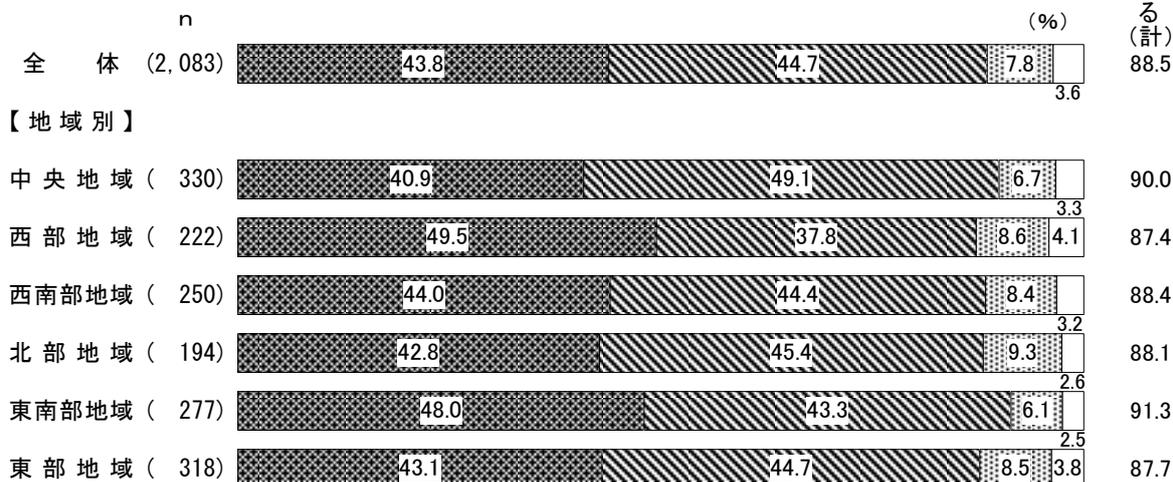


図表Ⅱ-11-24 (つづき) 子育て支援事業の利用状況—地域別

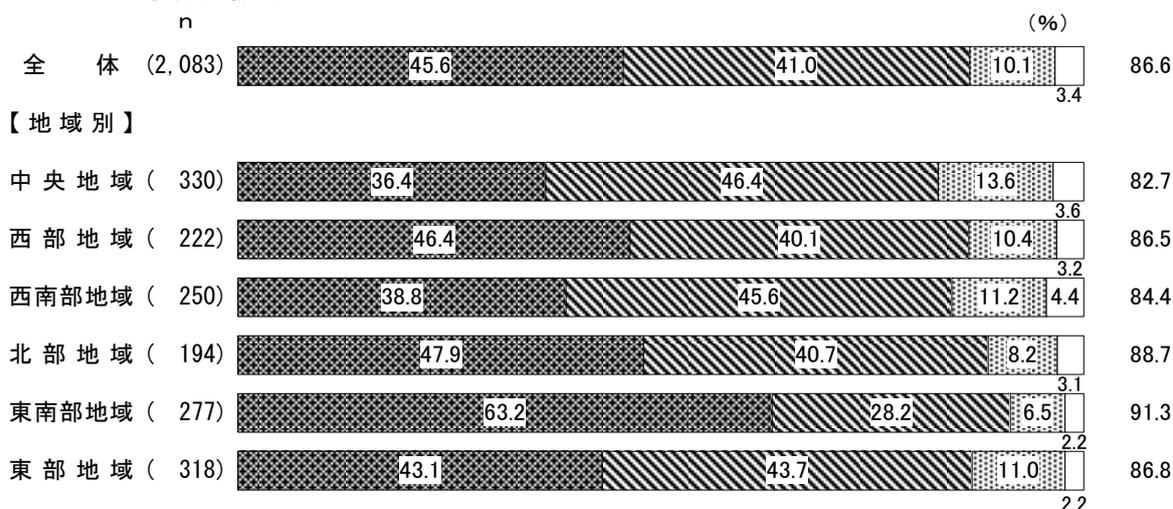
知っている (計)			
利用したことがある	利用したことはないが、聞いたことはある	知らなかった	無回答

知っている
(計)

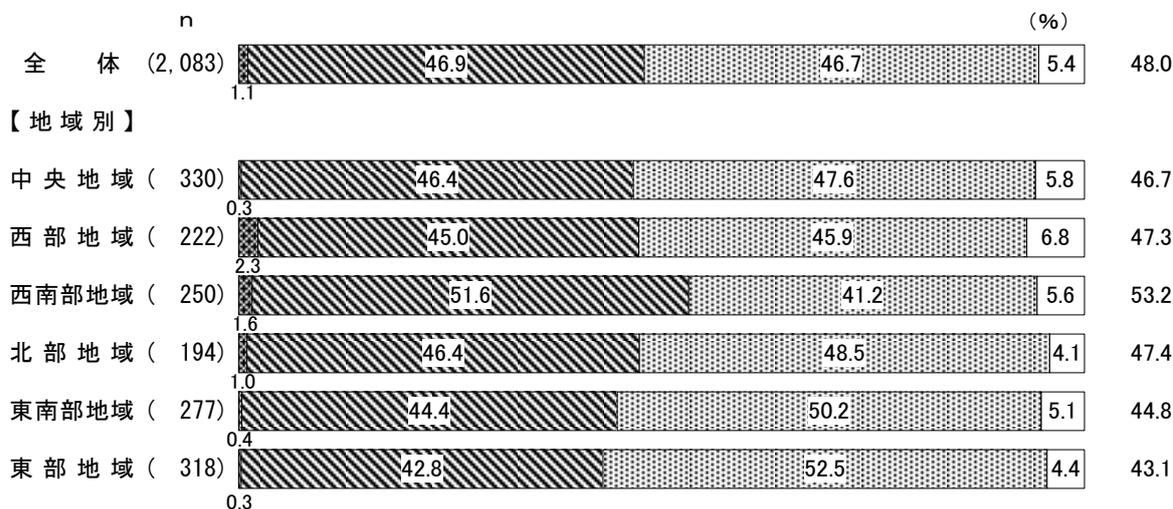
(4) 保育園や幼稚園の園庭等の開放



(5) 子ども家庭支援センター



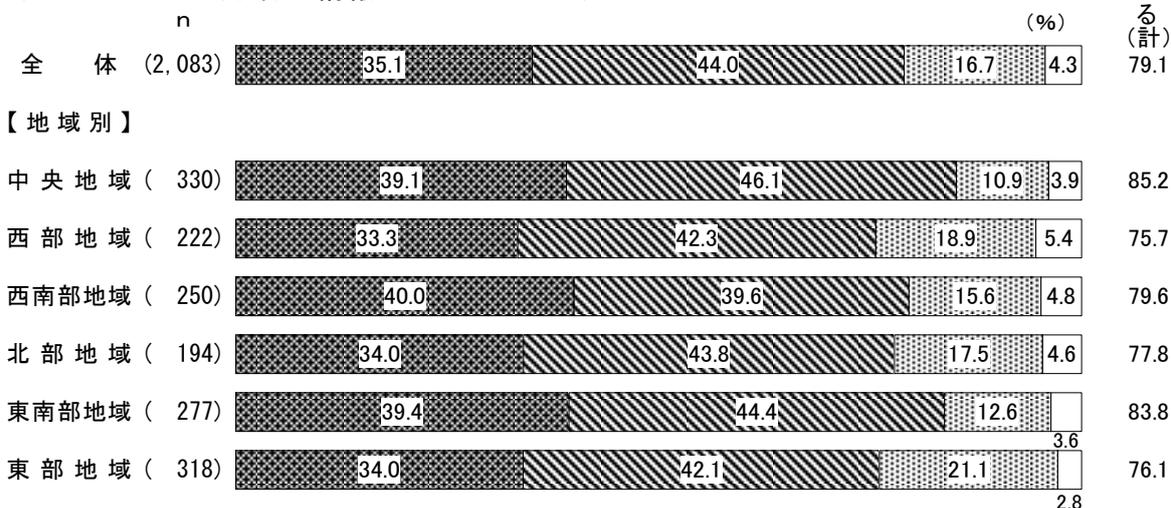
(7) 放課後等デイサービス



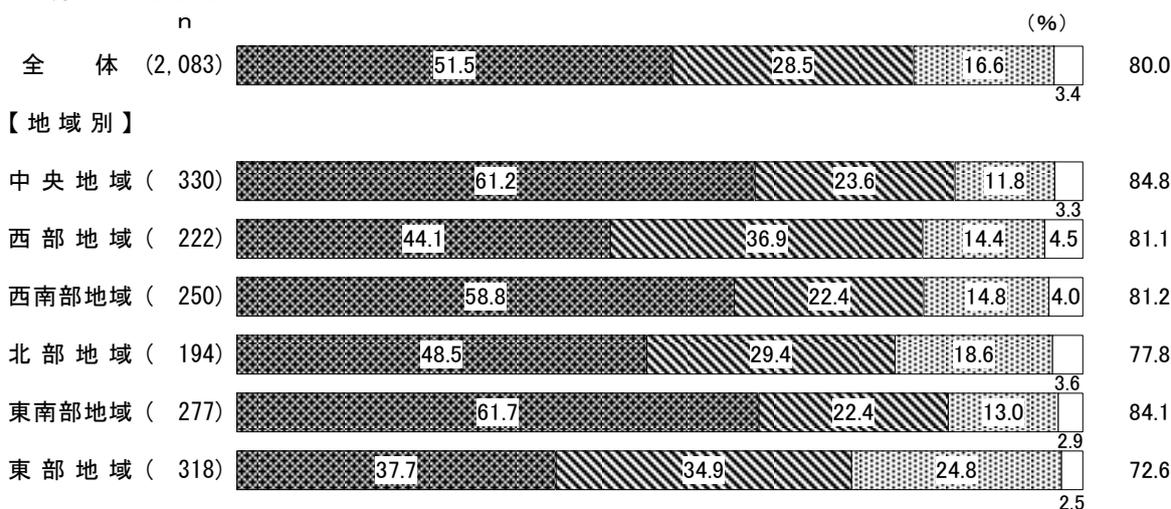
図表Ⅱ-11-24 (つづき) 子育て支援事業の利用状況—地域別

知っている (計)			
利用したことがある	利用したことはないが、聞いたことはある	知らなかった	無回答
■	▨	▤	□

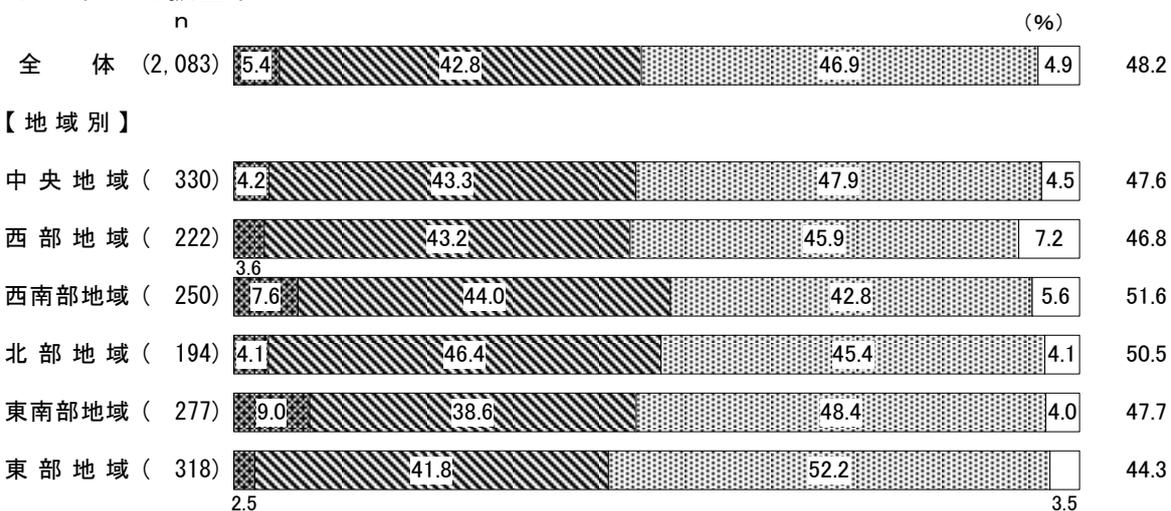
(9) はち☆ベビ (子育て情報モバイルサイト)



(10) 赤ちゃんふらっと



(11) 子育て応援企業

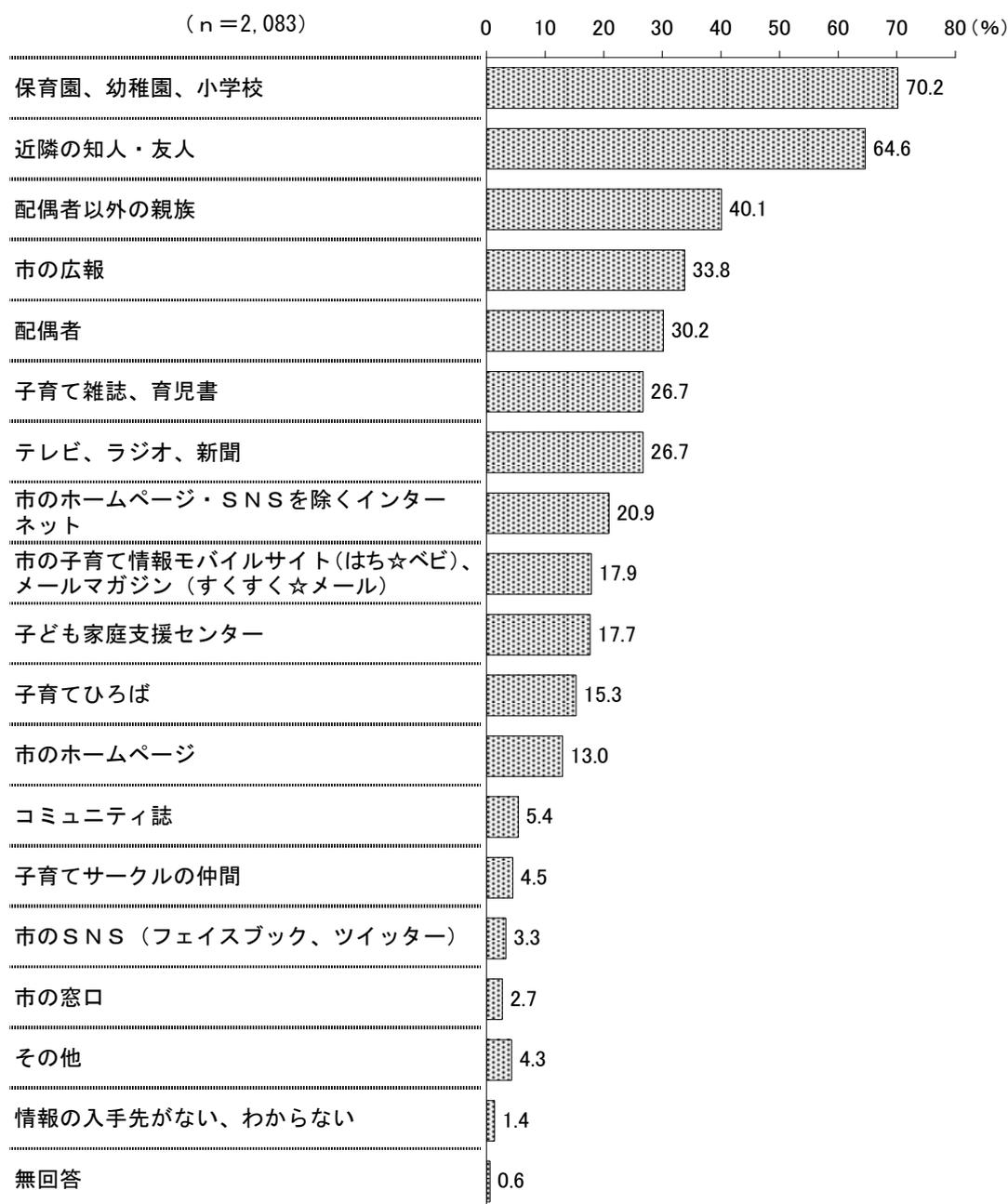


(9) 子育てに関する情報の入手方法

問56 子育てに関する情報を誰から（どこから）入手していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関する情報を誰から（どこから）入手しているか聞いたところ、「保育園、幼稚園、小学校」が70.2%で最も高く、次いで「近隣の知人・友人」(64.6%)、「配偶者以外の親族」(40.1%)、「市の広報」(33.8%)の順となっている。(図表Ⅱ-11-25)

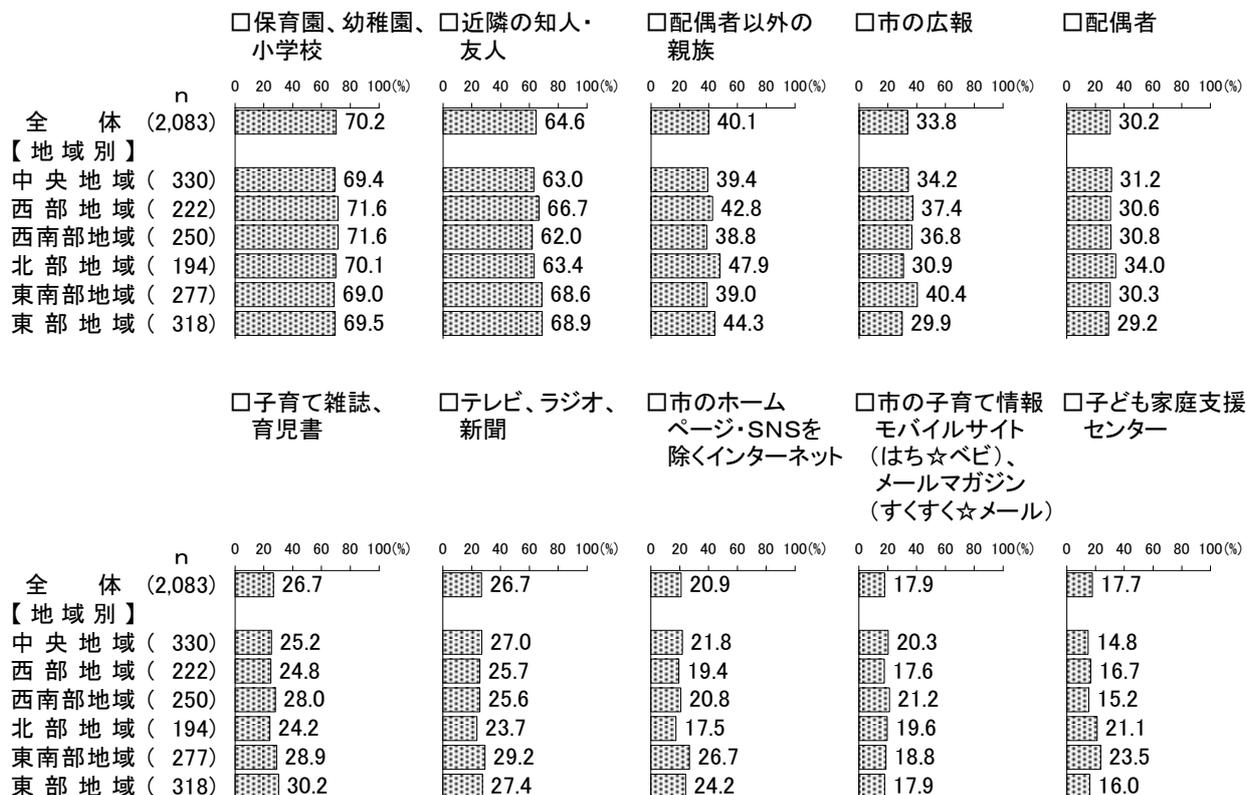
図表Ⅱ-11-25 子育てに関する情報の入手方法



地域別にみると、「配偶者以外の親族」は北部地域で47.9%と高くなっている。「市の広報」は東南部地域で40.4%と高くなっている。「市のホームページ・SNSを除くインターネット」は東南部地域で26.7%と高くなっている。「子ども家庭支援センター」は東南部地域で23.5%と高くなっている。

(図表Ⅱ-11-26)

図表Ⅱ-11-26 子育てに関する情報の入手方法—地域別（上位10項目）

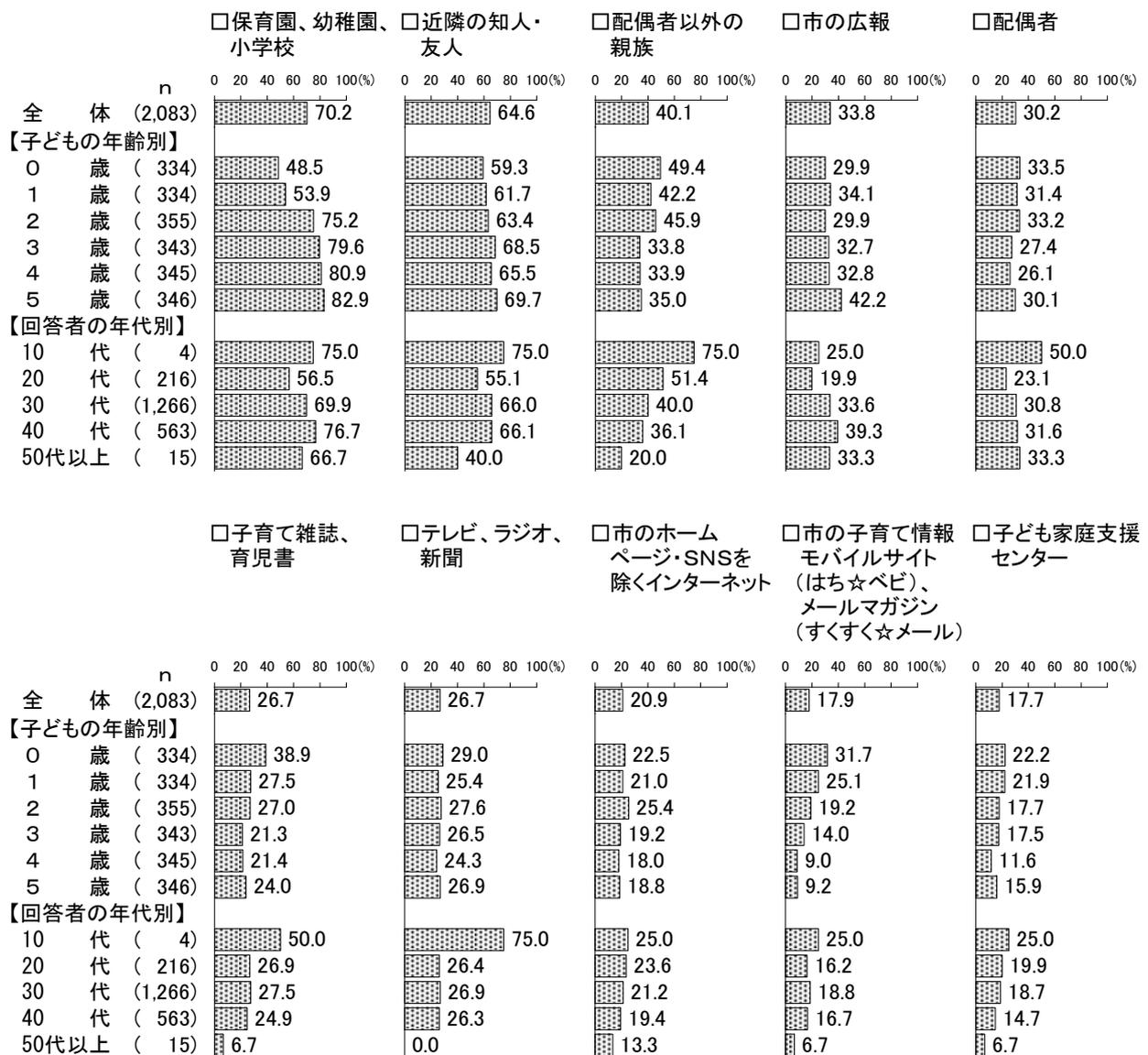


子どもの年齢別にみると、「配偶者以外の親族」は0歳で49.4%、2歳で45.9%と高くなっている。「市の広報」は5歳で42.2%と高くなっている。「子育て雑誌、育児書」は0歳で38.9%と高くなっている。「市のホームページ・SNSを除くインターネット」は2歳で25.4%と高くなっている。「市の子育て情報モバイルサイト（はち☆ベビ）、メールマガジン（すくすく☆メール）」は0歳で31.7%、1歳で25.1%と高くなっている。「子ども家庭支援センター」は0歳で22.2%、1歳で21.9%と高くなっている。

回答者の年代別にみると、「保育園、幼稚園、小学校」は40代で76.7%と高くなっている。「配偶者以外の親族」は20代で51.4%と高くなっている。「市の広報」は40代で39.3%と高くなっている。

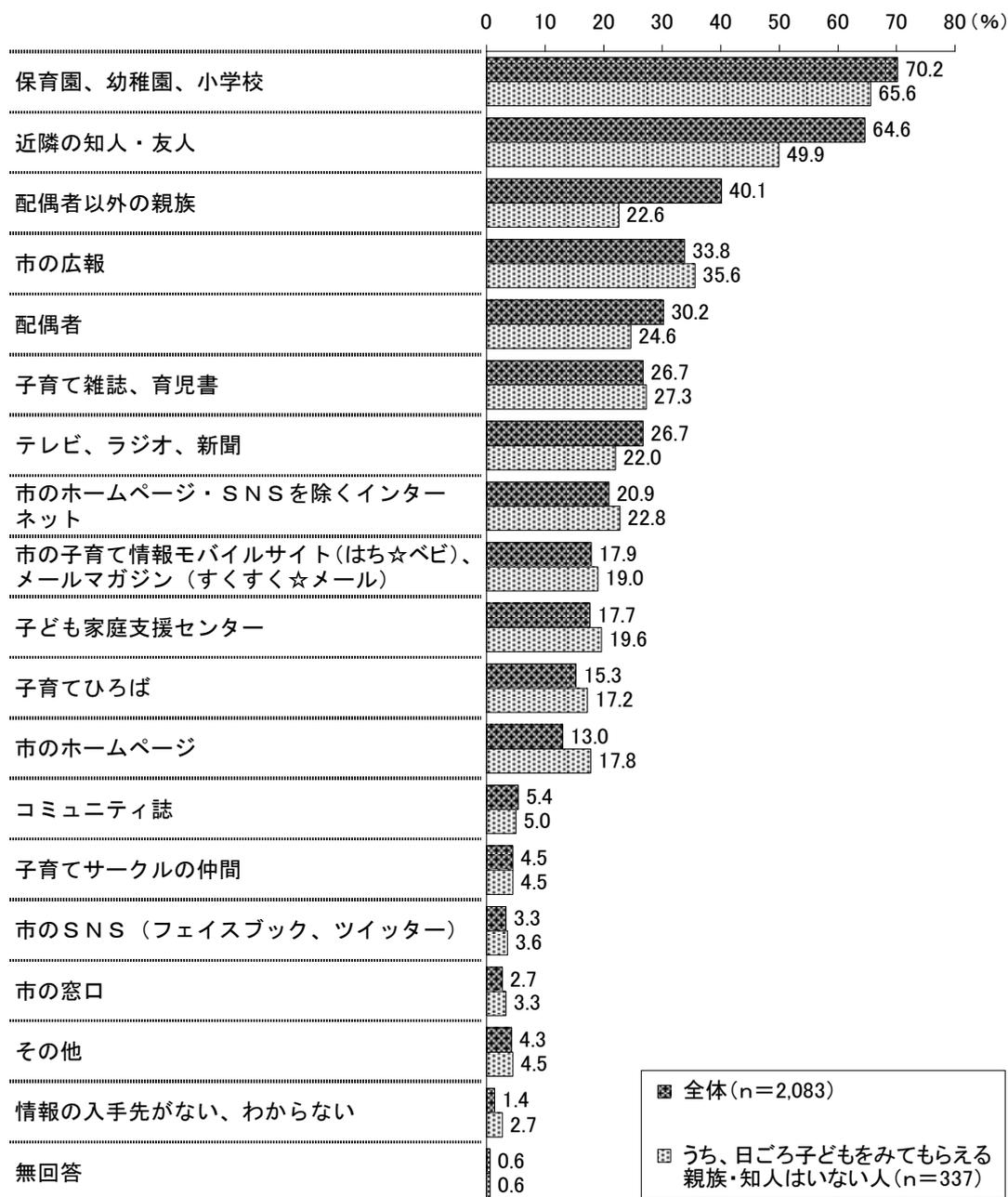
(図表Ⅱ-11-27)

図表Ⅱ-11-27 子育てに関する情報の入手方法—子どもの年齢別、回答者の年代別（上位10項目）



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人（337人）の結果をみると、「市のホームページ」が17.8%と高くなっている。一方、「近隣の知人・友人」が49.9%、「配偶者以外の親族」が22.6%、「配偶者」が24.6%にとどまっている。（図表Ⅱ-11-28）

図表Ⅱ-11-28 子育てに関する情報の入手方法
 一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人との比較



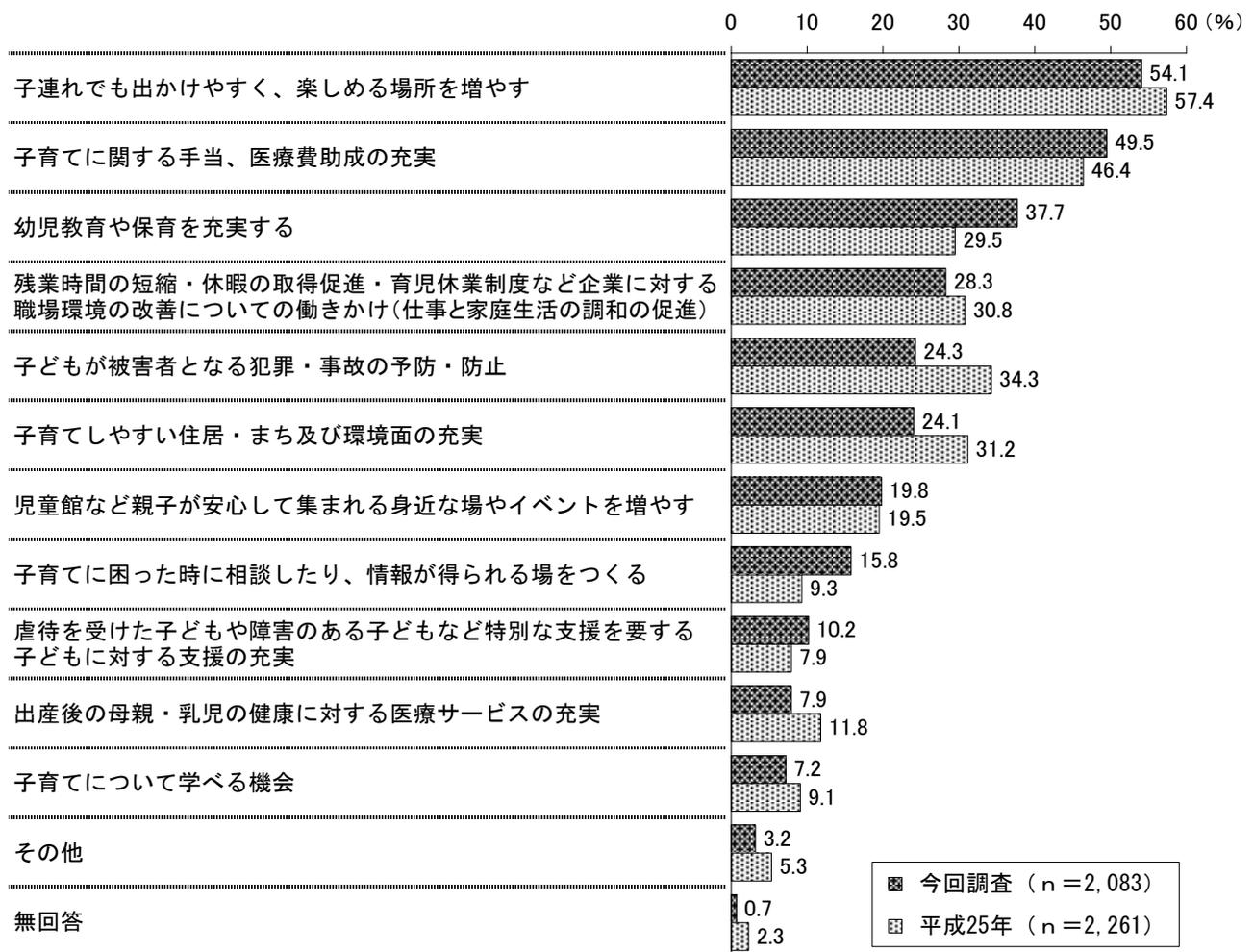
(10) 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策

問57 あなたが考える子育て支援環境充実のための支援策について、特に重要だと思うものの番号を3つまで○をつけてください。

市の子育て支援環境充実のための施策のうち、特に重要だと思う施策を聞いたところ、「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」が54.1%で最も高く、次いで「子育てに関する手当、医療費助成の充実」(49.5%)、「幼児教育や保育を充実する」(37.7%)、「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度など企業に対する職場環境の改善についての働きかけ(仕事と家庭生活の調和の促進)」(28.3%)の順となっている。

平成25年調査と比較すると、「幼児教育や保育を充実する」は8.2ポイント、「子育てに困った時に相談したり、情報が得られる場をつくる」は6.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「子どもが被害者となる犯罪・事故の予防・防止」は10.0ポイント、「子育てしやすい住居・まち及び環境面の充実」は7.1ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅱ-11-29)

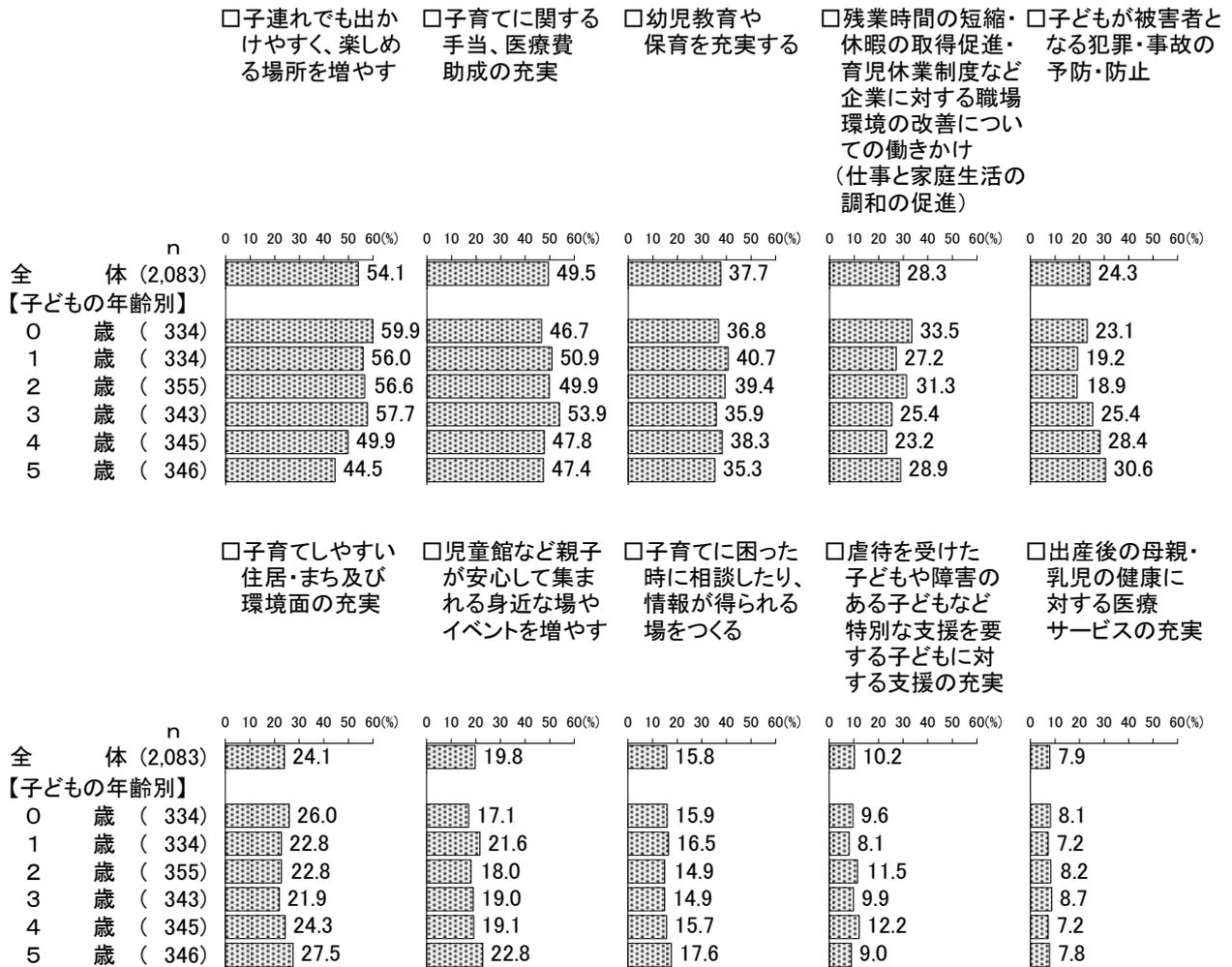
図表Ⅱ-11-29 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策(経年変化)



子どもの年齢別にみると、「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」は0歳で59.9%と高くなっている。「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度など企業に対する職場環境の改善についての働きかけ(仕事と家庭生活の調和の促進)」は0歳で33.5%と高くなっている。「子どもが被害者となる犯罪・事故の予防・防止」は5歳で30.6%と高くなっている。

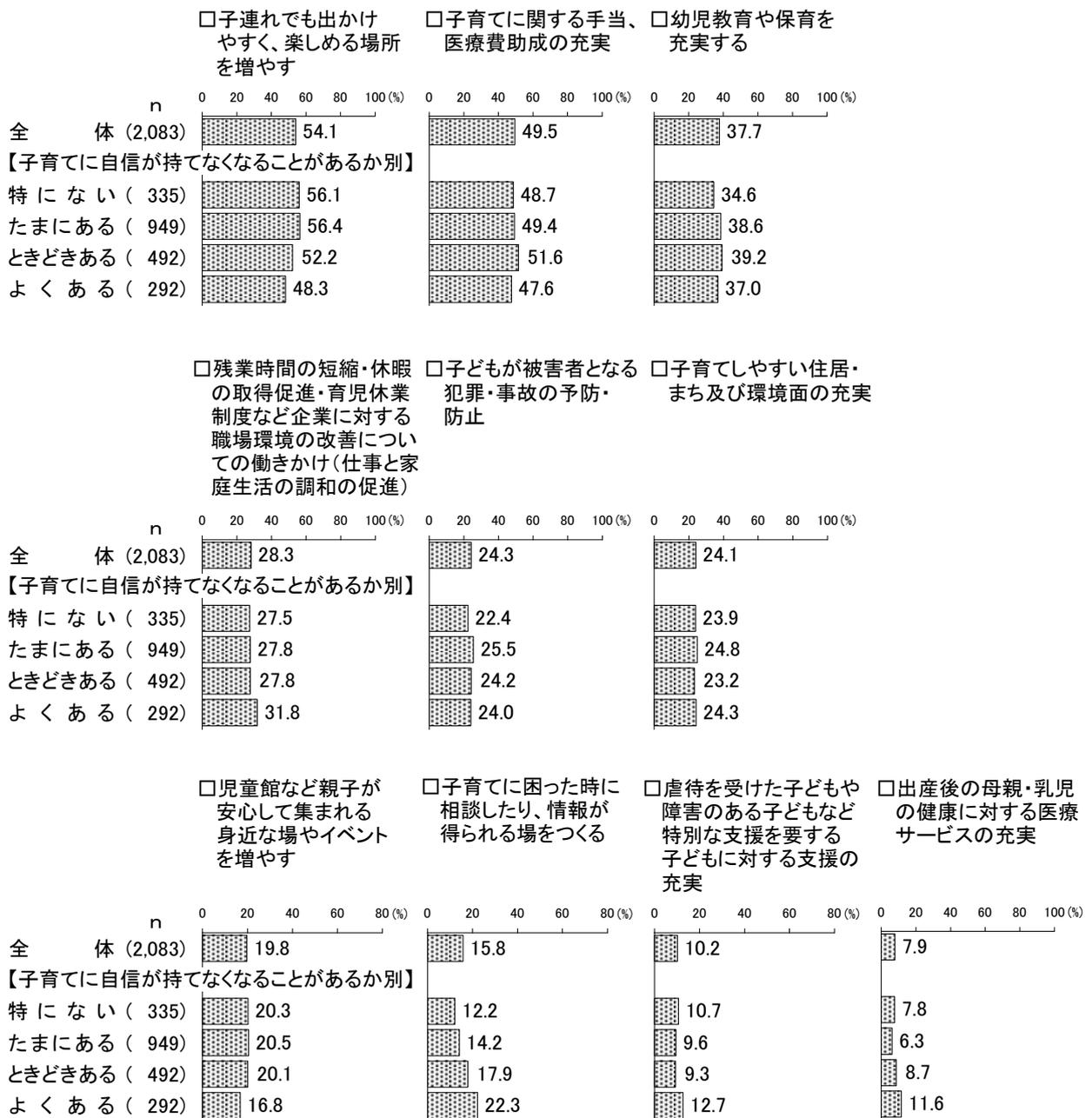
(図表Ⅱ-11-30)

図表Ⅱ-11-30 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策
—子どもの年齢別(上位10項目)



子育てに自信が持てなくなることがあるか（問51）別にみると、「子育てに困った時に相談したり、情報が得られる場をつくる」はよくある人で22.3%と高くなっている。「出産後の母親・乳児の健康に対する医療サービスの充実」はよくある人で11.6%となっている。（図表Ⅱ－11－31）

図表Ⅱ－11－31 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策
 一子育てに自信が持てなくなることがあるか別（上位10項目）



Ⅲ ひとり親家庭調査の結果

Ⅲ ひとり親家庭調査の結果

1 調査結果の概要

(1) ひとり親家庭調査回答者の属性・家族状況 (123～128ページ)

- 同居している18歳未満の子どもは、「高校生」が33.7%で最も高く、次いで「中学生」(27.2%)、「就学前児童」(23.2%)、「小学1～3年生」(22.1%)の順となっている。
- 同居している18歳未満の子どもの人数の合計は、「1人」が64.1%で最も高くなっている。「2人」は25.4%、「3人」は6.5%、「4人」は2.2%、「5人」は0.4%となっている。
- 18歳未満の子ども以外に同居している方は、「あなたの母」が26.4%で最も高く、次いで「あなたの父」(18.5%)、「あなたの兄弟、姉妹」(8.3%)の順となっている。
- ひとり親家庭となった理由は、「離婚」が77.2%で最も高く、次いで「死別」(10.1%)、「未婚・非婚」(9.1%)の順となっている。
- ひとり親になってからの期間は、「7年以上」が40.6%で最も高く、次いで「3年以上5年未満」(18.5%)、「1年以上3年未満」(16.7%)、「5年以上7年未満」(16.3%)の順となっている。
- 日ごろ、子どもをみてもらえる親族・知人については、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」が32.6%、「緊急時もしくは用事の際にみてもらえる親族・知人がいる」が33.7%となっている。一方、「みてもらえる親族・知人はいない」は12.7%となっている。
- 世帯の家計については、「赤字であり、日々の生活のために借金をしている」と「赤字であり、貯金を取り崩している」を合わせた『赤字(計)』が39.9%となっている。一方、「黒字であるが貯蓄はしていない」と「黒字であり、毎月貯蓄している」を合わせた『黒字(計)』は15.6%となっている。また、「赤字でも黒字でもない」は36.2%となっている。
- ひとり親家庭における母親の就労状況は、「フルタイムで就労している」が59.8%、「パート・アルバイト等で就労している」が26.4%、「現在就労していない」が8.7%となっている。

(2) ひとり親家庭の日ごろの子育ての状況 (134～152ページ)

- 安心して子育てができていていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる(計)』が67.0%と高くなっている。一方、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた『感じない(計)』は33.0%となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、『感じる(計)』はひとり親家庭の方が18.5ポイント低く、『感じない(計)』はひとり親家庭の方が19.1ポイント高くなっている。

また、『感じる(計)』は日常的に子どもをみてもらえる親族・知人がいる人で80.0%と高くなっている。一方、『感じない(計)』は子どもをみてもらえる親族・知人はいない人で57.1%と高くなっている。

- 地域の人が子育てを支えてくれていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる（計）』が50.0%、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた『感じない（計）』が50.0%となっている。
両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、『感じる（計）』はひとり親家庭の方が10.3ポイント低くなっている。一方、『感じない（計）』はひとり親家庭の方が11.3ポイント高くなっている。
- 日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持てなくなることがあるか聞いたところ、「たまにある」が36.2%で最も高くなっている。「ときどきある」は21.4%、「よくある」は23.6%となっている。一方、「特にない」は18.1%となっている。
両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「よくある」はひとり親家庭の方が9.6ポイント高くなっている。一方、「たまにある」はひとり親家庭の方が9.4ポイント低くなっている。
- 子育てに関して悩んでいること、気になることは、「子育てにかかる経済的負担に関すること」が77.5%で最も高く、次いで「子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること」（56.5%）、「子どもの病気や発育・発達・性格行動等、子ども本人に関すること」（49.6%）、「子ども同士の友だち付き合いに関すること（いじめ等を含む）」（35.5%）の順となっている。
- 市の子育て支援環境充実のための施策のうち、特に重要だと思う施策は、「子育てに関する手当、医療費助成の充実」が56.9%で最も高く、次いで「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」（29.7%）、「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度など企業に対する職場環境の改善についての働きかけ（仕事と家庭生活の調和の促進）」（26.8%）、「子育てしやすい住居・まち及び環境面の充実」（26.4%）の順となっている。

（3）ひとり親家庭の養育費や子どもとの面会交流の状況（160～164ページ）

- ひとり親家庭となった理由が「離婚」または「未婚・非婚」と答えた人に、子どもの養育費の取り決めをしたか聞いたところ、「取り決めをした」が51.7%、「取り決めはしていない」が45.4%となっている。
- ひとり親家庭となった理由が「離婚」または「未婚・非婚」と答えた人に、面会交流の頻度や方法について取り決めをしたか聞いたところ、「取り決めをした」が33.2%、「取り決めはしていない」が58.4%となっている。

（4）ひとり親家庭に対して必要な支援（171～180ページ）

- 現在困っていることは、「家計」が60.5%で最も高く、次いで「子どもの教育（学費）」（56.5%）、「子どもの進路・就職」（36.2%）、「心身の健康」（32.6%）の順となっている。
- ひとり親家庭について、今後どのような支援を望むか聞いたところ、「子の学習支援（塾・家庭教師派遣）の充実」が48.2%で最も高く、次いで「ひとり親家庭の相談の充実」（30.4%）、「資格取得支援の充実」（27.9%）、「親子バスツアー（温泉、海水浴、BBQなど）」（23.9%）の順となっている。

2 ひとり親家庭調査回答者の属性・家族状況

(1) 地域

問1 お住まいの町の番号1つに○をつけてください。

住んでいる町丁名を質問し、回答内容を市内の6つの地域に分類したところ、地域別の調査票回収率は以下のとおりとなった。(図表Ⅲ-2-1)

なお、回答者数が少ないため、ひとり親家庭の地域別分析は行っていない。

図表Ⅲ-2-1 地域別の調査票回収率

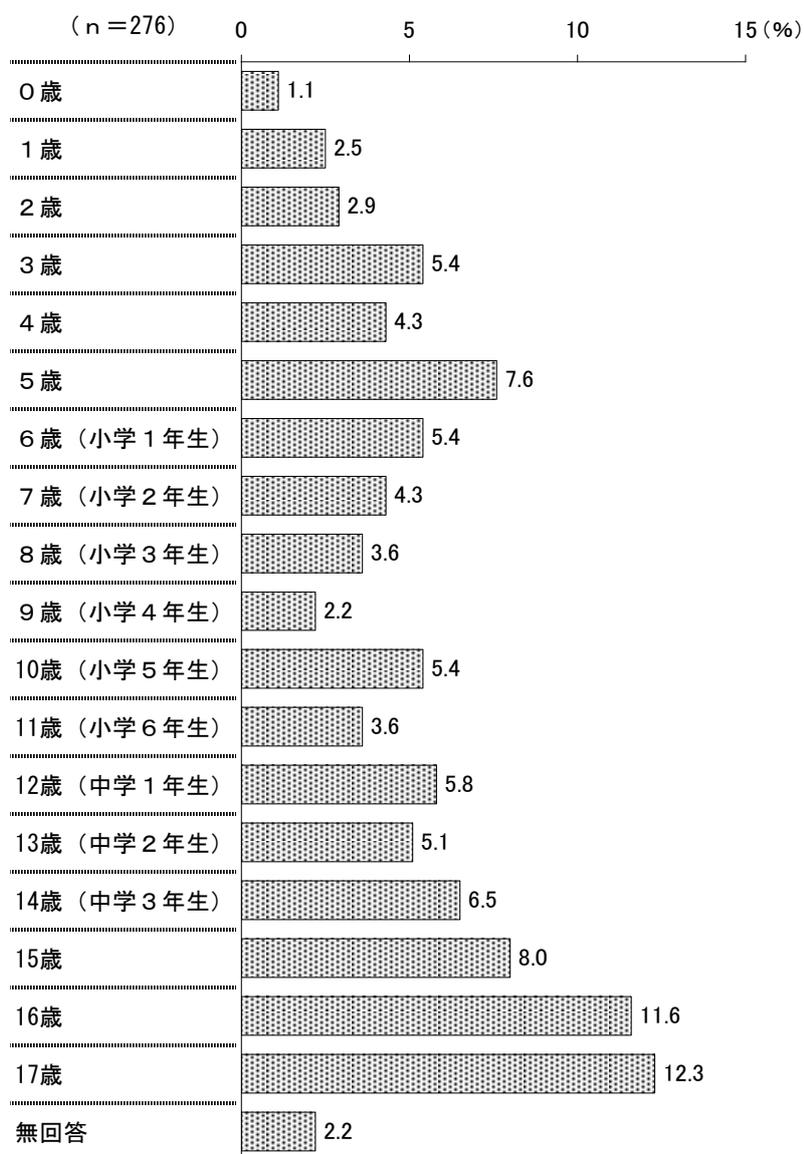
地 域	調査対象者数	有効回収数	有効回収率
中央地域	179	27	15.1%
西部地域	159	22	13.8%
西南部地域	140	25	17.9%
北部地域	72	14	19.4%
東南部地域	89	20	22.5%
東部地域	161	33	20.5%
地域別計	800	141	17.6%
地域無回答		68	
合計	800	209	26.1%

(2) 子どもの年齢

問2 宛て名のお子さんの生年月を、□内に数字でご記入ください。

宛て名の子どもの生年月を質問し、平成30年4月1日現在の年齢に分類したところ、「15歳」から「17歳」までの3つを合わせた『15～17歳（計）』が31.9%となっている。『0～2歳（計）』は6.5%、『3～5歳（計）』は17.4%、『小学1～3年生（計）』は13.4%、『小学4～6年生（計）』は11.2%、『中学生（計）』は17.4%となっている。（図表Ⅲ－2－2）

図表Ⅲ－2－2 子どもの年齢

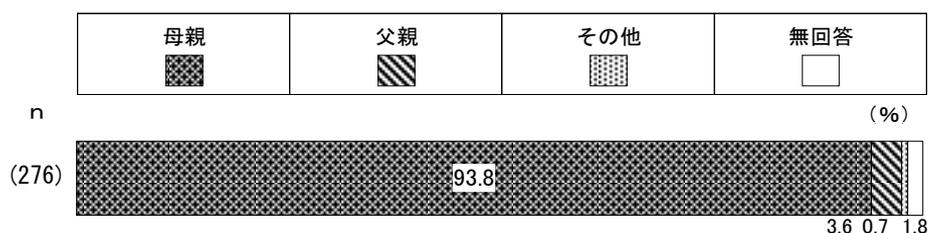


(3) この調査の回答者

問3 宛て名のお子さんからみて、この調査票に回答している方はどなたですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

この調査の回答者を聞いたところ、「母親」（母子家庭に相当）が93.8%、「父親」（父子家庭に相当）が3.6%となっている。（図表Ⅲ-2-3）

図表Ⅲ-2-3 この調査の回答者

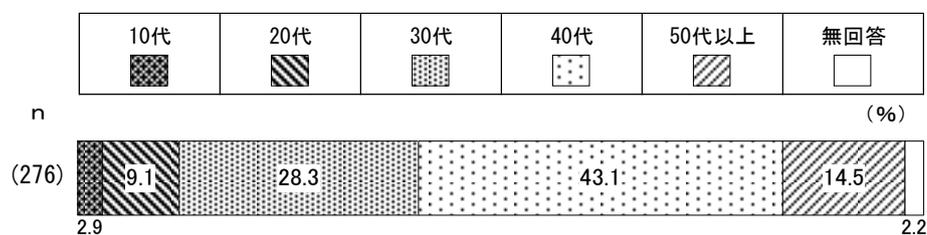


(4) 回答者の年代

問4 回答している方の年代について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

回答者の年代を聞いたところ、「40代」が43.1%で最も高く、次いで「30代」（28.3%）、「50代以上」（14.5%）、「20代」（9.1%）の順となっている。（図表Ⅲ-2-4）

図表Ⅲ-2-4 回答者の年代



(5) 同居している子ども

【ひとり親家庭の方のみ】

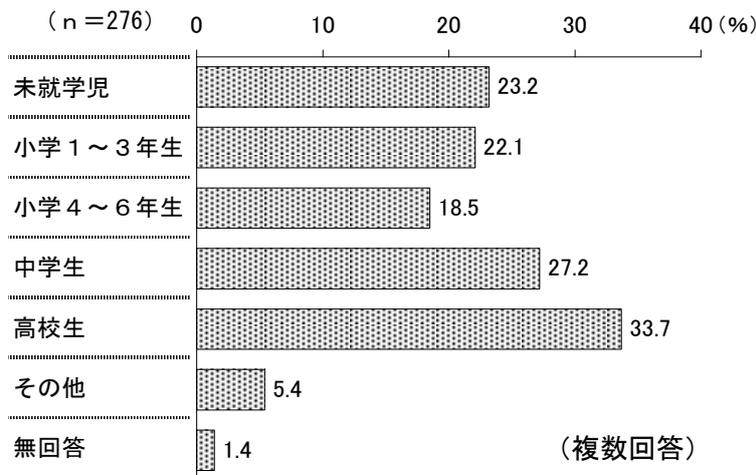
問58 あなたの世帯についてうかがいます。

(1) 同居している18歳未満のお子さんの人数について (口に数字を記入)

同居している18歳未満の子どもを聞いたところ、「高校生」が33.7%で最も高く、次いで「中学生」(27.2%)、「就学前児童」(23.2%)、「小学1～3年生」(22.1%)の順となっている。

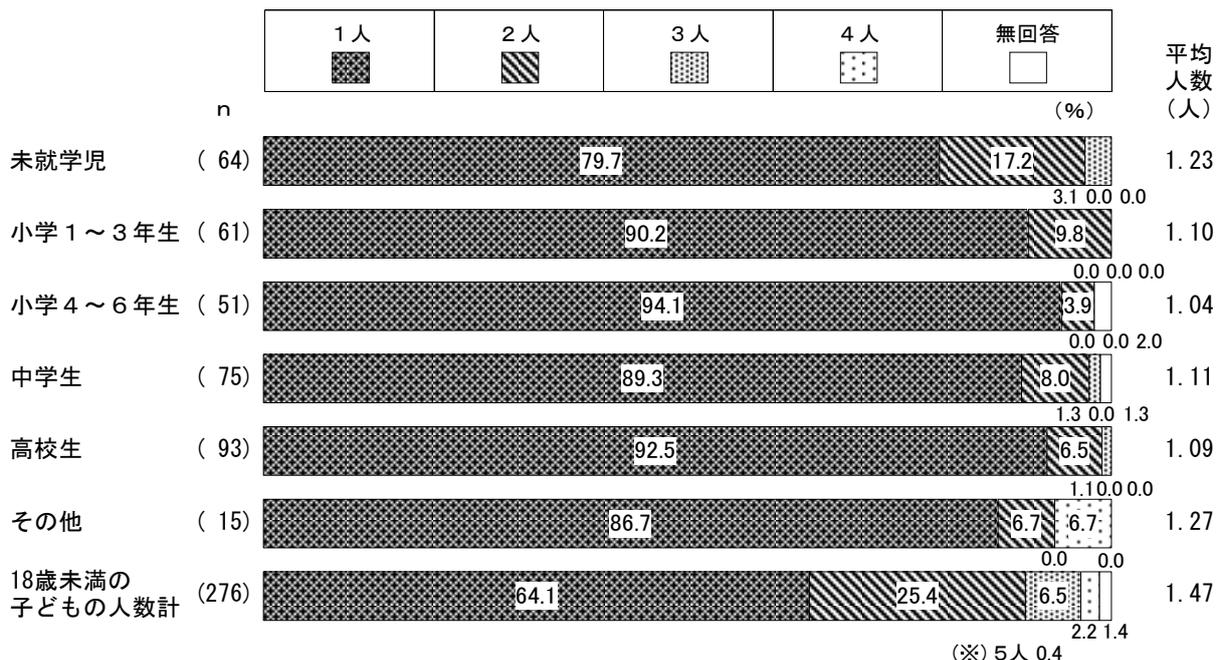
(図表Ⅲ-2-5)

図表Ⅲ-2-5 同居している子ども



同居している18歳未満の子どもの人数を聞いたところ、その人数の合計は、「1人」が64.1%で最も高くなっている。「2人」は25.4%、「3人」は6.5%、「4人」は2.2%、「5人」は0.4%となっている。(図表Ⅲ-2-6)

図表Ⅲ-2-6 同居している子どもの人数



(※) 「18歳未満の子どもの人数計」には、凡例にはない「5人」(0.4%)が含まれる。

(6) 子ども以外に同居している方

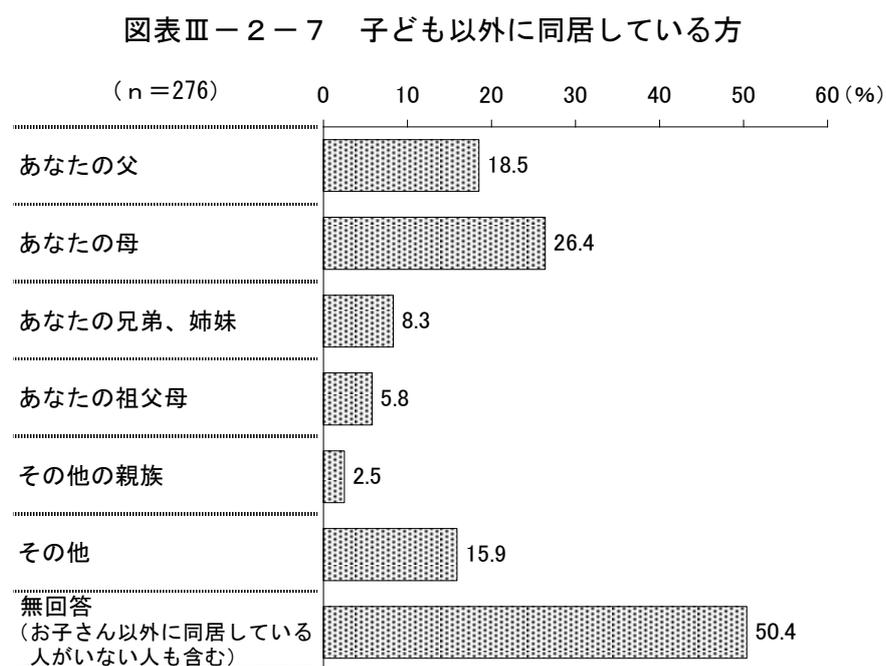
【ひとり親家庭の方のみ】

問58 あなたの世帯についてうかがいます。

(2) お子さん以外にあなたと同居している方（当てはまる番号すべてに○）

18歳未満の子ども以外に同居している方を聞いたところ、「あなたの母」が26.4%で最も高く、次いで「あなたの父」(18.5%)、「あなたの兄弟、姉妹」(8.3%)の順となっている。

(図表Ⅲ－2－7)



(※) 無回答 (50.4%) には、18歳未満の子ども以外に同居している方がいて、この質問に無回答であった人と、18歳未満の子ども以外に同居している方がおらず、○を記入すべき選択肢がないために空欄としてあって、この質問で「無回答」に分類された人の両方が含まれることに注意が必要である。

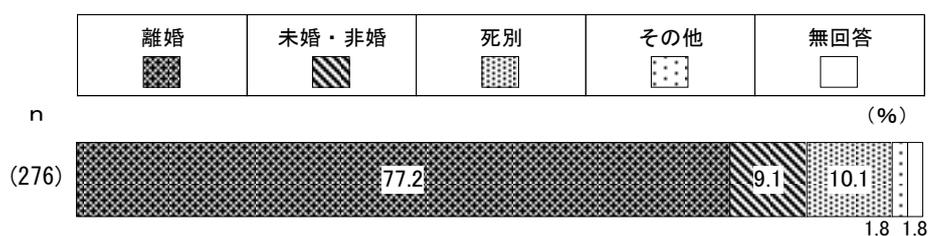
(7) ひとり親家庭となった理由

【ひとり親家庭の方のみ】

問59 ひとり親家庭となった理由について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

ひとり親家庭となった理由を聞いたところ、「離婚」が77.2%で最も高く、次いで「死別」(10.1%)、「未婚・非婚」(9.1%)の順となっている。(図表Ⅲ-2-8)

図表Ⅲ-2-8 ひとり親家庭となった理由



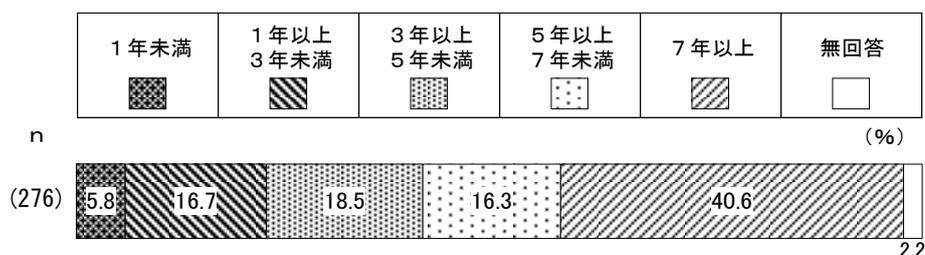
(8) ひとり親になってからの期間

【ひとり親家庭の方のみ】

問60 ひとり親になってからの期間について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

ひとり親になってからの期間を聞いたところ、「7年以上」が40.6%で最も高く、次いで「3年以上5年未満」(18.5%)、「1年以上3年未満」(16.7%)、「5年以上7年未満」(16.3%)の順となっている。(図表Ⅲ-2-9)

図表Ⅲ-2-9 ひとり親になってからの期間



3 ひとり親家庭を取り巻く環境

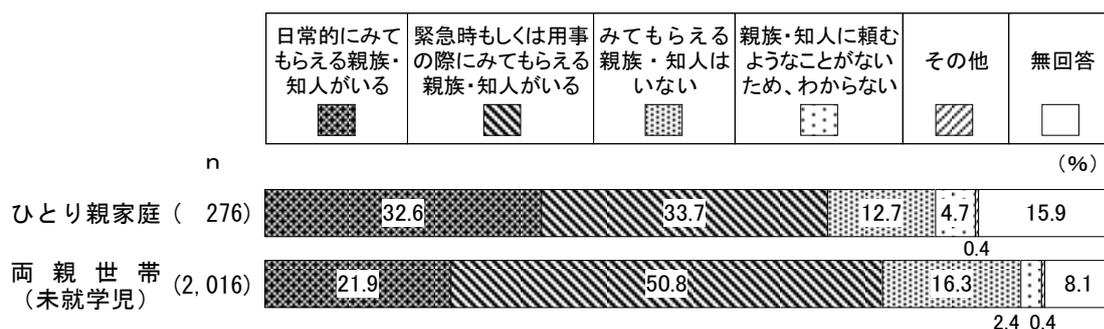
(1) 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人

問6 日ごろ、お子さんをみてもらえる親族・知人について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

日ごろ、子どもをみてもらえる親族・知人について聞いたところ、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」が32.6%、「緊急時もしくは用事の際にみてもらえる親族・知人がいる」が33.7%となっている。一方、「みてもらえる親族・知人はいない」は12.7%となっている。

両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「日常的にみてもらえる親族・知人がいる」はひとり親家庭の方が10.7ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－3－1）

図表Ⅲ－3－1 日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（両親世帯（就学前児童）との比較）



(2) みてもらえる親族・知人がいない理由

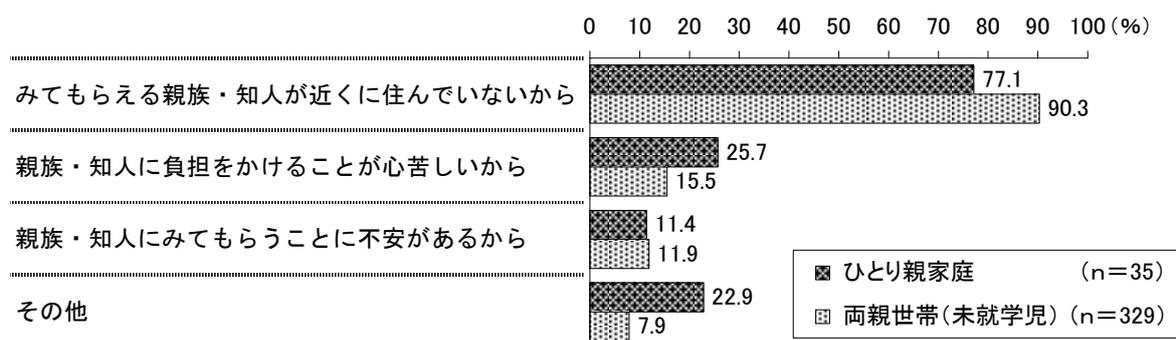
【問6で「みてもらえる親族・知人はいない」と回答した方のみ】

問7 みてもらえる親族・知人がいない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

日ごろ、子どもを「みてもらえる親族・知人はいない」と答えた人(35人)に、その理由を聞いたところ、「みてもらえる親族・知人が近くに住んでいないから」が77.1%で最も高く、次いで「親族・知人に負担をかけることが心苦しいから」(25.7%)、「親族・知人にみってもらうことに不安があるから」(11.4%)の順となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「親族・知人に負担をかけることが心苦しいから」はひとり親家庭の方が10.2ポイント高くなっている。一方、「みてもらえる親族・知人が近くに住んでいないから」はひとり親家庭の方が13.2ポイント低くなっている。(図表Ⅲ-3-2)

図表Ⅲ-3-2 みてもらえる親族・知人がいない理由(両親世帯(就学前児童)との比較)



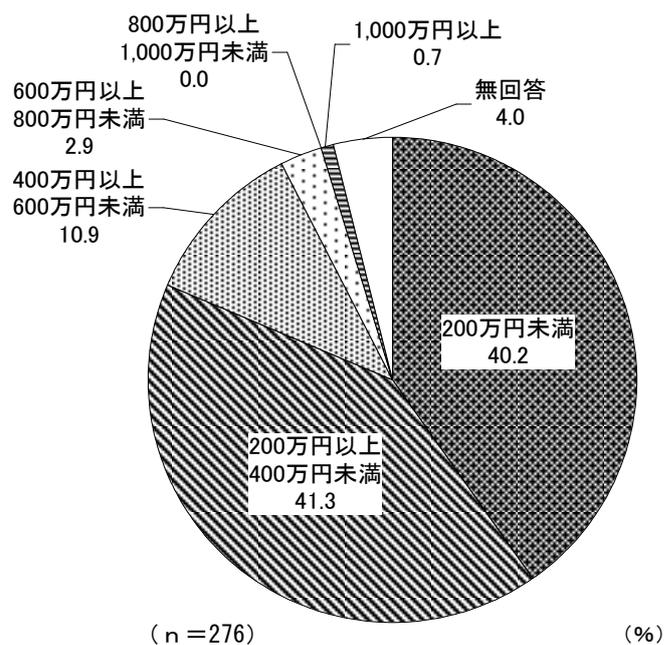
(3) 世帯年収

問8 世帯の年収について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

世帯年収を聞いたところ、「200万円未満」(40.2%)と「200万円以上400万円未満」(41.3%)がともに4割台で高く、次いで「400万円以上600万円未満」が10.9%となっている。

(図表Ⅲ-3-3)

図表Ⅲ-3-3 世帯年収



(4) 家計の状況

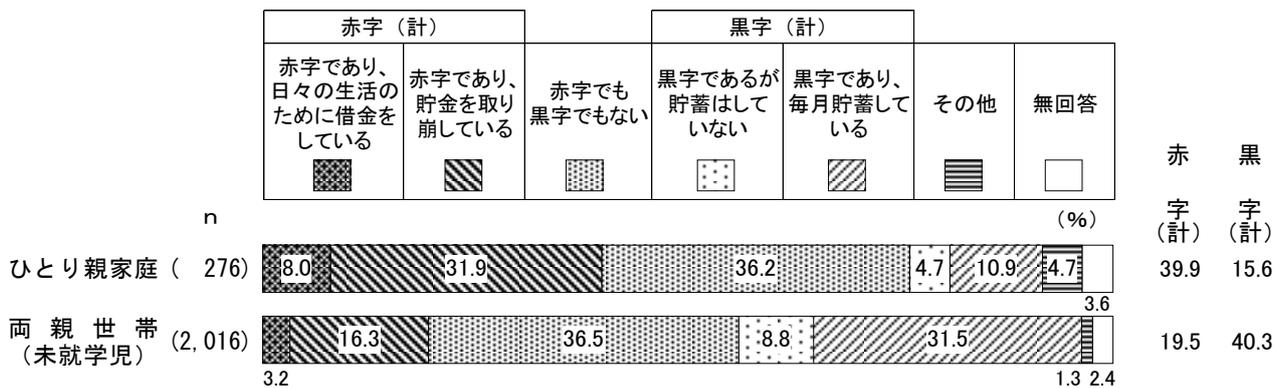
問9 世帯の家計について、最も当てはまる番号1つに○をつけてください。

世帯の家計について聞いたところ、「赤字であり、日々の生活のために借金をしている」(8.0%)と「赤字であり、貯金を取り崩している」(31.9%)を合わせた『赤字(計)』が39.9%となっている。一方、「黒字であるが貯蓄はしていない」(4.7%)と「黒字であり、毎月貯蓄している」(10.9%)を合わせた『黒字(計)』は15.6%となっている。また、「赤字でも黒字でもない」は36.2%となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、『赤字(計)』はひとり親家庭の方が20.4ポイント高くなっている。一方、『黒字(計)』はひとり親家庭の方が24.7ポイント低くなっている。

(図表Ⅲ-3-4)

図表Ⅲ-3-4 家計の状況(両親世帯(就学前児童)との比較)



(5) 母親・父親の現在の就労状況

問10 母親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。
産育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※父子家庭の場合は記入不要

(1) 就労状況 (当てはまる番号1つに○)

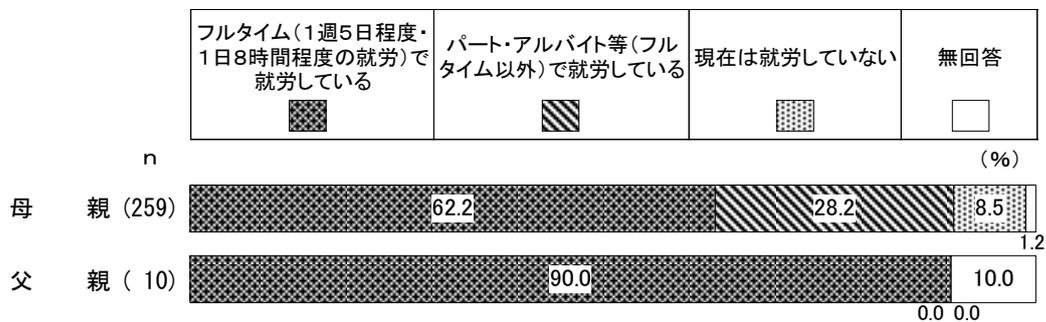
問12 父親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。
育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※母子家庭の場合は記入不要

(1) 就労状況 (当てはまる番号1つに○)

母子家庭 (259人) の母親の現在の就労状況は、「フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している」が62.2%、「パート・アルバイト等 (フルタイム以外) で就労している」が28.2%、「現在は就労していない」が8.5%となっている。

父子家庭 (10人) の父親の現在の就労状況は、「フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している」が90.0%となっている。(図表Ⅲ-3-5)

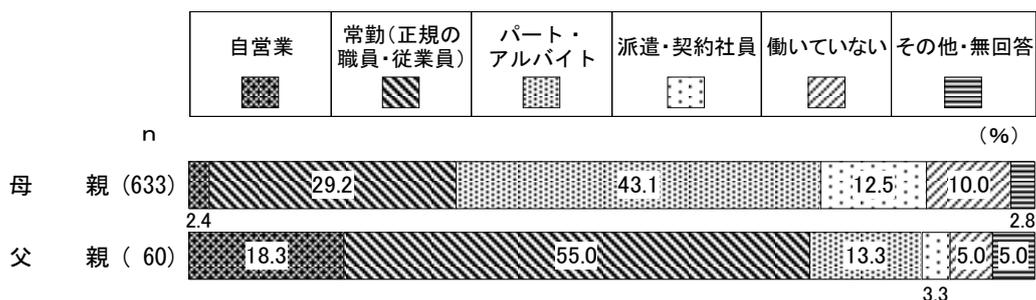
図表Ⅲ-3-5 母親・父親の現在の就労状況



(※) 全員に対して質問しているが、調査票の回答者 (問3) で「母親」と答えた人 (259人) および「父親」と答えた人 (10人) のみの集計結果を示している。

平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ-3-6)

図表Ⅲ-3-6 (参考) 母親・父親の現在の就労状況 (平成26年調査)



4 ひとり親家庭の日ごろの子育ての状況

(1) 安心して子育てができていると感じるか

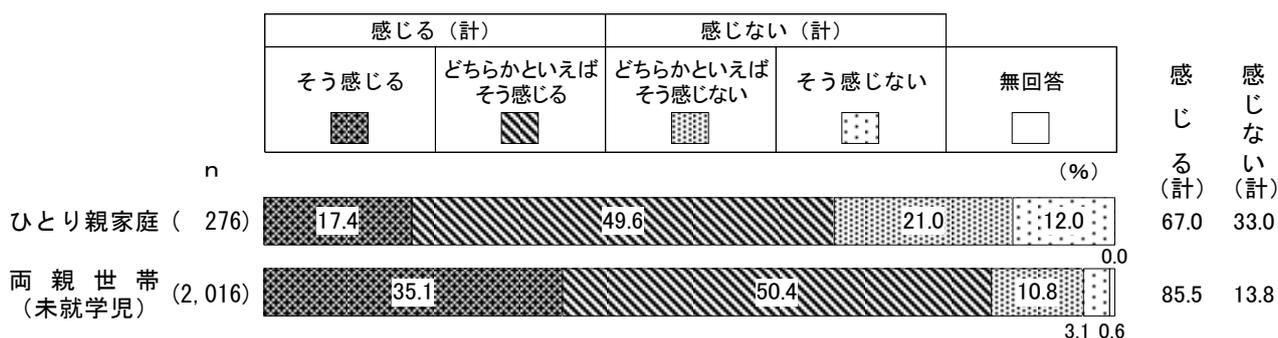
問49 あなたは安心して子育てができていると感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

安心して子育てができていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」(17.4%)と「どちらかといえばそう感じる」(49.6%)を合わせた『感じる(計)』が67.0%と高くなっている。一方、「どちらかといえばそう感じない」(21.0%)と「そう感じない」(12.0%)を合わせた『感じない(計)』は33.0%となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、『感じる(計)』はひとり親家庭の方が18.5ポイント低くなっている。一方、『感じない(計)』はひとり親家庭の方が19.2ポイント高くなっている。

(図表Ⅲ-4-1)

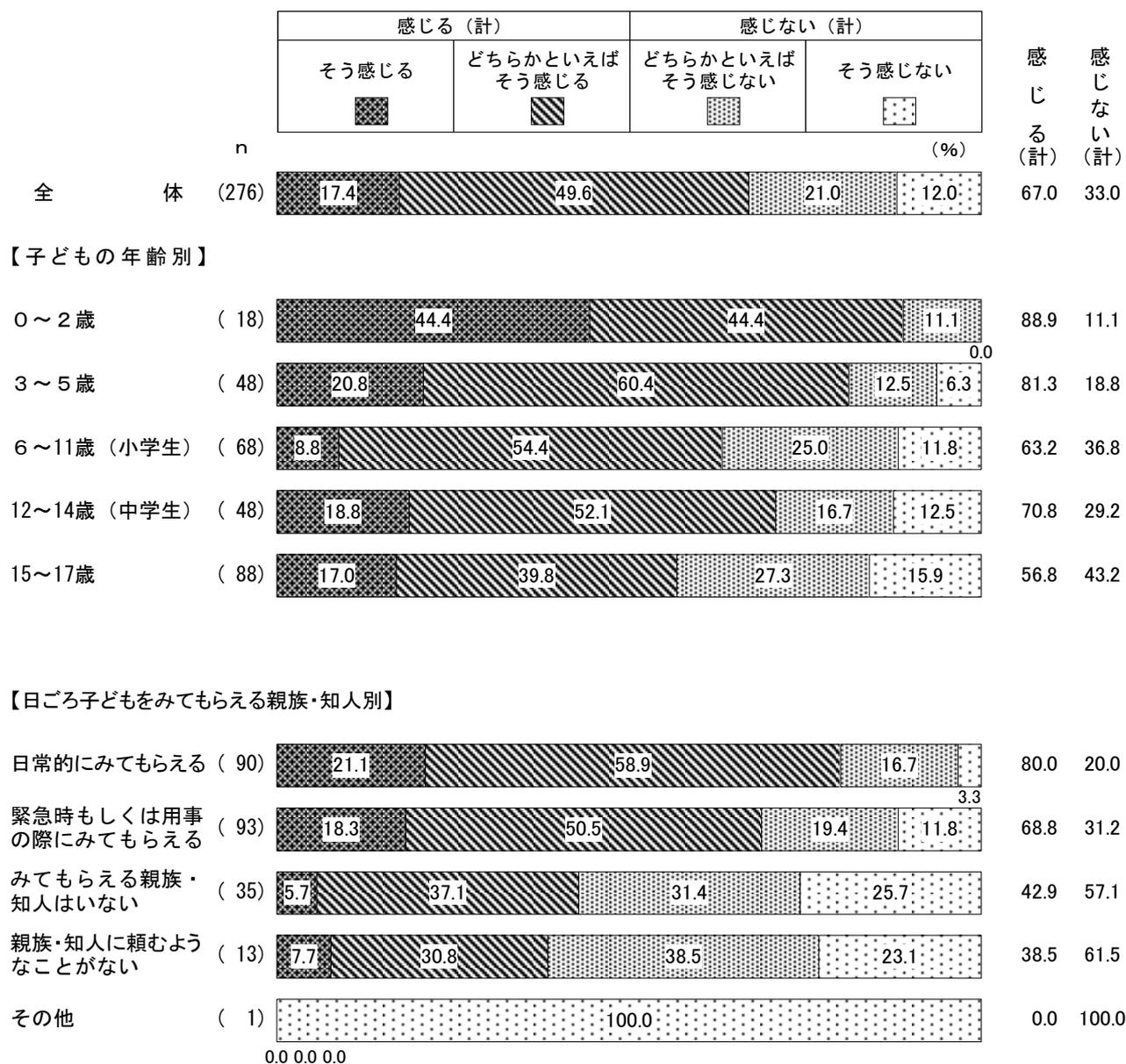
図表Ⅲ-4-1 安心して子育てができていると感じるか(両親世帯(就学前児童)との比較)



子どもの年齢別にみると、『感じる（計）』は0～2歳で88.9%、3～5歳で81.3%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は15～17歳で43.2%と高くなっている。

日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人（問6）別にみると、『感じる（計）』は日常的にみてもらえる人で80.0%と高くなっている。一方、『感じない（計）』はみてもらえる親族・知人はいない人で57.1%と高くなっている。（図表Ⅲ－4－2）

図表Ⅲ－4－2 安心して子育てができていると感じるか
一子どもの年齢別、日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別



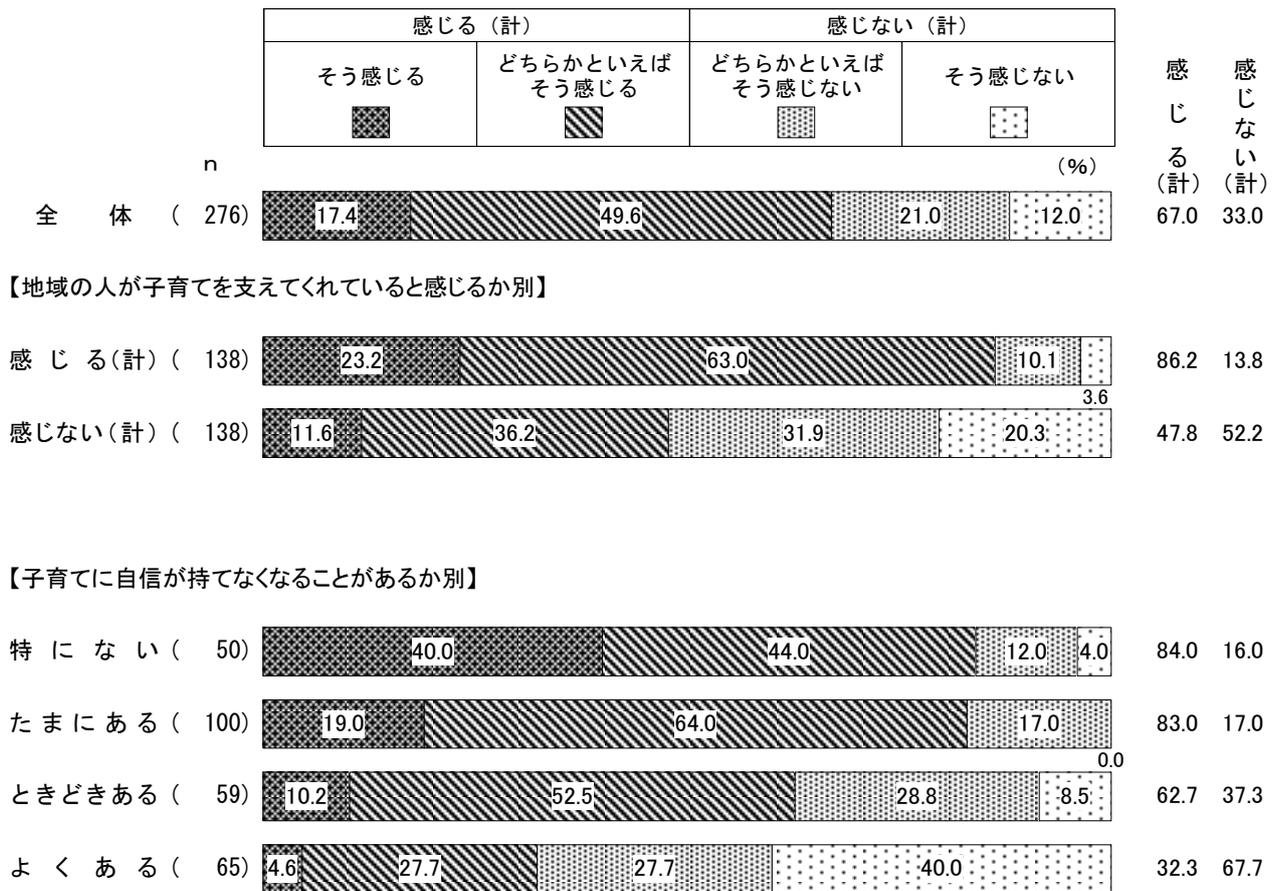
地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか（問50）別にみると、『感じる（計）』は地域の方が子育てを支えてくれていると感じる人で86.2%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は地域の方が子育てを支えてくれていると感じない人で52.2%と高くなっている。

子育てに自信が持てなくなることがあるか（問51）別にみると、『感じる（計）』は子育てに自信が持てなくなることが特にない人で84.0%、たまにある人で83.0%と高くなっている。一方、『感じない（計）』は子育てに自信が持てなくなることがよくある人で67.7%と高くなっている。

（図表Ⅲ－４－３）

図表Ⅲ－４－３ 安心して子育てができていると感じるか

－地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか別、子育てに自信が持てなくなることがあるか別



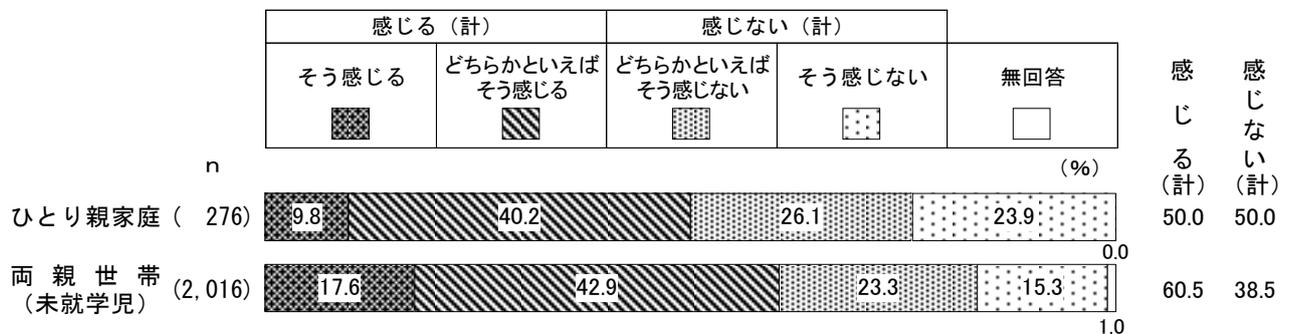
(2) 地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか

問50 あなたは地域の方が子育てを支えてくれていると感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

地域の方が子育てを支えてくれていると感じているか聞いたところ、「そう感じる」(9.8%)と「どちらかといえばそう感じる」(40.2%)を合わせた『感じる(計)』が50.0%となっている。

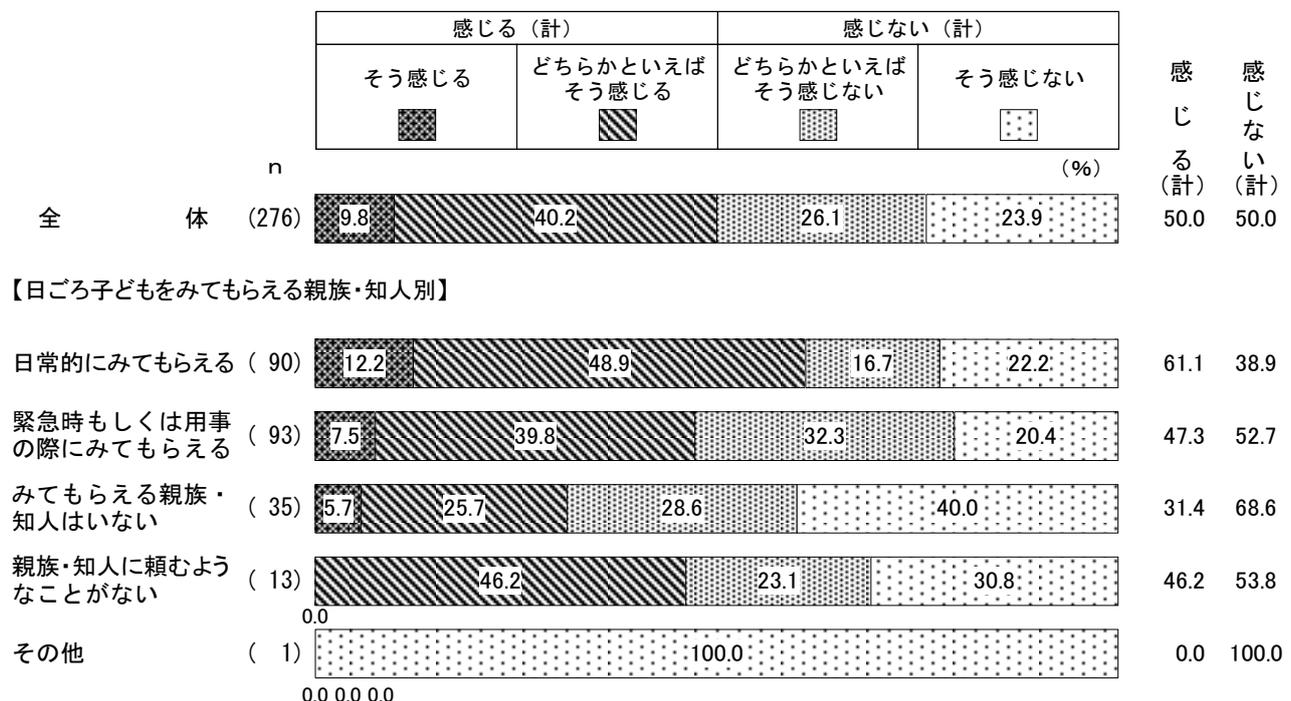
両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、『感じる(計)』はひとり親家庭の方が10.5ポイント低くなっている。一方、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた『感じない(計)』はひとり親家庭の方が11.5ポイント高くなっている。(図表Ⅲ-4-4)

図表Ⅲ-4-4 地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか(両親世帯(就学前児童)との比較)



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人(問6)別にみると、『感じる(計)』は日常的にみてもらえる人で61.1%と高くなっている。一方、『感じない(計)』はみてもらえる親族・知人はいない人で68.6%と高くなっている。(図表Ⅲ-4-5)

図表Ⅲ-4-5 地域の方が子育てを支えてくれていると感じるか-日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人別



(3) 子育てに自信が持てなくなることがあるか

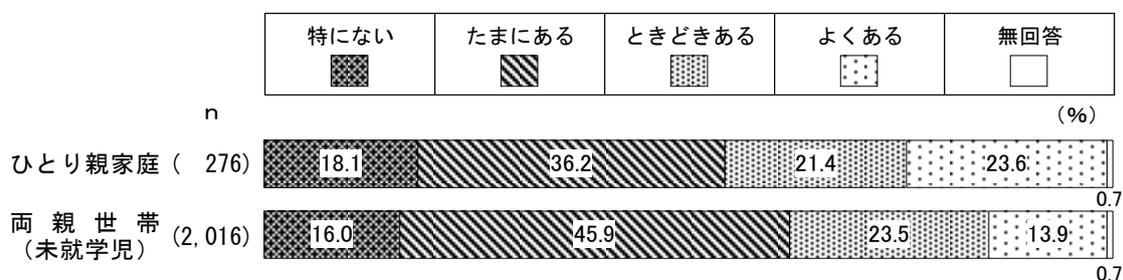
問51 日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持てなくなることがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持てなくなることがあるか聞いたところ、「たまにある」が36.2%で最も高くなっている。「ときどきある」は21.4%、「よくある」は23.6%となっている。一方、「特にない」は18.1%となっている。

両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「よくある」はひとり親家庭の方が9.7ポイント高くなっている。一方、「たまにある」はひとり親家庭の方が9.7ポイント低くなっている。

(図表Ⅲ－４－６)

図表Ⅲ－４－６ 子育てに自信が持てなくなることがあるか（両親世帯（就学前児童）との比較）



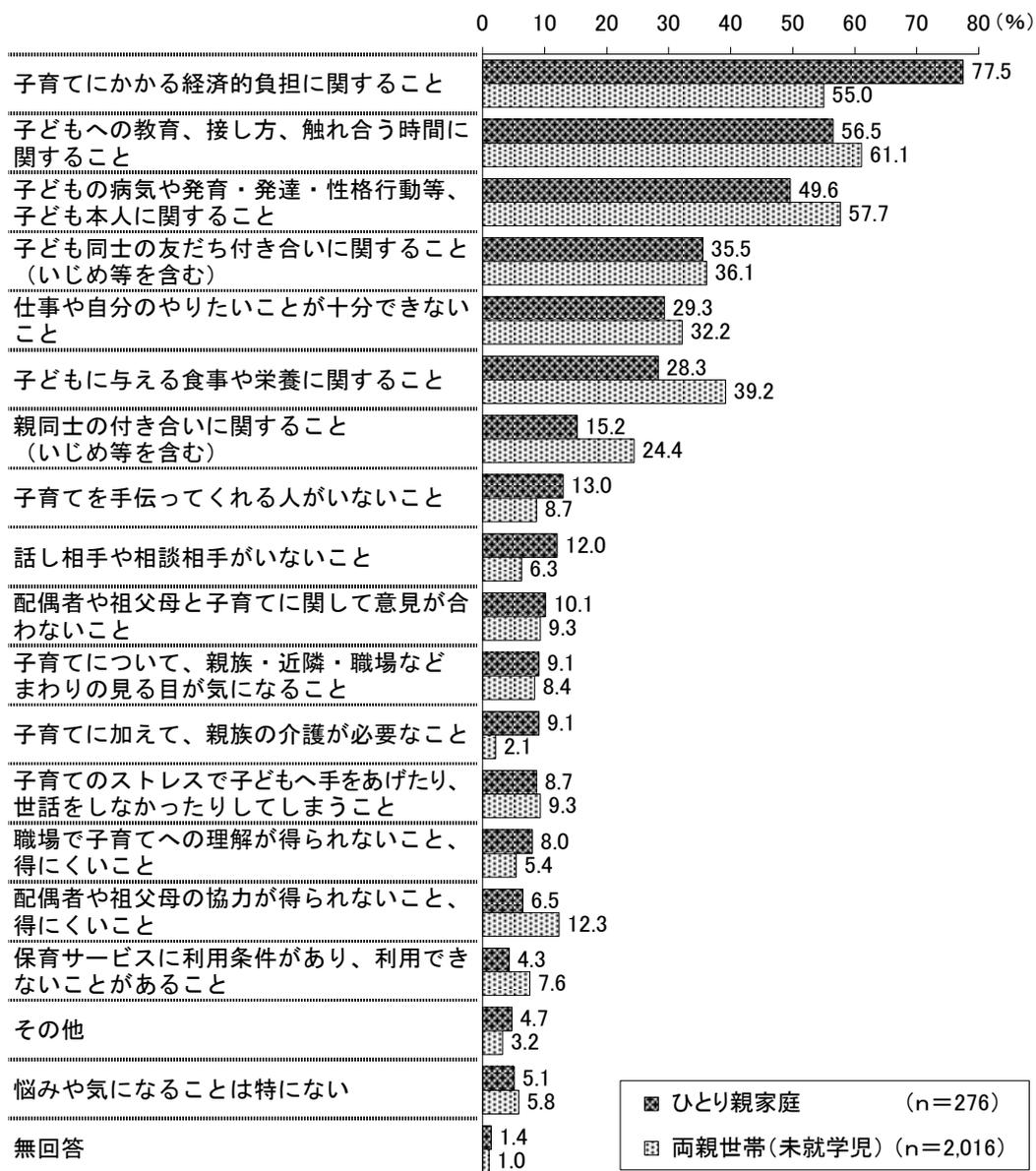
(4) 子育てに関して悩んでいること、気になること

問52 子育てに関して悩んでいること、気になることについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることを聞いたところ、「子育てにかかる経済的負担に関すること」が77.5%で最も高く、次いで「子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること」(56.5%)、「子どもの病気や発育・発達・性格行動等、子ども本人に関すること」(49.6%)の順となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「子育てにかかる経済的負担に関すること」はひとり親家庭の方が22.5ポイント高くなっている。一方、「子どもに与える食事や栄養に関すること」はひとり親家庭の方が10.9ポイント、「親同士の付き合いに関すること(いじめ等を含む)」はひとり親家庭の方が9.2ポイント、それぞれ低くなっている。(図表Ⅲ-4-7)

図表Ⅲ-4-7 子育てに関して悩んでいること、気になること(両親世帯(就学前児童)との比較)



(5) 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関

【問52で「悩みや気になることは特にない」以外のいずれかを回答した方のみ】

問53 悩んでいること、気になることの相談状況についてうかがいます。

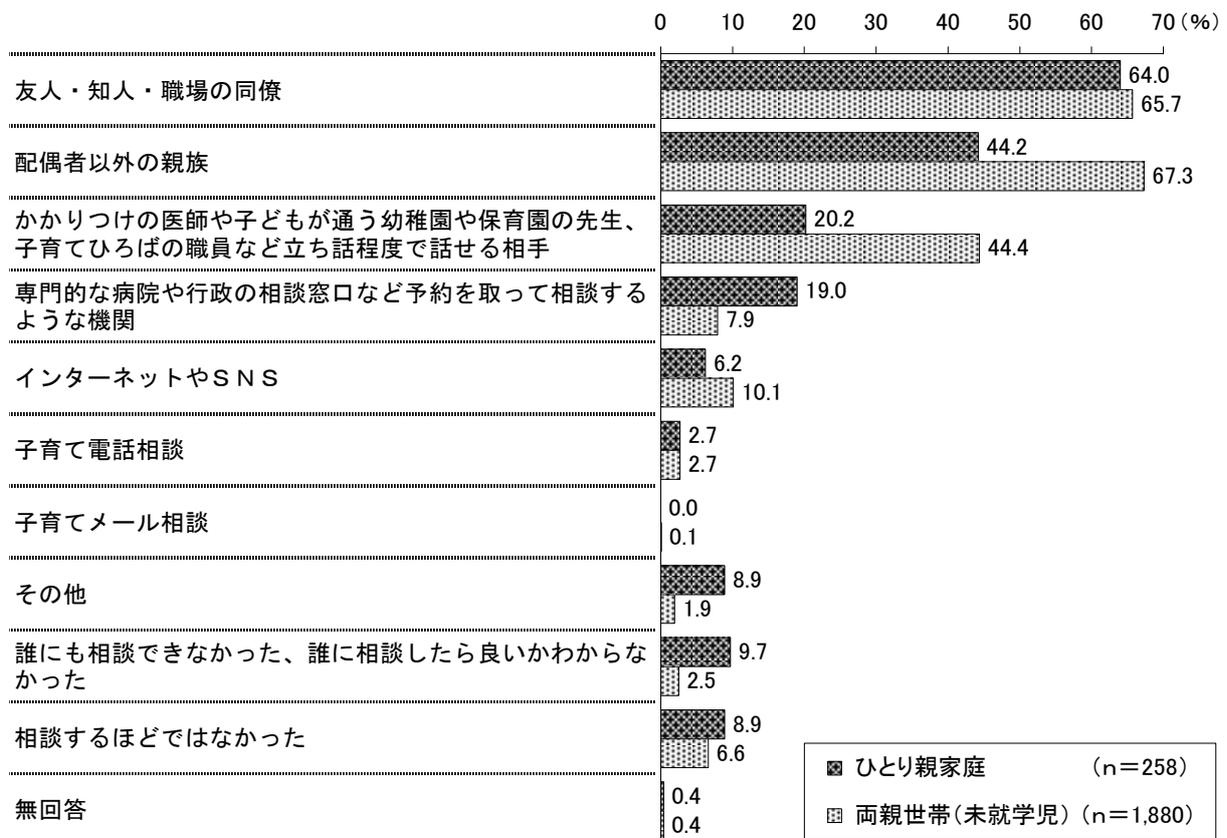
(1) 実際に相談した相手・機関について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることがあると答えた人(258人)に、悩んでいることや気になることを実際に相談した相手・機関を聞いたところ、「友人・知人・職場の同僚」が64.0%で最も高く、次いで「配偶者以外の親族」(44.2%)、「かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろばの職員など立ち話程度で話せる相手」(20.2%)、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」(19.0%)の順となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」はひとり親家庭の方が11.1ポイント、「誰にも相談できなかった、誰に相談したら良いかわからなかった」はひとり親家庭の方が7.2ポイント、それぞれ高くなっている。

(図表Ⅲ-4-8)

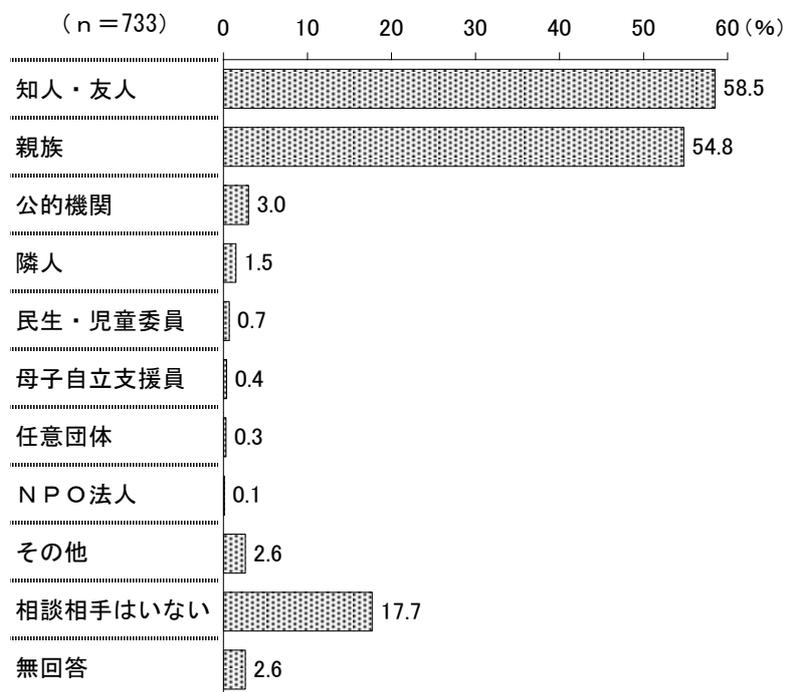
図表Ⅲ-4-8 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関(両親世帯(就学前児童)との比較)



(※)「配偶者」(両親世帯(就学前児童)で85.3%)は、ひとり親家庭との比較の便宜上図表から省いて示した。

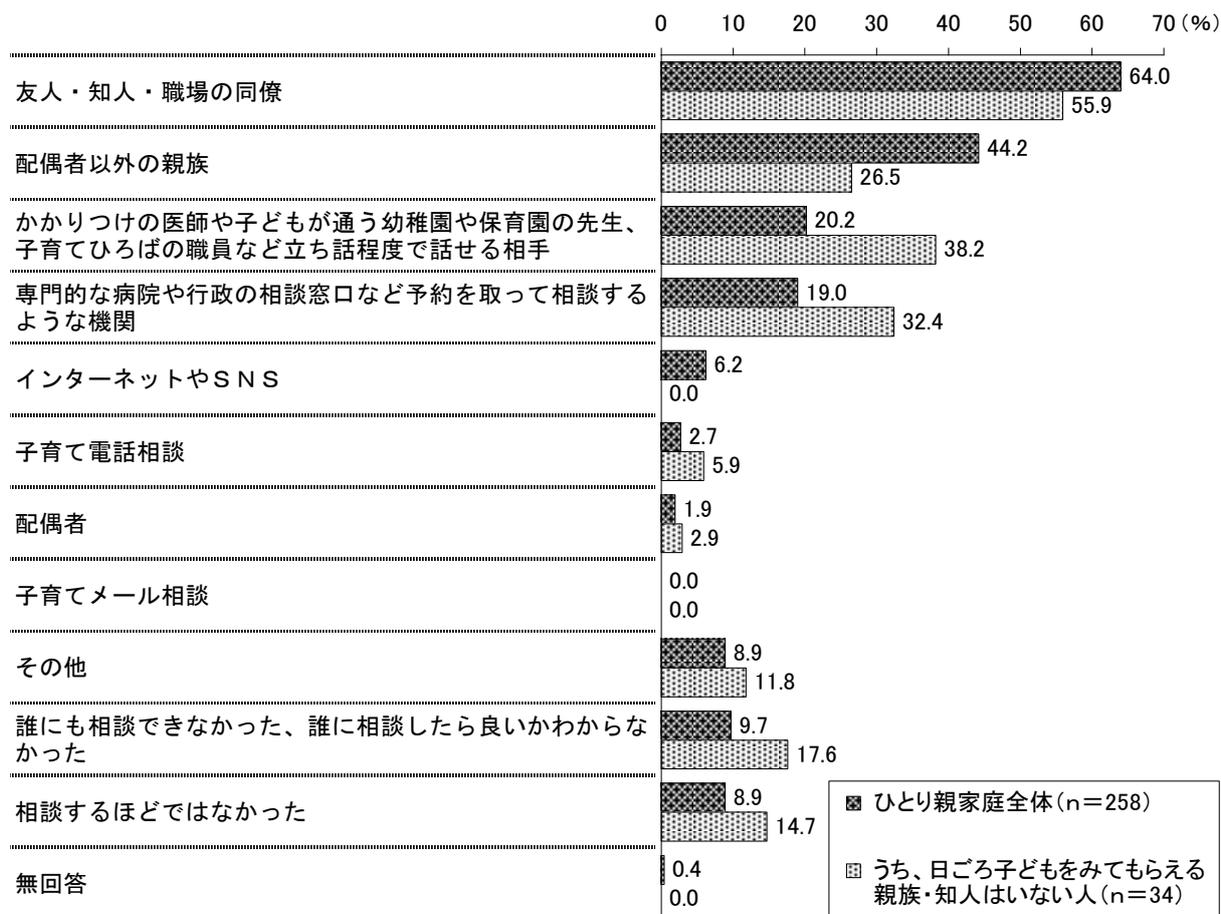
平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ－4－9)

図表Ⅲ－4－9 (参考) 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関 (平成26年調査)



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人（34人）の結果をみると、「かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろばの職員など立ち話程度で話せる相手」が38.2%、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」が32.4%と高くなっている。（図表Ⅲ－4－10）

図表Ⅲ－4－10 子育てに関する悩みを実際に相談した相手・機関
 一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人との比較



(6) 子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関

【問52で「悩みや気になることは特にない」以外のいずれかを回答した方のみ】

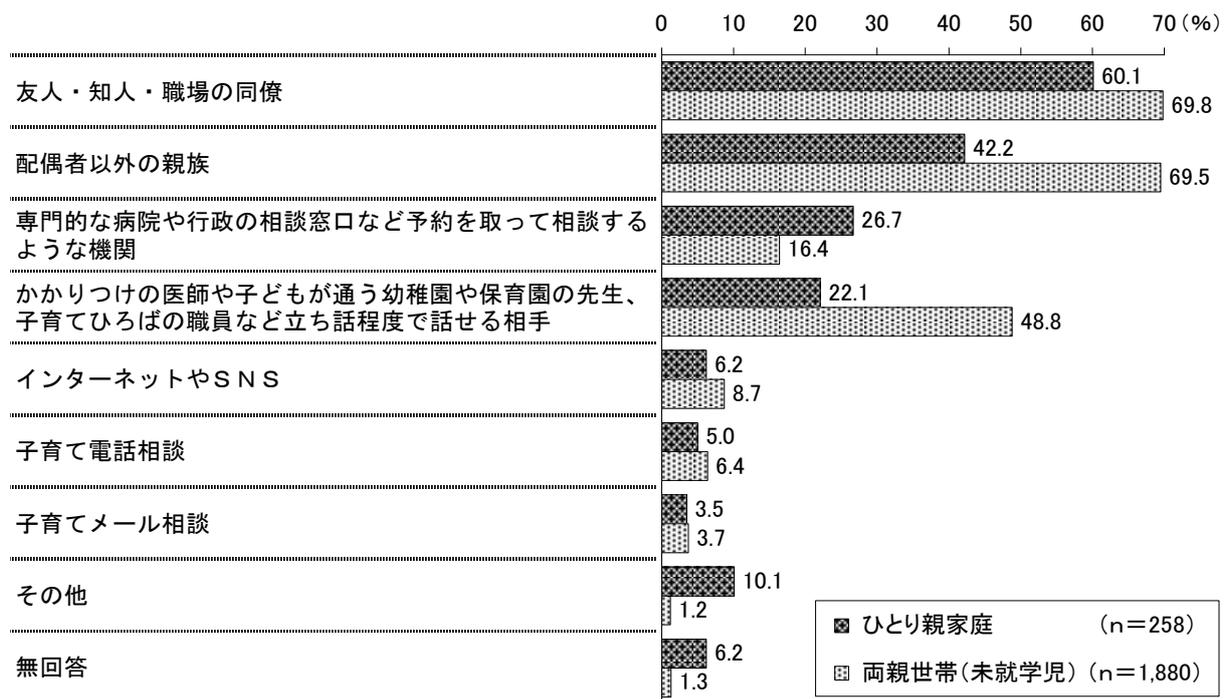
問53 悩んでいること、気になることの相談状況についてうかがいます。

(2) 相談したいと考える相手・機関について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることがあると答えた人(258人)に、悩んでいることや気になることを相談したいと考える相手・機関を聞いたところ、「友人・知人・職場の同僚」が60.1%で最も高く、次いで「配偶者以外の親族」(42.2%)、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」(26.7%)、「かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろばの職員など立ち話程度で話せる相手」(22.1%)の順となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関」はひとり親家庭の方が10.3ポイント高くなっている。(図表Ⅲ-4-11)

図表Ⅲ-4-11 子育てに関する悩みを相談したいと考える相手・機関(両親世帯(就学前児童)との比較)



(※)「配偶者」(両親世帯(就学前児童)で87.0%)は、ひとり親家庭との比較の便宜上図表から省いて示した。

(7) 子育てにかかる経済的な不安の内容

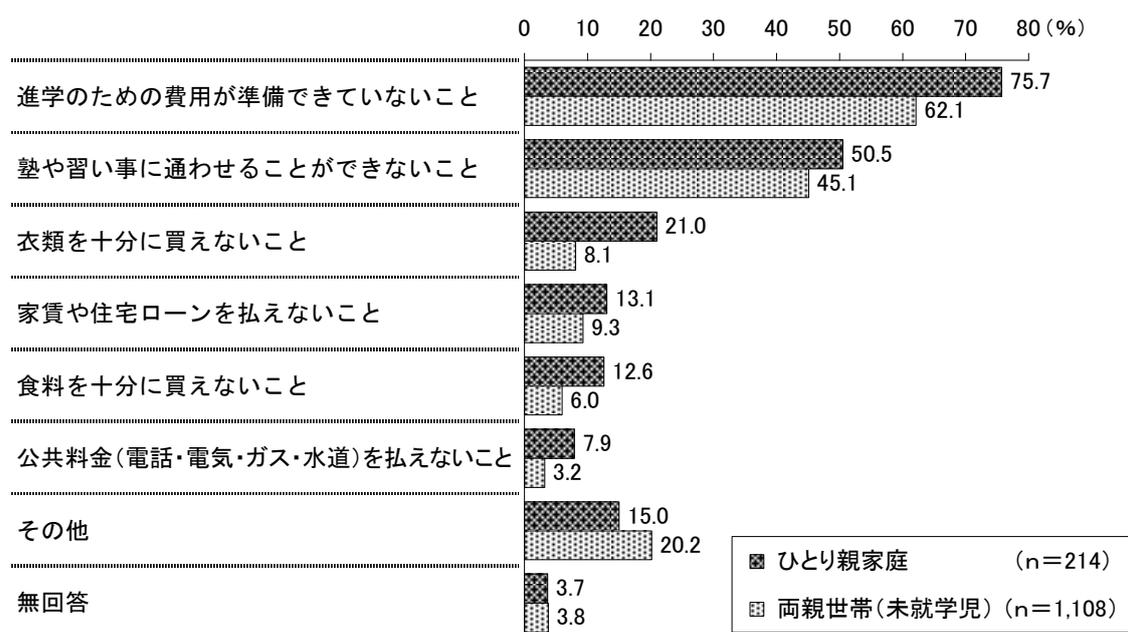
【問52で「子育てにかかる経済的負担に関すること」と回答した方のみ】

問54 子育てにかかる経済的な不安の具体的な内容について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して悩んでいること、気になることとして「子育てにかかる経済的負担に関すること」と答えた人(214人)に、その具体的な内容を聞いたところ、「進学のための費用が準備できていないこと」が75.7%で最も高く、次いで「塾や習い事に通わせることができないこと」が50.5%となっている。

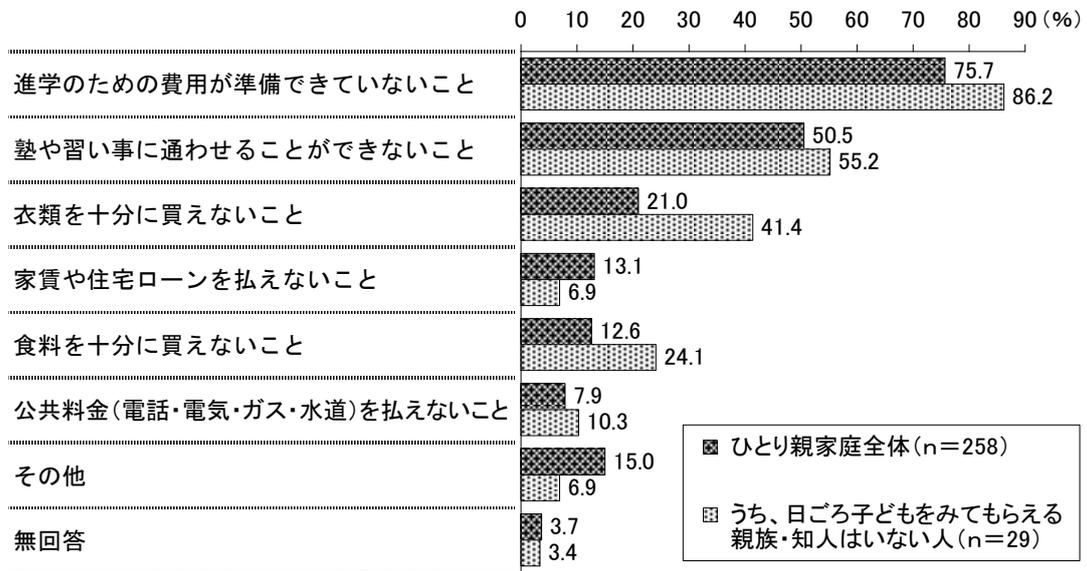
両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「進学のための費用が準備できていないこと」が13.6ポイント、「衣類を十分に買えないこと」が12.9ポイント、「食料を十分に買えないこと」が6.6ポイント、それぞれ高くなっている。(図表Ⅲ-4-12)

図表Ⅲ-4-12 子育てにかかる経済的な不安の内容(両親世帯(就学前児童)との比較)



日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人（29人）の結果をみると、「衣類を十分に買えないこと」が41.4%と高くなっている。（図表Ⅲ-4-13）

図表Ⅲ-4-13 子育てにかかる経済的な不安の内容
 一日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人はいない（問6）と答えた人との比較



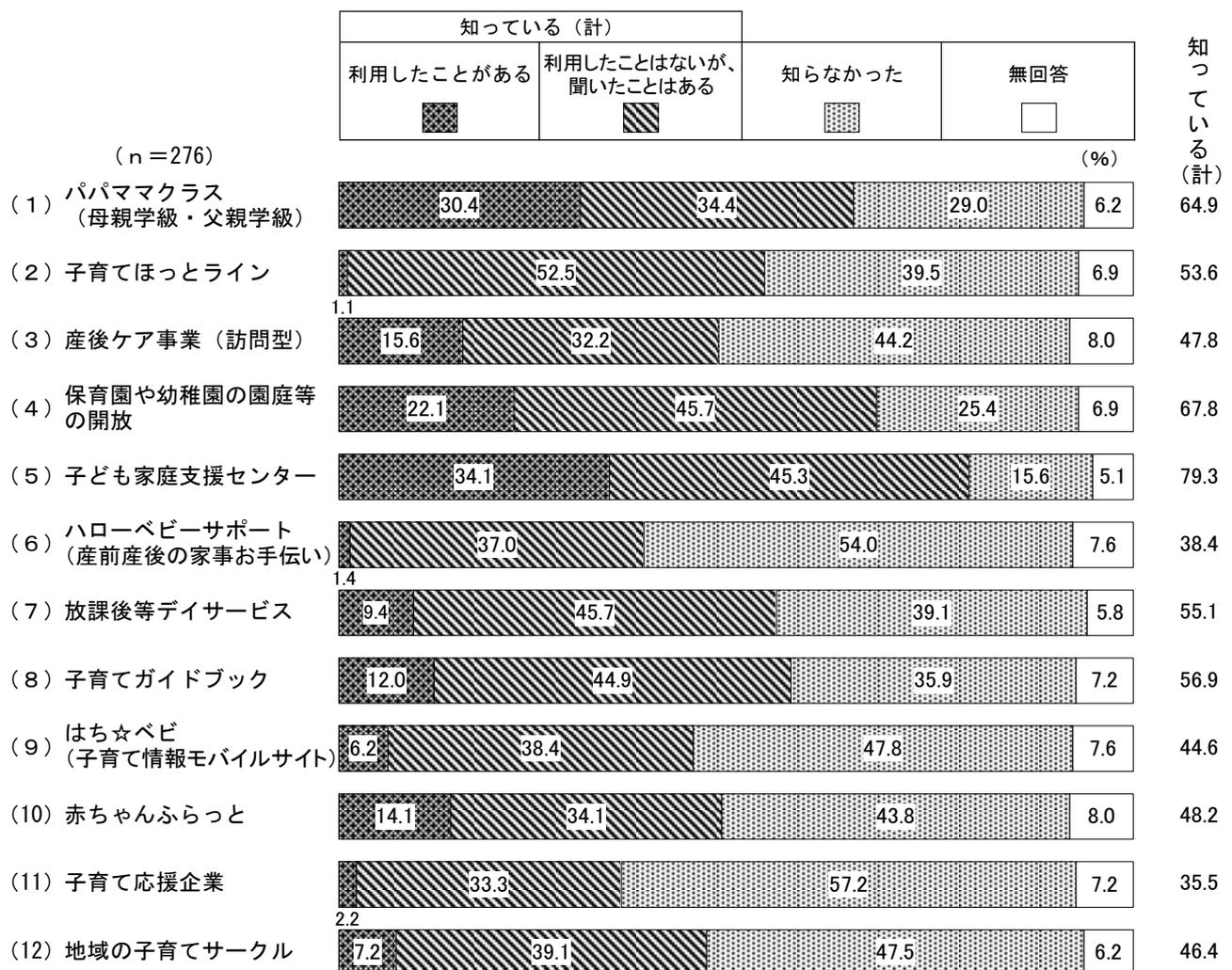
(8) 子育て支援事業の利用状況

問55 次の(1)～(12)の事業について、これまでに利用したことがありますか。当てはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

12項目の市の子育て支援事業の利用状況を聞いたところ、「利用したことがある」が最も高いのは(5)子ども家庭支援センター(34.1%)で3割半ばとなっており、次いで(1)パパママクラス(母親学級・父親学級)(30.4%)、(4)保育園や幼稚園の園庭等の開放(22.1%)の順となっている。

一方、「知らなかった」が最も高いのは(11)子育て応援企業(57.2%)で6割近くとなっており、次いで(6)ハローベビーサポート(産前産後の家事お手伝い)(54.0%)、(9)はち☆ベビ(子育て情報モバイルサイト)(47.8%)、(12)地域の子育てサークル(47.5%)、(3)産後ケア事業(訪問型)(44.2%)の順となっている。(図表Ⅲ-4-14)

図表Ⅲ-4-14 子育て支援事業の利用状況

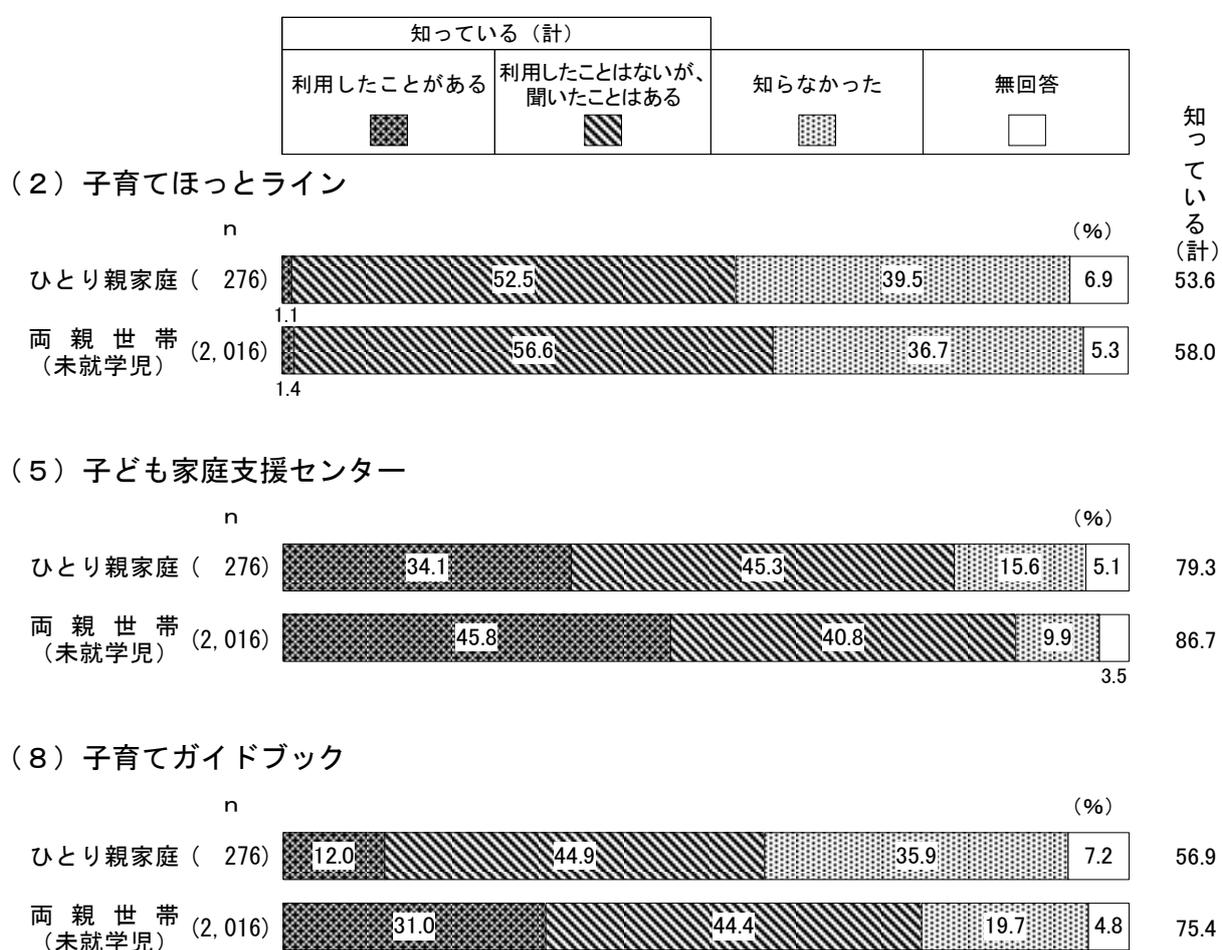


(2) 子育てほっとラインについて両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「利用したことがある」と「利用したことはないが、聞いたことはある」の2つを合わせた『知っている（計）』（53.6%）はひとり親家庭の方が4.4ポイント低くなっている。

(5) 子ども家庭支援センターについて両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「利用したことがある」はひとり親家庭の方が11.7ポイント低くなっている。一方、「知らなかった」はひとり親家庭の方が5.7ポイント高くなっている。

(8) 子育てガイドブックについて両親世帯（就学前児童）の結果と比較すると、「利用したことがある」はひとり親家庭の方が19.0ポイント低くなっている。一方、「知らなかった」はひとり親家庭の方が16.2ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－4－15）

図表Ⅲ－4－15 子育て支援事業の利用状況（両親世帯（就学前児童）との比較）



(9) 子育てに関する情報の入手方法

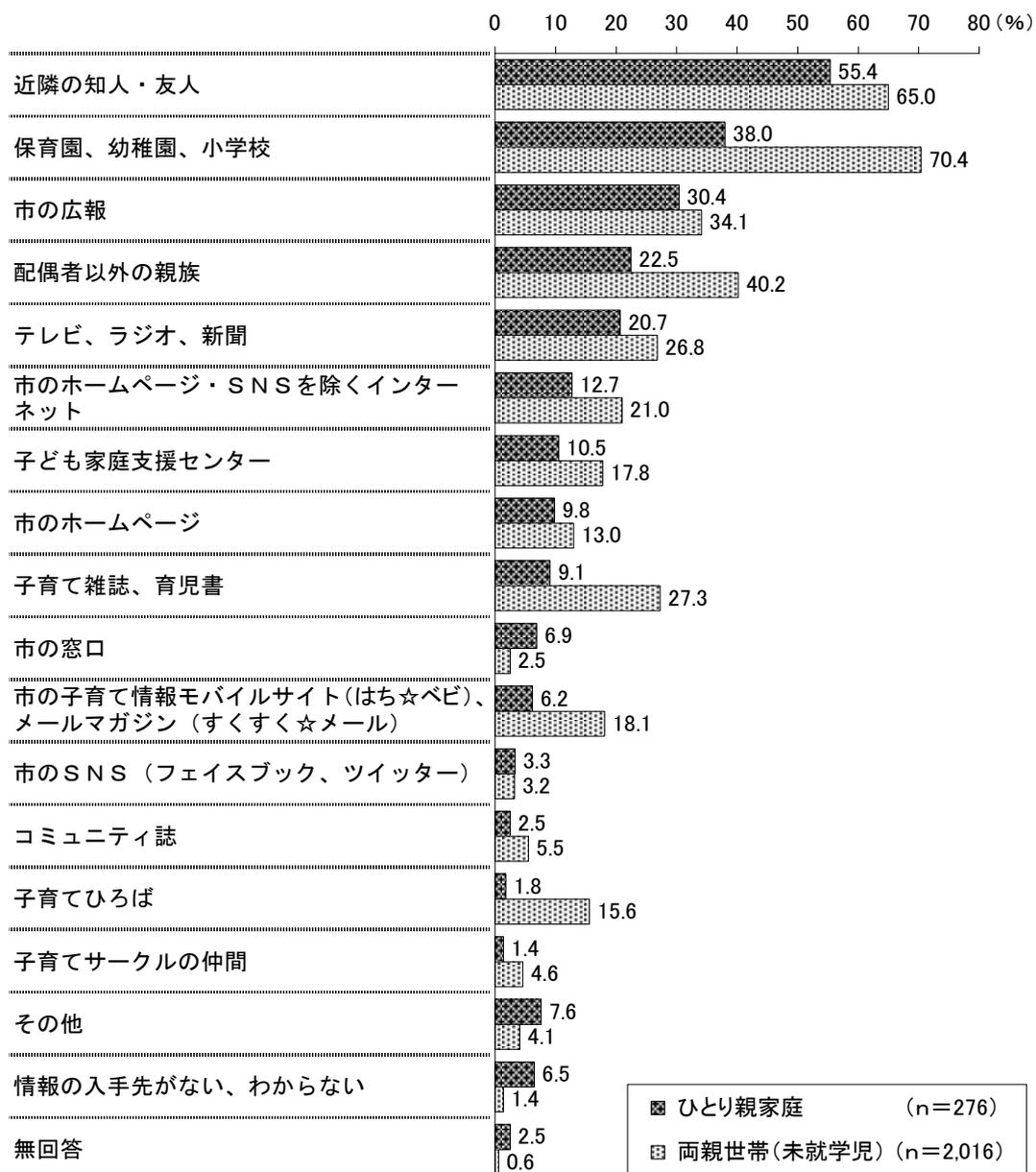
問56 子育てに関する情報を誰から（どこから）入手していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関する情報を誰から（どこから）入手しているか聞いたところ、「近隣の知人・友人」が55.4%で最も高く、次いで「保育園、幼稚園、小学校」(38.0%)、「市の広報」(30.4%)、「配偶者以外の親族」(22.5%)の順となっている。

両親世帯(就学前児童)の結果と比較すると、「保育園、幼稚園、小学校」はひとり親家庭の方が32.4ポイント、「配偶者以外の親族」はひとり親家庭の方が17.7ポイント、それぞれ低くなっている。一方、「情報の入手先がない、わからない」はひとり親家庭の方が5.1ポイント高くなっている。

(図表Ⅲ-4-16)

図表Ⅲ-4-16 子育てに関する情報の入手方法（両親世帯（就学前児童）との比較）



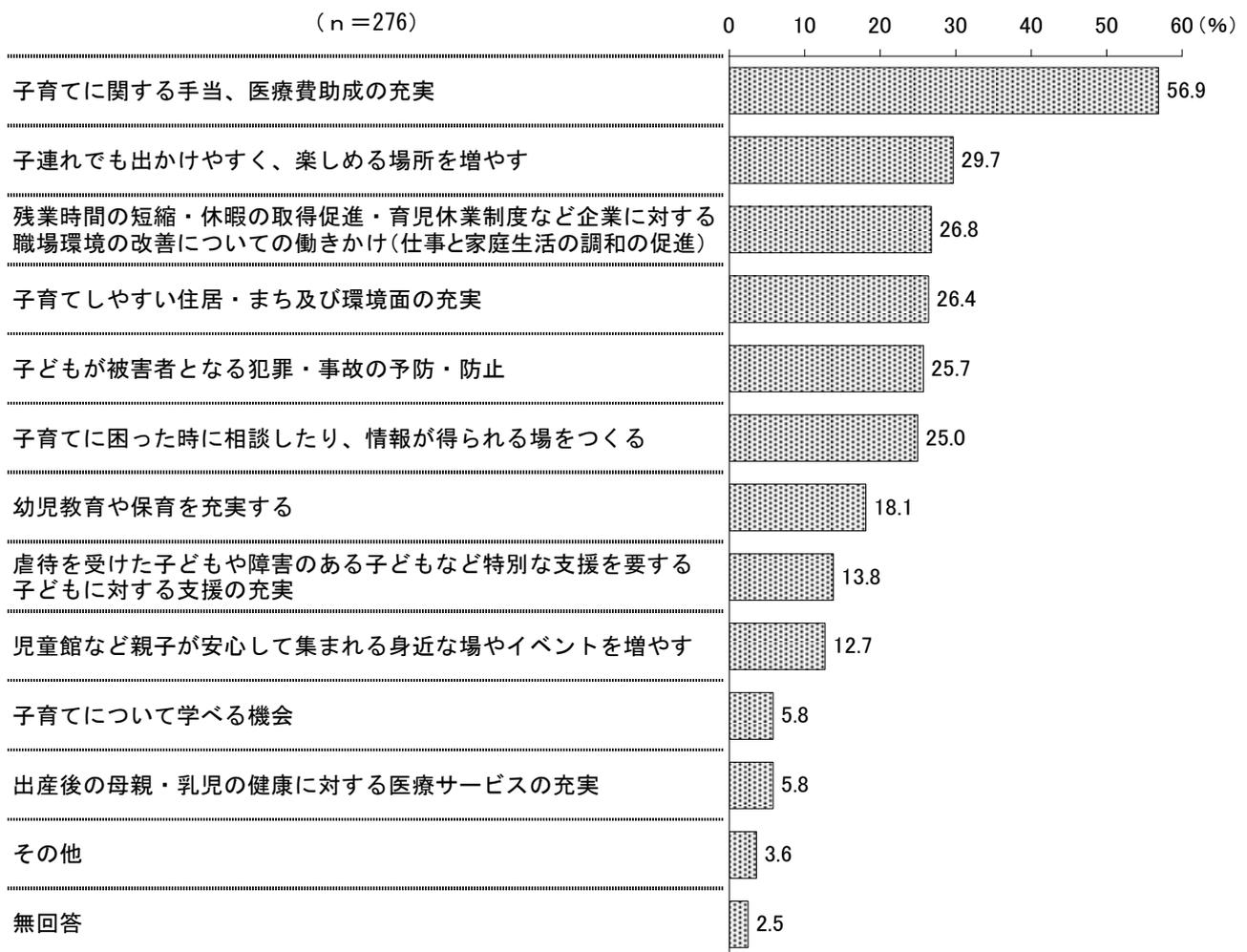
(※)「配偶者」(両親世帯(就学前児童)で31.1%)は、ひとり親家庭との比較の便宜上図表から省いて示した。

(10) 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策

問57 あなたが考える子育て支援環境充実のための支援策について、特に重要だと思うものの番号を3つまで○をつけてください。

市の子育て支援環境充実のための施策のうち、特に重要だと思う施策を聞いたところ、「子育てに関する手当、医療費助成の充実」が56.9%で最も高く、次いで「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」(29.7%)、「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度など企業に対する職場環境の改善についての働きかけ(仕事と家庭生活の調和の促進)」(26.8%)、「子育てしやすい住居・まち及び環境面の充実」(26.4%)の順となっている。(図表Ⅲ-4-17)

図表Ⅲ-4-17 市の子育て支援環境充実のための施策のうち重要だと思う施策



5 ひとり親家庭の就労の状況

(1) 就職・転職希望

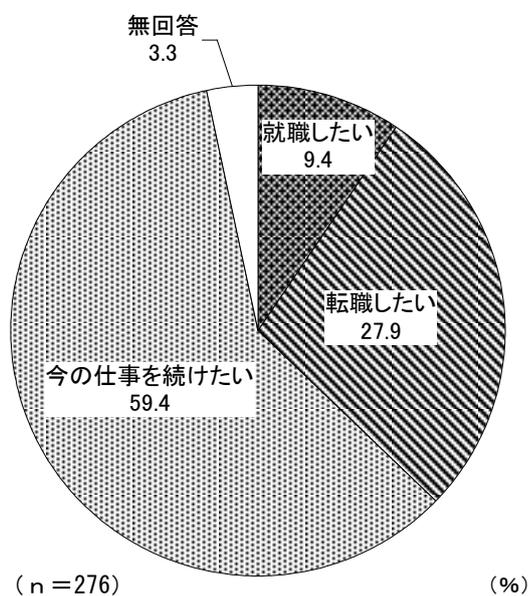
【ひとり親家庭の方のみ】

問61 あなたの就職・転職希望についてうかがいます。

(1) 今後の就労について、就職・転職を考えていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

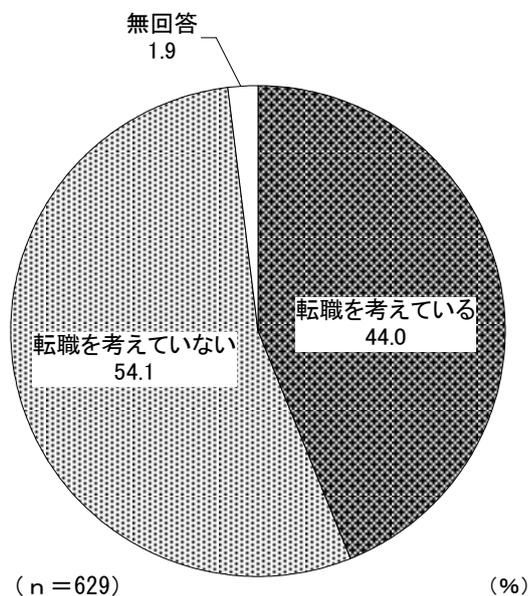
今後、就職・転職を考えているか聞いたところ、「就職したい」が9.4%、「転職したい」が27.9%となっている。一方、「今の仕事を続けたい」は59.4%となっている。(図表Ⅲ-5-1)

図表Ⅲ-5-1 就職・転職希望



平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ-5-2)

図表Ⅲ-5-2 (参考) 転職希望 (平成26年調査)



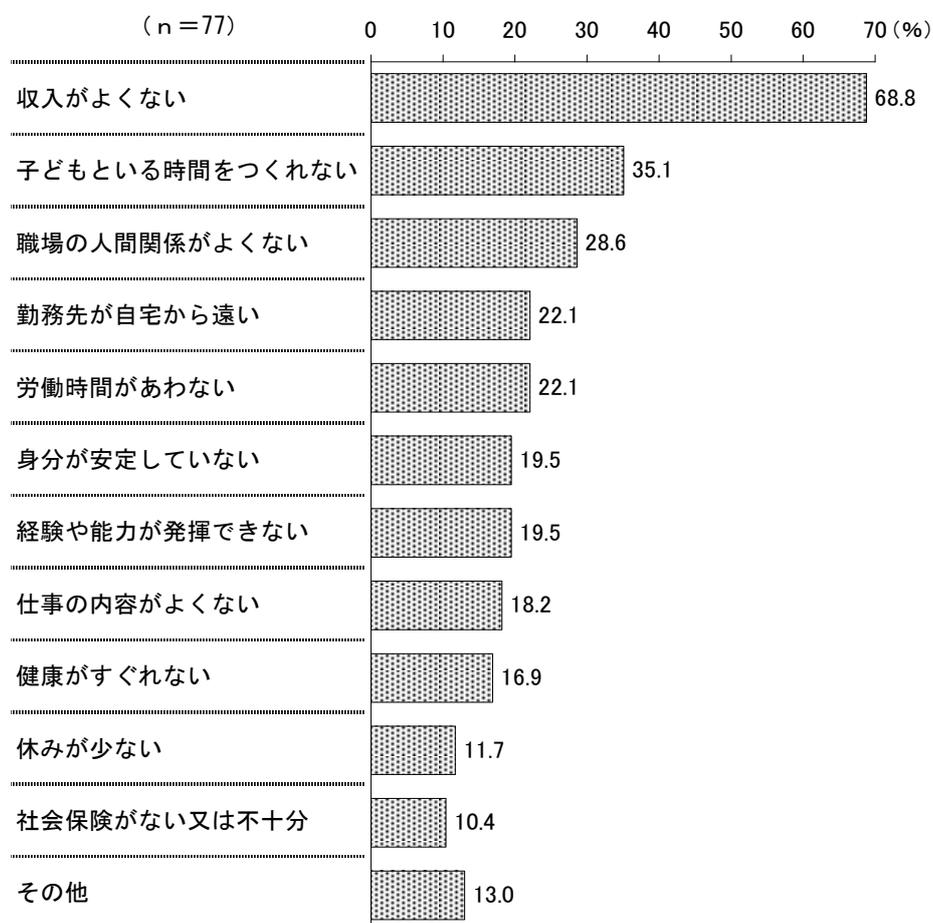
(2) 転職したい理由

【問61(1)で「転職したい」と回答した方のみ】

(2) その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

今後、「転職したい」と答えた人(77人)に、その理由を聞いたところ、「収入がよくない」が68.8%で最も高く、次いで「子どもといる時間をつくれなない」(35.1%)、「職場の人間関係がよくない」(28.6%)、「勤務先が自宅から遠い」(22.1%)、「労働時間があわない」(22.1%)の順となっている。(図表Ⅲ-5-3)

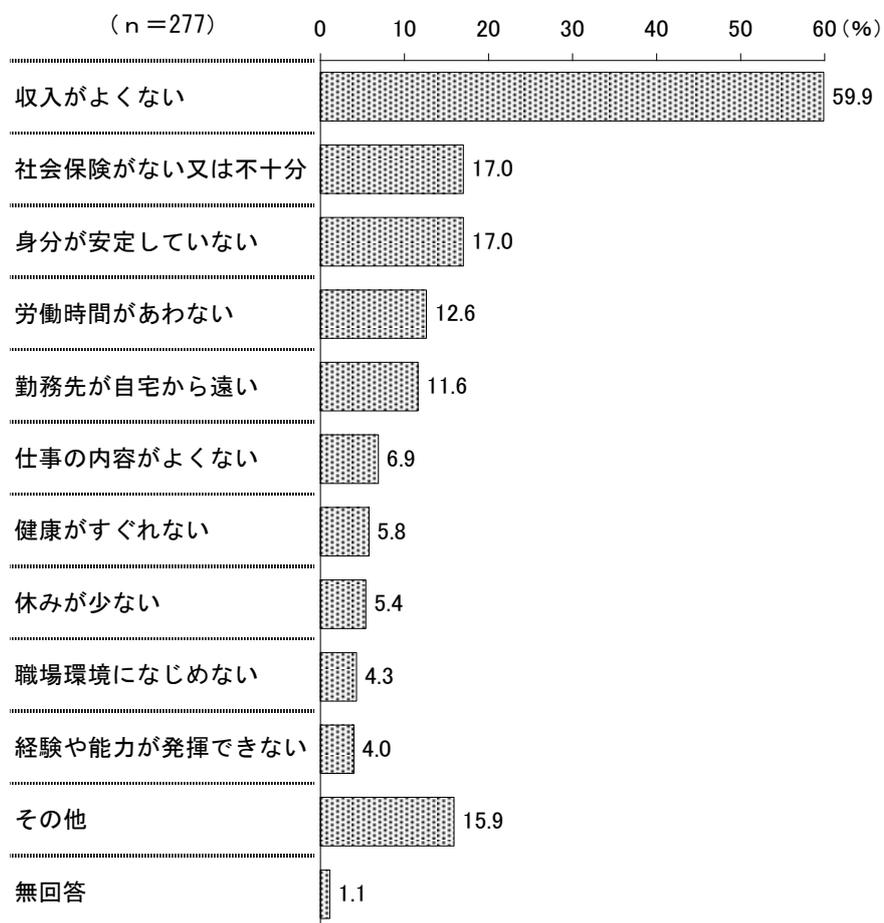
図表Ⅲ-5-3 転職したい理由



平成26年調査との比較は、母数を絞り込む質問の選択肢が異なるため参考に掲載する。

(図表Ⅲ－5－4)

図表Ⅲ－5－4 (参考) 転職したい理由 (平成26年調査)



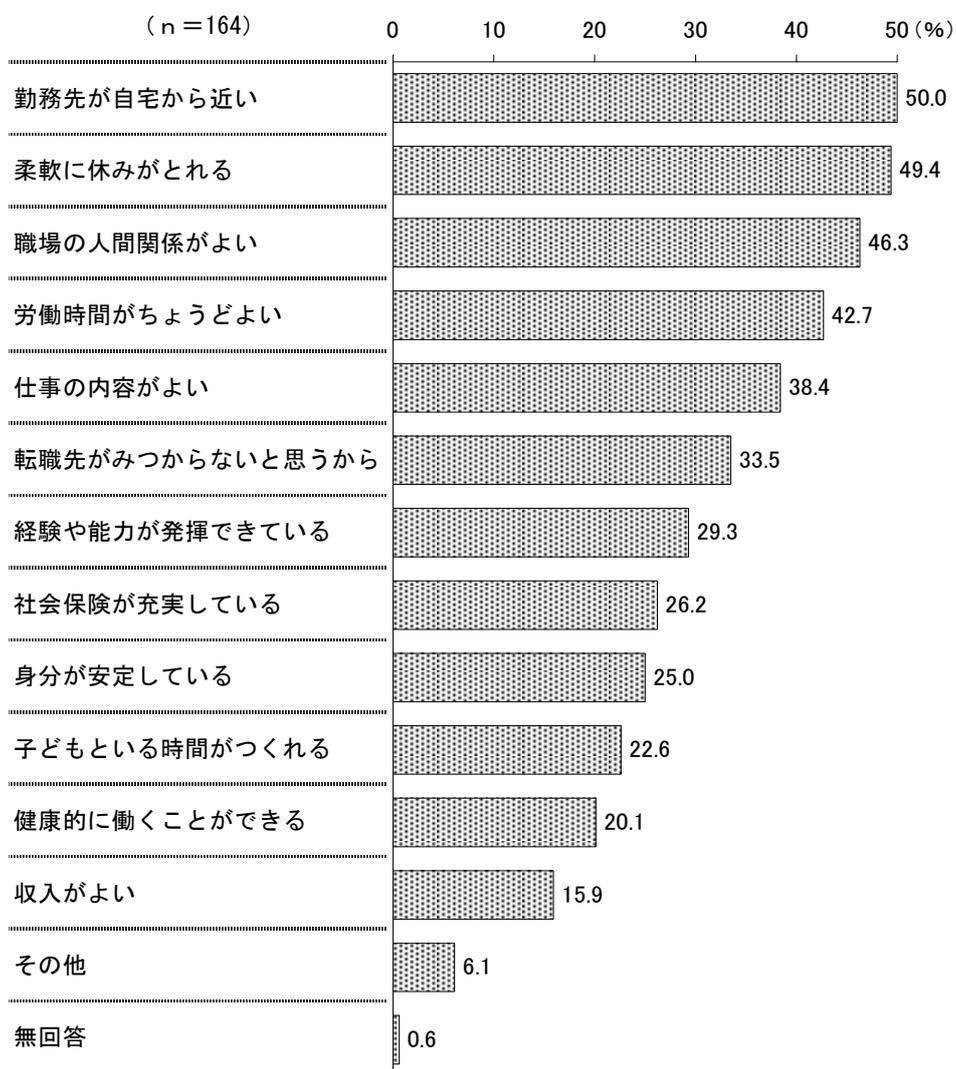
(3) 今の仕事を続けたい理由

【問61(1)で「今の仕事を続けたい」と回答した方のみ】

(3) その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

今後、「今の仕事を続けたい」と答えた人(164人)に、その理由を聞いたところ、「勤務先が自宅から近い」が50.0%で最も高く、次いで「柔軟に休みがとれる」(49.4%)、「職場の人間関係がよい」(46.3%)、「労働時間がちょうどよい」(42.7%)の順となっている。(図表Ⅲ-5-5)

図表Ⅲ-5-5 今の仕事を続けたい理由



(4) 収入の種類

【ひとり親家庭の方のみ】

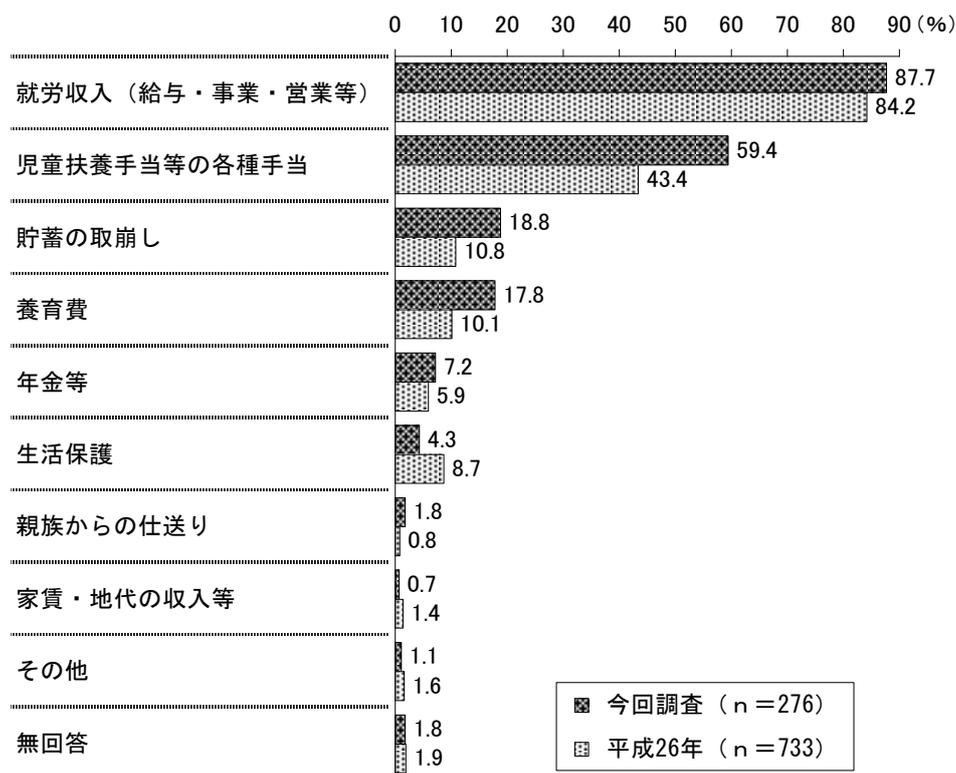
問62 あなたの収入についてうかがいます。

(1) 収入の種類について（当てはまる番号すべてに○）

収入の種類を聞いたところ、「就労収入（給与・事業・営業等）」が87.7%で最も高く、次いで「児童扶養手当等の各種手当」（59.4%）、「貯蓄の取崩し」（18.8%）、「養育費」（17.8%）の順となっている。

平成26年調査と比較すると、「児童扶養手当等の各種手当」は16.0ポイント、「貯蓄の取崩し」は8.0ポイント、「養育費」は7.7ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅲ－５－６）

図表Ⅲ－５－６ 収入の種類（経年変化）



(5) 年間総収入額（手当・養育費などを含む金額）

【ひとり親家庭の方のみ】

問62 あなたの収入についてうかがいます。

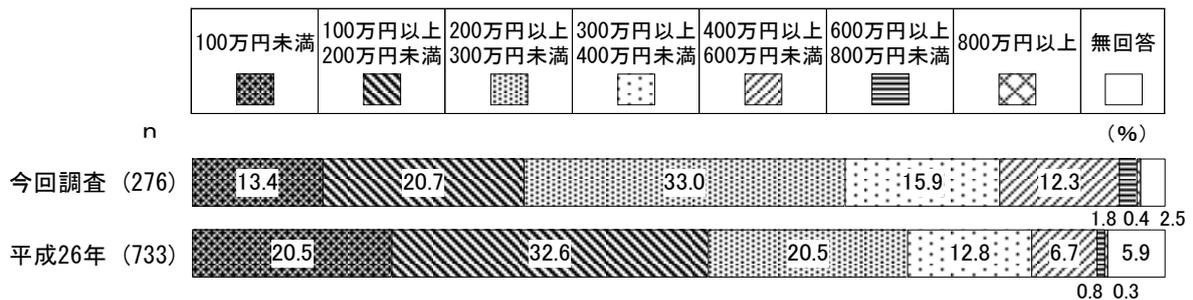
(2) 平成29年の年間総収入額（手当・養育費・生活保護費などを含む）について

(当てはまる番号1つに○)

手当・養育費・生活保護費などを含む平成29年の年間総収入額を聞いたところ、「200万円以上300万円未満」が33.0%で最も高く、次いで「100万円以上200万円未満」(20.7%)、「300万円以上400万円未満」(15.9%)、「100万円未満」(13.4%)の順となっている。

平成26年調査と比較すると、「200万円以上300万円未満」は12.5ポイント、「400万円以上600万円未満」は5.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「100万円以上200万円未満」は11.9ポイント、「100万円未満」は7.1ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ-5-7)

図表Ⅲ-5-7 年間総収入額（手当・養育費などを含む金額）（経年変化）



(※) 平成26年調査は、平成25年の年間総収入額を質問していた。

(6) 年間就労収入額

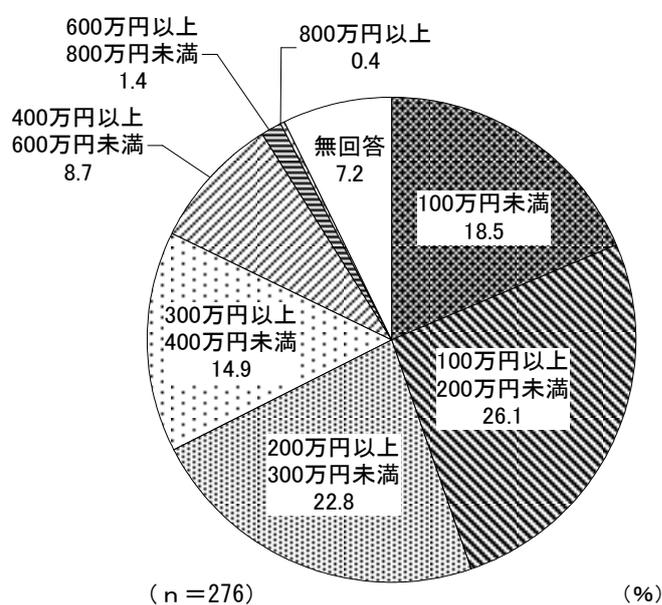
【ひとり親家庭の方のみ】

問62 あなたの収入についてうかがいます。

(3) 平成29年の年間就労収入について（当てはまる番号1つに○）

平成29年の年間就労収入を聞いたところ、「100万円以上200万円未満」が26.1%で最も高く、次いで「200万円以上300万円未満」（22.8%）、「100万円未満」（18.5%）、「300万円以上400万円未満」（14.9%）の順となっている。（図表Ⅲ－5－8）

図表Ⅲ－5－8 年間就労収入額



6 ひとり親家庭の養育費や子どもとの面会交流の状況

(1) 養育費の取り決めの有無

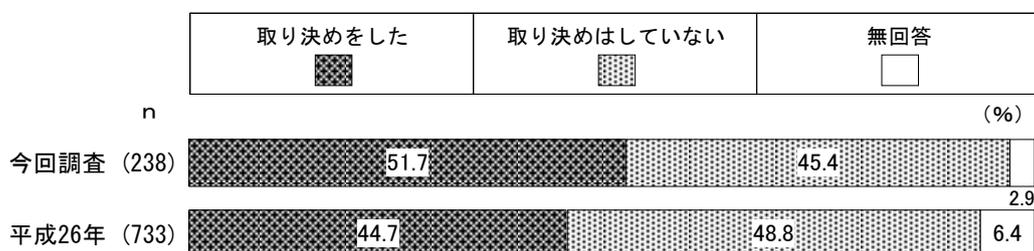
【問59で「離婚」及び「未婚・非婚」と回答した方のみ】

問63 お子さんの養育費の取り決めについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

ひとり親家庭となった理由が「離婚」または「未婚・非婚」と答えた人（238人）に、子どもの養育費の取り決めをしたか聞いたところ、「取り決めをした」が51.7%、「取り決めはしていない」が45.4%となっている。

平成26年調査と比較すると、「取り決めをした」は7.0ポイント増加している。（図表Ⅲ－6－1）

図表Ⅲ－6－1 養育費の取り決めの有無（経年変化）



(2) 養育費の取り決め方法

【問63で「取り決めをした」と回答した方のみ】

問64 養育費の（1）取り決め方法、（2）受け取り状況、（3）月額について、うかがいます。

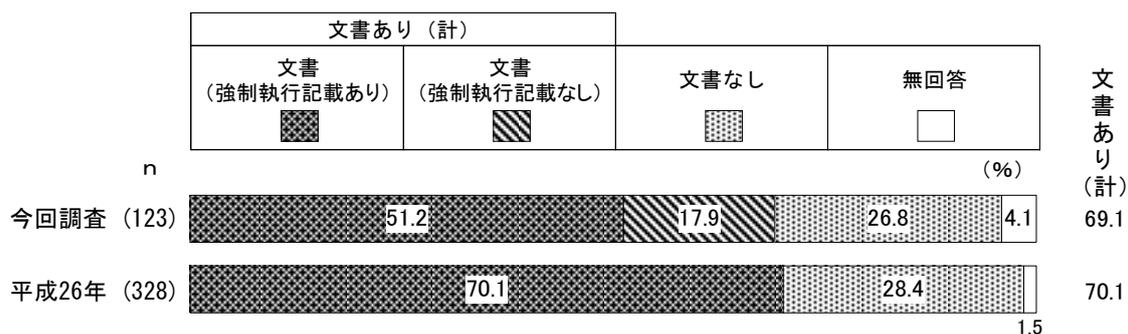
（1）取り決め方法（当てはまる番号1つに○）

子どもの養育費の「取り決めをした」と答えた人（123人）に、取り決め方法を聞いたところ、「文書（強制執行記載あり）」が51.2%で最も高くなっている。「文書（強制執行記載なし）」は17.9%、「文書なし」は26.8%となっている。

平成26年調査と比較すると、「文書（強制執行記載あり）」と「文書（強制執行記載なし）」を合わせた『文書あり（計）』の割合、および「文書なし」の割合に大きな傾向の違いはみられない。

（図表Ⅲ－6－2）

図表Ⅲ－6－2 養育費の取り決め方法（経年変化）



（※）平成26年調査は「文書あり」と「文書なし」の2つの選択肢で質問していた。

(3) 養育費の受け取り状況

【問63で「取り決めた」と回答した方のみ】

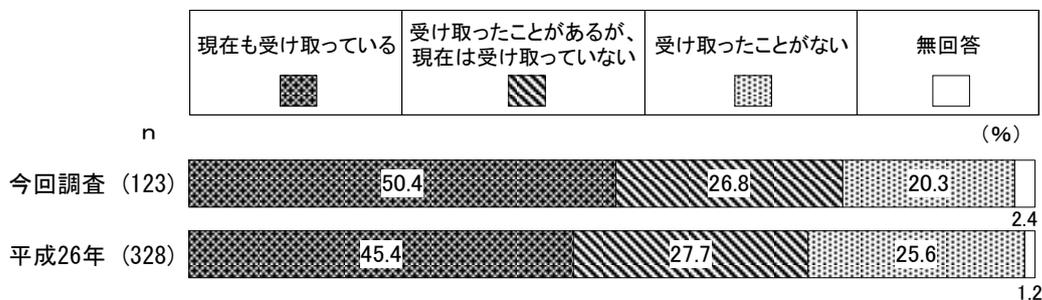
問64 養育費の(1) 取り決め方法、(2) 受け取り状況、(3) 月額について、うかがいます。

(2) 受け取り状況 (当てはまる番号1つに○)

子どもの養育費の「取り決めた」と答えた人(123人)に、養育費の受け取り状況を聞いたところ、「現在も受け取っている」が50.4%で最も高くなっている。「受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない」は26.8%、「受け取ったことがない」は20.3%となっている。

平成26年調査と比較すると、「現在も受け取っている」は5.0ポイント増加している。一方、「受け取ったことがない」は5.3ポイント減少している。(図表Ⅲ-6-3)

図表Ⅲ-6-3 養育費の受け取り状況(経年変化)



(4) 養育費の金額

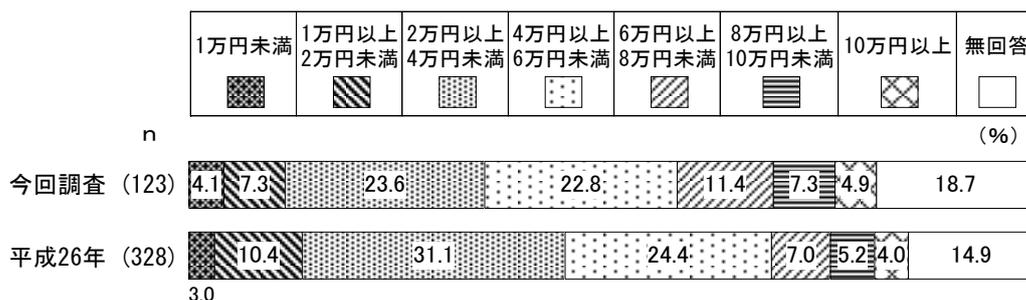
【問63で「取り決めた」と回答した方のみ】

問64 養育費の(1) 取り決め方法、(2) 受け取り状況、(3) 月額について、うかがいます。

(3) 養育費の金額(月額) (当てはまる番号1つに○)

子どもの養育費の「取り決めた」と答えた人(123人)に、養育費の金額(月額)を聞いたところ、「2万円以上4万円未満」が23.6%で最も高く、次いで「4万円以上6万円未満」(22.8%)、「6万円以上8万円未満」(11.4%)の順となっている。(図表Ⅲ-6-4)

図表Ⅲ-6-4 養育費の金額(経年変化)



(5) 面会交流の取り決めの有無

問65 面会交流の頻度や方法について取り決めをしましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

ひとり親家庭となった理由が「離婚」または「未婚・非婚」と答えた人（238人）に、面会交流の頻度や方法について取り決めをしたか聞いたところ、「取り決めをした」が33.2%、「取り決めはしていない」が58.4%となっている。

平成26年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅲ－6－5）

図表Ⅲ－6－5 面会交流の取り決めの有無（経年変化）



(6) 面会交流の取り決め方法

【問65で「取り決めをした」と回答した方のみ】

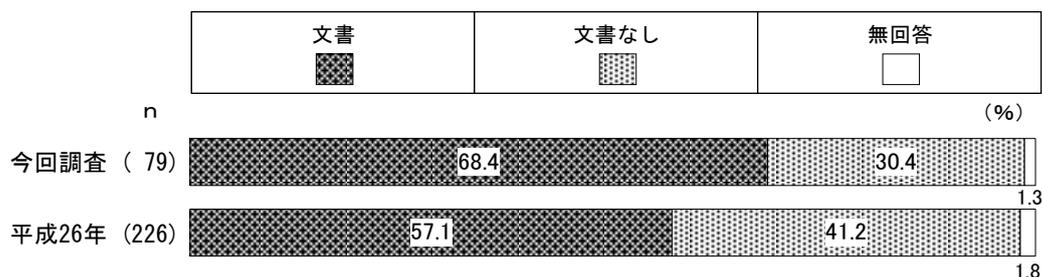
問66 面会交流の（1）取り決め方法、（2）交流状況、（3）頻度について、うかがいます。

（1）取り決め方法（当てはまる番号1つに○）

面会交流の頻度や方法について「取り決めをした」と答えた人（79人）に、取り決め方法を聞いたところ、「文書」が68.4%、「文書なし」が30.4%となっている。

平成26年調査と比較すると、「文書」は11.3ポイント増加している。一方、「文書なし」は10.8ポイント減少している。（図表Ⅲ－6－6）

図表Ⅲ－6－6 面会交流の取り決め方法（経年変化）



(7) 面会交流の状況

【問65で「取り決めをした」と回答した方のみ】

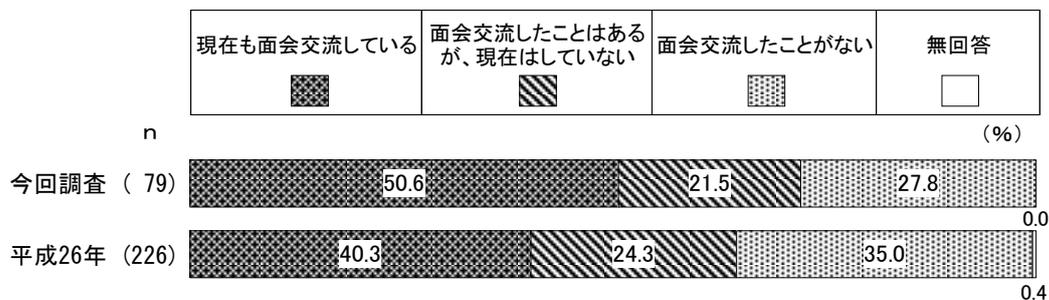
問66 面会交流の(1) 取り決め方法、(2) 交流状況、(3) 頻度について、うかがいます。

(2) 面会交流状況 (当てはまる番号1つに○)

面会交流の頻度や方法について「取り決めをした」と答えた人(79人)に、面会交流状況を聞いたところ、「現在も面会交流している」が50.6%で最も高くなっている。「面会交流したことはあるが、現在はしていない」は21.5%、「面会交流したことがない」は27.8%となっている。

平成26年調査と比較すると、「現在も面会交流している」は10.3ポイント増加している。一方、「面会交流したことがない」は7.2ポイント減少している。(図表Ⅲ-6-7)

図表Ⅲ-6-7 面会交流の状況(経年変化)



(8) 面会交流の頻度

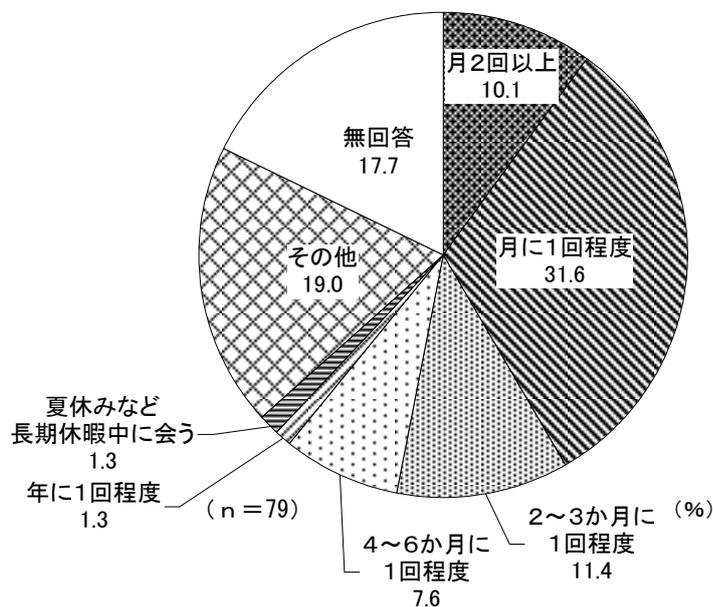
【問65で「取り決めをした」と回答した方のみ】

問66 面会交流の(1) 取り決め方法、(2) 交流状況、(3) 頻度について、うかがいます。

(3) 面会交流の頻度 (当てはまる番号1つに○)

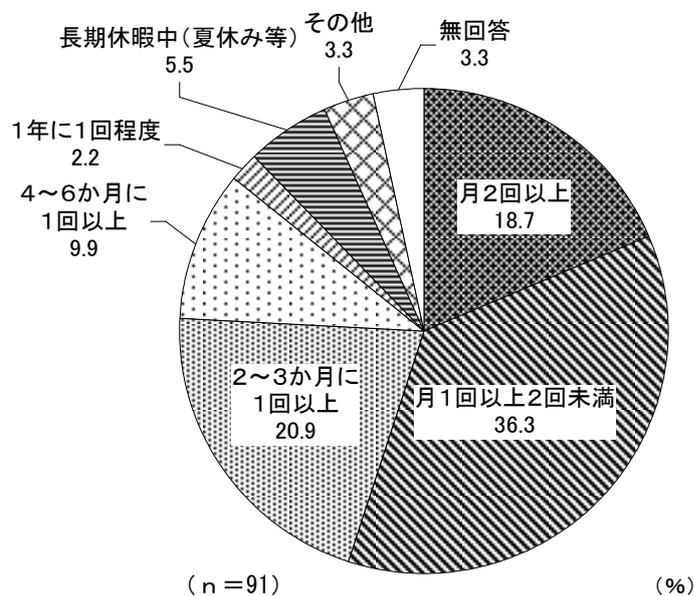
面会交流の頻度や方法について「取り決めをした」と答えた人(79人)に、面会交流の頻度を聞いたところ、「月に1回程度」が31.6%で最も高く、次いで「2～3か月に1回程度」(11.4%)、「月2回以上」(10.1%)の順となっている。(図表Ⅲ-6-8)

図表Ⅲ-6-8 面会交流の頻度



平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ-6-9)

図表Ⅲ-6-9 (参考) 面会交流の頻度 (平成26年調査)



7 ひとり親家庭の就学児童・生徒の学習支援

(1) 学習について必要な支援

【小学生以上のお子さんがあるひとり親家庭の方のみ】

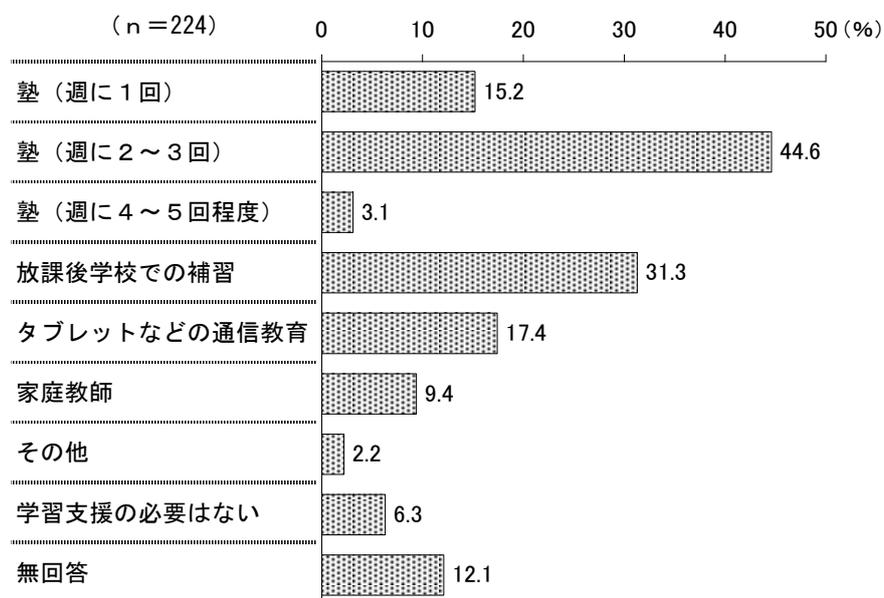
問67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

(1) 学習についてどのような支援が必要だと思いますか。(当てはまる番号すべてに○)

小学生以上の子どもがいると答えた人(224人)に、学習についてどのような支援が必要だと思うか聞いたところ、「塾(週に2~3回)」が44.6%で最も高く、次いで「放課後学校での補習」(31.3%)、「タブレットなどの通信教育」(17.4%)、「塾(週に1回)」(15.2%)の順となっている。

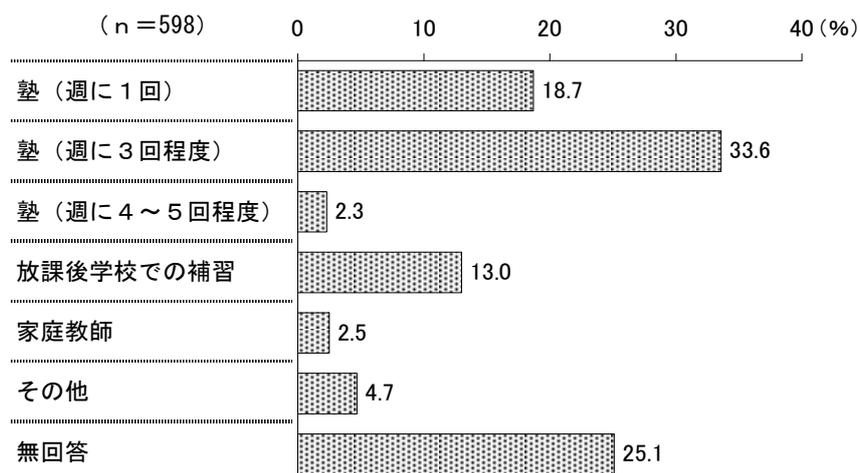
(図表Ⅲ-7-1)

図表Ⅲ-7-1 学習について必要な支援



平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ-7-2)

図表Ⅲ-7-2 (参考) 学習について必要な支援 (平成26年調査)



(2) 塾の利用状況

【小学生以上のお子さんがあるひとり親家庭の方のみ】

問67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

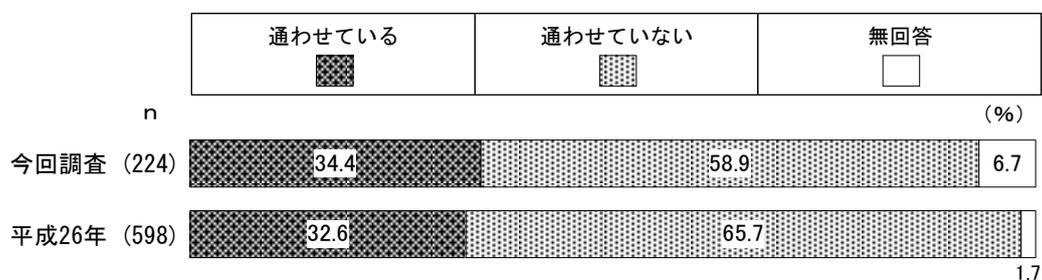
(2) 現在、塾に通わせていますか。(当てはまる番号1つに○)

※通わせている子が1人以上いれば「通わせている」を選択してください。

小学生以上の子どもがいると答えた人(224人)に、現在、塾に通わせているか聞いたところ、「通わせている」が34.4%、「通わせていない」が58.9%となっている。

平成26年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表Ⅲ-7-3)

図表Ⅲ-7-3 塾の利用状況(経年変化)



(3) 塾の月謝と塾へ通う頻度

【問67(2)で「通わせている」と回答した方のみ】

問67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

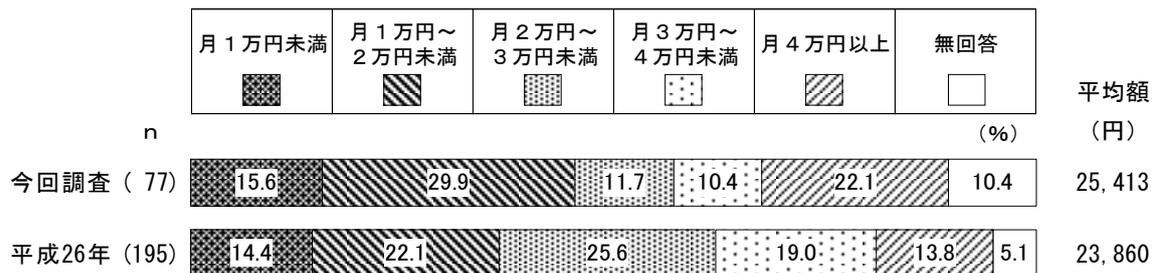
(3) 塾の月謝と頻度について(口に数字で記入)

※通わせている子が1人以上いる場合は、1人当たりの平均でお答えください。

現在、塾に「通わせている」と答えた人(77人)に、塾の月謝を聞いたところ、「月1万円～2万円未満」が29.9%で最も高く、次いで「月4万円以上」(22.1%)、「月1万円未満」(15.6%)の順となっている。

平成26年調査と比較すると、「月4万円以上」は8.3ポイント、「月1万円～2万円未満」は7.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「月2万円～3万円未満」は13.9ポイント、「月3万円～4万円未満」は8.6ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ-7-4)

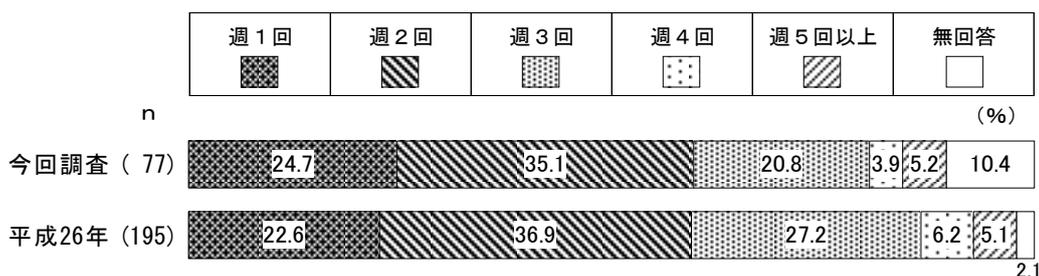
図表Ⅲ-7-4 塾の月謝



現在、塾に「通わせている」と答えた人(77人)に、塾へ通う頻度を聞いたところ、「週2回」が35.1%で最も高く、次いで「週1回」(24.7%)、「週3回」(20.8%)の順となっている。

平成26年調査と比較すると、「週3回」は6.4ポイント減少している。(図表Ⅲ-7-5)

図表Ⅲ-7-5 塾へ通う頻度



(4) 塾へ通わせていない理由

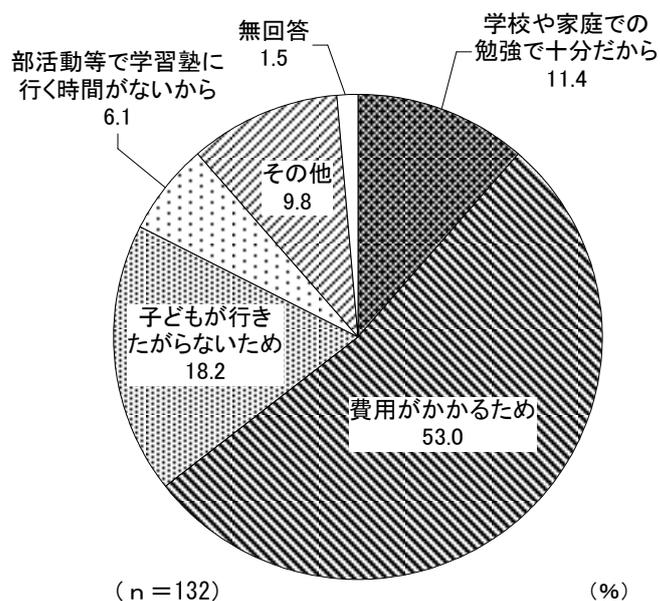
【問67(2)で「通わせていない」と回答した方のみ】

問67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

(4) 通わせていない主な理由について(最も当てはまる番号1つに○)

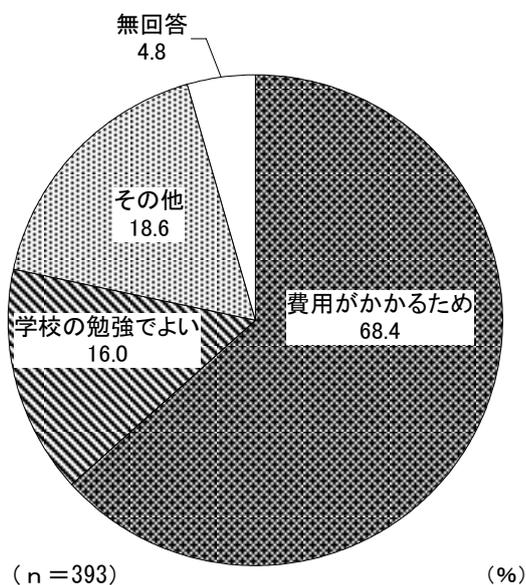
現在、塾に「通わせていない」と答えた人(132人)に、その理由を聞いたところ、「費用がかかるため」が53.0%で最も高く、次いで「子どもが行きたがらないため」(18.2%)、「学校や家庭での勉強で十分だから」(11.4%)の順となっている。(図表Ⅲ-7-6)

図表Ⅲ-7-6 塾へ通わせていない理由



平成26年調査との比較は、一部の選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表Ⅲ-7-7)

図表Ⅲ-7-7 (参考) 塾へ通わせていない理由(平成26年調査)



(5) 塾や家庭教師、通信教育などの学習支援が必要になると思う時期

【小学生以上のお子さんがあるひとり親家庭の方のみ】

問67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

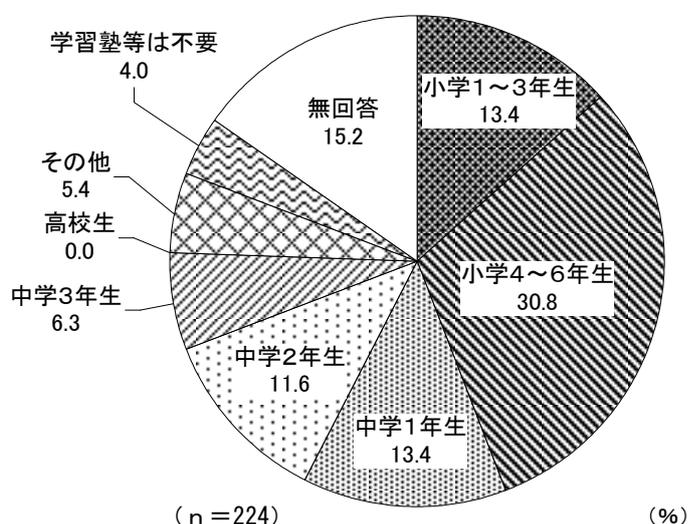
(5) 学習塾や家庭教師、通信教育などの学習支援はいつ頃から必要だと思いますか。

(当てはまる番号1つに○)

小学生以上の子どもがいると答えた人(224人)に、学習塾や家庭教師、通信教育などの学習支援はいつ頃から必要だと思うか聞いたところ、「小学4～6年生」が30.8%で最も高く、次いで「小学1～3年生」(13.4%)、「中学1年生」(13.4%)、「中学2年生」(11.6%)の順となっている。

(図表Ⅲ-7-8)

図表Ⅲ-7-8 塾や家庭教師、通信教育などの学習支援が必要になると思う時期



(6) 子どもの進学についての考え

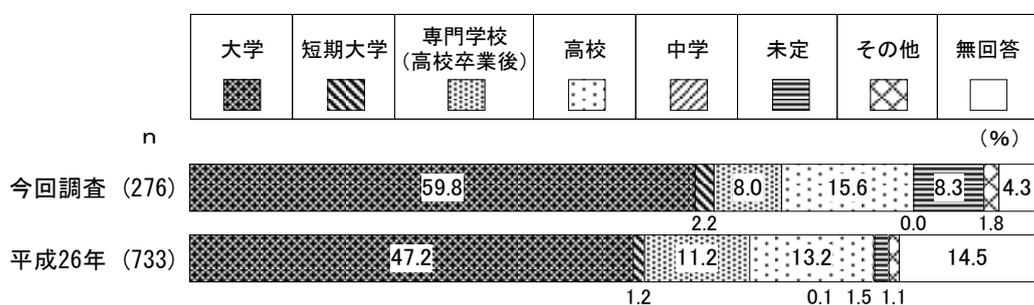
【ひとり親家庭の方のみ】

問68 お子さんの進学について、どこまで考えていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

子どもの進学について、どこまで考えているか聞いたところ、「大学」が59.8%で最も高く、次いで「高校」(15.6%)、「専門学校(高校卒業後)」(8.0%)の順となっている。

平成26年調査と比較すると、「大学」は12.6ポイント増加している。(図表Ⅲ-7-9)

図表Ⅲ-7-9 子どもの進学についての考え(経年変化)



8 ひとり親家庭に対して必要な支援

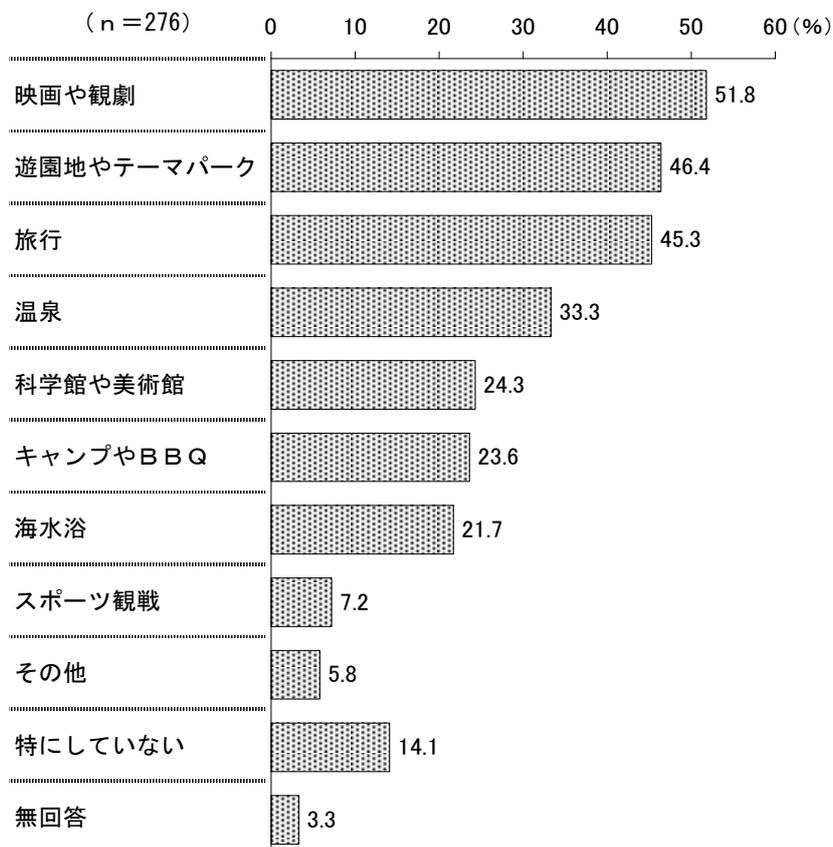
(1) この1年間で子どもとひとっしょにした体験

【ひとり親家庭の方のみ】

問69 この1年間でお子さんとどのような体験をしましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

この1年間で子どもとどのような体験をしたか聞いたところ、「映画や観劇」が51.8%で最も高く、次いで「遊園地やテーマパーク」(46.4%)、「旅行」(45.3%)、「温泉」(33.3%)の順となっている。(図表Ⅲ-8-1)

図表Ⅲ-8-1 この1年間で子どもとひとっしょにした体験



(2) 現在困っていること・ひとり親になったとき困ったこと

【ひとり親家庭の方のみ】

問70 現在困っていることと、ひとり親になったときに困ったことについて、うかがいます。

(1) 現在困っていること (当てはまる番号すべてに○)

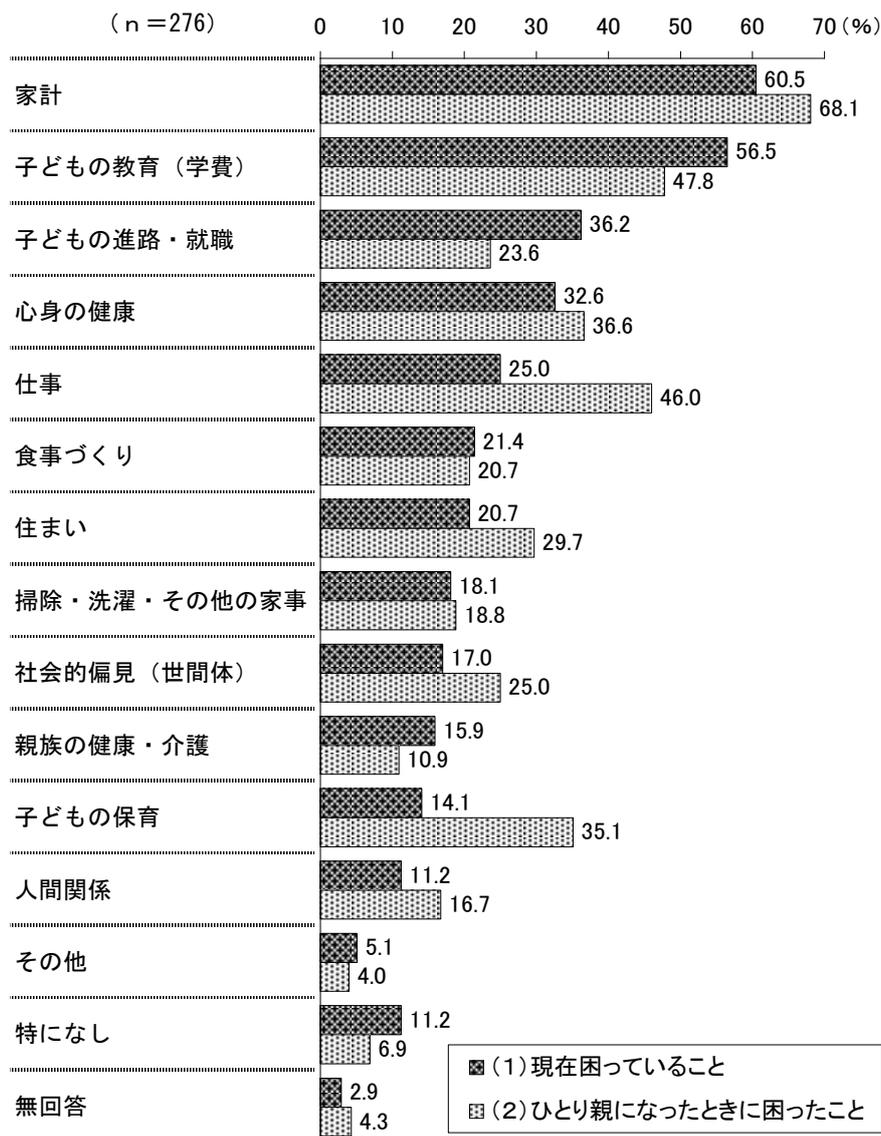
(2) ひとり親になったときに困ったこと (当てはまる番号すべてに○)

現在困っていることを聞いたところ、「家計」が60.5%で最も高く、次いで「子どもの教育(学費)」(56.5%)、「子どもの進路・就職」(36.2%)、「心身の健康」(32.6%)の順となっている。

ひとり親になったときに困ったことを聞いたところ、「家計」が68.1%で最も高く、次いで「子どもの教育(学費)」(47.8%)、「仕事」(46.0%)、「心身の健康」(36.6%)の順となっている。

(図表Ⅲ-8-2)

図表Ⅲ-8-2 現在困っていること・ひとり親になったとき困ったこと



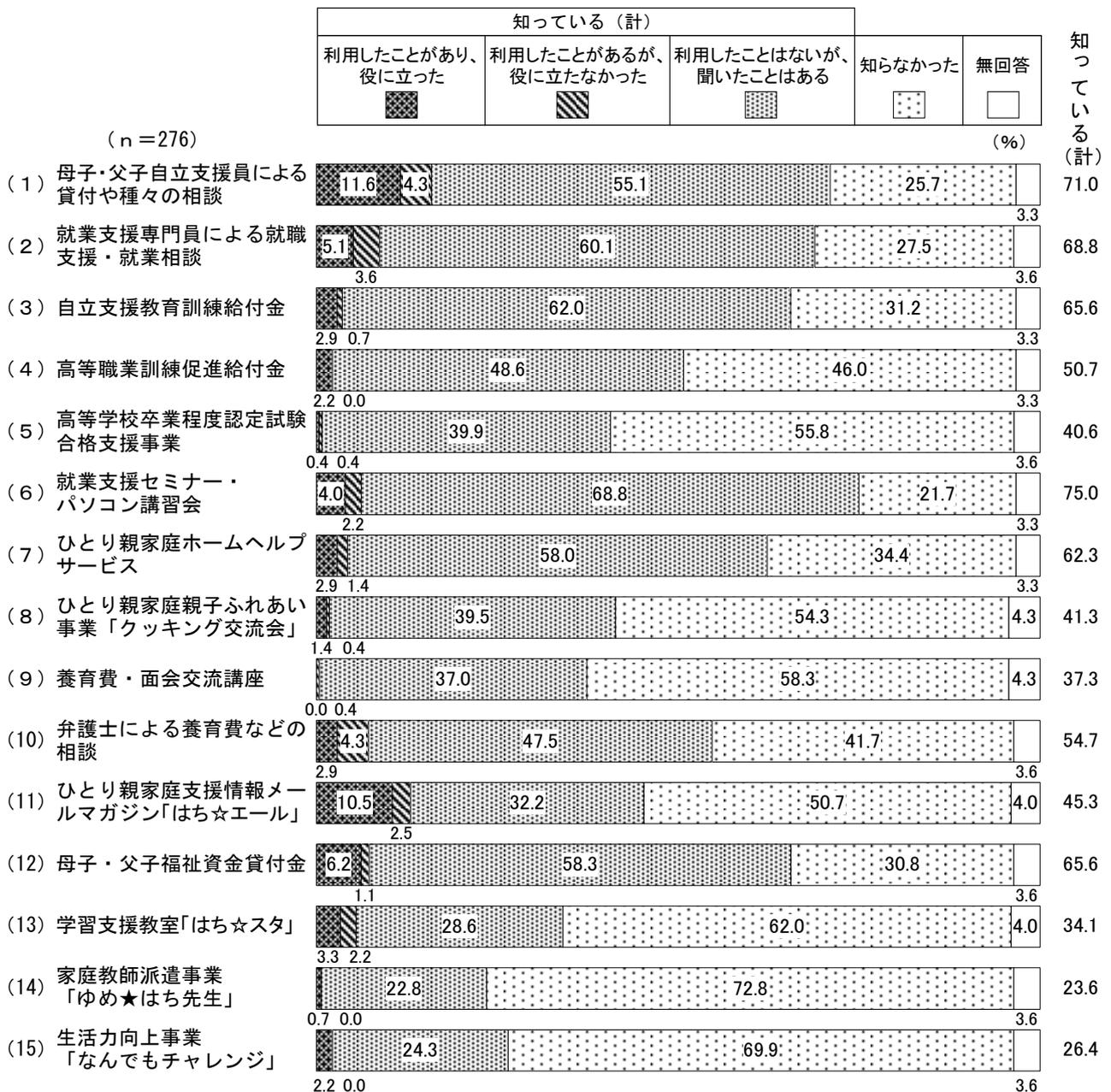
(3) 市のひとり親家庭のための支援制度の認知度・利用状況・満足度

【ひとり親家庭の方のみ】

問71 八王子市ではひとり親家庭のために各種支援制度があります。それぞれの支援制度について、当てはまる番号に1つずつ○をつけてください。

15項目のひとり親家庭のために各種支援制度の認知度・利用状況・満足度を聞いたところ、「利用したことがあり、役に立った」が最も高いのは、(1) 母子・父子自立支援員による貸付や種々の相談 (11.6%) で1割を超えており、次いで(11) ひとり親家庭支援情報メールマガジン「はち☆エール」が10.5%となっている。(図表Ⅲ-8-3)

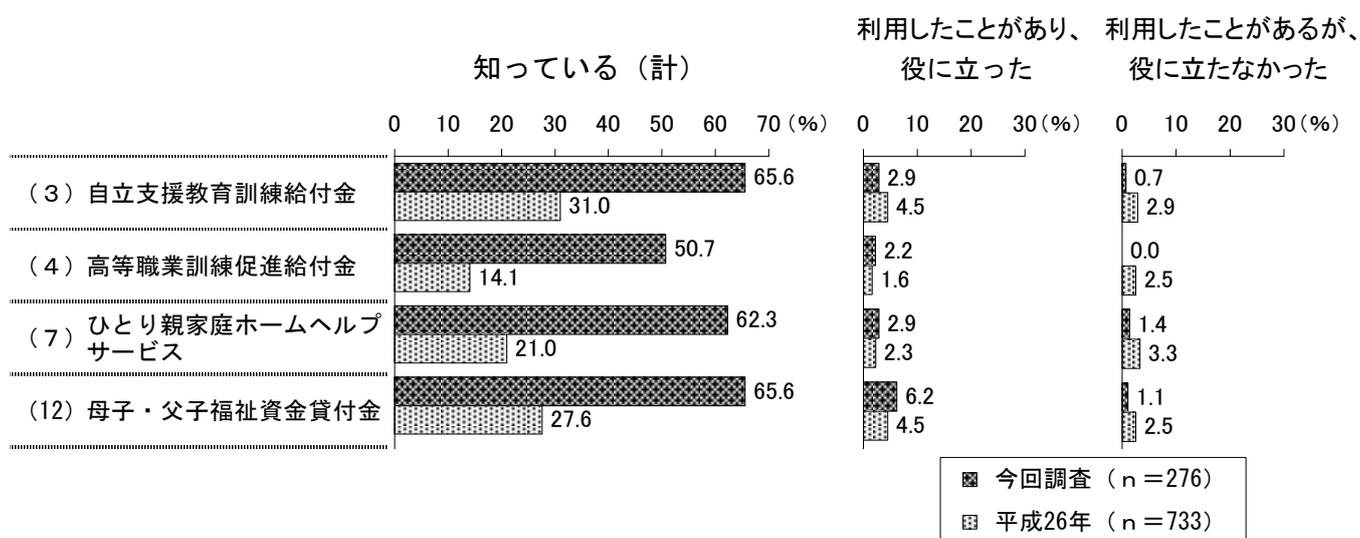
図表Ⅲ-8-3 市のひとり親家庭のための支援制度の認知度・利用状況・満足度



平成26年調査では、4項目の市のひとり親家庭のための支援制度の認知度と、制度を利用して役に立ったかを質問していた。これを今回調査と比較すると、認知度（「利用したことがあり、役に立った」、「利用したことがあるが、役に立たなかった」、「利用したことはないが、聞いたことはある」の3つを合わせた『知っている（計）』の割合）は、いずれの項目でも30ポイント以上増加しており、特に（7）ひとり親家庭ホームヘルプサービスは41.3ポイント増加している。

また、「利用したことがあり、役に立った」及び「利用したことがあるが、役に立たなかった」の割合は、大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅲ－8－4）

図表Ⅲ－8－4 市のひとり親家庭のための支援制度の認知度・利用状況・満足度（経年変化）



(4) 市のひとり親家庭のための支援制度に不満を感じた理由

【問71で「利用したことがあるが、役に立たなかった」と回答した方のみ】

問72 その制度の記号と理由を記入してください。

15項目のひとり親家庭のために各種支援制度について「利用したことがあるが、役に立たなかった」と回答した項目について、その理由を自由記述形式で聞いたところ、15項目の合計で47件の回答があった。各制度の記述を一部抜粋して原則として原文のまま掲載し、末尾に居住地域と回答者の年代を示した。

なお、(4) 高等職業訓練促進給付金、(5) 高等学校卒業程度認定試験合格支援事業、(8) ひとり親家庭親子ふれあい事業「クッキング交流会」、(14) 家庭教師派遣事業「ゆめ★はち先生」、(15) 生活力向上事業「なんでもチャレンジ」の5項目については、回答がなかった。

(1) 母子・父子自立支援員による貸付や種々の相談 (8件)

- 書類が多いことと、時間がかかること。何度も行かなければならないこと。仕事をしていたら時間がなかったため。(西部地域・50代以上)
- 相談にいろいろと乗っていただき、役に立たなかったというわけではなかったのですが、様々な制度がある分、利用するにはそれぞれ規定のルールや基準があるため、その基準を自身が満たさないものが多く、結局利用できないというのがあった。(西部地域・30代)

(2) 就業支援専門員による就職支援・就業相談 (6件)

- 南口の職安に行って相談したけど、時間も何もかもダメで、ひとり親の助けなしだった。
(東部地域・40代)

(3) 自立支援教育訓練給付金 (2件)

- 資格を取っても、結局は経験があり即戦力がないと意味はないと何か所にも言われ就職はできなかった。無駄な制度だと思います。(東南部地域・40代)

(6) 就業支援セミナー・パソコン講習会 (5件)

- 事前に問い合わせた上で参加したが内容が初歩的すぎた。聞いていた内容と、ほしい情報が得られなかった。時間を失った。(地域、回答者の年代無回答)

(7) ひとり親家庭ホームヘルプサービス (3件)

- 9年前初めてホームヘルプサービスを登録し来ていただいたとき、こんな小さな子がいるのに離婚するなんてと愚痴をいろいろ言われた。勝手に物も捨てられたりしたため。(中央地域・40代)

(9) 養育費・面会交流講座 (1件)

- 出産前に1度聞きに行ったがあまりためにならなかった。(西南部地域・20代)

(10) 弁護士による養育費などの相談（8件）

- 行って相談をしたけど、こっちが元々調べて知ってることばかりで新しい情報などまったくなかった。ネットなど調べればわかるようなこと。結局別の弁護士さんに相談した。本当に困っていて、最初に頼りにして行ったところがそんなので本当に残念だったし、行かなきゃよかったなとも思った。（地域無回答・20代）
- 離婚が決まっているので養育費の相談に行ったが、まず離婚を考え直した方がいいとしか言われなかった。それが前提なので、親身に費用の相談に乗ってもらった気はしなかった。

（西部地域・40代）

(11) ひとり親家庭支援情報メールマガジン「はち☆エール」（6件）

- 受信ボックスがつねにパンクしそう、見るひまがなく、未読のまま消すことに毎日追われている。内容を読む時間、よゆう、ない。他に勉強すべきことがあり活字を読むひまがない。知っていることも多く、効率がわるい気がする。私が知らないことだけ、よいタイミングで知れるサービスがあったらいいのと思う。（地域、回答者の年代無回答）

(12) 母子・父子福祉資金貸付金（3件）

- 収入が少ないため福祉資金貸付に断われた、何のための貸付金なのですか。（西部地域・40代）

(13) 学習支援教室「はち☆スタ」（5件）

- 先生に自分から質問できるタイプの子ではないので、ただ行って宿題をこなして帰るだけで、家でやっても何も変わらない。たまに質問しても回答を得られず帰ってくる。（中央地域・30代）

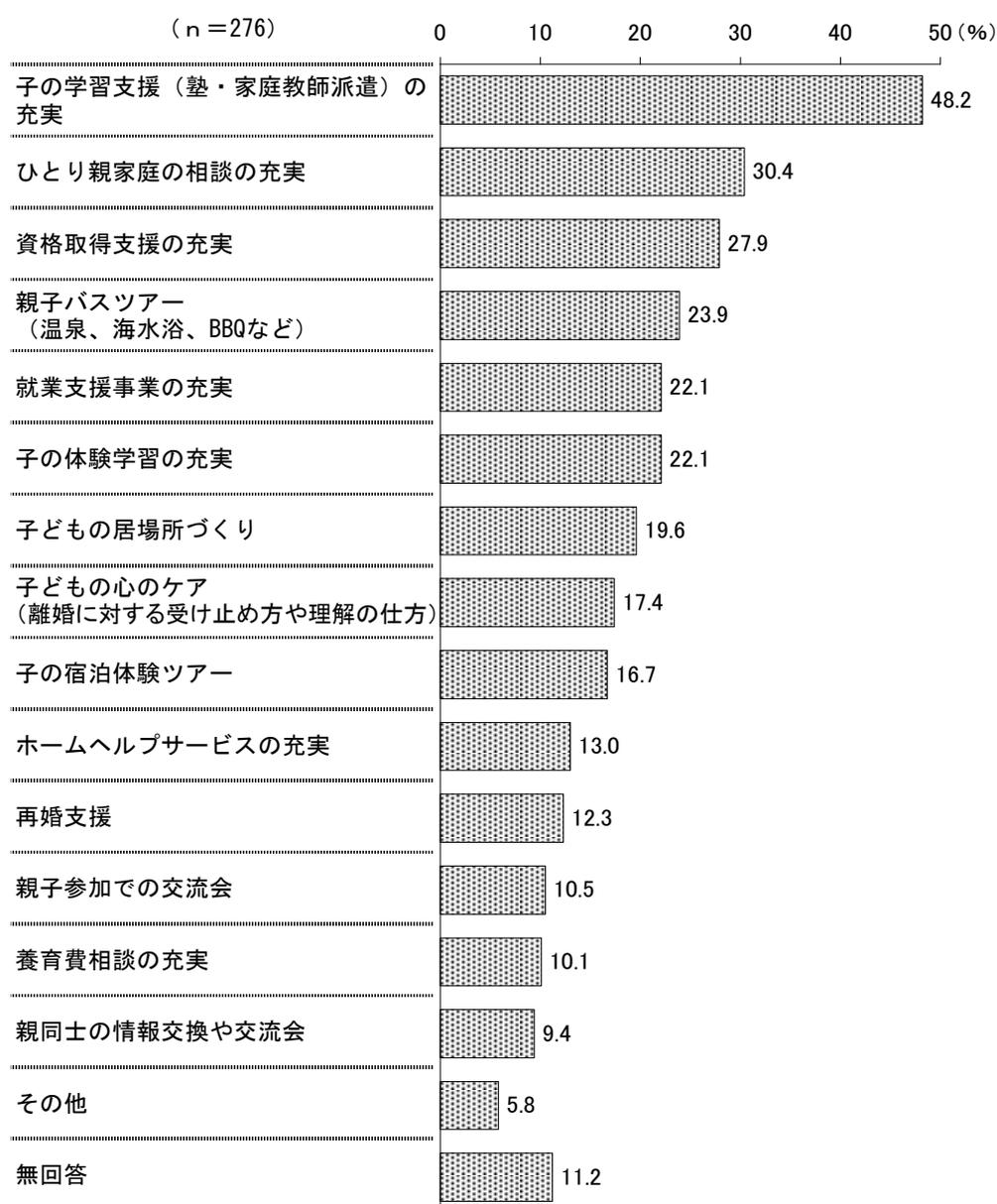
(5) ひとり親家庭に求める支援

【ひとり親家庭の方のみ】

問73 ひとり親家庭について、今後どのような支援を望みますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

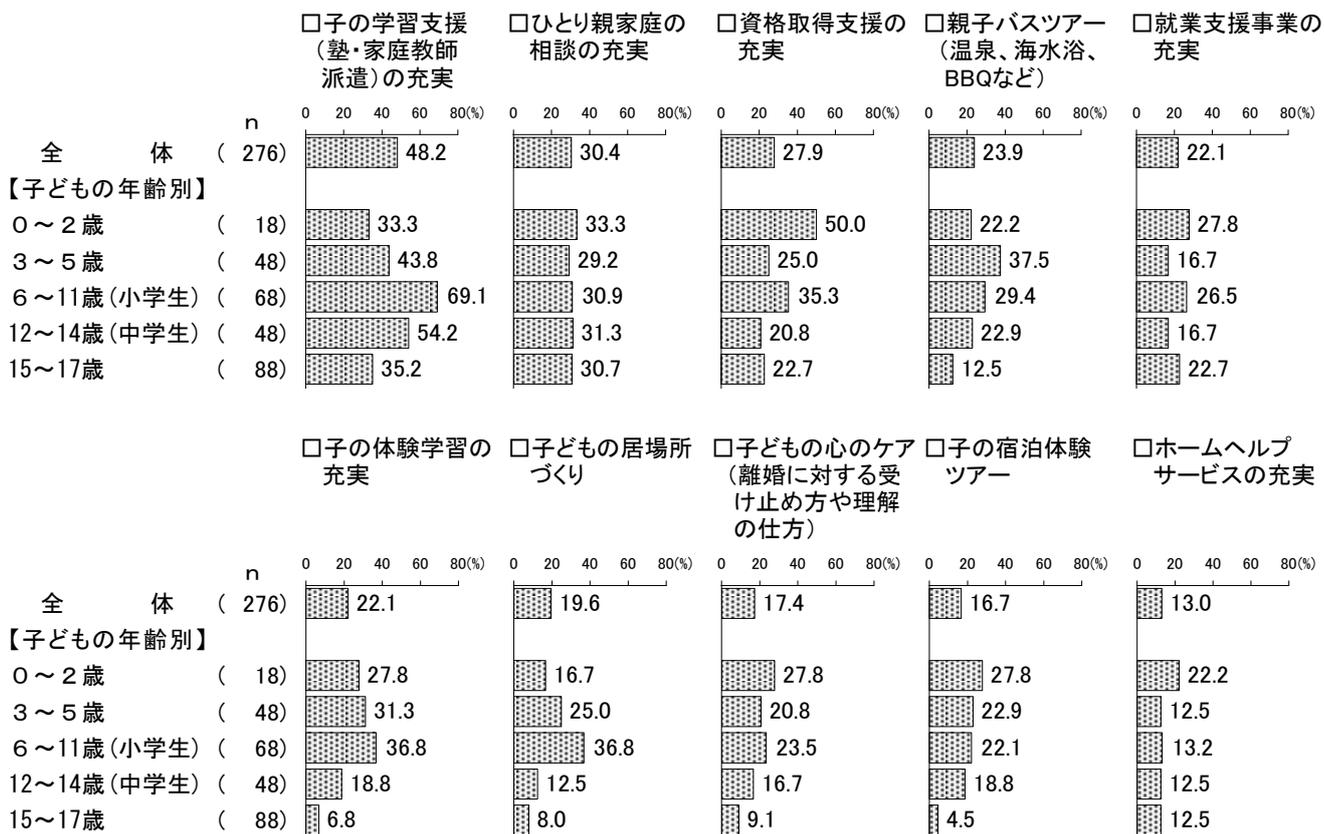
ひとり親家庭について、今後どのような支援を望むか聞いたところ、「子の学習支援（塾・家庭教師派遣）の充実」が48.2%で最も高く、次いで「ひとり親家庭の相談の充実」（30.4%）、「資格取得支援の充実」（27.9%）、「親子バスツアー（温泉、海水浴、BBQなど）」（23.9%）の順となっている。（図表Ⅲ－8－5）

図表Ⅲ－8－5 ひとり親家庭に求める支援



子どもの年齢別にみると、「子の学習支援（塾・家庭教師派遣）の充実」は6～11歳（小学生）で69.1%と高くなっている。「親子バスツアー（温泉、海水浴、BBQなど）」は3～5歳で37.5%と高くなっている。「子の体験学習の充実」は6～11歳（小学生）で36.8%と高くなっている。「子どもの居場所づくり」は6～11歳（小学生）で36.8%と高くなっている。（図表Ⅲ－8－6）

図表Ⅲ－8－6 ひとり親家庭に求める支援－子どもの年齢別（上位10項目）



(6) 参加したいと思う講座・講習会

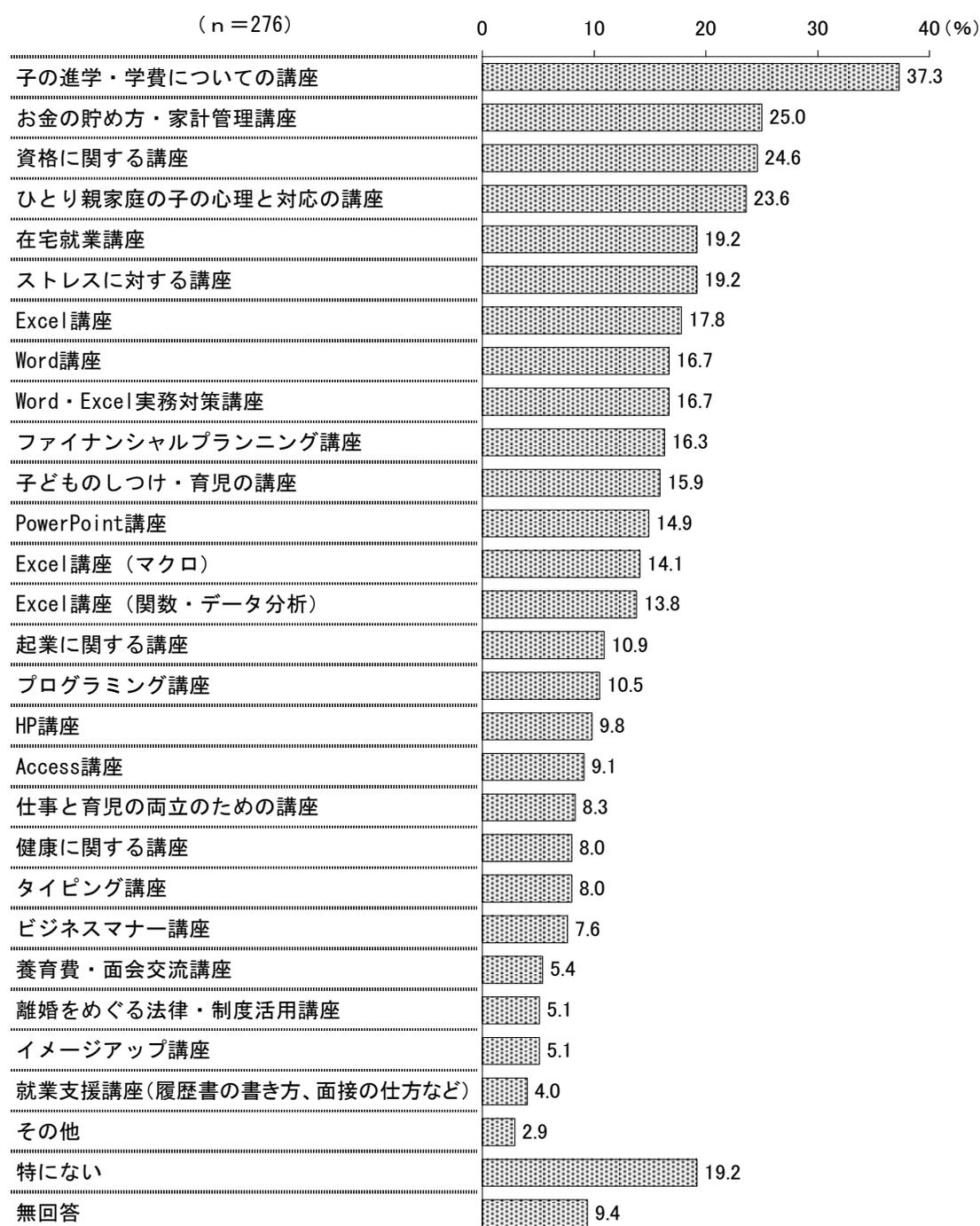
【ひとり親家庭の方のみ】

問74 今後どのような講座・講習会に参加してみたいですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

今後どのような講座・講習会に参加してみたいか聞いたところ、「子の進学・学費についての講座」が37.3%で最も高く、次いで「お金の貯め方・家計管理講座」(25.0%)、「資格に関する講座」(24.6%)、「ひとり親家庭の子の心理と対応の講座」(23.6%)の順となっている。

(図表Ⅲ－8－7)

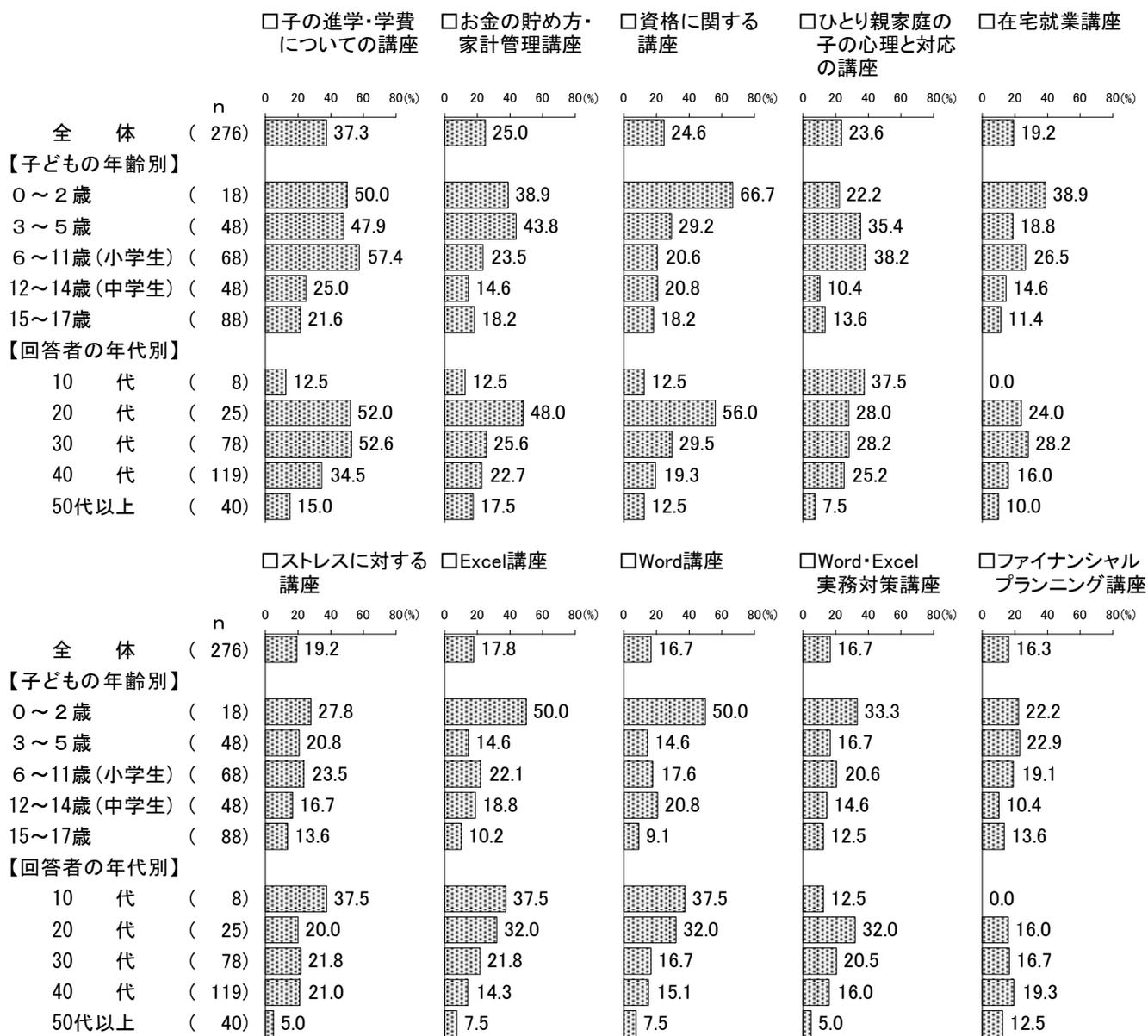
図表Ⅲ－8－7 参加したいと思う講座・講習会



子どもの年齢別にみると、「子の進学・学費についての講座」は6～11歳（小学生）で57.4%と高くなっている。「お金の貯め方・家計管理講座」は3～5歳で43.8%と高くなっている。「ひとり親家庭の子の心理と対応の講座」は6～11歳（小学生）で38.2%と高くなっている。

回答者の年代別にみると、「子の進学・学費についての講座」は30代で52.6%と高くなっている。「お金の貯め方・家計管理講座」は20代で48.0%と高くなっている。「資格に関する講座」は20代で56.0%と高くなっている。「在宅就業講座」は30代で28.2%と高くなっている。（図表Ⅲ－8－8）

図表Ⅲ－8－8 参加したいと思う講座・講習会－子どもの年齢別、回答者の年代別（上位10項目）



9 自由意見

問75 その他、悩みや不安、必要と感じる支援等ありましたら、ご自由にお書きください。

悩みや不安、必要と感じる支援等について自由記述形式で聞いたところ、133人から回答があった。一部抜粋して原則として原文のまま掲載し、末尾に居住地域と回答者の年代を示した。

- 先輩ひとり親や、ひとり親家庭で育った方との交流講座や、メルマガ等での先輩からのアドバイス配信などがあれば嬉しいです。(東部地域・30代)
- 小4から学童に行けなくなるので、子どもを1人で待たせるのが不安。土、日も仕事なので子ども1人だと心配。公園に遊具もないので外で遊ばない。土日の園庭開放等考えてほしい。
(東部地域・40代)
- ①中学校は小学校のような給食がないため、毎日のお弁当や食費、部活動での費用、色々と不安や悩みがあります。中学校も小学校のように全学校給食にしてほしいです。②転職や毎月の給料で生活できない期間に、市で仕事を用意し、働ける制度がほしいです。③子どもと出かける費用がない為、年1回や小学校入学・卒業などの節目にレジャー等で利用できるチケットがあったら良いなあ～と思います。(中央地域・40代)
- ひとり親家庭になってしまった時、どんな支援があり、どんな手当がもらえるのか。どうしたらより子どもとちゃんと暮らしていけるのか市役所に相談に行ってもたらいまわしにされ、とても嫌な思いをしました。今後そのようなことがないように考えてほしいと強く思います。
(地域無回答・20代)
- 子どもに苦勞をかけないように仕事を頑張っているが、仕事が忙しすぎて子どもとの時間がとれない。何のために働いているのか分からなくなる事がありつらい。金銭的負担か精神的負担、どちらがましなのかよく考える事がある。(北部地域・30代)
- 母子家庭で働いてばかりで毎日ヘトヘトなのに、一般家庭と同じように地域の子ども会やPTAの役員が回ってきます。これ以上、しんどいです。子どもの進路を考えたり、反抗期に悩んだり、1人でいっぱい입니다。色々子どもとの時間、考える時間をつくるために、お金の余裕がほしいです。(西南部地域・30代)
- 子どもの進学費用をどう捻出するかが不安です。長期での返済が出来るかどうか(自身が就労し続けることが可能かどうか)等、金銭的なものが悩みの大半です。(地域無回答・40代)
- 発達障害に関する窓口がない。中学生までの支援はある程度あるが、その先はほぼない。実状は、高校生以上の方が、塾代や支援、相談先が必要。塾は必然的に個別指導となるので割高。思春期、反抗期、その他ストレスのはけ口が母親にすべてくるので、かわり方が大変。大学卒業後、永続的に支援が必要だが、それをする場所が少ない。(地域無回答・40代)

- ひとり親家庭の親です。離婚の際、裁判所で養育費の取り決めをしましたが、相手が居場所不明になり、ほぼもらえませんでした。何も解決策がなかったのはくやしいです。又、自分の給料が上がれば上がる程、手当が減るので、それなら低い給料の仕事を選ぼうか迷った時もありました。仕事につかない人の中にはこんな考えの人もいるのではないかと思います。(西部地域・40代)
- 配偶者が死別の人への支援がほしいです。離別と死別をわけてほしいです。離別の方も大変と思いますが、死別は突然永遠の別れになり悲しみから中々抜け出せません。仕事をする気力も出ません。経済的に本当に大変です。(東部地域・40代)
- 介護職をしていますが、夜勤などをしないと給料が良くないです。子どもといる時間が減るため、転職しようと考えています。仕事、家事、すべてを行うのは大変です。家事援助など、利用料が高くなければ利用したいです。(東部地域・40代)
- 悩みや不安は大きくなる一方ですが、どこに相談したら良いのかわからない。仕事がフルタイムのため、相談する時間をつくる事ができなく困っています。(地域無回答・30代)
- 仕事をしていたため、日中の時間に利用出来る支援は利用できず、一人で子育てをしてきました。本当にきつくつらかった。子どもは18歳になるが、仕事しながらもいつでも相談出来るサービスが本当に必要だった。(西部地域・40代)
- 不安はたくさんありますが現状を過ごすことだけで精一杯です。(北部地域・50代以上)

IV 使用した調査票

八王子市

子育てに関するアンケート調査

調査ご協力をお願い

皆様には日ごろより市政にご理解とご協力をたまわり誠にありがとうございます。
さて、本市では平成27年3月に策定した「ビジョン すくすく☆はちおうじ」(第3次子ども育成計画)に基づき、子育て支援のための様々な施策を実施しております。平成32年度に現行計画の期間が終了することから、計画を見直すにあたり、市民の皆様の子育てに関する生活実態やご意見・ご要望などを把握するため、「八王子市子育てに関するアンケート調査」を実施することになりました。

この調査は、平成30年9月1日時点の住民基本台帳の中から未就学児がいる世帯4,800世帯とひとり親世帯800世帯を無作為に抽出し、その保護者の方にご協力をお願いするものです。ご回答いただいた調査内容は、次世代育成支援施策の検討のみに利用させていただくものであり、回答者個人が特定されたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

つきましては、お忙しいとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月 八王子市長 石森 孝志

【記入にあたってのお願い】

- 1 封筒の宛て名のお子さんについて、保護者の方がご記入ください。
- 2 回答は、平成30年10月1日現在でご記入ください。
- 3 回答は、黒か青のボールペン、鉛筆等で濃くはっきりとご記入ください。
- 4 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 5 数字(年齢や時間帯等)をおうかがいする質問では、枠内に数字をご記入ください。時間については24時間制でご記入ください。(例：午後1時 ⇒ 13時)
- 6 記入された調査票は、平成30年11月15日(木)までに同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

★宛て名のお子さんが小学生以上の方は問1～12と問49～75にお答えください。それ以外の方は問1～57にお答えください。宛て名のお子さんが未就学児でひとり親家庭の方は問58～75にもお答えください。

◎お問い合わせ

八王子市 子ども家庭部 子どものしあわせ課

電話：042-620-7391 (月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分)

メール：b4701006@city.hachioji.tokyo.jp FAX：042-627-7776

調査票

お住まいの地域についてうかがいます。

問1 お住まいの町の番号1つに○をつけてください。(町名五十音順)

1 咲町一丁目(あ)	41 川町	81 田町	121 並木町	161 南大沢四丁目
2 咲町二丁目	42 川町	82 台町一丁目	122 植原町	162 南大沢五丁目
3 咲町三丁目	43 北野町	83 台町二丁目	123 南陽台一丁目	163 南新町
4 旭町	44 北野台一丁目	84 台町三丁目	124 南陽台二丁目	164 みなみ野一丁目
5 栗町	45 北野台二丁目	85 台町四丁目	125 南陽台三丁目	165 みなみ野二丁目
6 石川町	46 北野台三丁目	86 平町	126 西浅川町	166 みなみ野三丁目
7 泉町	47 北野台四丁目	87 大薬寺町	127 西片倉一丁目	167 みなみ野四丁目
8 大目町	48 北野台五丁目	88 高尾町	128 西片倉二丁目	168 みなみ野五丁目
9 上野町	49 綱丘一丁目	89 高倉町	129 西片倉三丁目	169 みなみ野六丁目
10 打越町	50 綱丘二丁目	90 西寺方町	130 西寺方町	170 宮下町
11 宇津木町	51 綱丘三丁目	91 滝山町一丁目	131 式分方町	171 美山町
12 宇津貫町	52 清川町	92 滝山町二丁目	132 狭間町	172 明神町一丁目
13 梅理町	53 桐田町	93 船町	133 八幡町	173 明神町二丁目
14 裏高尾町	54 久保山町一丁目	94 丹木町一丁目	134 初沢町	174 明神町三丁目
15 渡分町	55 久保山町二丁目	95 丹木町二丁目	135 東浅川町	175 明神町四丁目
16 大塚	56 越野	96 丹木町三丁目	136 東中野	176 めじろ台一丁目
17 大船町	57 小比企町	97 寺町	137 兵衛一丁目	177 めじろ台二丁目
18 大谷町	58 小笠町	98 寺田町	138 兵衛二丁目	178 めじろ台三丁目
19 大横町	59 子安町一丁目	99 天神町	139 日吉町	179 めじろ台四丁目
20 大和田町一丁目	60 子安町二丁目	100 甘理町	140 平砲町	180 元/壬子町一丁目
21 大和田町二丁目	61 子安町三丁目	101 戸吹町	141 富士見町	181 元/壬子町二丁目
22 大和田町三丁目	62 子安町四丁目	102 中町	142 別所一丁目	182 元/壬子町三丁目
23 大和田町四丁目	63 左入町	103 長沼町	143 別所二丁目	183 元本郷町一丁目
24 大和田町五丁目	64 散田町一丁目	104 中野町	144 堀之内	184 元本郷町二丁目
25 大和田町六丁目	65 散田町二丁目	105 中野上町一丁目	145 堀之内二丁目	185 元本郷町三丁目
26 大和田町七丁目	66 散田町三丁目	106 中野上町二丁目	146 堀之内三丁目	186 元本郷町四丁目
27 小門町	67 散田町四丁目	107 中野上町三丁目	147 本町	187 元横山町一丁目
28 尾崎町	68 散田町五丁目	108 中野上町四丁目	148 本郷町	188 元横山町二丁目
29 小津町	69 下総方町	109 中野上町五丁目	149 松が谷	189 元横山町三丁目
30 鹿島	70 下柵木	110 中野山王一丁目	150 松木	190 八木町(や)
31 加住町一丁目	71 下柵木二丁目	111 中野山王二丁目	151 丸山町	191 谷野町
32 加住町二丁目	72 下柵木三丁目	112 中野山王三丁目	152 三崎町	192 山田町
33 片倉町	73 城山手一丁目	113 長房町	153 みつひ台一丁目	193 鎌水
34 叶倉町	74 城山手二丁目	114 中山	154 みつひ台二丁目	194 鎌水二丁目
35 上巻分方町	75 新町	115 七圃一丁目	155 緑町	195 八日町
36 上総方町	76 諏訪町	116 七圃二丁目	156 南町	196 横川町
37 上川町	77 千人町一丁目	117 七圃三丁目	157 南浅川町	197 横山町
38 上柵木	78 千人町二丁目	118 七圃四丁目	158 南大沢一丁目	198 四谷町
39 上柵木二丁目	79 千人町三丁目	119 七圃五丁目	159 南大沢二丁目	199 万町
40 上柵木三丁目	80 千人町四丁目	120 七圃六丁目	160 南大沢三丁目	

封筒の宛て名のお子さんご家族の状況についてうかがいます。

問2 宛て名のおさんの生年月を、口内に数字でご記入ください。(数字は一律に一字)

平成	□□	年	□□	月	生まれ
例：平成	2	9	0	4	月生まれ

問3 宛て名のおさんからみて、この調査票に回答している方はどなたですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 母親 2. 父親 3. その他 ()

問4 回答している方の年代について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代以上

問5 回答している方の現在の配偶関係について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる 2. 配偶者がいない

問6 日ごろ、お子さんをみてももらえる親族・知人について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 日常的にみてももらえる親族・知人がいる ⇒問8へ
 2. 緊急時もしくは用事の際のみみてももらえる親族・知人がいる ⇒問8へ
 3. みてももらえる親族・知人はいない ⇒問7へ
 4. 親族・知人に頼むようなことがないため、わからない ⇒問8へ
 5. その他 () ⇒問8へ

【問6で「3. みてももらえる親族・知人はいない」と回答した方のみ】

問7 みてももらえる親族・知人がいない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. みてももらえる親族・知人が近くに住んでいないから
 2. 親族・知人に負担をかけることが心苦しいから
 3. 親族・知人にみてもらうことに不安があるから
 4. その他 ()

問8 世帯の年収について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 200万円未満
 2. 200万円以上400万円未満
 3. 400万円以上600万円未満
 4. 600万円以上800万円未満
 5. 800万円以上1,000万円未満
 6. 1,000万円以上

問9 世帯の家計について、最も当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 赤字であり、日々の生活のために借金をしている 4. 黒字であるが貯蓄はしていない
 2. 赤字であり、貯金を取り崩している 5. 黒字であり、毎月貯蓄している
 3. 赤字でも黒字でもない 6. その他 ()

保護者の就労状況についてうかがいます。

これ以降の質問で時間や時刻を回答する際は、30分未満は切り下げ、30分以上は切り上げてご記入ください。

(例) 時間：4時間 29分⇒4時間 4時間 30分⇒5時間
 時刻：18時 29分⇒18時 18時 30分⇒19時

問10 母親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。産育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※父子家庭の場合は記入不要

母親 (現在)	(1) 就労状況 (当てはまる番号1つに○)
	1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している 2. パート・アルバイト等 (フルタイム以外) で就労している 3. 現在は就労していない ⇒ (2) (3) 記入不要
	(2) 週当たりの就労日数 (口内に数字で記入) 1週当たり □□ 日
(今後の希望)	(3) 1日当たりの就労時間 (口内に数字で記入) 1日当たり □□ 時間
	(4) 就労希望 (当てはまる番号1つに○) 1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) を希望 2. パート・アルバイト等 (フルタイム以外) を希望 3. 就労の予定はない ⇒ (5) (6) 記入不要
(今後の希望)	(5) 週当たりの就労希望日数 (口内に数字で記入) 1週当たり □□ 日
	(6) 1日当たりの就労希望時間 (口内に数字で記入) 1日当たり □□ 時間
	(7) 1日当たりの就労希望時間 (口内に数字で記入) 1日当たり □□ 時間

【問10 (1) で「3. 現在は就労していない」と回答した方のみ】

問11 今後の就労時期について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 就労の予定はない
 2. 1年以内に就労したい } 宛て名のおさんが □□ 歳になったら
 3. 1年より先だが、就労したい }

問 12 父親の現在の就労状況と今後の就労希望について、(1)～(6)にお答えください。育休を取得中の方は取得前の状況で、就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンでお答えください。 ※母子家庭の場合は記入不要

父親 (現在)	(1) 就労状況 (当てはまる番号 1つに○)
	1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労している 2. パート・アルバイト等 (フルタイム以外) で就労している 3. 現在は就労していない ⇒ (2) (3) 記入不要
父親 (今後の希望)	(2) 週当たりの就労日数 (口内に数字で記入)
	1週当たり <input type="text"/> 日 (3) 1日当たりの就労時間 (口内に数字で記入)
父親 (今後の希望)	(4) 就労希望 (当てはまる番号 1つに○)
	1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) を希望 2. パート・アルバイト等 (フルタイム以外) を希望 3. 就労の予定はない ⇒ (5) (6) 記入不要
父親 (今後の希望)	(5) 週当たりの就労希望日数 (口内に数字で記入)
	1週当たり <input type="text"/> 日を希望 (6) 1日当たりの就労希望時間 (口内に数字で記入)
父親 (今後の希望)	(6) 1日当たりの就労希望時間 (口内に数字で記入)
	1日当たり <input type="text"/> 時間を希望

宛て名のお子さんが小学生以上の方は問 49 (15ページ) にお答えください。それ以外の方は引き続きお答えください。

宛て名のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

ここでいう定期的とは、月単位で利用している事業を指し、一時的な利用は除きます。具体的な教育・保育事業については、下表を参照ください。

(定期的な教育・保育事業一覧)

事業名	概要	利用者負担・利用料のめやす
幼稚園	学校教育法に基づき、3歳から就学前までの子どもに幼児教育を提供する施設	入園料等のほか、月額 24,000円程度 (世帯の収入により補助金あり)
幼稚園の預かり保育 ※幼稚園利用者のみ 認可保育所	幼稚園において通常の教育時間を延長して預かる事業 (定期的な利用のみ)	各園により異なる
認定こども園	国が定める基準に基づいて、八王子市の認可を受けた保育施設 (定員 20人以上)	月額 0円～54,000円 (3歳以上は 29,000円) の間で、世帯の課税状況により決定。
小規模保育事業	幼稚園と保育所の機能や特徴を併せ持つ施設	月額 0円～54,000円 (3歳以上は 29,000円) の間で、世帯の課税状況により決定。
家庭的保育 (保育ママ)	家庭の保育を行う事業 (定員 6～19人)	家庭的な雰囲気のもと、少人数を対象に保育を行う事業 (定員 5人以下)
事業所内保育事業	企業が従業員用に運営する施設で、地域の子どもを一緒に保育する事業	従業員の利用は施設により異なるが、地域枠を利用者は認可保育所と同じ
認証保育所	東京都が定めた基準を満たし、設置を認証した保育施設	年齢、利用時間等により異なるが、月 160時間の利用で月額 50,000円程度 (市から月 15,000円の補助あり)
居宅訪問型保育	障害・疾患などで個別のケアが必要な場合に、保護者の自宅で1対1の保育を行う事業	認可保育所と同じ (現在、八王子市にはなし)

問 13 現在、定期的な教育・保育事業を利用していますか。当てはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 利用している ⇒ 問 14、15へ 2. 利用していない ⇒ 問 16へ

【問 13 で「1. 利用している」と回答した方のみ】

問 14 定期的な教育・保育事業を利用している主な理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの教育や発達のため 5. 保護者に病気や障害があるため
2. 保護者が現在就労しているため 6. 保護者が学生のため
3. 保護者が就労予定または求職中であるため 7. 次子の出生・育児のため
4. 保護者が他の家族や親族を介護しているため 8. その他 ()

【問 13 で「1. 利用している」と回答した方のみ】

問 15 利用している教育・保育事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 幼稚園 5. 小規模保育 9. その他の認可外の保育施設
2. 幼稚園の預かり保育 6. 家庭的保育 (保育ママ) 10. その他 ()
3. 認可保育所 7. 事業所内保育施設
4. 認定こども園 8. 認証保育所

【問 13 で「2. 利用していない」と回答した方のみ】

問 16 宛て名のお子さんが小学校入学までに定期的な教育・保育事業のいずれかを利用する予定はありますか。当てはまる番号 1つに○を、口内に数字で記入してください。

1. 利用する予定 → 歳になったら利用しようと考えている
2. 利用しない

【すべての方にうかがいます】

問 17 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、定期的に利用したい事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、利用には利用者負担 (利用料) がかります。

1. 幼稚園 5. 小規模保育 9. その他の認可外の保育施設
2. 幼稚園の預かり保育 6. 家庭的保育 (保育ママ) 10. 居宅訪問型保育
3. 認可保育所 7. 事業所内保育施設 11. その他 ()
4. 認定こども園 8. 認証保育所 12. 利用しない ⇒ 問 22へ

【問 17 で「1」～「10」のいずれかを回答した方のみ】

問 18 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、最も利用したい事業の番号 1つに○をつけてください。

1. 幼稚園 4. 小規模保育 7. 認証保育所
2. 認可保育所 5. 家庭的保育 (保育ママ) 8. その他の認可外の保育施設
3. 認定こども園 6. 事業所内保育施設 9. 居宅訪問型保育

【問 17 で「3」～「10」のいずれかを回答した方のみ】

問 19 希望するお迎えの時間について、該当する番号 1 つに○をつけてください。

1. 18 時より前 ⇒ 問 22 ⇨ 2. 18 時以降 ⇒ 問 20 ⇨

【問 19 で「2、18 時以降」と回答した方のみ】

問 20 保育園等の延長保育以降も、夜間に定期的な教育・保育事業があった場合、利用したいですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。なお、利用には利用者負担（利用料）がかかります。

1. ほぼ毎日利用したい 3. 月に 1～2 回程度利用したい
2. 週に 1～2 回程度利用したい ⇒ 問 22 ⇨ 4. 利用希望はない

【問 20 で「1」～「3」のいずれかを回答した方のみ】

問 21 利用したい理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. シフトや夜勤で終業時刻が夜間に及ぶから
2. 日常的に残業があるから
3. 職場が遠く、通勤時間が長いから
4. 家族や親族の通院・介護をしなければならぬから
5. その他（ ）

【すべての方にかかっています】

問 22 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、無料であれば定期的に利用したい事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 幼稚園 5. 小規模保育 9. その他の認可外の保育施設
2. 幼稚園の預かり保育 6. 家庭的保育（保育ママ） 10. 居宅訪問型保育
3. 認可保育所 7. 事業所内保育施設 11. その他（ ）
4. 認定こども園 8. 認証保育所 12. 利用しない ⇒ 問 25 ⇨

【問 22 で「1」～「10」のいずれかを回答した方のみ】

問 23 宛て名のお子さんの平日の教育・保育として、最も利用したい事業の番号 1 つに○をつけてください。

1. 幼稚園 4. 小規模保育 7. 認証保育所
2. 認可保育所 5. 家庭的保育（保育ママ） 8. その他の認可外の保育施設
3. 認定こども園 6. 事業所内保育施設 9. 居宅訪問型保育

【問 22 で「3」～「10」のいずれかを回答した方のみ】

問 24 希望するお迎えの時間について、該当する番号 1 つに○をつけてください。

1. 18 時より前 2. 18 時以降

土曜・日曜・祝日や長期休暇中における宛て名のお子さんの
定期的な教育・保育事業の利用希望についてうかがいます。

ここでいう定期的とは、月単位で利用している事業を指し、一時的な利用は除きます。具体的な教育・保育事業については、5ページの表を参照ください。

問 25 宛て名のお子さんの土曜日、日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望についてうかがいます。

(1) 利用希望について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

(2) 利用する場合、何時から何時まで利用したいですか。□内に 24 時間表記でご記入ください。

土曜日	(1) 利用希望（当てはまる番号 1 つに○）	3. 月に 1～2 回利用したい
	1. 毎週利用したい 2. ほぼ毎週利用したい	4. 利用する必要はない ⇒ (2) 記入不要
日曜日・祝日	(2) 利用希望時間（□内に数字で記入）	□□時から□□時まで

日曜日・祝日	(1) 利用希望（当てはまる番号 1 つに○）	3. 月に 1～2 回利用したい
	1. 毎週利用したい 2. ほぼ毎週利用したい	4. 利用する必要はない ⇒ (2) 記入不要
日曜日・祝日	(2) 利用希望時間（□内に数字で記入）	□□時から□□時まで

【問 15 で、定期的に「1. 幼稚園」を利用していると回答した方のみ】

問 26 宛て名のお子さんの長期休暇期間中（夏休みや冬休みなど）における定期的な教育・保育事業のいずれかの事業の利用希望についてうかがいます。

(1) 利用希望について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

(2) 利用する場合、何時から何時まで利用したいですか。□内に 24 時間表記でご記入ください。

長期休暇期間中	(1) 利用希望（当てはまる番号 1 つに○）	3. 週に 1～2 日利用したい
	1. 毎日利用したい 2. ほぼ毎日利用したい	4. 利用する必要はない ⇒ (2) 記入不要
長期休暇期間中	(2) 利用希望時間（□内に数字で記入）	□□時から□□時まで

宛て名のお子さんが病気の際の対応についてうかがいます。

八王子市には、保育所等に通うお子さんが病気の回復期で、また集団保育を受けることができないとき、一時的に預けることができる施設（病児・病後児保育室）があります。

(病児・病後児保育)

対象	生後 57 日から小学 3 年生までのお子さん
時間	9 時から 17 時まで
費用	1 日 2,500 円。給食費及び延長料金等は施設ごとに別途発生 ※生活保護世帯、市民税非課税世帯には利用料の負担軽減制度あり
申込方法	①市に事前登録を行う ②病院で医師に、診療情報提供書または病児病後児保育連絡票を記入し てもらう ※書類の記入には手数料等が発生する場合があります ③各施設へ直接申し込み

(実施施設一覧)

施設名	所在地
からまつキッズイングリッシュルーム※病児のみ	川口町1543
ほりのうちキッズガーデン	別所2-2-1-102
病児保育室「はる」	散田町3-8-10
みなみ野こどもクリニック む〜みんルーム	西片倉3-1-6

問27 宛て名のお子さんが病気になるったり、けがをした時の対処方法についてうかがいます。

- (1) 対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけてください。
 (2) (1)で○をつけた対処方法について、この1年間でおよそ何日ありましたか。□内に数字をご記入ください。

(1) 病気やけがの時の対処方法	(2) 日数
1. 両親のうち、就労していない方が対応した	□ □ 日
2. 母親が仕事を休んで対応した	□ □ 日
3. 父親が仕事を休んで対応した	□ □ 日
4. 親族・知人に頼んだ	□ □ 日
5. 病児・病後児保育を利用した	□ □ 日
6. ファミリー・サポート・センターを利用した	□ □ 日
7. ベビーシッターを利用した	□ □ 日
8. 仕方なく子どもだけで留守番させた	□ □ 日
9. その他 ()	□ □ 日
10. 病気やケガをするようなことはなかった	—

問28 今後、宛て名のお子さんが病気やけがの時、病児・病後児保育を利用したいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、利用には利用料やかかりつけ医の受診が必要になります。

1. 利用したい ⇒問29、30へ
 2. 利用したいと思わない ⇒問31へ

【問28で「1. 利用したい」と回答した方のみ】

問29 病児・病後児保育を利用する場合、1年間の利用日数は何日程度になると思えますか。

□内に数字をご記入ください。

□ □ 日程度

【問28で「1. 利用したい」と回答した方のみ】

問30 病児・病後児保育に子どもを預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思えますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 幼稚園・保育園等に併設した施設で子どもを保育する事業
 2. 小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
 3. その他 ()

【問28で「2. 利用したいと思わない」と回答した方のみ】

問31 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 保護者が仕事を休んで看病するから
 2. 親族・知人に預けることができるから
 3. どのみ所か、よく知らないから
 4. 利用料が高いから
 5. 利用料がわからないから
 6. 他の病気にばかりそうで心配だから
 7. 立地が良くないから、または近くにないから
 8. 預けられる時間や曜日が十分ではないから
 9. かかりつけ医の受診や事前登録が面倒だから
 10. その他 ()

宛て名のお子さんの不定期の教育・保育事業等の利用についてうかがいます。

育児疲れのリフレッシュや仕事と子育ての両立など、目的に合わせて一時的な保育を利用することができます。(不定期の教育・保育事業一例)

事業名	概要	利用料のめやす
認可保育所の一時保育 ※利用は本就園児のみ	保護者が就労・通院・冠婚葬祭・リフレッシュなどで、一時的に保育を必要とする場合、認可保育所でお子さんを預かる事業	各園により異なる
幼稚園の預かり保育 ※幼稚園利用者のみ	幼稚園において通常の教育時間を延長して預かる事業(不定期の利用のみ)	各園により異なる
ファミリー・サポート・センター	地域住民(提供会員)が子どもを預かる事業	1時間 700円~900円
ショートステイ (宿泊型一時保育)	保護者が一時的にお子さんの面倒を見られないときに、お子さんを宿泊で預かり、食事・入浴等を行う事業	1泊2日 4,000~6,800円※施設により異なる
トワイライトステイ (夜間一時保育)	保護者が一時的にお子さんの面倒を見られないときに、17時から22時までの間、食事・学習援助などを行う事業	1回 1,400円
ベビーシッター	民間が派遣するベビーシッターが子どもの家庭で保育する事業	各事業者により異なる

問32 不定期の教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

- (1) 不定期の教育・保育事業について、利用したことがある番号すべてに○をつけてください。
 (2) (1)で○をつけた事業について、この1年間でおよそ何日利用しましたか。
 □内に数字をご記入ください。

(1) 利用したことがある事業	(2) 年間利用日数
1. 認可保育所の一時保育	□ □ 日
2. 幼稚園の預かり保育(定期的な利用は除く)	□ □ 日
3. ファミリー・サポート・センター	□ □ 日
4. トワイライトステイ(夜間一時保育)	□ □ 日
5. ベビーシッター	□ □ 日
6. その他 ()	□ □ 日
7. 利用しなかった ⇒問33へ	—

【問 32 で「7. 利用しなかった」と回答した方のみ】

問 33 利用しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 特に利用する必要がなかった | 5. 利用料が高かった |
| 2. 事業を知らなかった | 6. 利用料がいくらからわからなかった |
| 3. 利用方法がわからなかった | 7. その他 () |
| 4. 利用できる事業が近くなかった | |

問 34 今後、不定期の教育・保育事業のいずれかを利用したいですか。

当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 利用したい ⇒問 35 へ | 2. 利用したいと思わない ⇒問 36 へ |
|------------------|-----------------------|

【問 34 で「1. 利用したい」と回答した方のみ】

問 35 利用する場合、1 年間の利用日数は合計で何日程度になると思えますか。□内に数字でご記入ください。

<input type="text"/> □ □	日程度
--------------------------	-----

問 36 宛て名のお子さんを泊りがけでみてもらわなければならないことはありませんか。

- (1) 泊りがけでみてもらった際の対処方法として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。
 (2) (1)で○をつけた対処方法について、この1年間で何日程度ありましたか。□内に数字でご記入ください。

(1) 泊りがけでみてもらった際の対処方法	(2) 日数
1. 親族・知人にみてもらった	<input type="text"/> □ □ 日
2. ショートステイ（宿泊型一時保育）を利用した	<input type="text"/> □ □ 日
3. ベビーシッターや認可外保育施設を利用した	<input type="text"/> □ □ 日
4. 預け先がなく、仕方なく子どもを同行させた	<input type="text"/> □ □ 日
5. 預け先がなく、仕方なく子どもだけで留守番させた	<input type="text"/> □ □ 日
6. その他 ()	<input type="text"/> □ □ 日
7. みてもらうようなことはなかった	—

地域の子育て支援事業（子育てひろば）の利用状況についてうかがいます。

八王子市では、小さなお子さんとパパ・ママが親子で楽しく遊べて、ほっとできる場所として、子育てひろばがあります。ひろばの概要や実施施設は下表のとおりで、利用料は原則無料です。

(子育てひろばの概要)

事業名	概要	実施箇所
親子つどいの広場	概ね0歳～3歳未満のお子さんとその保護者が利用可能。講座やイベント、子育て相談も実施。	市内5か所
親子ふれあい広場	子ども家庭支援センターに併設され、概ね0歳～3歳未満のお子さんとその保護者が利用可能。講座やイベント、子育て相談も実施。	市内6か所の子ども家庭支援センター
保育園の子育てひろば	0歳から3歳ぐらまでのお子さんとその保護者が利用可能。	市内 10 園の公立保育園と17園の私立保育園
児童館の子育てひろば	0歳から3歳までのお子さんとその保護者が利用可能。講座やイベント、乳幼児クラブも実施。	市内 10 か所の児童館

問 37 子育てひろばの利用状況についてうかがいます。

- (1) 子育てひろばについて、利用したことがある番号すべてに○をつけてください。
 (2) (1)で○をつけたひろばについて、この1年間で月におよそ何回利用しましたか。□内に数字でご記入ください。

(1) 利用したことがある事業	(2) 月当たりの利用回数
1. 親子つどいの広場	<input type="text"/> □ □ 回
2. 親子ふれあい広場	<input type="text"/> □ □ 回
3. 保育園の子育てひろば	<input type="text"/> □ □ 回
4. 児童館の子育てひろば	<input type="text"/> □ □ 回
5. 利用しなかった ⇒問 38 へ	—

【問 37 で「5. 利用しなかった」と回答した方のみ】

問 38 利用しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 特に利用する必要がなかった | 4. 利用できる施設が近くなかった |
| 2. 子育てひろばを知らなかった | 5. その他 () |
| 3. 利用方法がわからなかった | |

【すべての方にうかがいます】

問 39 今後、子育てひろばのいずれかを利用したいですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 利用したい ⇒問 40 へ | 2. 利用したいと思わない ⇒問 41 へ |
|------------------|-----------------------|

【問 39 で「1. 利用したい」と回答した方のみ】

問 40 月当たりの利用回数はおよそ何回程度になると思えますか。□内に数字でご記入ください。

月当たり	<input type="text"/> □ □	回程度
------	--------------------------	-----

【宛て名のお子さんが平成 25 年 4 月 1 日以前生まれの方のみ回答。それ以外の方は問 43 へ】

宛て名のお子さんの小学校就学後についてうかがいます。

八王子市では、子どもたちが放課後に安心して過ごせるよう居場所づくりを行っています。

(児童館、学童保育所等の概要)

事業名	概要	費用・保育料等のめやす
児童館	いろいろな年齢の子どもたちが自由に遊び、体験活動を行う施設。市内 12 か所に設置。	原則として無料
放課後子ども教室	安全管理員が見守る中、子どもたちが小学校の校庭や教室などを利用して、遊んだり学習したりして過ごす事業。市内 65 小学校区で実施。	原則として無料
学童保育所	就労等により放課後に保護者が家庭にいない児童を対象に保育を行う施設。市内 68 小学校区に設置。	1 か月 7,000 円(おやつ代含む) ※ 2 人目以降は 4,500 円。免除制度あり。
ファミリー・サポート・センター	地域住民(提供会員)が子どもを預かる事業。	1 時間 700 円～900 円

問 41 保護者の方は、宛て名のお子さんが就学後、放課後をどこで過ごしてほしいと考えていますか。

(1) 小学 1～3 年生 (2) 小学 4～6 年生それぞれで、過ごしてほしい居場所の番号すべてに○をつけてください。

(1) 宛て名のお子さんが小学 1～3 年生のとき

1. 自宅
2. 親族・知人・子どもの友人宅
3. 習い事(ピアノ/教室、サッカークラブ、学習塾等)
4. 児童館
5. 放課後子ども教室
6. 学童保育所
7. ファミリー・サポート・センターの提供会員宅 ⇒問 42 へ
8. その他(公民館、公園など)

(2) 宛て名のお子さんが小学 4～6 年生のとき

1. 自宅
2. 親族・知人・子どもの友人宅
3. 習い事(ピアノ/教室、サッカークラブ、学習塾等)
4. 児童館
5. 放課後子ども教室
6. 学童保育所
7. ファミリー・サポート・センターの提供会員宅 ⇒問 42 へ
8. その他(公民館、公園など)

【問 41 (1) (2) で「7. ファミリー・サポート・センターの提供会員宅」と回答した方のみ】

問 42 ファミリー・サポート・センターを利用する場合、週に何日利用したいですか。

当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

(1) 宛て名のお子さんが小学 1～3 年生のとき

1. 週に1日
2. 週に2日
3. 週に3日
4. 週に4日
5. 週に5日以上

(2) 宛て名のお子さんが小学 4～6 年生のとき

1. 週に1日
2. 週に2日
3. 週に3日
4. 週に4日
5. 週に5日以上

保護者の方の職場における仕事と子育ての両立支援制度についてうかがいます。

問 43 宛て名のお子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。(1) 母親 (2) 父親それぞれについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 働いていなかった ⇒問 49 へ	1. 働いていなかった ⇒問 49 へ
2. 取得した(取得中含む) ⇒問 44 へ	2. 取得した(取得中含む) ⇒問 44 へ
3. 取得しなかった、できなかった ⇒問 48 へ	3. 取得しなかった、できなかった ⇒問 48 へ

【問 43 で母親・父親のどちらか、または両方が「2. 取得した(取得中含む)」と回答した方のみ】

問 44 希望していた育児休業の取得期間と実際の取得期間について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。※取得中の方は予定でお答えください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 希望どおり取得した ⇒問 49 へ	1. 希望どおり取得した ⇒問 49 へ
2. 希望より短く取得した ⇒問 45 へ	2. 希望より短く取得した ⇒問 45 へ
3. 希望より長く取得した ⇒問 46 へ	3. 希望より長く取得した ⇒問 46 へ

【問 44 で母親・父親のどちらか、または両方が「2. 希望より短く取得した」と回答した方のみ】

問 45 希望より短く取得した理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 希望する保育所に入らなため	1. 希望する保育所に入らなため
2. 配偶者や家族の希望があったため	2. 配偶者や家族の希望があったため
3. 経済的な理由で早く復帰する必要があったため	3. 経済的な理由で早く復帰する必要があったため
4. 人事異動や業務の節目に合わせるため	4. 人事異動や業務の節目に合わせるため
5. その他()	5. その他()

【問 44 で母親・父親のどちらか、または両方が「3. 希望より長く取得した」と回答した方のみ】

問 46 希望より長く取得した理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 希望する保育所に入らなため	1. 希望する保育所に入らなため
2. 自分や子どもなどの体調が悪くなくなったため	2. 自分や子どもなどの体調が悪くなくなったため
3. 配偶者や家族の希望があったため	3. 配偶者や家族の希望があったため
4. 子どもをみてくれる人がいなかったため	4. 子どもをみてくれる人がいなかったため
5. その他()	5. その他()

【問 43 で母親・父親のどちらか、または両方が「2. 取得した(取得中含む)」と回答した方のみ】

問 47 あなたに0歳のお子さんがいたとして、1歳になったときに必ず利用できる教育・保育事業がある場合、1歳になるまで育児休業を取得しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 1歳になるまで育児休業を取得する	1. 1歳になるまで育児休業を取得する
2. 必ず利用できたとしても1歳になる前に復帰する	2. 必ず利用できたとしても1歳になる前に復帰する

【問 43 で母親・父親のどちらか、または両方が「3. 取得しなかった、できなかった」と回答した方のみ】

問 48 取得しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 職場に育児を取りにくい雰囲気があった	1. 職場に育児を取りにくい雰囲気があった
2. 仕事が忙しかった	2. 仕事が忙しかった
3. 早く仕事に復帰したかった	3. 早く仕事に復帰したかった
4. 仕事に戻るのが難しそうだった	4. 仕事に戻るのが難しそうだった
5. 昇給・昇格が遅れる心配があった	5. 昇給・昇格が遅れる心配があった
6. 収入が減り、経済的に苦しくなる	6. 収入が減り、経済的に苦しくなる
7. 保育園などに預けることができた	7. 保育園などに預けることができた
8. 配偶者が育児を取得した	8. 配偶者が育児を取得した
9. 配偶者が働いていなかった	9. 配偶者が働いていなかった
10. 親族・知人にみてもらえた	10. 親族・知人にみてもらえた
11. 子育てや家事に専念するため退職した	11. 子育てや家事に専念するため退職した
12. 職場に育児の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)※自営業を含む	12. 職場に育児の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)※自営業を含む
13. 有期雇用のため育児の取得要件を満たさなかった	13. 有期雇用のため育児の取得要件を満たさなかった
14. その他()	14. その他()

ここから問 57 までですべての方にかかっています。

【問 43 で「1」～「17」のいずれかを回答した方のみ】

問 49 あなたは安心して子育てができていると感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. そう感じる	3. どちらかといえばそう感じない
2. どちらかといえば感じる	4. そう感じない

問 50 あなたは地域の人が子育てを支えてくれると感じていますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. そう感じる	3. どちらかといえばそう感じない
2. どちらかといえば感じる	4. そう感じない

問 51 日ごろ子育てをしていて、子育てに自信が持たなくなることがありますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 持たない	2. たまにある	3. ときどきある	4. よくある
---------	----------	-----------	---------

問 52 子育てに関して悩んでいること、気になることについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの病気や発育・発達・性格行動等、子ども本人に関すること
2. 子ども同士の友だち付き合いに関すること(いじめ等を含む)
3. 親同士の付き合いに関すること(いじめ等を含む)
4. 子育てにかかる経済的負担に関すること
5. 子どもに与える食事や栄養に関すること
6. 子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること
7. 話し相手や相談相手がいらないこと
8. 仕事や自分のやりたいことが十分できないこと
9. 子育てのストレスで子どもへ手をあげたり、世話をしなかりしてしまうこと
10. 配偶者や祖父母と子育てに関して意見が合わないこと
11. 配偶者や祖父母の協力が得られないこと、得にくいこと
12. 子育てを手伝ってくれる人がいないこと
13. 子育てについて、親族・近隣・職場などまわりの見目が気になること
14. 職場で子育てへの理解が得られないこと、得にくいこと
15. 保育サービスに利用条件があり、利用できないことがあること
16. 子育てに加えて、親族の介護が必要なこと
17. その他()
18. 悩みや気になることは特にない →問 55へ

【問 52 で「1」～「17」のいずれかを回答した方のみ】

問 53 悩んでいること、気になることの相談状況についてうかがいます。

(1) 実際に相談した相手・機関について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 配偶者	7. かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろ
2. 配偶者以外の親族	8. ばの職員など立ち話程度で話せる相手
3. 友人・知人・職場の同僚	9. 専門的な病院や行政の相談窓口などと予約を取って相談するような機関
4. 子育て電話相談	10. その他()
5. 子育てメール相談	11. 誰にも相談できなかった、誰に相談したら良いかわからなかった
6. インターネットやSNS	12. 相談するほどではなかった

問 54 次の(1)～(12)の事業について、これまでに利用したことがありますか。当てはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

- | | |
|----------------|------------------------------------|
| 1. 配偶者 | 6. インターネットやSNS |
| 2. 配偶者以外の親族 | 7. かかりつけの医師や子どもが通う幼稚園や保育園の先生、子育てひろ |
| 3. 友人・知人・職場の同僚 | 8. ばの職員など立ち話程度で話せる相手 |
| 4. 子育て電話相談 | 9. 専門的な病院や行政の相談窓口など予約を取って相談するような機関 |
| 5. 子育てメール相談 | 9. その他 () |

【問 52 で「4. 子育てにかかる経済的負担に関する」と回答した方のみ】

問 54 子育てにかかる経済的な不安の具体的な内容について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 食料を十分に買えないこと | 5. 塾や習い事に通わせることができなこと |
| 2. 衣類を十分に買えないこと | 6. 進学のための費用が準備できていないこと |
| 3. 公共料金（電話・電気・ガス・水道）を払えないこと | 7. その他 () |
| 4. 家賃や住居ローンを払えないこと | |

問 55 次の(1)～(12)の事業について、これまでに利用したことがありますか。

当てはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	利用したことがある	聞いたことはあるが、利用したことはない	知らなかった
(1) ハバママクラス（母親学級・父親学級）	1	2	3
(2) 子育てほっとライン	1	2	3
(3) 産後ケア事業（訪問型）	1	2	3
(4) 保育園や幼稚園の園庭等の開放	1	2	3
(5) 子ども家庭支援センター	1	2	3
(6) ハローベビーサポート（産前産後の家事お手伝い）	1	2	3
(7) 放課後等デイサービス	1	2	3
(8) 子育てガイドブック	1	2	3
(9) はち☆ベビ（子育て情報モバイルサイト）	1	2	3
(10) 赤ちゃんふらっと	1	2	3
(11) 子育て応援企業	1	2	3
(12) 地域の子育てサークル	1	2	3

問 56 子育てに関する情報を誰から（どこから）入手していますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 配偶者 | 11. 市の子育て情報モバイルサイト（はち☆ベビ）、メールマガジン（すくすく☆メール） |
| 2. 配偶者以外の親族 | 12. 市の窓口 |
| 3. 近隣の知人・友人 | 13. 市のホームページ・SNSを除くインターネット |
| 4. 子育てサークルの仲間 | 14. テレビ、ラジオ、新聞 |
| 5. 保育園、幼稚園、小学校 | 15. 子育て雑誌、育児書 |
| 6. 子ども家庭支援センター | 16. コミュニティ誌 |
| 7. 子育てひろば | 17. その他 () |
| 8. 市の広報 | 18. 情報の入手先がない、わからない |
| 9. 市のホームページ | |
| 10. 市のSNS（フェイスブック、ツイッター） | |

問 57 あなたが考える子育て支援環境充実のための支援策について、特に重要だと思うものの番号を3つまで○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 児童館など親子が安心して集まれる身近な場やイベントを増やす |
| 2. 子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす |
| 3. 幼児教育や保育を充実する |
| 4. 子育てに困った時に相談したり、情報が得られる場をつくる |
| 5. 子育てについて学べる機会 |
| 6. 子育てに関する手当、医療費助成の充実 |
| 7. 出産後の母親・乳児の健康に対する医療サービスの充実 |
| 8. 虐待を受けた子どもや障害のある子どもなど特別な支援を要する子どもに対する支援の充実 |
| 9. 子育てしやすい住居・まち及び環境面の充実 |
| 10. 残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度など企業に対する職場環境の改善についての働きかけ（仕事と家庭生活の調和の促進） |
| 11. 子どもが被害者となる犯罪・事故の予防・防止 |
| 12. その他 () |

調査は以上で終了です。回封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。ご協力ありがとうございます。

ここからはひとり親家庭の方のみご記入ください。

問 58 あなたの世帯についてうかがいます。

(1) 同居している18歳未満のお子さん的人数について（□に数字を記入）

- | | | | |
|------------|------|--------|------|
| 1. 未就学児 | → □人 | 4. 中学生 | → □人 |
| 2. 小学1～3年生 | → □人 | 5. 高校生 | → □人 |
| 3. 小学4～6年生 | → □人 | 6. その他 | → □人 |

(2) お子さん以外にあなたと同居している方 (当てはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------|--------------|------------|
| 1. あなたの父 | 3. あなたの兄弟、姉妹 | 5. その他の親族 |
| 2. あなたの母 | 4. あなたの祖父母 | 6. その他 () |

問 59 ひとり親家庭となった理由について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------|----------|-------|------------|
| 1. 離婚 | 2. 未婚・非婚 | 3. 死別 | 4. その他 () |
|-------|----------|-------|------------|

問 60 ひとり親になつてからの期間について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------------|---------|
| 1. 1年未満 | 3. 3年以上5年未満 | 5. 7年以上 |
| 2. 1年以上3年未満 | 4. 5年以上7年未満 | |

問 61 あなたの就職・転職希望についてうかがいます。

(1) 今後の就労について、就職・転職を考えていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------------|----------------------|
| 1. 就職したい | 2. 転職したい ⇒ (2) へ | 3. 今の仕事を続けたい ⇒ (3) へ |
|----------|------------------|----------------------|

【問 61 (1) で「2. 転職したい」と回答した方のみ】

(2) その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください

- | | | |
|---------------|-----------------|------------------|
| 1. 収入がよくない | 5. 職場の人間関係がよくない | 9. 休みが少ない |
| 2. 勤務先が自宅から遠い | 6. 労働時間が合わない | 10. 身分が安定していない |
| 3. 健康がすぐれない | 7. 子どもとの時間をつくれぬ | 11. 経験や能力が発揮できない |
| 4. 仕事の内容がよくない | 8. 社会保険がない又は不十分 | 12. その他 () |

【問 61 (1) で「3. 今の仕事を続けたい」と回答した方のみ】

(3) その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------------|
| 1. 収入がよい | 6. 労働時間がちょうどよい | 11. 経験や能力が発揮できている |
| 2. 勤務先が自宅から近い | 7. 子どもとの時間がつくれる | 12. 転職先がみつからないと思うから |
| 3. 健康的に働くことができる | 8. 社会保険が充実している | 13. その他 () |
| 4. 仕事の内容がよい | 9. 柔軟に休みがとれる | |
| 5. 職場の人間関係がよい | 10. 身分が安定している | |

問 62 あなたの収入についてうかがいます。

(1) 収入の種類について (当てはまる番号すべてに○)

- | | | |
|---------------------|-----------------|------------|
| 1. 就労収入 (給与・事業・営業等) | 4. 家賃・地代の収入等 | 7. 生活保護 |
| 2. 年金等 | 5. 児童扶養手当等の各種手当 | 8. 貯蓄の取崩し |
| 3. 親族からの仕送り | 6. 養育費 | 9. その他 () |

(2) 平成 29 年の年間総収入額(手当・養育費・生活保護費などを含む)について(当てはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|-------------------|-------------------|------------|
| 1. 100万円未満 | 4. 300万円以上400万円未満 | 7. 800万円以上 |
| 2. 100万円以上200万円未満 | 5. 400万円以上600万円未満 | |
| 3. 200万円以上300万円未満 | 6. 600万円以上800万円未満 | |

(3) 平成 29 年の年間就労収入について (当てはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|-------------------|-------------------|------------|
| 1. 100万円未満 | 4. 300万円以上400万円未満 | 7. 800万円以上 |
| 2. 100万円以上200万円未満 | 5. 400万円以上600万円未満 | |
| 3. 200万円以上300万円未満 | 6. 600万円以上800万円未満 | |

【問 59 で「1. 離婚」及び「2. 未婚・非婚」と回答した方のみ。それ以外の方は問 67 へ】

問 63 お子さんの養育費の取り決めについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 取り決めをした ⇒ 問 64、65 へ | 2. 取り決めはしていない ⇒ 問 65 へ |
|------------------------|------------------------|

【問 63 で「1. 取り決めをした」と回答した方のみ】

問 64 養育費の (1) 取り決め方法、(2) 受け取り状況、(3) 月額について、うかがいます。

(1) 取り決め方法 (当てはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|------------------|------------------|---------|
| 1. 文書 (強制執行記載あり) | 2. 文書 (強制執行記載なし) | 3. 文書なし |
|------------------|------------------|---------|

(2) 受け取り状況 (当てはまる番号 1 つに○)

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 現在も受け取っている | 3. 受け取ったことがない |
| 2. 受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない | |

(3) 養育費の金額 (月額) (当てはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 1万円未満 | 4. 4万円以上6万円未満 | 7. 10万円以上 |
| 2. 1万円以上2万円未満 | 5. 6万円以上8万円未満 | |
| 3. 2万円以上4万円未満 | 6. 8万円以上10万円未満 | |

問 65 面会交流の頻度や方法について取り決めをされましたか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 取り決めをした ⇒ 問 66 へ | 2. 取り決めはしていない ⇒ 問 67 へ |
|---------------------|------------------------|

【問 65 で「1. 取り決めをした」と回答した方のみ】

問 66 面会交流の (1) 取り決め方法、(2) 交流状況、(3) 頻度について、うかがいます。

(1) 取り決め方法 (当てはまる番号 1 つに○)

- | | |
|-------|---------|
| 1. 文書 | 2. 文書なし |
|-------|---------|

(2) 面会交流状況 (当てはまる番号 1 つに○)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 現在も面会交流している | 3. 面会交流したことがない |
| 2. 面会交流したことはあるが、現在はしていない | |

(3) 面会交流の頻度 (当てはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------|
| 1. 月2回以上 | 4. 4～6か月に1回程度 | 7. その他 |
| 2. 月に1回程度 | 5. 年に1回程度 | () |
| 3. 2～3か月に1回程度 | 6. 夏休みなど長期休暇中に会う | |

【小学生以上のお子さんがある方のみ回答。それ以外の方は問 68 へ】

問 67 お子さんの学習支援についてうかがいます。

(1) 学習についてどのような支援が必要だと思いますか。(当てはまる番号すべてに○)

1. 塾 (週に1回)	4. 放課後学校での補習	7. その他
2. 塾 (週に2～3回)	5. 家庭教師	()
3. 塾 (週に4～5回程度)	6. タブレットなどの通信教育	8. 学習支援の必要はない

(2) 現在、塾に通わせていますか。(当てはまる番号1つに○)

※通わせている子が1人以上いれば「1. 通わせている」を選択してください。

1. 通わせている ⇒ (3) (5) へ 2. 通わせていない ⇒ (4) (5) へ

【問 67 (2) で「1. 通わせている」と回答した方のみ】

(3) 塾の月謝と頻度について (□に数字で記入)

※通わせている子が1人以上いる場合は、1人当たりの平均でお答えください。

月謝 □□□□, □□□□ 円 週 □□ 回

【問 67 (2) で「2. 通わせていない」と回答した方のみ】

(4) 通わせていない主な理由について (最も当てはまる番号1つに○)

1. 学校や家庭での勉強で十分だから	4. 部活動等で学習塾に行く時間がないから
2. 費用がかかるため	5. その他 ()
3. 子どもが行きたくないため	

(5) 学習塾や家庭教師、通信教育などの学習支援はいつ頃から必要だと思えますか。

(当てはまる番号1つに○)

1. 小学1～3年生	4. 中学2年生	7. その他 ()
2. 小学4～6年生	5. 中学3年生	8. 学習塾等は不要
3. 中学1年生	6. 高校生	

【すべての方にうかがいます】

問 68 お子さんの進学について、どこまで考えていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 大学	3. 専門学校 (高校卒業後)	5. 中学	7. その他 ()
2. 短期大学	4. 高校	6. 未定	

問 69 この1年間でお子さんとのような体験をされましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 旅行	4. 科学館や美術館	7. 映画や観劇	10. 特にしていない
2. 海水浴	5. キャンプやBBQ	8. 遊園地やテーマパーク	
3. 温泉	6. スポーツ観戦	9. その他 ()	

問 70 現在困っていることと、ひとり親になったときに困ったことについて、うかがいます。

(1) 現在困っていること (当てはまる番号すべてに○)

1. 家計	6. 心身の健康	11. 社会的偏見 (世間体)
2. 仕事	7. 親族の健康・介護	12. 人間関係
3. 住まい	8. 子どもの保育	13. その他 ()
4. 食事づくり	9. 子どもの教育 (学費)	14. 特になし
5. 掃除・洗濯・その他の家事	10. 子どもの進路・就職	

(2) ひとり親になったときに困ったこと (当てはまる番号すべてに○)

1. 家計	6. 心身の健康	11. 社会的偏見 (世間体)
2. 仕事	7. 親族の健康・介護	12. 人間関係
3. 住まい	8. 子どもの保育	13. その他 ()
4. 食事づくり	9. 子どもの教育 (学費)	14. 特になし
5. 掃除・洗濯・その他の家事	10. 子どもの進路・就職	

問 71 八王子市ではひとり親家庭のために各種支援制度があります。

それぞれの支援制度について、当てはまる番号に1つずつ○をつけてください。

※各制度の詳細い情報をお知りになりたい方は、八王子市ホームページで、「ひとり親家庭へのサポート」と検索してください。

	役利に立ったことがあり、	役利に立ったことがあ	役利に立ったことはあ	役利に立ったことはな	知らなかった
(1) 母子・父子自立支援員 (子育て支援課にてひとり親家庭の相談を受ける職員) による賞付や種々の相談	1	2	3	4	
(2) 就業支援専門員 (就転職・資格取得などの相談や応募書類の書き方を助言する職員) による就業支援・就業相談	1	2	3	4	
(3) 自立支援教育訓練給付金 (一般教育訓練講座費用の6割を支給する制度)	1	2	3	4	
(4) 高等職業訓練促進給付金 (国家資格を取得するために1年以上通学する際に生活費を支給する制度)	1	2	3	4	
(5) 高等学校卒業程度認定試験合格支援事業 (高卒認定を取得するために受けた講座費用の一部を支給する制度)	1	2	3	4	
(6) 就業支援セミナー・パソコン講習会 (毎年7月と1月に開催されるセミナーとパソコン講座)	1	2	3	4	
(7) ひとり親家庭ホームヘルプサービス (家事・育児が困難な家庭にホームヘルパーを派遣する制度)	1	2	3	4	

問 73 ひとり親家庭について、今後どのような支援を望みますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. ひとり親家庭の相談の充実	9. 親子参加での交流会
2. 就業支援事業の充実	10. 子どもの居場所づくり
3. 資格取得支援の充実	11. 子の宿泊体験ツアー
4. 養育費相談の充実	12. 親子バスツアー（温泉、海水浴、BBQ など）
5. ホームヘルプサービスの充実	13. 子どもの心のケア（離婚に対する受け止め方や理解の仕方）
6. 子の体験学習の充実	14. 再婚支援
7. 子の学習支援（塾・家庭教師派遣）の充実	15. その他（ ）
8. 親同士の情報交換や交流会	

問 74 今後どのような講座・講習会に参加してみたいですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 養育費・面会交流講座	15. ストレスに対する講座
2. 離婚をめぐる法律・制度活用講座	16. 健康に関する講座
3. 就業支援講座（履歴書の書き方、面接の仕方など）	17. Word 講座
4. ビジネスマナー講座	18. Excel 講座
5. イメージアップ講座	19. Excel 講座（関数・データ分析）
6. 資格に関する講座	20. Excel 講座（マクロ）
7. 在宅就業講座	21. Word・Excel 実務対策講座
8. 起業に関する講座	22. Power Point 講座
9. お金の貯め方・家計管理講座	23. タイピング講座
10. ファイナンシャルプランニング講座	24. Access 講座
11. 子の進学・学費についての講座	25. プログラミング講座
12. 仕事と育児の両立のための講座	26. HP 講座
13. 子どものしつけ・育児の講座	27. その他（ ）
14. ひとり親家庭の子の心理と対応の講座	28. 特になし

問 75 その他、悩みや不安、必要と感じる支援等ありましたら、ご自由にお書きください。

調査は以上で終了です。同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。ご協力ありがとうございました。

役立った	役に立った	役に立たなかった	聞いたことはないが、聞いたことはある	利用したことはない	知らなかった
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	
1	1	2	3	4	

【問 71 で「2. 利用したことがあるが、役に立たなかった」と回答した方のみ】

問 72 その制度の記号と理由を記入してください。

記入例 (1)	相談時間が合わなかったため
---------	---------------

平成30年度子育てに関する
アンケート調査

報告書

平成31年3月

発行 八王子市 子ども家庭部 子どものしあわせ課
〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号
TEL : 042-620-7391 (直通)

実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 千代田区飯田橋三丁目11番20号
TEL : 03-3239-0071 (代表)
